

『みどりのわ・ささえ愛プラン』区民アンケート

報 告 書

平成 21 年 12 月

横浜市緑区福祉保健課

— 目 次 —

1. 業務概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査概要	1
(3) 回収結果	1
2. 集計結果	2
問1 居住地区	2
問2 性別	2
問3 年齢構成	3
問4 居住年数	3
問5 住まいの種別	3
問6 同居者の関係	4
問7 回答者及び同居者の状況	4
問8 仕事の状況	5
問9 自治会加入状況	5
問10 近隣の人へのあいさつ・声かけ	8
問11 地域での助け合いの個人的な実践	12
問12 地域の方との今後のかかわりたい程度	15
問13 隣近所の困っている方とかかわれる程度	17
問14 ボランティア活動の参加経験	18
問15 ボランティア活動に参加するための必要事項	21
問16 地域のボランティア活動参加依頼への対応	22
問17 地域のボランティア活動・余暇活動に利用できる施設の認知	23
問18 施設をより使いやすくするための必要な事項	24
問19 『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度	27
問20 知りたいと思う地域の福祉保健情報	32
問21 地域の福祉保健に関する身近な相談相手	35
問22 地域の福祉保健に関する情報の取得手段	36
問23 地域の福祉保健情報の入手における容易さ	40
問24 知っている地域の福祉保健に関する施設・団体・委員	42
問25 日頃、防災に関して配慮していること	43
問26 市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度	43
問27 「防災ささえあいカード」の認知度	47
問28 「防災時に住民が支えあう地域づくり」に必要なこと	52
問29 日頃から健康のために心がけていること	54
問30 自身の健康のために参加したいと思う活動	55
問31 第1期みどりのわ・ささえ愛プランにおける取り組みの進捗度	56
問32 緑区の福祉で重点的に取り組む必要があると思われること	74
問33 福祉保健のまちづくり、『みどりのわ・ささえ愛プラン』、緑区政に対する意見	75

— 目 次 —

3. その他及び自由意見	76
問5 住まいの種別	76
問6 同居者の関係	76
問8 仕事の状況	76
問9 自治会加入状況（加入していない理由）	77
問11 地域での助け合いの個人的な実践（助け合いの内容）	78
問12 地域の方との今後のかかわりたい程度（かかわりたい場合の内容）	83
問12-1 地域の方との今後のかかわりたい程度（かかわりたくない場合の内容）	83
問13 隣近所の困っている方とかかわれる程度（地域で困っている方にかかわれること）	86
問14 ボランティア活動の参加経験（行ったボランティア活動の内容）	88
問15 ボランティア活動に参加するための必要事項	92
問16 地域のボランティア活動参加依頼への対応	92
問17 地域のボランティア活動・余暇活動に利用できる施設の認知	93
問18 施設をより使いやすくするための必要な事項	93
問20 知りたい福祉保健に関する情報	94
問21 地域の福祉保健に関する身近な相談相手	95
問22 地域の福祉保健に関する情報の取得手段	95
問24 知っている地域の福祉保健に関する施設・団体・委員	95
問25 日頃、防災に関して配慮していること	96
問28 「防災時に住民が支えあう地域づくり」に必要なこと	96
問29 日頃から健康のために心がけていること	97
問30 自身の健康のために参加したいと思う活動	97
問33① 福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていること	97
問33② 『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見	112
4. 過年度との比較	125
問1 居住地区	125
問2 性別	125
問3 年齢構成	125
問4 居住年数	126
問5 住まいの種別	126
問6 同居者の関係	126
問7 回答者及び同居者の状況	127
問8 仕事の状況	127
問10 近隣の人へのあいさつ・声かけ	127
問11 地域での助け合いの個人的な実践	128
問12 地域の方との今後のかかわりたい程度	128
問14 ボランティア活動の参加経験	129
問17 地域のボランティア活動・余暇活動に利用できる施設の認知	129
問23 地域の福祉保健情報の入手における容易さ	130
問26 市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度	130
問29 日頃から健康のために心がけていること	130
5. 調査票	131

1. 業務概要

(1) 調査目的

緑区民の福祉保健に関する意識や生活課題を抽出するとともに、緑区の福祉保健施策への要望、新たな課題等について調査を実施し、第1期みどりのわ・ささえ愛プラン（H18～H22）の振り返りと評価を行う。また、第2期みどりのわ・ささえ愛プラン（H23～H27）策定準備及び、緑区自主企画事業等の立案に向けた基礎資料として活用する。

(2) 調査概要

- ①調査地域 横浜市緑区全域
- ②調査対象 緑区在住の20歳以上の男女
- ③標本数 3,000人（日本人区民2,950人、外国人区民50人）
- ④抽出方法 住民基本台帳による無作為抽出
- ⑤調査方法 対象者への郵送配布・郵送回収
- ⑥調査時期 平成21年10月19日～11月2日
- ⑦調査機関 株式会社 都市・建築環境研究所

(3) 回収結果

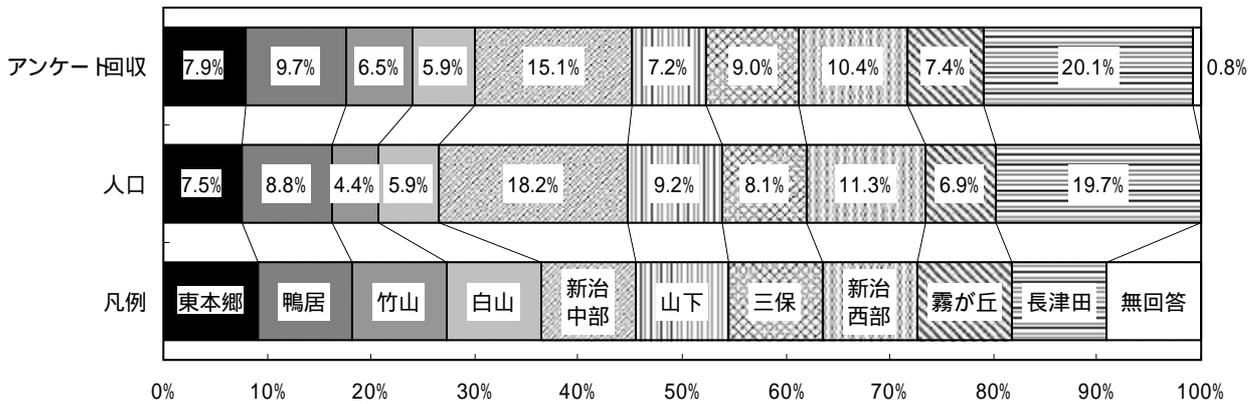
- ①有効回収数 1,013人
- ②回収率 33.8%

2. 集計結果

問1 居住地区

地区別の回収数は人口比率とほぼ似た傾向にあり、緑区全域からまんべんなく回収されたと考えられる。

なお、人口は本調査直前である平成21年9月30日現在の住民基本台帳の値を用いた。

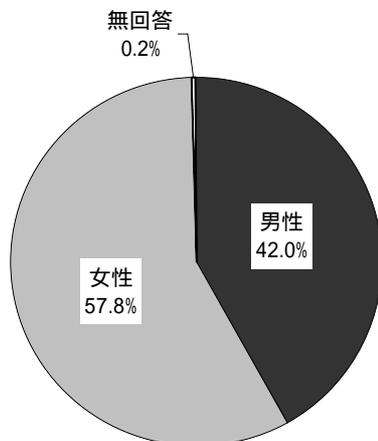


選択肢	人口	回答数	回答率
1. 東本郷地区	13,251	80	7.9%
2. 鴨居地区	15,464	98	9.7%
3. 竹山地区	7,780	66	6.5%
4. 白山地区	10,343	60	5.9%
5. 新治中部地区	32,194	153	15.1%
6. 山下地区	16,233	73	7.2%
7. 三保地区	14,271	91	9.0%
8. 新治西部地区・十日市場団地地区	20,024	105	10.4%
9. 霧が丘地区	12,204	75	7.4%
10. 長津田地区	34,841	204	20.1%
無回答	-	8	0.8%
計	176,605	1,013	100.0%

n=1,013

問2 性別

回答者の性別は、やや「女性」が多かった。

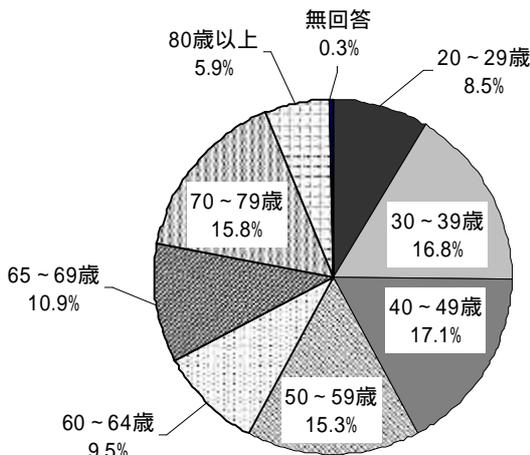


選択肢	回答数	回答率
1. 男性	425	42.0%
2. 女性	586	57.8%
無回答	2	0.2%
計	1013	100.0%

n=1013

問3 年齢構成

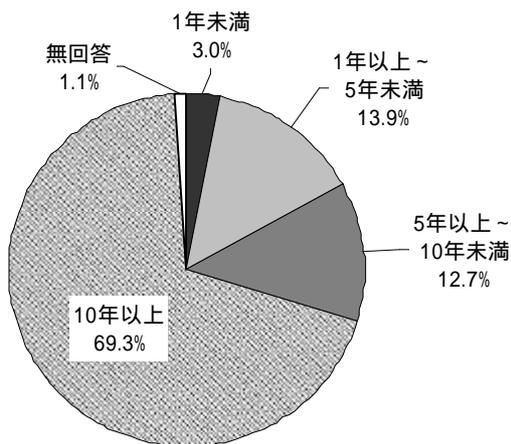
回答者の年齢層は、「20～29歳」と「80歳以上」がやや少ないが、各年齢ともまんべんなく回収された。10歳きざみで見た場合、「60～69歳」が20.4%と最も多かった。



選択肢	回答数	回答率
1. 20～29歳	86	8.5%
2. 30～39歳	170	16.8%
3. 40～49歳	173	17.1%
4. 50～59歳	155	15.3%
5. 60～69歳	96	9.5%
6. 65～69歳	110	10.9%
7. 70～79歳	160	15.8%
8. 80歳以上	60	5.9%
無回答	3	0.3%
計	1013	100.0%

問4 居住年数

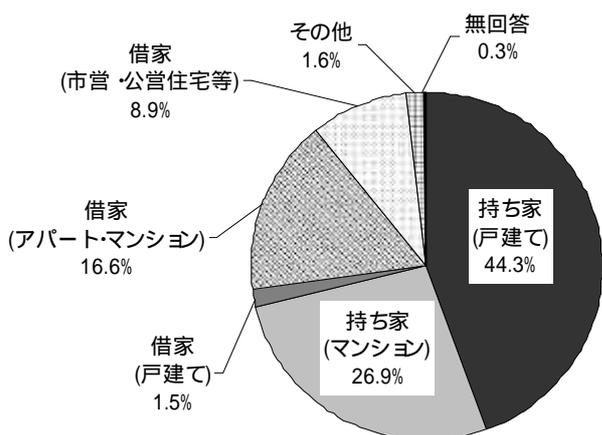
回答者の現在地での居住年数は、「10年以上」が69.3%と最も多く、次いで「1年以上～5年未満」が約13.9%となっている。



選択肢	回答数	回答率
1. 1年未満	30	3.0%
2. 1年以上～5年未満	141	13.9%
3. 5年以上～10年未満	129	12.7%
4. 10年以上	702	69.3%
無回答	11	1.1%
計	1013	100.0%

問5 住まいの種別

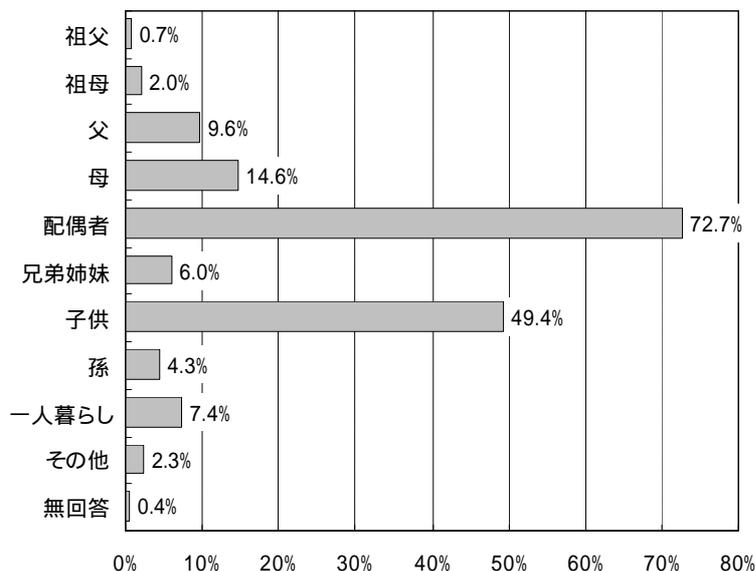
回答者の住まいの種別は、「持ち家（戸建て）」が44.3%と最も多く、次いで多い「持ち家（マンション）」を含めると71.2%が持ち家となっている。



選択肢	回答数	回答率
1. 持ち家(戸建て)	449	44.3%
2. 持ち家(マンション)	272	26.9%
3. 借家(戸建て)	15	1.5%
4. 借家(アパート・マンション)	168	16.6%
5. 借家(市営・公営住宅等)	90	8.9%
6. その他	16	1.6%
無回答	3	0.3%
計	1013	100.0%

問6 同居者の関係(複数回答)

回答者と同居する家族をみると、「一人暮らし」は7.4%で、全体の92.2%に同居者がいる。
同居者のうち、「配偶者」が72.7%と最も多く、次いで「子供」が49.4%となっている。



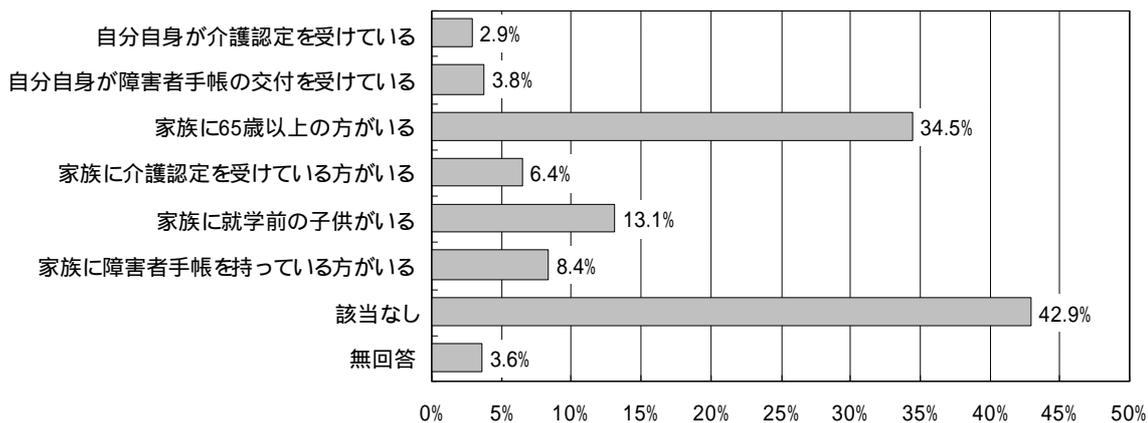
n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. 祖父	7	0.7%
2. 祖母	20	2.0%
3. 父	97	9.6%
4. 母	148	14.6%
5. 配偶者	736	72.7%
6. 兄弟姉妹	61	6.0%
7. 子供	500	49.4%
8. 孫	44	4.3%
9. 一人暮らし	75	7.4%
10. その他	23	2.3%
無回答	4	0.4%
計	1715	-

問7 回答者及び同居者の状況(複数回答)

回答者及び同居者の状況は、家族が65歳以上、就学前の子供、要介護認定者、障がい者のいずれもない「該当なし」が42.9%と最も多く、次いで「家族に65歳以上の方がいる」が34.5%となっている。

なお、「介護認定を受けている」方は、回答者が2.9%、家族が6.4%、「障害者手帳の交付を受けている」方は、回答者が3.8%、家族が8.4%であった。



n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. 自分自身が介護認定を受けている	29	2.9%
2. 自分自身が障害者手帳の交付を受けている	38	3.8%
3. 家族に65歳以上の方がいる	349	34.5%
4. 家族に介護認定を受けている方がいる	65	6.4%
5. 家族に就学前の子供がいる	133	13.1%
6. 家族に障害者手帳を持っている方がいる	85	8.4%
7. 該当なし	435	42.9%
無回答	36	3.6%
計	1170	-

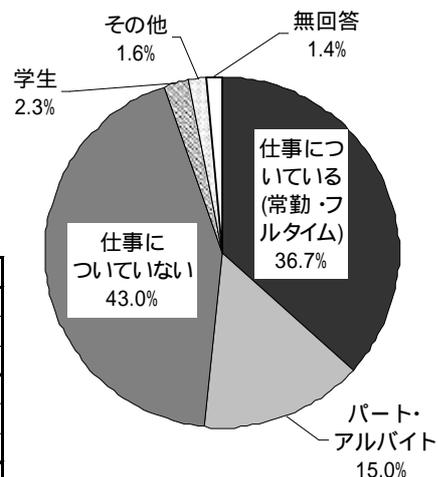
問8 仕事の状況

回答者の仕事の状況は、「仕事についていない」が 43.0%と最も多く、次いで「常勤・フルタイム」が 36.7%となっている。

その他のほぼ 90%は自営業となっている。

n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. 仕事についている(常勤・フルタイム)	372	36.7%
2. パート・アルバイト	152	15.0%
3. 仕事についていない	436	43.0%
4. 学生	23	2.3%
5. その他	16	1.6%
無回答	14	1.4%
計	1013	100.0%



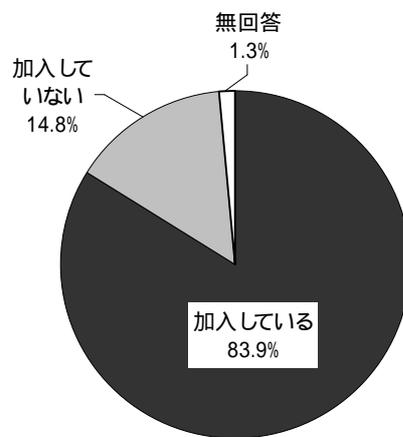
問9 自治会加入状況

自治会への加入状況は、83.9%が「加入している」と回答している。

加入していない理由として最も多かったのは、「案内がない」、「自治会があることを知らない」等の情報不足が多く、加入していない方の約 43.7%を占めている。

n=1013

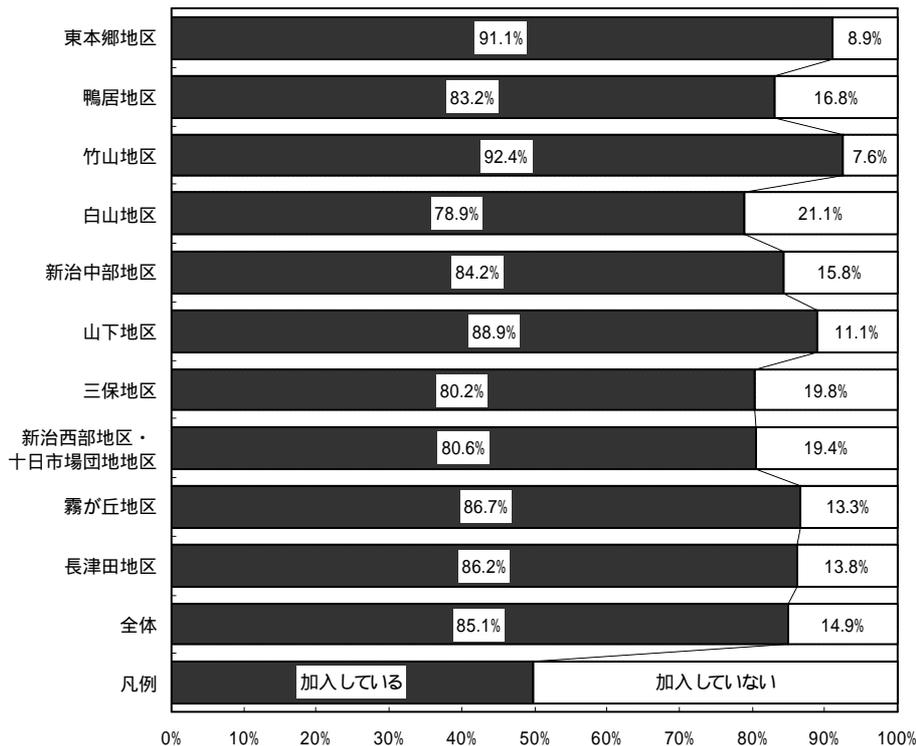
選択肢	回答数	回答率
1. 加入している	850	83.9%
2. 加入していない	150	14.8%
無回答	13	1.3%
計	1013	100.0%



自治会への加入状況を地区別にみると、竹山地区は最も高く 92.4%、次いで東本郷地区が 91.1%となっており、最も低い白山地区の 78.9%を除き 80%以上が「加入している」と回答している。

居住地区別、自治会加入状況 (問1×問9)

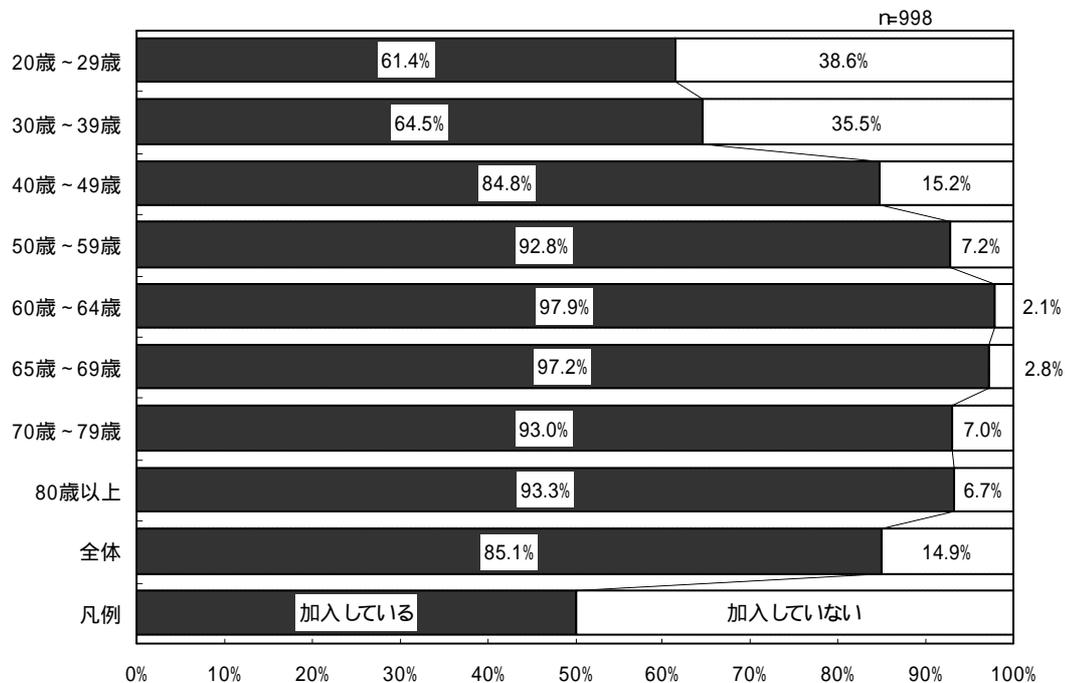
n=993



	加入している	加入していない	計
東本郷地区	72 91.1%	7 8.9%	79 100.0%
鴨居地区	79 83.2%	16 16.8%	95 100.0%
竹山地区	61 92.4%	5 7.6%	66 100.0%
白山地区	45 78.9%	12 21.1%	57 100.0%
新治中部地区	128 84.2%	24 15.8%	152 100.0%
山下地区	64 88.9%	8 11.1%	72 100.0%
三保地区	73 80.2%	18 19.8%	91 100.0%
新治西部地区・ 十日市場団地地区	83 80.6%	20 19.4%	103 100.0%
霧が丘地区	65 86.7%	10 13.3%	75 100.0%
長津田地区	175 86.2%	28 13.8%	203 100.0%
全体	845 85.1%	148 14.9%	993 100.0%

自治会への加入状況を年齢構成別にみると、97%以上の60歳代をピークに山型となっているが、40歳以上は約85%以上が「加入している」と回答しているのに対し、20歳代及び30歳代では「加入している」と回答しているのは60%台にとどまっている。

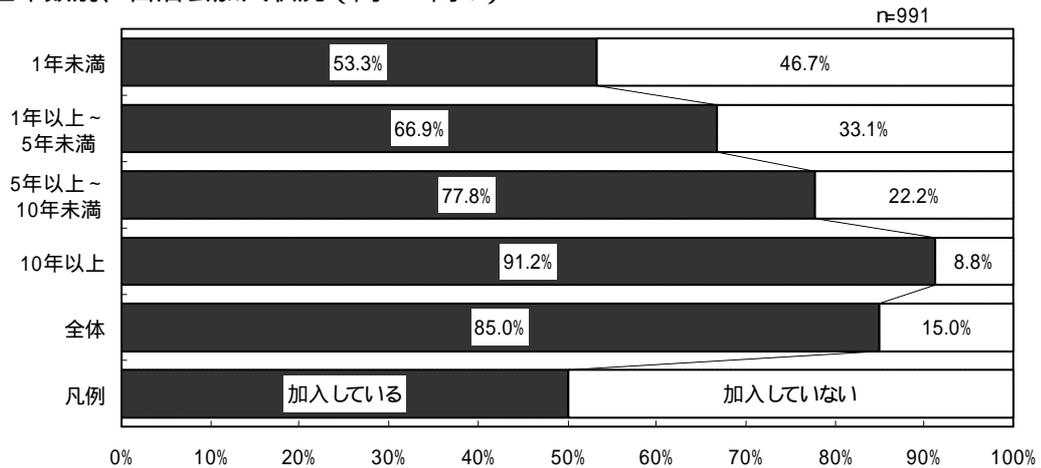
年齢構成別、自治会加入状況（問3×問9）



	加入している	加入していない	計
20歳～29歳	51 61.4%	32 38.6%	83 100.0%
30歳～39歳	109 64.5%	60 35.5%	169 100.0%
40歳～49歳	145 84.8%	26 15.2%	171 100.0%
50歳～59歳	142 92.8%	11 7.2%	153 100.0%
60歳～64歳	93 97.9%	2 2.1%	95 100.0%
65歳～69歳	106 97.2%	3 2.8%	109 100.0%
70歳～79歳	147 93.0%	11 7.0%	158 100.0%
80歳以上	56 93.3%	4 6.7%	60 100.0%
全体	849 85.1%	149 14.9%	998 100.0%

居住年数別の自治会への加入状況は、居住期間が長いほど「加入している」と回答している割合が高く、10年以上は91.2%以上となっているが、1年未満は53.3%と低かった。

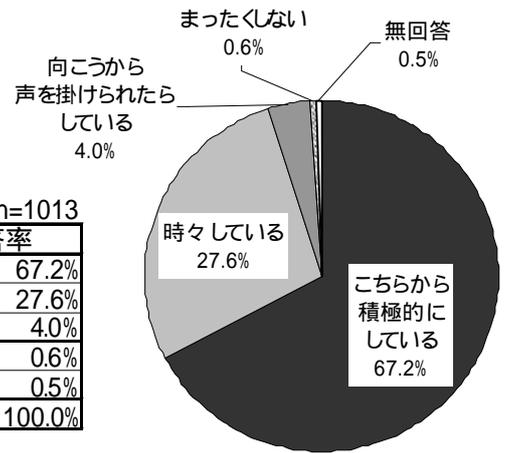
居住年数別、自治会加入状況（問4×問9）



	加入している	加入していない	計
1年未満	16 53.3%	14 46.7%	30 100.0%
1年以上～5年未満	93 66.9%	46 33.1%	139 100.0%
5年以上～10年未満	98 77.8%	28 22.2%	126 100.0%
10年以上	635 91.2%	61 8.8%	696 100.0%
全体	842 85.0%	149 15.0%	991 100.0%

問 10 近隣の人へのあいさつ・声かけ

近隣の人へのあいさつ・声かけは、98.8%とほとんどの回答者がしており、このうち 67.2%が「こちらから積極的にしている」と回答している。

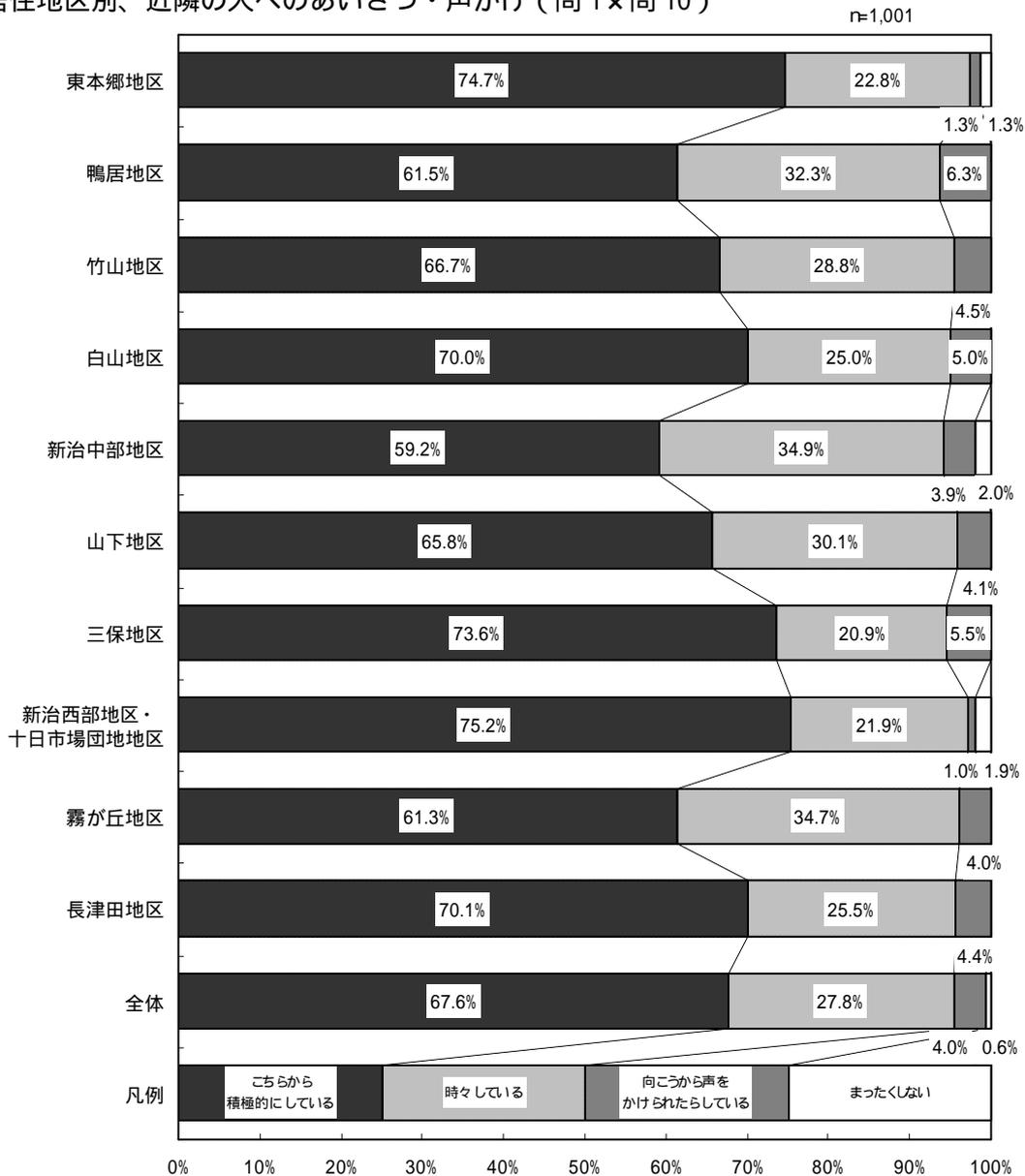


n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. こちらから積極的にしている	681	67.2%
2. 時々している	280	27.6%
3. 向こうから声を掛けられたらしている	41	4.0%
4. まったくしない	6	0.6%
無回答	5	0.5%
計	1013	100.0%

居住地区別にみると、新治西部地区・十日市場団地地区が 75.2%と最も高く、次いで東本郷地区が 74.7%となっており、最も低かったのは新治中部地区の 59.2%であった。

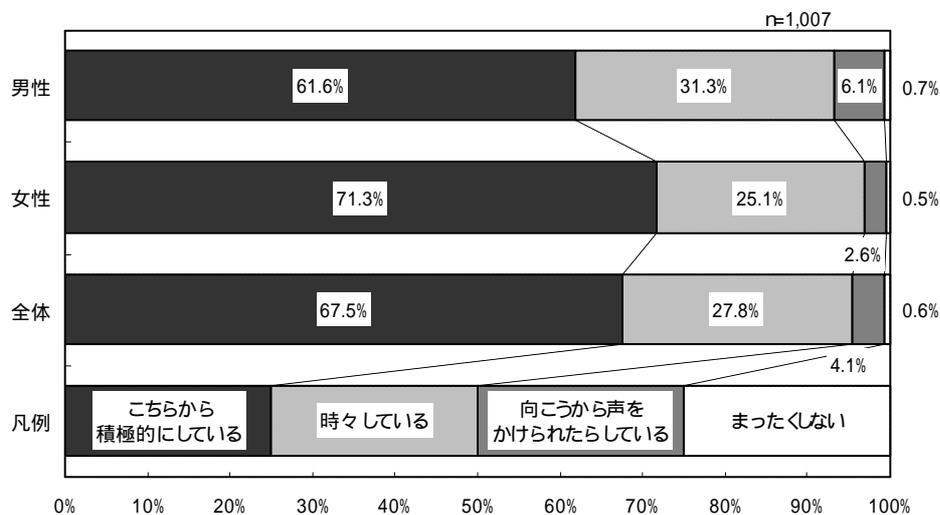
居住地区別、近隣の人へのあいさつ・声かけ (問 1×問 10)



	こちらから積極的にしている	時々している	向こうから声を掛けられたらしている	まったくしない	計
東本郷地区	59 74.7%	18 22.8%	1 1.3%	1 1.3%	79 100.0%
鴨居地区	59 61.5%	31 32.3%	6 6.3%	0 0.0%	96 100.0%
竹山地区	44 66.7%	19 28.8%	3 4.5%	0 0.0%	66 100.0%
白山地区	42 70.0%	15 25.0%	3 5.0%	0 0.0%	60 100.0%
新治中部地区	90 59.2%	53 34.9%	6 3.9%	3 2.0%	152 100.0%
山下地区	48 65.8%	22 30.1%	3 4.1%	0 0.0%	73 100.0%
三保地区	67 73.6%	19 20.9%	5 5.5%	0 0.0%	91 100.0%
新治西部地区・十日市場団地地区	79 75.2%	23 21.9%	1 1.0%	2 1.9%	105 100.0%
霧が丘地区	46 61.3%	26 34.7%	3 4.0%	0 0.0%	75 100.0%
長津田地区	143 70.1%	52 25.5%	9 4.4%	0 0.0%	204 100.0%
全体	677 67.6%	278 27.8%	40 4.0%	6 0.6%	1001 100.0%

男女別にみると、「こちらから積極的にしている」のは男性 61.6%、女性 71.3%と女性の方が高くなっている。

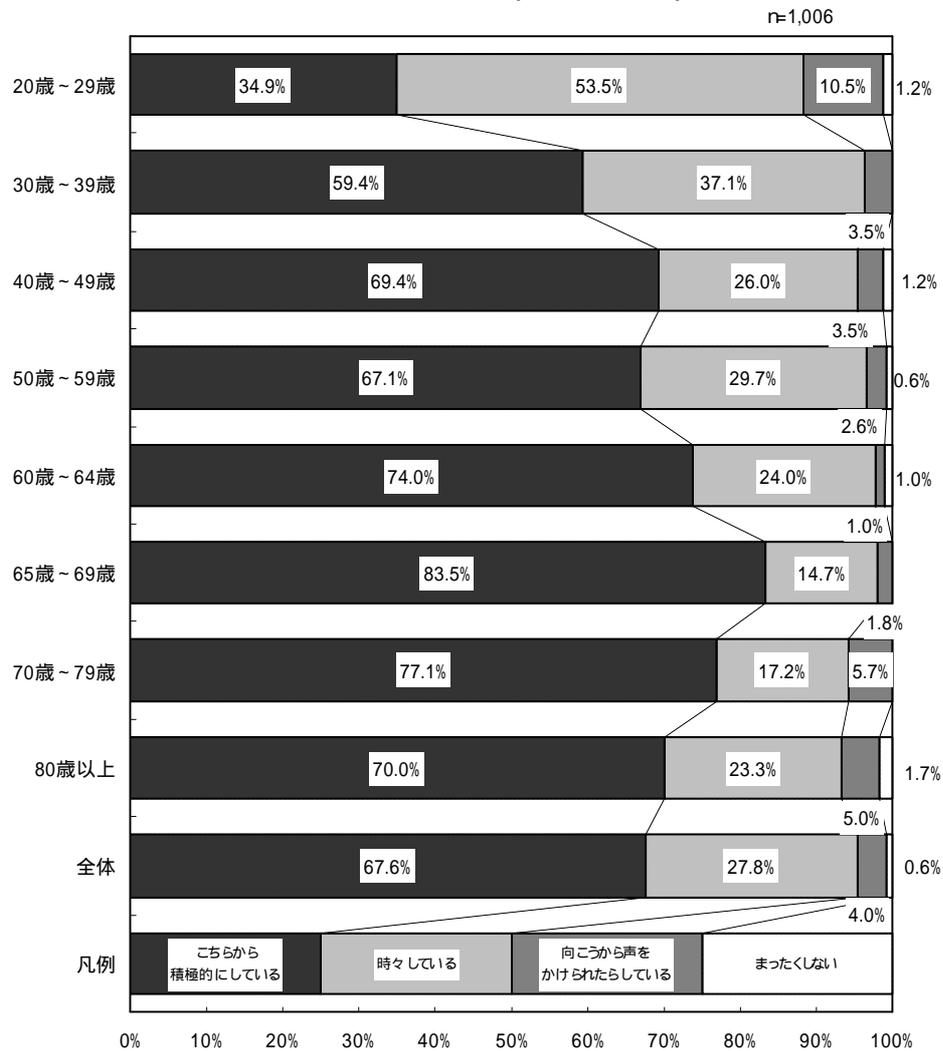
男女別、近隣の人へのあいさつ・声かけ（問2×問10）



	こちらから積極的にしている	時々している	向こうから声を掛けられたらしている	まったくしない	計
男性	262 61.8%	133 31.4%	26 6.1%	3 0.7%	424 100.0%
女性	418 71.7%	147 25.2%	15 2.6%	3 0.5%	583 100.0%
全体	680 67.5%	280 27.8%	41 4.1%	6 0.6%	1007 100.0%

年齢別では、「こちらから積極的にしている」と回答した割合は、65歳～69歳が83.5%と最も高く、40歳以上でも69.4%以上と高くなっているが、20～29歳では34.9%と低くなっている。

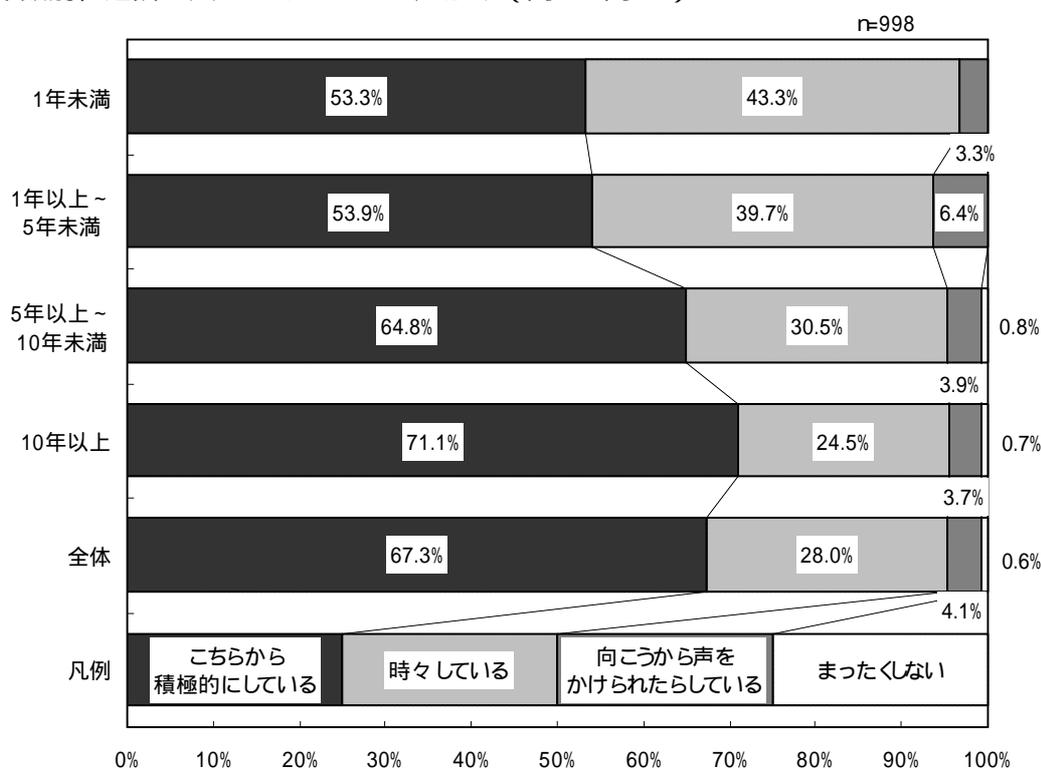
年齢構成別、近隣の人へのあいさつ・声かけ（問3×問10）



	こちらから積極的にしている	時々している	向こうから声をかけられたらしている	まったくしない	計
20歳～29歳	30 34.9%	46 53.5%	9 10.5%	1 1.2%	86 100.0%
30歳～39歳	101 59.4%	63 37.1%	6 3.5%	0 0.0%	170 100.0%
40歳～49歳	120 69.4%	45 26.0%	6 3.5%	2 1.2%	173 100.0%
50歳～59歳	104 67.1%	46 29.7%	4 2.6%	1 0.6%	155 100.0%
60歳～64歳	71 74.0%	23 24.0%	1 1.0%	1 1.0%	96 100.0%
65歳～69歳	91 83.5%	16 14.7%	2 1.8%	0 0.0%	109 100.0%
70歳～79歳	121 77.1%	27 17.2%	9 5.7%	0 0.0%	157 100.0%
80歳以上	42 70.0%	14 23.3%	3 5.0%	1 1.7%	60 100.0%
全体	680 67.6%	280 27.8%	40 4.0%	6 0.6%	1006 100.0%

居住年数別では、「こちらから積極的にしている」のは10年以上が71.1%と最も高く、居住年数が長くなるほど高くなる傾向にある。

居住年数別、近隣の人へのあいさつ・声かけ（問4×問10）

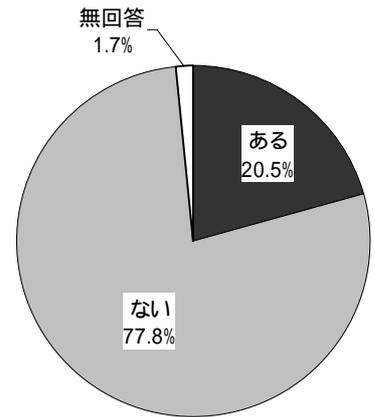


	こちらから積極的にしている	時々している	向こうから声をかけられたらしている	まったくしない	計
1年未満	16 53.3%	13 43.3%	1 3.3%	0 0.0%	30 100.0%
1年以上～5年未満	76 53.9%	56 39.7%	9 6.4%	0 0.0%	141 100.0%
5年以上～10年未満	83 64.8%	39 30.5%	5 3.9%	1 0.8%	128 100.0%
10年以上	497 71.1%	171 24.5%	26 3.7%	5 0.7%	699 100.0%
全体	672 67.3%	279 28.0%	41 4.1%	6 0.6%	998 100.0%

問 11 地域での助け合いの個人的な実践

話し相手や困ったことの手伝いなど地域での助け合いを個人的にしたりされたりしたことが「ある」のは20.5%であった。

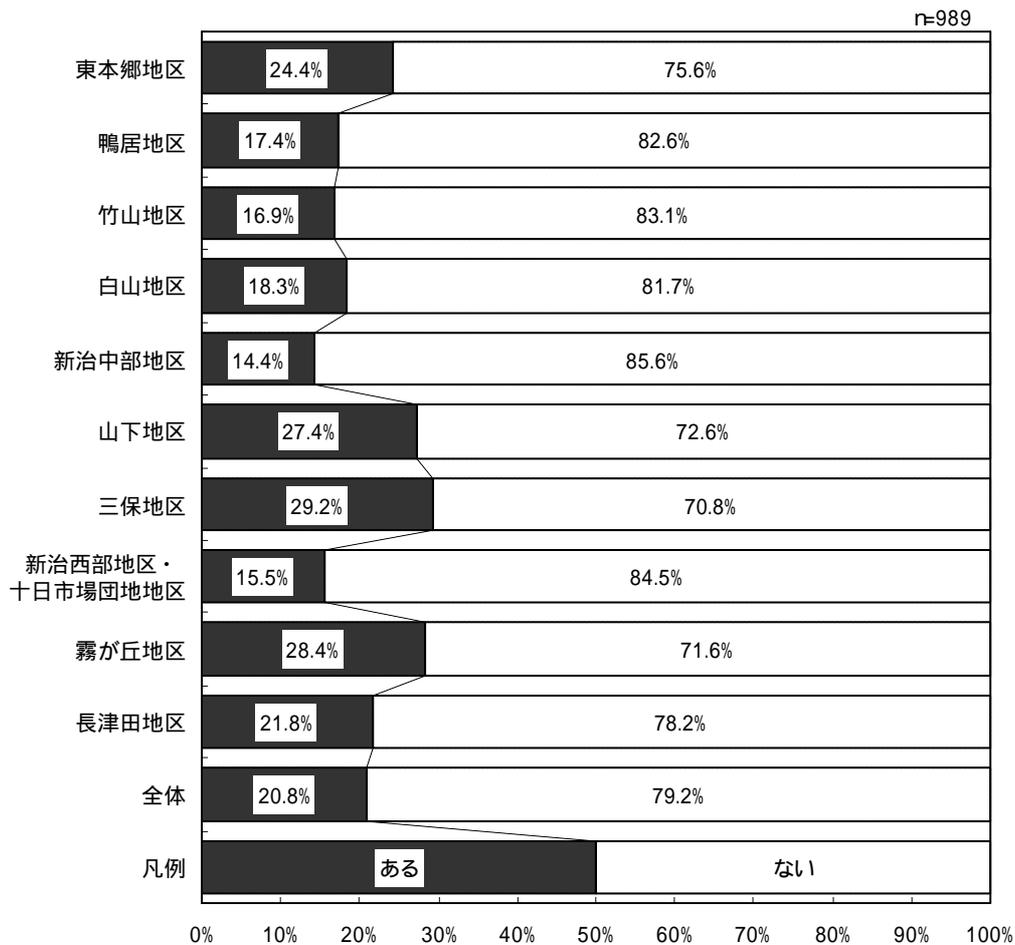
助け合いの具体的内容は、清掃、自治会等の団体での活動をはじめ、話し相手、保育、ゴミ出し、病院の付き添い、防犯等多岐に渡っている。



n=1013		
選択肢	回答数	回答率
1. ある	208	20.5%
2. ない	788	77.8%
無回答	17	1.7%
計	1013	100.0%

居住地区別にみると、平均以上であるのは、最も高い三保地区の29.2%、霧が丘地区の28.4%、山下地区の27.4%、東本郷地区の24.4%、長津田地区の21.8%となっており、最も低かったのは新治中部地区の14.4%であった。

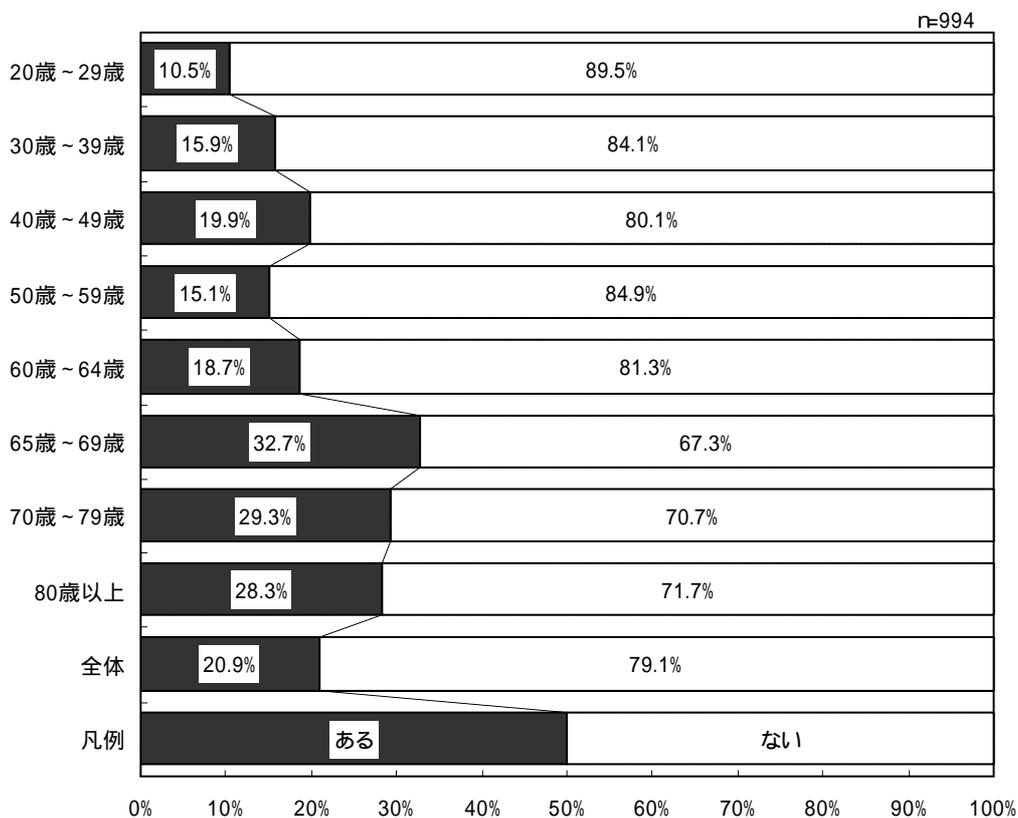
居住地区別、地域での助け合いの個人的な実践（問1×問11）



	ある	ない	計
東本郷地区	19 24.4%	59 75.6%	78 100.0%
鴨居地区	16 17.4%	76 82.6%	92 100.0%
竹山地区	11 16.9%	54 83.1%	65 100.0%
白山地区	11 18.3%	49 81.7%	60 100.0%
新治中部地区	22 14.4%	131 85.6%	153 100.0%
山下地区	20 27.4%	53 72.6%	73 100.0%
三保地区	26 29.2%	63 70.8%	89 100.0%
新治西部地区・ 十日市場団地地区	16 15.5%	87 84.5%	103 100.0%
霧が丘地区	21 28.4%	53 71.6%	74 100.0%
長津田地区	44 21.8%	158 78.2%	202 100.0%
全体	206 20.8%	783 79.2%	989 100.0%

年齢別では、65歳～69歳が32.7%と最も高く、65歳以上はすべての年齢層で平均以上となっているのに対し、65歳未満のすべての年齢層は平均以下であり、特に20歳代は10.5%と低くなっている。

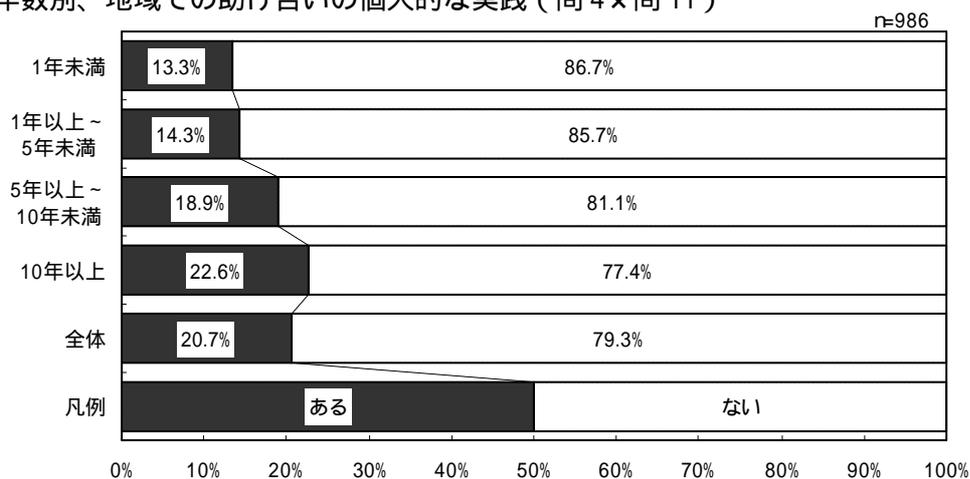
年齢構成別、地域での助け合いの個人的な実践（問3×問11）



	ある	ない	計
20歳～29歳	9 10.5%	77 89.5%	86 100.0%
30歳～39歳	27 15.9%	143 84.1%	170 100.0%
40歳～49歳	34 19.9%	137 80.1%	171 100.0%
50歳～59歳	23 15.1%	129 84.9%	152 100.0%
60歳～64歳	17 18.7%	74 81.3%	91 100.0%
65歳～69歳	35 32.7%	72 67.3%	107 100.0%
70歳～79歳	46 29.3%	111 70.7%	157 100.0%
80歳以上	17 28.3%	43 71.7%	60 100.0%
全体	208 20.9%	786 79.1%	994 100.0%

居住年数別では、10年以上が22.6%と最も高く、居住年数が長くなるほど高くなる傾向にある。

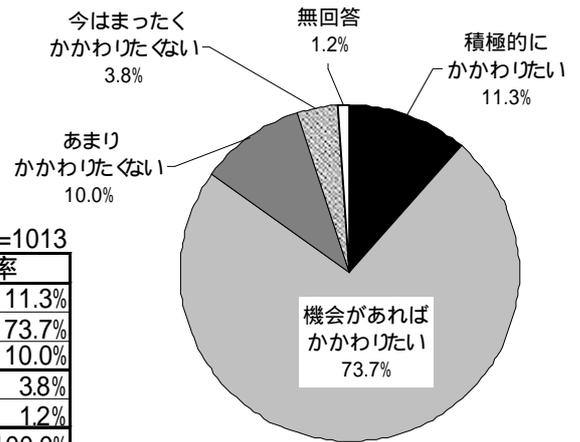
居住年数別、地域での助け合いの個人的な実践（問4×問11）



	ある	ない	計
1年未満	4 13.3%	26 86.7%	30 100.0%
1年以上～5年未満	20 14.3%	120 85.7%	140 100.0%
5年以上～10年未満	24 18.9%	103 81.1%	127 100.0%
10年以上	156 22.6%	533 77.4%	689 100.0%
全体	204 20.7%	782 79.3%	986 100.0%

問 12 地域の方との今後のかかわりたい程度

地域の方との今後の関わりたい程度(子供を含む)は、「機会があればかかわりたい」が73.7%と最も多く、「積極的にかかわりたい」を含めると85.0%がかかわりたいと回答している。

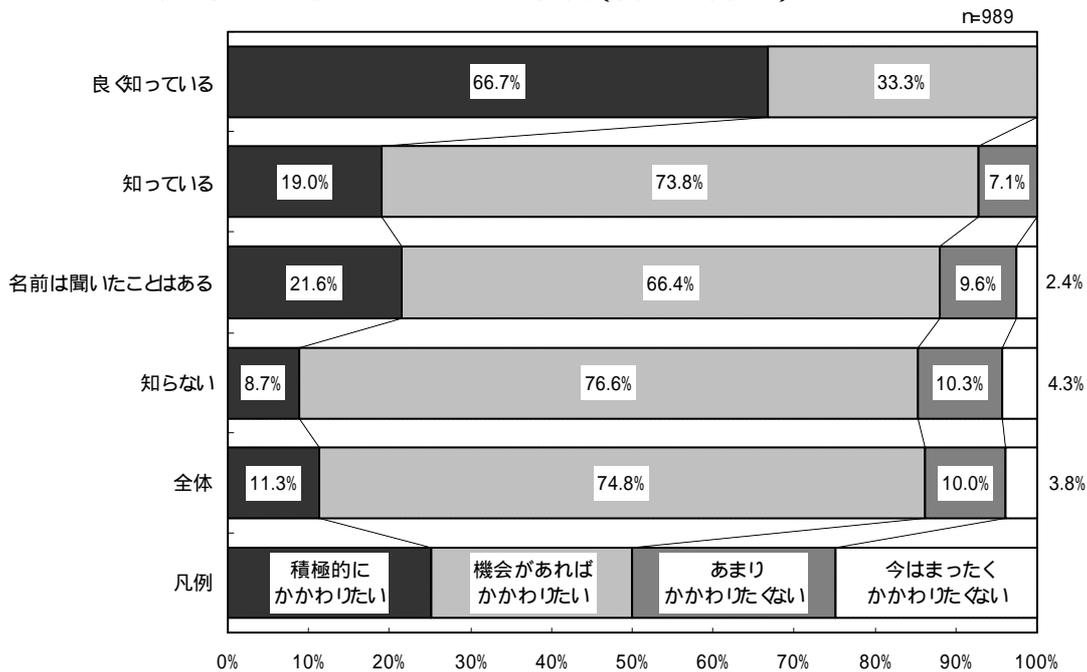


n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. 積極的にかかわりたい	114	11.3%
2. 機会があればかかわりたい	747	73.7%
3. あまりかかわりたくない	101	10.0%
4. 今はまったくかかわりたくない	39	3.8%
無回答	12	1.2%
計	1013	100.0%

『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別にみた場合、「良く知っている」方の「積極的にかかわりたい」割合は66.7%と高く、「知っている」の19.0%、「名前は聞いたことがある」の21.6%、「知らない」の8.7%とは大きな開きがあり、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の周知が地域とかかわりたいと考える意識の向上に影響が大きいと考えられる。

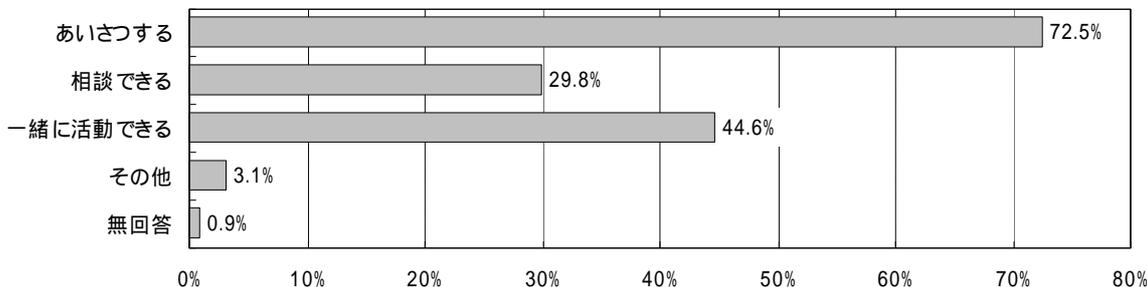
『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別、
地域の方との今後のかかわりたい程度 (問 19×問 12)



	積極的にかかわりたい	機会があればかかわりたい	あまりかかわりたくない	今はまったくかかわりたくない	計
良く知っている	6 66.7%	3 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	9 100.0%
知っている	8 19.0%	31 73.8%	3 7.1%	0 0.0%	42 100.0%
名前は聞いたことがある	27 21.6%	83 66.4%	12 9.6%	3 2.4%	125 100.0%
知らない	71 8.7%	623 76.6%	84 10.3%	35 4.3%	813 100.0%
全体	112 11.3%	740 74.8%	99 10.0%	38 3.8%	989 100.0%

問 12-1 地域の方とかかわりたい内容(複数回答)

問 12 で「積極的にかかわりたい」または「機会があればかわりたい」と回答した方に対する地域の方とかかわりたい内容は、「あいさつする」が 72.5%と最も多く、次いで「一緒に活動できる」が 44.6%、「相談できる」が 29.8%であった。

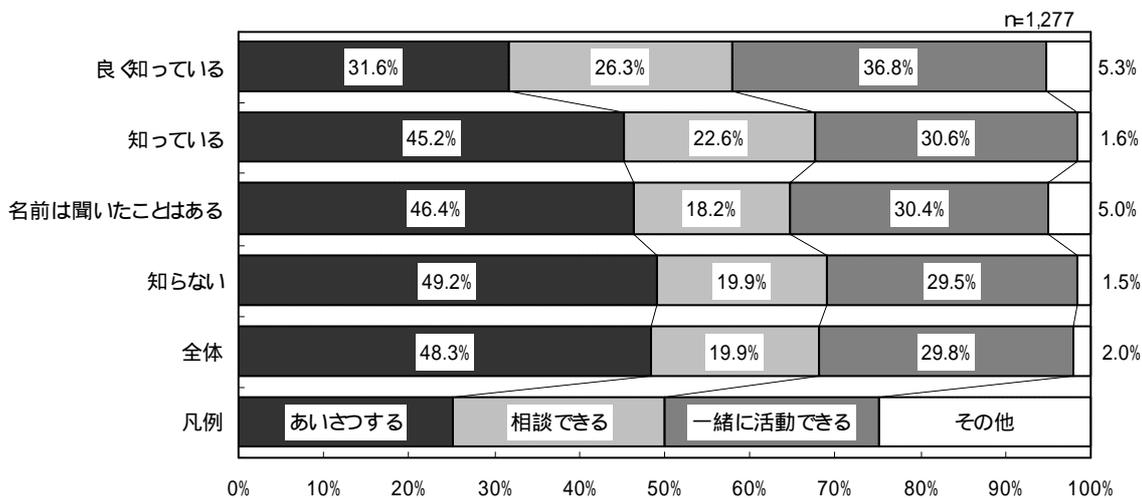


n=861

選択肢	回答数	回答率
1. あいさつする	624	72.5%
2. 相談できる	257	29.8%
3. 一緒に活動できる	384	44.6%
4. その他	27	3.1%
無回答	8	0.9%
計	1300	-

地域の方とかかわりたい内容について『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別にみると、「良く知っている」場合は、「知っている」、「名前は聞いたことがある」、「知らない」と比べ、「相談できる」、「一緒に活動ができる」の割合が高くなっており、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度が高いほど、より深く地域とかかわりたいと考える傾向にある。

『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別、地域の方とかかわりたい内容(問 19×問 12-1)



	あいさつする	相談できる	一緒に活動できる	その他	計
良く知っている	6 31.6%	5 26.3%	7 36.8%	1 5.3%	19 100.0%
知っている	28 45.2%	14 22.6%	19 30.6%	1 1.6%	62 100.0%
名前は聞いたことはある	84 46.4%	33 18.2%	55 30.4%	9 5.0%	181 100.0%
知らない	499 49.2%	202 19.9%	299 29.5%	15 1.5%	1015 100.0%
全体	617 48.3%	254 19.9%	380 29.8%	26 2.0%	1277 100.0%

問 12-2 地域の方とかかわりたくない理由(自由回答)

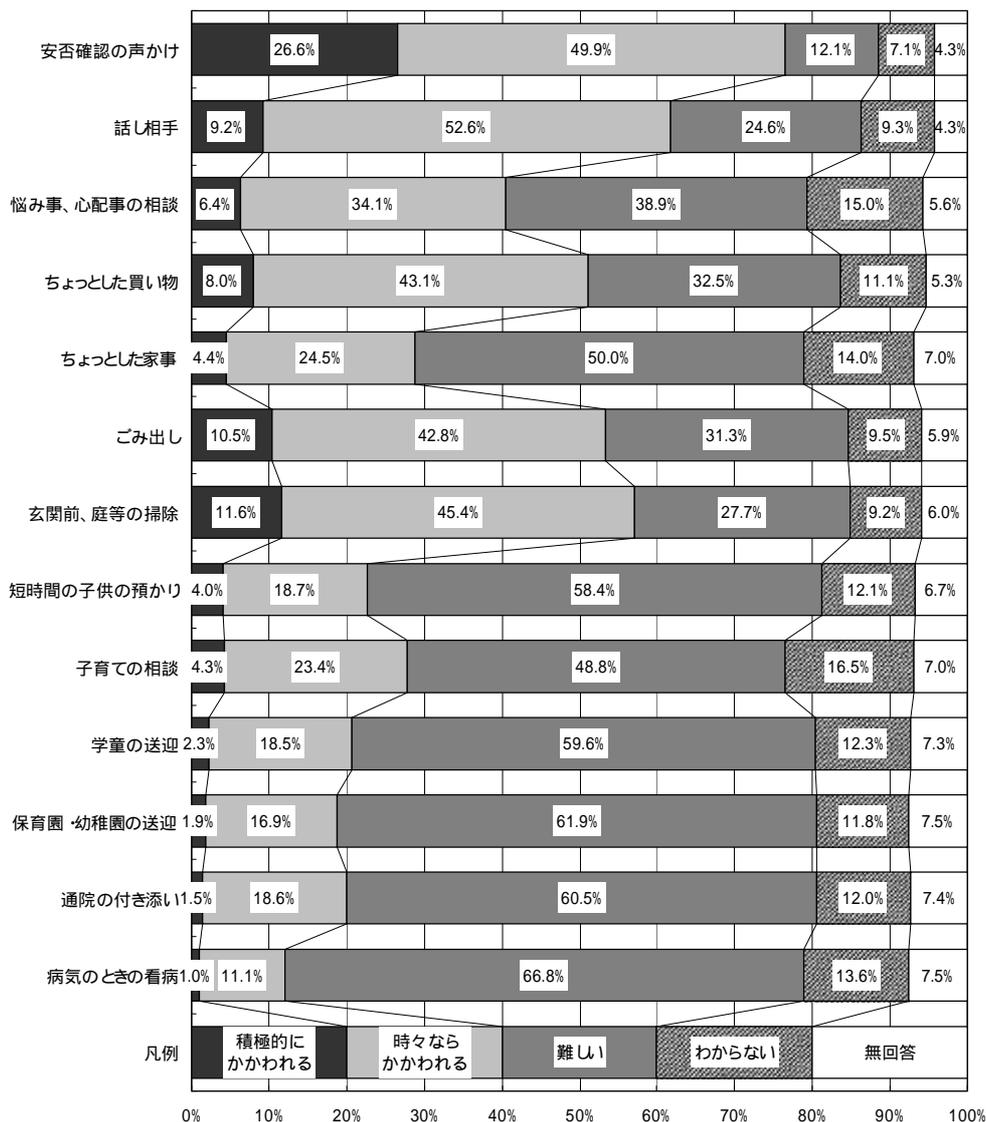
問 12 で「あまりかかわりたくない」または「今はかかわりたくない」と回答した方に対するかかわりたくない理由は、「年齢的、身体的な理由でできない」といった理由が最も多く、次いで「仕事や家事などで忙しい」といった理由が多かった。

問 13 隣近所の困っている方とかかわれる程度

隣近所で困っている方がいた場合のかかわれる程度については、「積極的にかかわれる」と「時々ならかかわれる」をあわせたものは、「安否確認の声かけ」が 76.4%と最も多く、次いで「話し相手」61.8%、「玄関前、庭等の掃除」57.1%、「ごみ出し」53.3%、「ちょっとした買い物」51.1%と 50%以上の方がかかわれると回答したのは、ついでにできるようなことがらが多かった。

30%未満の方しかかかわれると回答しなかったのは、最も少なかった「病気のときの看病」12.0%をはじめ、「保育園、幼稚園の送迎」18.8%、「病院の付き添い」20.0%、「学童の送迎」20.7%、「短時間の子供の預かり」22.7%、「子育ての相談」27.7%、「ちょっとした家事」28.9%であった。

その他、地域で困っている方にかかわれること(手助けできること)の内容については、選択肢にあげられていた項目の回答が多く、具体的な記入が少なかったが、ヘルパー、パソコン、造園、電気関係の修理といった特技を活かしたかかわり方の回答が目についた。



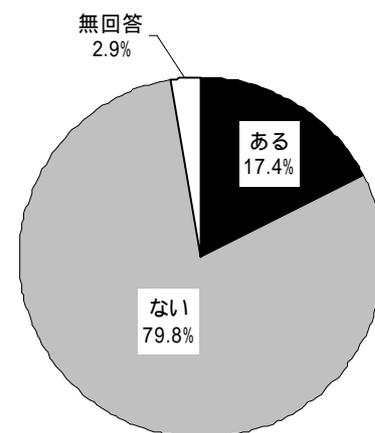
n=1013

	積極的に かかわれる	時々なら かかわれる	難しい	わからない	無回答	計
安否確認の声かけ	269 26.6%	505 49.9%	123 12.1%	72 7.1%	44 4.3%	1,013 100.0%
話し相手	93 9.2%	533 52.6%	249 24.6%	94 9.3%	44 4.3%	1,013 100.0%
悩み事、心配事の相談	65 6.4%	345 34.1%	394 38.9%	152 15.0%	57 5.6%	1,013 100.0%
ちょっとした買い物	81 8.0%	437 43.1%	329 32.5%	112 11.1%	54 5.3%	1,013 100.0%
ちょっとした家事	45 4.4%	248 24.5%	507 50.0%	142 14.0%	71 7.0%	1,013 100.0%
ごみ出し	106 10.5%	434 42.8%	317 31.3%	96 9.5%	60 5.9%	1,013 100.0%
玄関前、庭等の掃除	118 11.6%	460 45.4%	281 27.7%	93 9.2%	61 6.0%	1,013 100.0%
短時間の子供の預かり	41 4.0%	189 18.7%	592 58.4%	123 12.1%	68 6.7%	1,013 100.0%
子育ての相談	44 4.3%	237 23.4%	494 48.8%	167 16.5%	71 7.0%	1,013 100.0%
学童の送迎	23 2.3%	187 18.5%	604 59.6%	125 12.3%	74 7.3%	1,013 100.0%
保育園 幼稚園の送迎	19 1.9%	171 16.9%	627 61.9%	120 11.8%	76 7.5%	1,013 100.0%
通院の付き添い	15 1.5%	188 18.6%	613 60.5%	122 12.0%	75 7.4%	1,013 100.0%
病気のときの看病	10 1.0%	112 11.1%	677 66.8%	138 13.6%	76 7.5%	1,013 100.0%

問 14 ボランティア活動の参加経験

近年のボランティア活動の参加について「ある」と回答したのは17.4%であった。

参加したことがあるボランティア活動の具体的内容は、「清掃」、「防災・防犯活動」、「子供関連の活動」、「老人関連の活動」、「自治会活動」、「文化活動」、「保健推進活動」と多岐にわたる内容であった。



n=1013

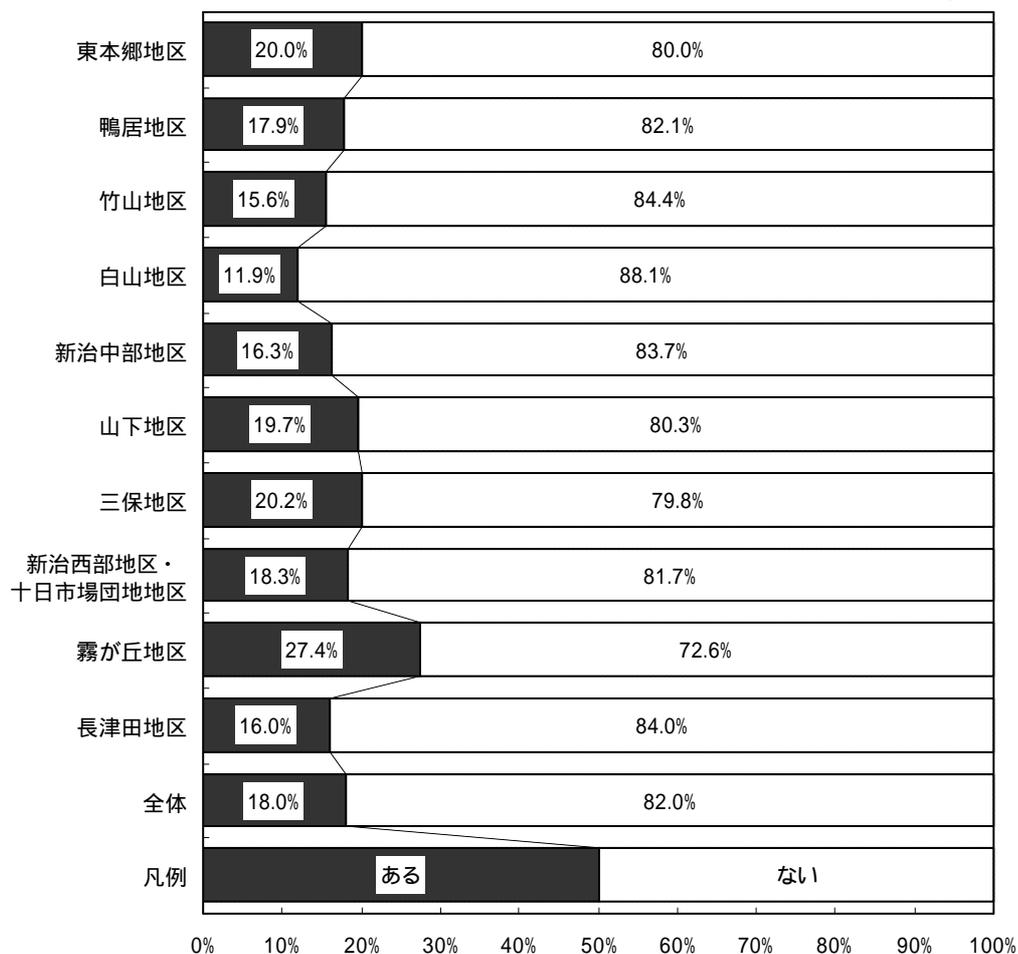
選択肢	回答数	回答率
1. ある	176	17.4%
2. ない	808	79.8%
無回答	29	2.9%
計	1013	100.0%

ボランティア活動の参加経験を居住地区別にみると、平均以上であるのは、最も高い霧が丘地区の27.4%及びそれにつづく、三保地区の20.2%、東本郷地区の20.0%、山下地区の19.7%、鴨居地区の17.9%となっており、最も低かったのは白山地区の11.9%であった。

また、年齢別にみると、65歳～69歳が35.8%と最も高く、40歳未満は10%以下と低くなっており、特に20歳～29歳のボランティア活動の参加経験は2.3%と非常に低かった。

居住地区別、ボランティア活動の参加経験（問1×問14）

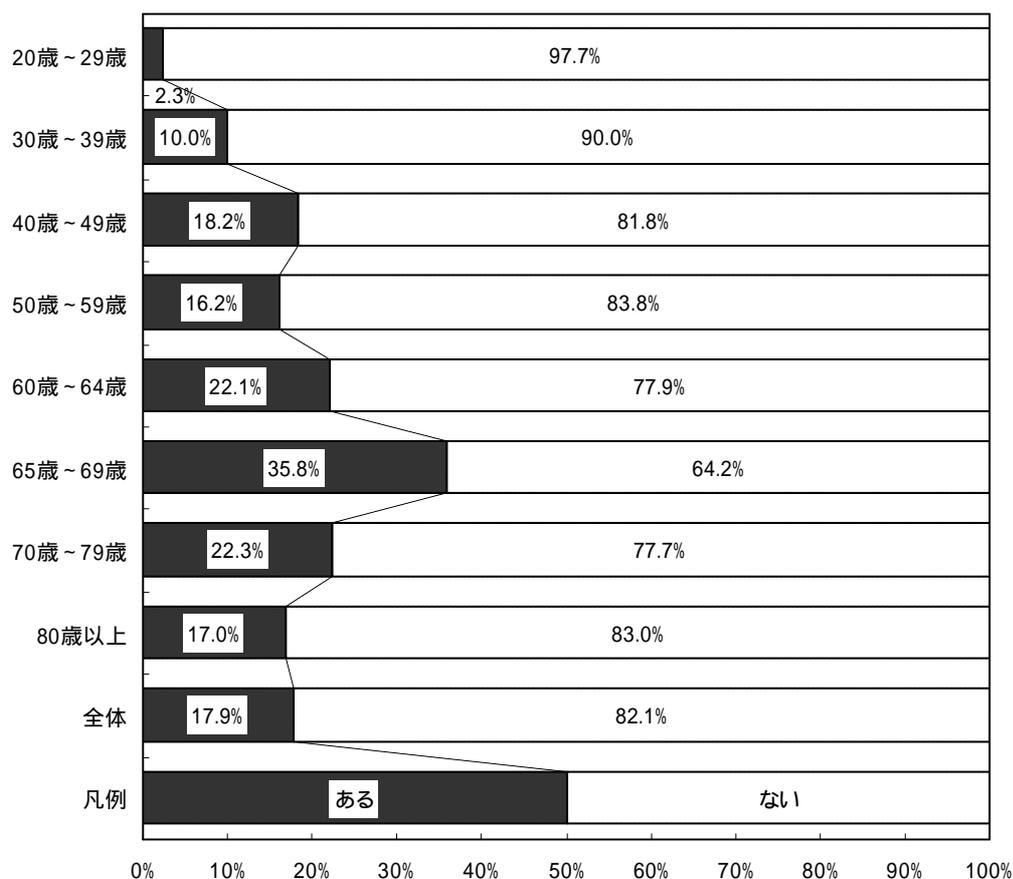
n=977



	ある	ない	計
東本郷地区	15 20.0%	60 80.0%	75 100.0%
鴨居地区	17 17.9%	78 82.1%	95 100.0%
竹山地区	10 15.6%	54 84.4%	64 100.0%
白山地区	7 11.9%	52 88.1%	59 100.0%
新治中部地区	24 16.3%	123 83.7%	147 100.0%
山下地区	14 19.7%	57 80.3%	71 100.0%
三保地区	18 20.2%	71 79.8%	89 100.0%
新治西部地区・十日市場団地地区	19 18.3%	85 81.7%	104 100.0%
霧が丘地区	20 27.4%	53 72.6%	73 100.0%
長津田地区	32 16.0%	168 84.0%	200 100.0%
全体	176 18.0%	801 82.0%	977 100.0%

年齢構成別、ボランティア活動の参加経験（問3×問14）

n=982



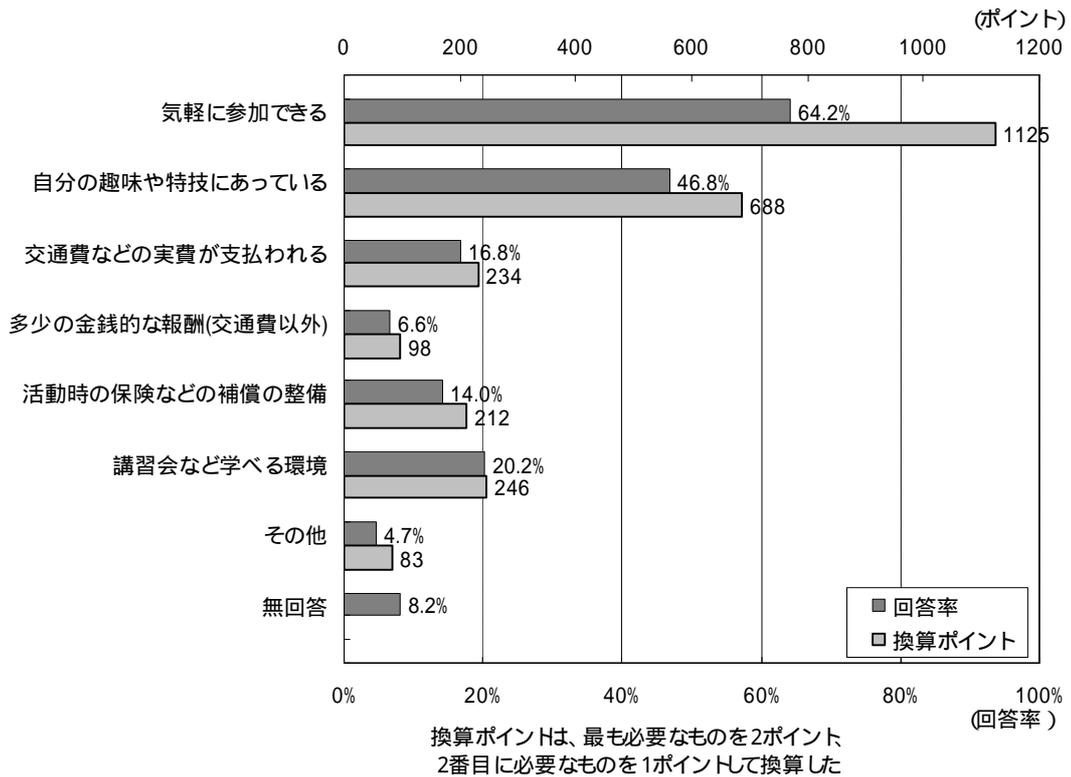
	ある	ない	計
20歳～29歳	2 2.3%	84 97.7%	86 100.0%
30歳～39歳	17 10.0%	153 90.0%	170 100.0%
40歳～49歳	31 18.2%	139 81.8%	170 100.0%
50歳～59歳	25 16.2%	129 83.8%	154 100.0%
60歳～64歳	21 22.1%	74 77.9%	95 100.0%
65歳～69歳	38 35.8%	68 64.2%	106 100.0%
70歳～79歳	33 22.3%	115 77.7%	148 100.0%
80歳以上	9 17.0%	44 83.0%	53 100.0%
全体	176 17.9%	806 82.1%	982 100.0%

問 15 ボランティア活動に参加するための必要事項(複数回答)

回答者がボランティア活動に参加するための必要事項は、「気軽に参加できる」が 64.2%と最も多く、次いで「自分の趣味や特技にあっている」が 46.8%と多い回答となっている。

最も必要なものを 2 ポイント、2 番目に必要なものを 1 ポイントとして計算した換算ポイントにおいても同様の傾向を示しているが、回答率が最も多かった「気軽に参加できる」がさらに際立っている。

その他の意見としては、「やりがいや必要性」、「時間」という回答が多かった。



n=1013

選択肢	回答数	ポイント	回答率
1. 気軽に参加できる	650	1125	64.2%
2. 自分の趣味や特技にあっている	474	688	46.8%
3. 交通費などの実費が支払われる	170	234	16.8%
4. 多少の金銭的な報酬(交通費以外)	67	98	6.6%
5. 活動時の保険などの補償の整備	142	212	14.0%
6. 講習会など学べる環境	205	246	20.2%
7. その他	48	83	4.7%
無回答	83	-	8.2%
計	1839	2686	-

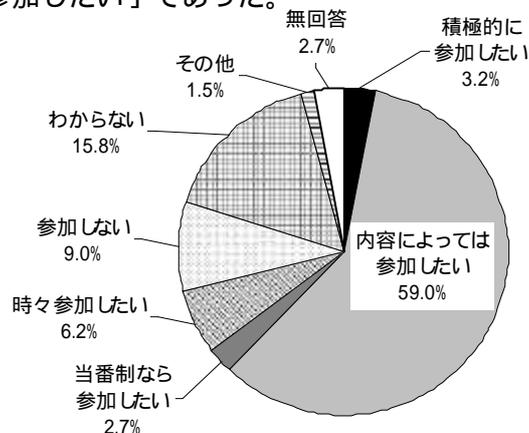
問 16 地域のボランティア活動参加依頼への対応

地域のボランティア活動への参加依頼に対しては、「内容によっては参加したい」が59.0%と最も多く、「積極的に参加したい」、「当番制なら参加したい」、「時々参加したい」を含めると71.1%を占め、地域のボランティア活動への参加意欲が高いことがうかがえる。

その他の内訳で多かったのは、「時間の都合がつけば参加したい」であった。

n=1013

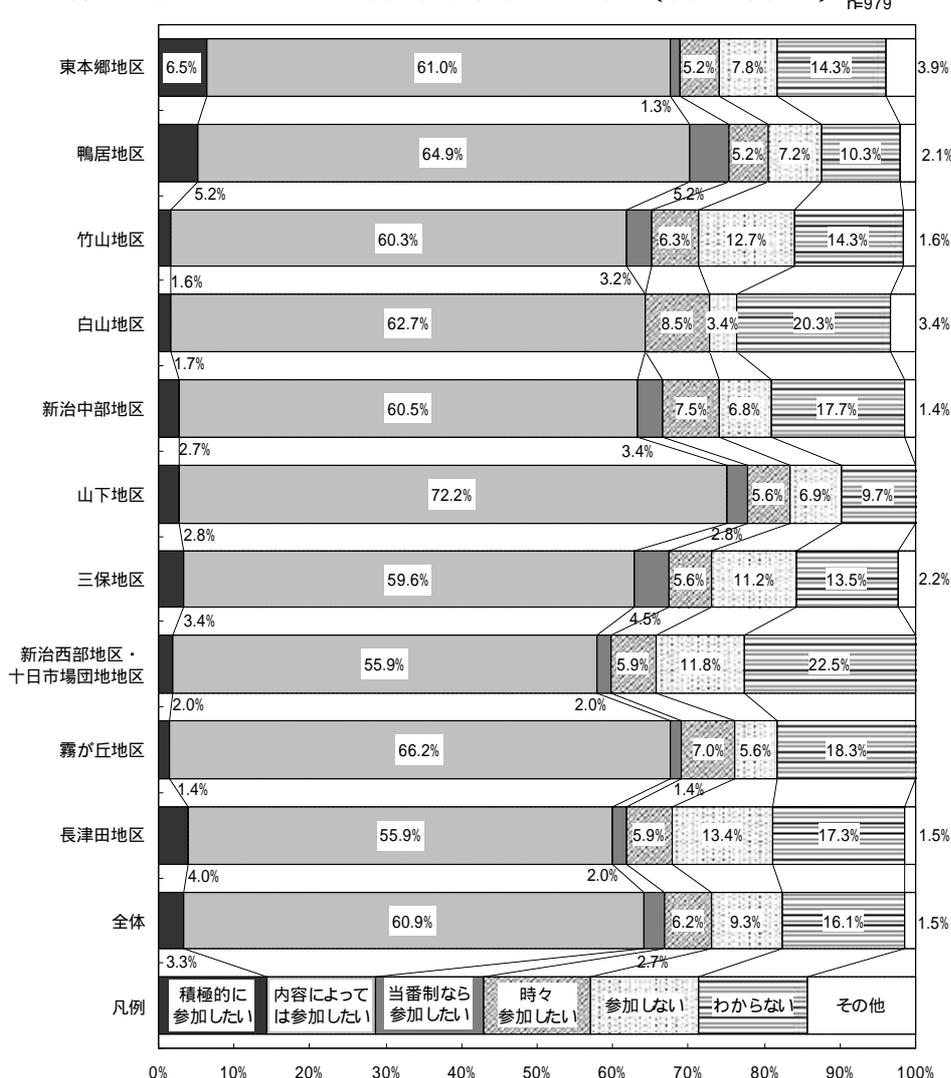
選択肢	回答数	回答率
1. 積極的に参加したい	32	3.2%
2. 内容によっては参加したい	598	59.0%
3. 当番制なら参加したい	27	2.7%
4. 時々参加したい	63	6.2%
5. 参加しない	91	9.0%
6. わからない	160	15.8%
7. その他	15	1.5%
無回答	27	2.7%
計	1013	100.0%



居住地区別にみると、「積極的に参加したい」との回答が最も高かったのは東本郷地区の6.5%で、「内容によっては参加したい」との回答が最も高かったのは山下地区の72.2%であった。

また、「参加しない」との回答が高かったのは長津田地区の13.4%となっている。

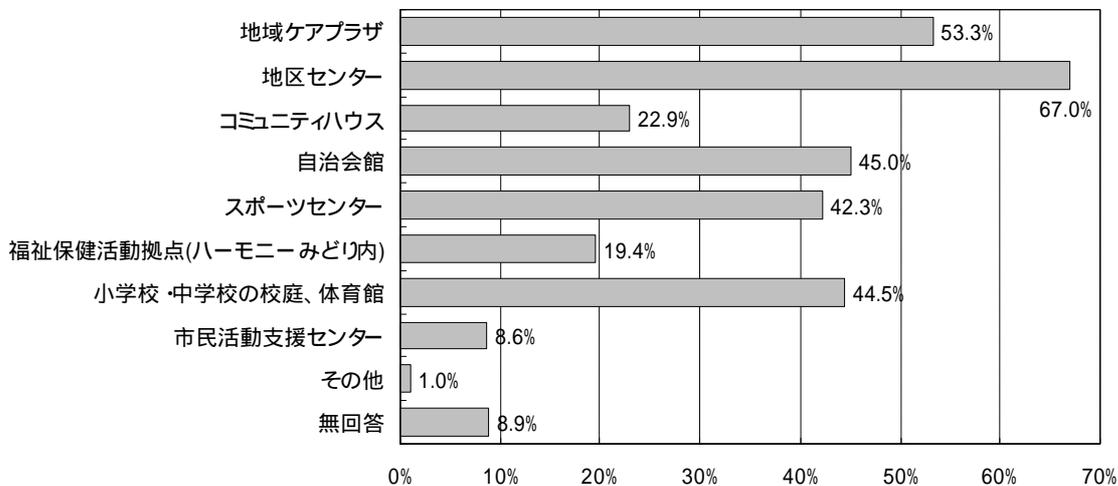
居住地区別、地域のボランティア活動参加依頼への対応（問1×問16）



	積極的に参加したい	内容によっては参加したい	当番制なら参加したい	時々参加したい	参加しない	わからない	その他	計
東本郷地区	5 6.5%	47 61.0%	1 1.3%	4 5.2%	6 7.8%	11 14.3%	3 3.9%	77 100.0%
鴨居地区	5 5.2%	63 64.9%	5 5.2%	5 5.2%	7 7.2%	10 10.3%	2 2.1%	97 100.0%
竹山地区	1 1.6%	38 60.3%	2 3.2%	4 6.3%	8 12.7%	9 14.3%	1 1.6%	63 100.0%
白山地区	1 1.7%	37 62.7%	0 0.0%	5 8.5%	2 3.4%	12 20.3%	2 3.4%	59 100.0%
新治中部地区	4 2.7%	89 60.5%	5 3.4%	11 7.5%	10 6.8%	26 17.7%	2 1.4%	147 100.0%
山下地区	2 2.8%	52 72.2%	2 2.8%	4 5.6%	5 6.9%	7 9.7%	0 0.0%	72 100.0%
三保地区	3 3.4%	53 59.6%	4 4.5%	5 5.6%	10 11.2%	12 13.5%	2 2.2%	89 100.0%
新治西部地区・十日市場団地地区	2 2.0%	57 55.9%	2 2.0%	6 5.9%	12 11.8%	23 22.5%	0 0.0%	102 100.0%
霧が丘地区	1 1.4%	47 66.2%	1 1.4%	5 7.0%	4 5.6%	13 18.3%	0 0.0%	71 100.0%
長津田地区	8 4.0%	113 55.9%	4 2.0%	12 5.9%	27 13.4%	35 17.3%	3 1.5%	202 100.0%
全体	32 3.3%	596 60.9%	26 2.7%	61 6.2%	91 9.3%	158 16.1%	15 1.5%	979 100.0%

問 17 地域のボランティア活動・余暇活動に利用できる施設の認知(複数回答)

地域のボランティア活動・余暇活動に利用できる施設の認知度は、「地区センター」が 67.0%と最も高く、「地域ケアプラザ」が 53.3%となっているが、「市民活動支援センター」は 8.6%、「福祉保健活動拠点(ハーモニーみどり内)」は 19.4%と低い結果であった。



n=1013

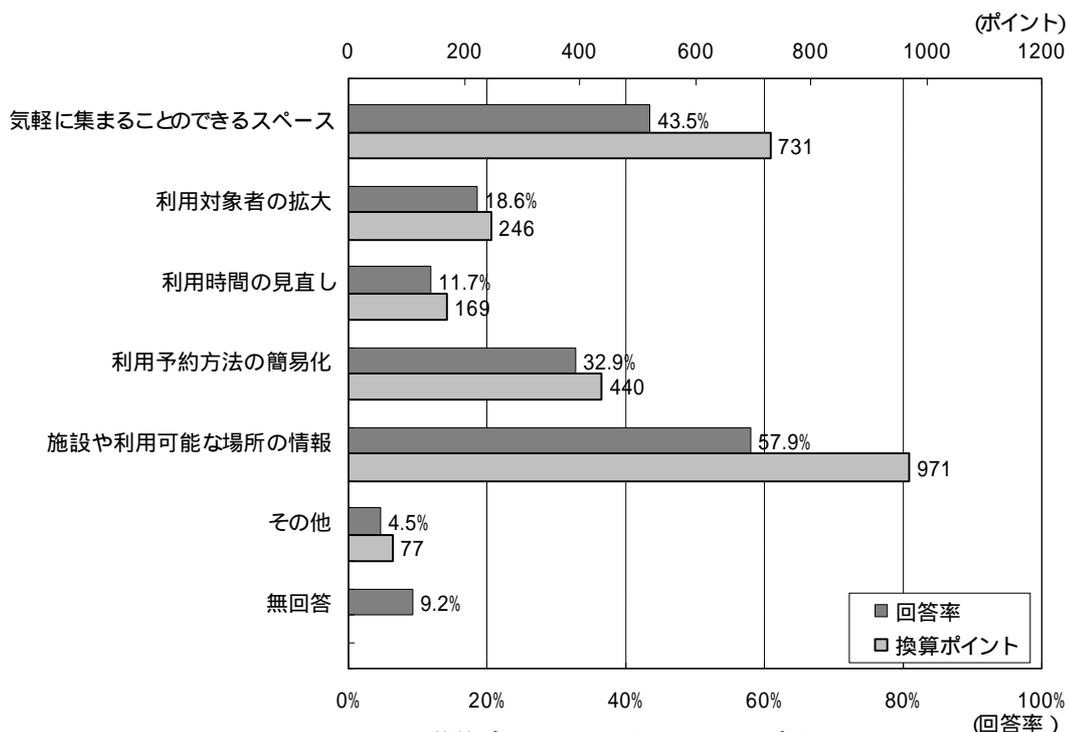
選択肢	回答数	回答率
1. 地域ケアプラザ	540	53.3%
2. 地区センター	679	67.0%
3. コミュニティハウス	232	22.9%
4. 自治会館	456	45.0%
5. スポーツセンター	428	42.3%
6. 福祉保健活動拠点(ハーモニーみどり内)	197	19.4%
7. 小学校・中学校の校庭、体育館	451	44.5%
8. 市民活動支援センター	87	8.6%
9. その他	10	1.0%
無回答	90	8.9%
計	3170	-

問 18 施設をより使いやすくするための必要な事項(複数回答)

回答者が地域のボランティア活動・余暇活動に利用できる施設を使いやすくするための必要事項は、「施設や利用可能な場所の情報」が 57.9%と最も多く、次いで「気軽に集まることのできるスペース」が 43.5%と多い回答となっている。

最も必要なものを 2 ポイント、2 番目に必要なものを 1 ポイントとして計算した換算ポイントにおいても同様の傾向を示している。

その他の意見として多かったのは、「駐車場やアクセスの利便性向上」、「料金の低額化」、「利用ルールの簡素化」、「施設の案内などの周知」という意見が多かった。

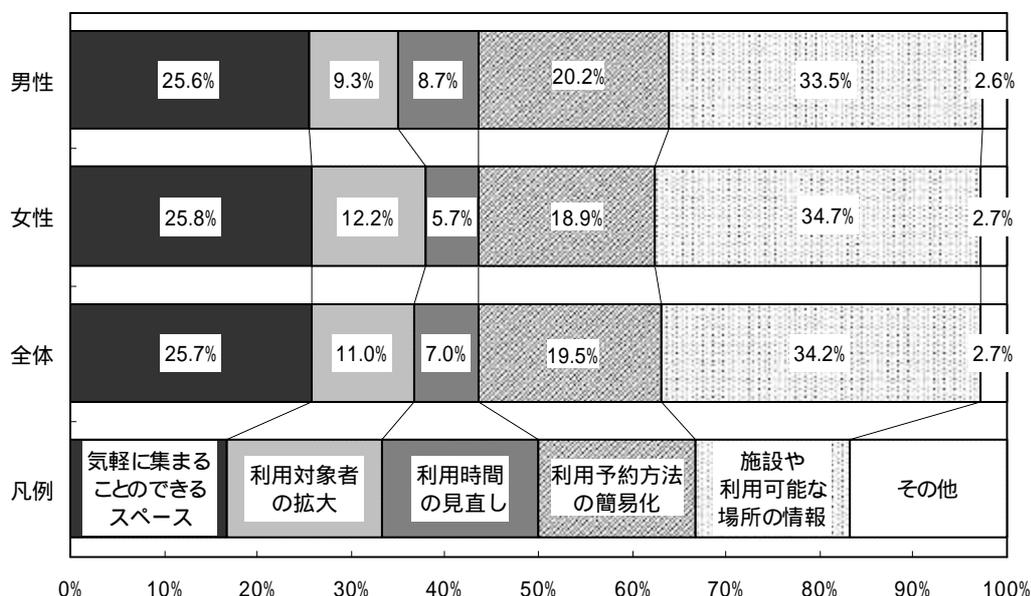


換算ポイントは、最も必要なものを2ポイント、2番目に必要なものを1ポイントして換算した

選択肢	回答数	ポイント	回答率
1. 気軽に集まることのできるスペース	441	731	43.5%
2. 利用対象者の拡大	188	246	18.6%
3. 利用時間の見直し	119	169	11.7%
4. 利用予約方法の簡易化	333	440	32.9%
5. 施設や利用可能な場所の情報	587	971	57.9%
6. その他	46	77	4.5%
無回答	93	-	9.2%
計	1807	2634	-

施設をより使いやすくするための必要な事項について男女別にみると、「利用対象者の拡大」でやや女性が多く、「利用時間の見直し」でやや男性が多かったものの、大きな違いはみられない。

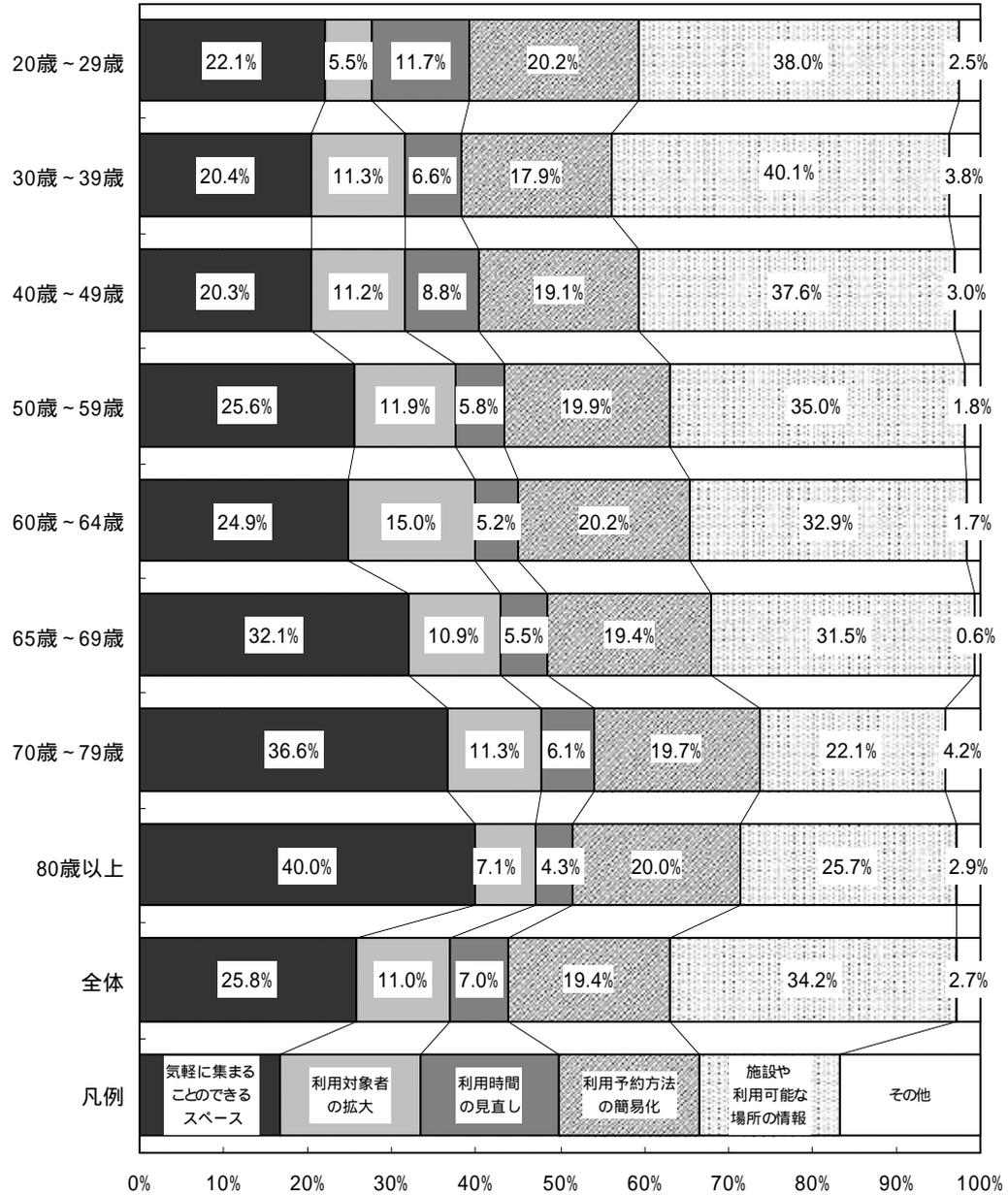
男女別、施設をより使いやすくするための必要な事項（問2×問18）



	可以轻松聚集的空间	利用対象者の拡大	利用時間の見直し	利用予約方法の簡易化	施設や利用可能な場所の情報	その他	計
男性	185 25.6%	67 9.3%	63 8.7%	146 20.2%	242 33.5%	19 2.6%	722 100.0%
女性	255 25.8%	121 12.2%	56 5.7%	187 18.9%	344 34.7%	27 2.7%	990 100.0%
全体	440 25.7%	188 11.0%	119 7.0%	333 19.5%	586 34.2%	46 2.7%	1712 100.0%

年齢構成別にみると、年齢層が高くなるほど「可以轻松聚集的空间」が必要と考える傾向が高く、50歳未満では20%程度であるのに対し、80歳以上では40.0%となっているが、「施設や利用可能な場所の情報」や「利用時間の見直し」が必要と考える割合は、年齢層が低いほど高くなる傾向にある。

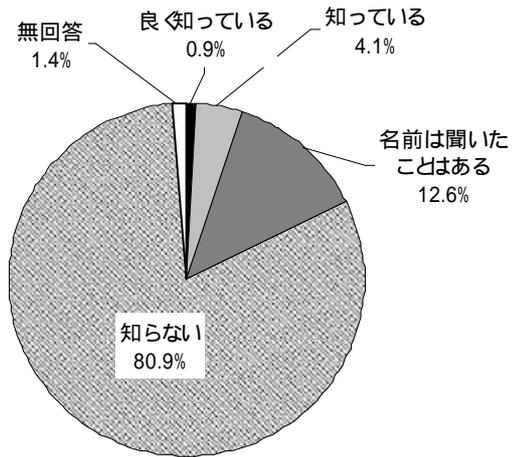
年齢構成別、施設をより使いやすくするための必要な事項（問3×問18）



	気軽に集まることのできるスペース	利用対象者の拡大	利用時間の見直し	利用予約方法の簡易化	施設や利用可能な場所の情報	その他	計
20歳～29歳	36 22.1%	9 5.5%	19 11.7%	33 20.2%	62 38.0%	4 2.5%	163 100.0%
30歳～39歳	65 20.4%	36 11.3%	21 6.6%	57 17.9%	128 40.1%	12 3.8%	319 100.0%
40歳～49歳	67 20.3%	37 11.2%	29 8.8%	63 19.1%	124 37.6%	10 3.0%	330 100.0%
50歳～59歳	71 25.6%	33 11.9%	16 5.8%	55 19.9%	97 35.0%	5 1.8%	277 100.0%
60歳～64歳	43 24.9%	26 15.0%	9 5.2%	35 20.2%	57 32.9%	3 1.7%	173 100.0%
65歳～69歳	53 32.1%	18 10.9%	9 5.5%	32 19.4%	52 31.5%	1 0.6%	165 100.0%
70歳～79歳	78 36.6%	24 11.3%	13 6.1%	42 19.7%	47 22.1%	9 4.2%	213 100.0%
80歳以上	28 40.0%	5 7.1%	3 4.3%	14 20.0%	18 25.7%	2 2.9%	70 100.0%
全体	441 25.8%	188 11.0%	119 7.0%	331 19.4%	585 34.2%	46 2.7%	1710 100.0%

問 19 『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度

『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度は、「良く知っている」と「知っている」の合計が 5.0%、「名前は聞いたことがある」をあわせると 17.6%ではあるが「知らない」が 80.9%と低い認知度を示している。



n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. 良く知っている	9	0.9%
2. 知っている	42	4.1%
3. 名前は聞いたことがある	128	12.6%
4. 知らない	820	80.9%
無回答	14	1.4%
計	1013	100.0%

居住地区別にみると、「良く知っている」との回答が最も高かったのは東本郷地区の 3.8%で、「良く知っている」と「知っている」合計では白山地区の 11.9%が最も高かった。

居住地区別、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度（問 1×問 19）

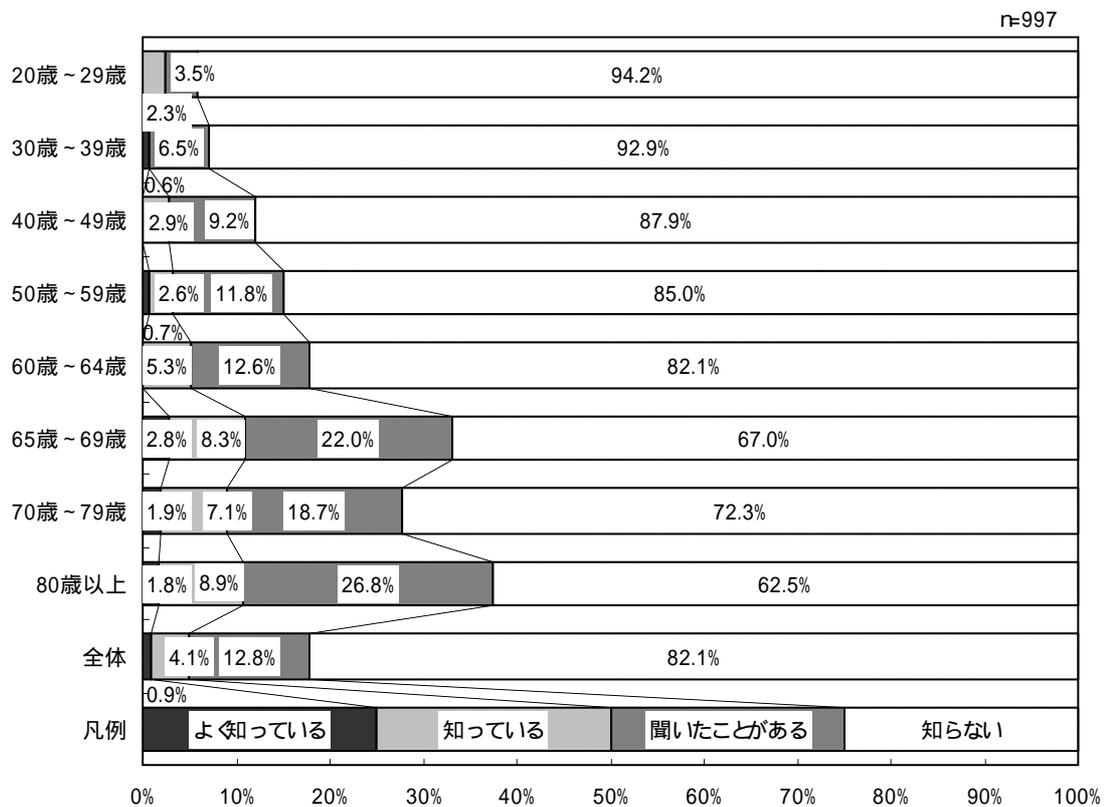
n=992



	良く知っている	知っている	名前は聞いた ことはある	知らない	計
東本郷地区	3 3.8%	4 5.1%	14 17.7%	58 73.4%	79 100.0%
鴨居地区	0 0.0%	6 6.2%	10 10.3%	81 83.5%	97 100.0%
竹山地区	1 1.6%	4 6.3%	7 10.9%	52 81.3%	64 100.0%
白山地区	0 0.0%	7 11.9%	10 16.9%	42 71.2%	59 100.0%
新治中部地区	1 0.7%	4 2.7%	19 12.7%	126 84.0%	150 100.0%
山下地区	1 1.4%	1 1.4%	6 8.3%	64 88.9%	72 100.0%
三保地区	2 2.2%	2 2.2%	14 15.6%	72 80.0%	90 100.0%
新治西部地区・ 十日市場団地	0 0.0%	2 1.9%	14 13.5%	88 84.6%	104 100.0%
霧が丘地区	0 0.0%	3 4.1%	9 12.3%	61 83.6%	73 100.0%
長津田地区	1 0.5%	9 4.4%	24 11.8%	170 83.3%	204 100.0%
全体	9 0.9%	42 4.2%	127 12.8%	814 82.1%	992 100.0%

年齢構成別にみると、「良く知っている」との回答が最も高かったのは65歳～69歳の2.8%で、「良く知っている」と「知っている」合計についても65歳～69歳が11.1%と高かった。また、20歳代及び30歳代においては、「知らない」との回答が90%を超えている。

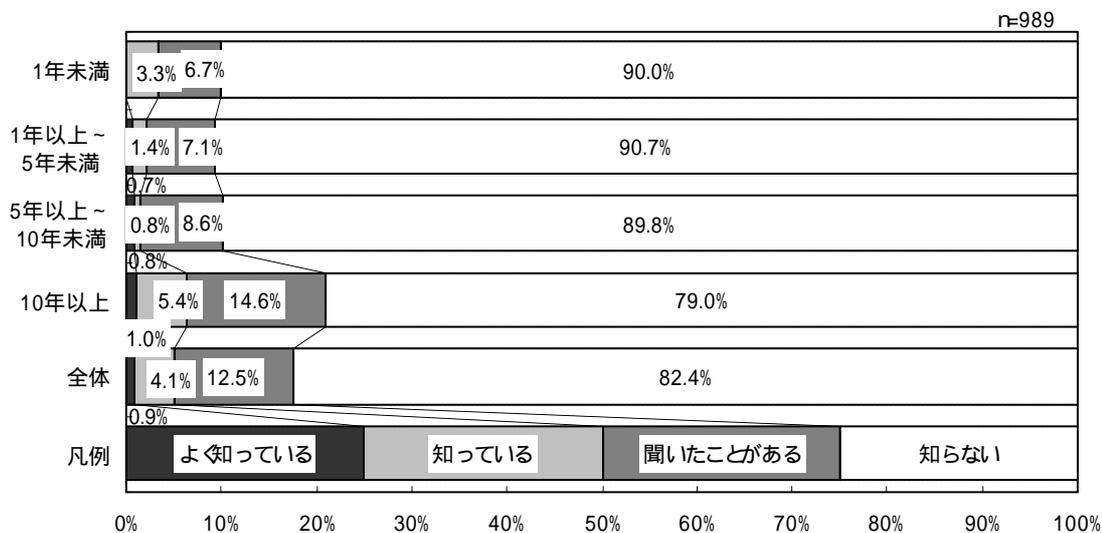
年齢構成別、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度（問3×問19）



	良く知っている	知っている	名前は聞いた ことはある	知らない	計
20歳～29歳	0 0.0%	2 2.3%	3 3.5%	81 94.2%	86 100.0%
30歳～39歳	1 0.6%	0 0.0%	11 6.5%	158 92.9%	170 100.0%
40歳～49歳	0 0.0%	5 2.9%	16 9.2%	152 87.9%	173 100.0%
50歳～59歳	1 0.7%	4 2.6%	18 11.8%	130 85.0%	153 100.0%
60歳～64歳	0 0.0%	5 5.3%	12 12.6%	78 82.1%	95 100.0%
65歳～69歳	3 2.8%	9 8.3%	24 22.0%	73 67.0%	109 100.0%
70歳～79歳	3 1.9%	11 7.1%	29 18.7%	112 72.3%	155 100.0%
80歳以上	1 1.8%	5 8.9%	15 26.8%	35 62.5%	56 100.0%
全体	9 0.9%	41 4.1%	128 12.8%	819 82.1%	997 100.0%

居住年数別では、「良く知っている」と「知っている」合計で、10年以上が6.4%と最も高いが、10年未満では「知らない」との回答が約90%を超えている。

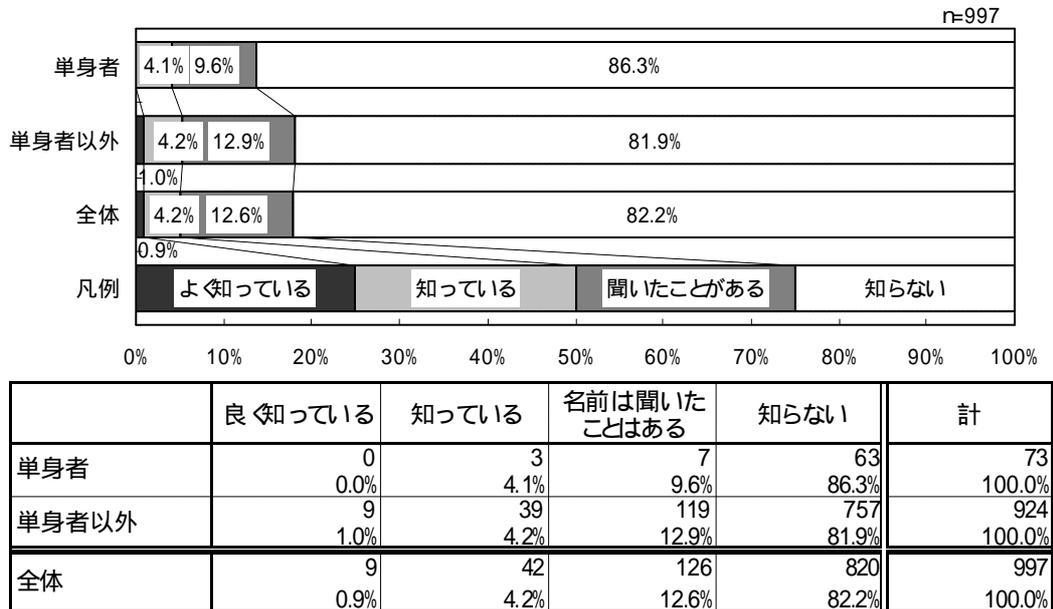
居住年数別、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度（問4×問19）



	良く知っている	知っている	名前は聞いた ことはある	知らない	計
1年未満	0 0.0%	1 3.3%	2 6.7%	27 90.0%	30 3.3%
1年以上～5年未満	1 0.7%	2 1.4%	10 7.1%	127 90.7%	140 2.1%
5年以上～10年未満	1 0.8%	1 0.8%	11 8.6%	115 89.8%	128 1.6%
10年以上	7 1.0%	37 5.4%	101 14.6%	546 79.0%	691 6.4%
全体	9 0.9%	41 4.1%	124 12.5%	815 82.4%	989 5.1%

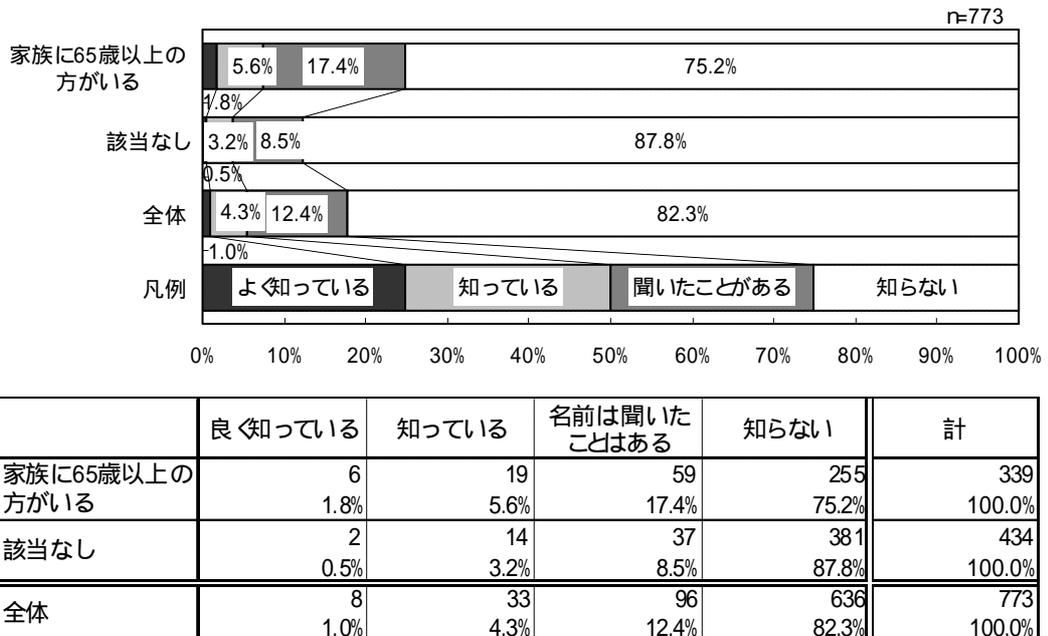
単身者が単身者以外の別でみると、「良く知っている」と「知っている」合計では、単身者以外が5.2%であるのに対し、単身者では4.1%となっている。

同居者の関係別、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度（問6×問19）



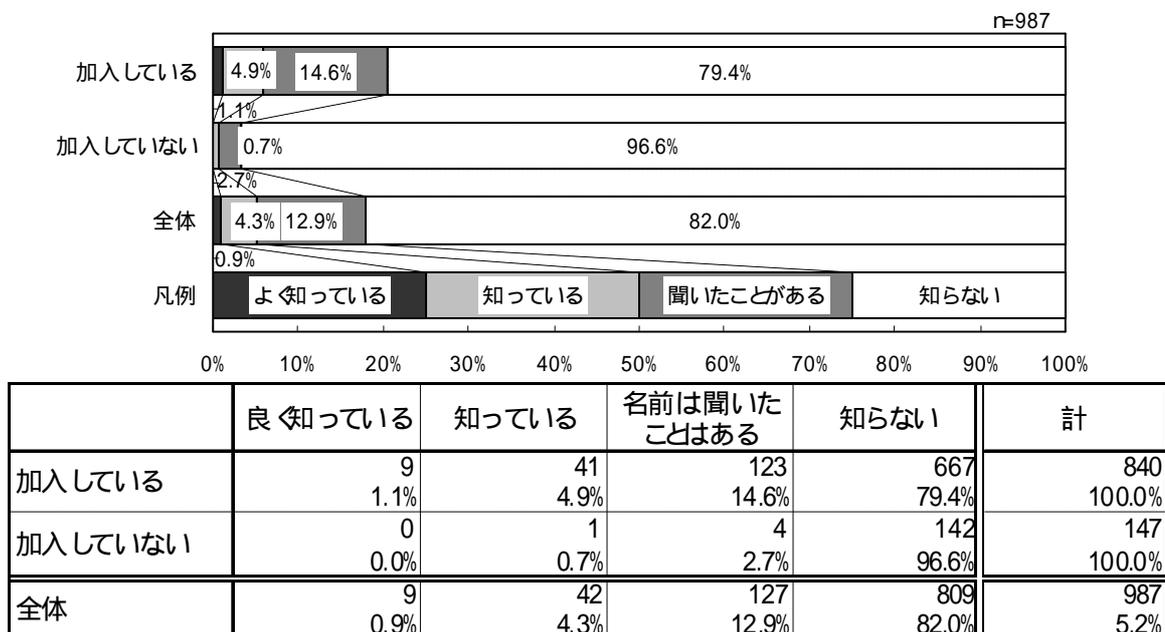
65歳以上の家族の有無別では、「良く知っている」と「知っている」合計で、「家族に65歳以上の方がいる」場合7.4%であるのに対し、そうでない場合は3.7%と「家族に65歳以上の方がいる」場合の方が認知度が高い。

65歳以上の家族の有無別、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度（問7×問19）



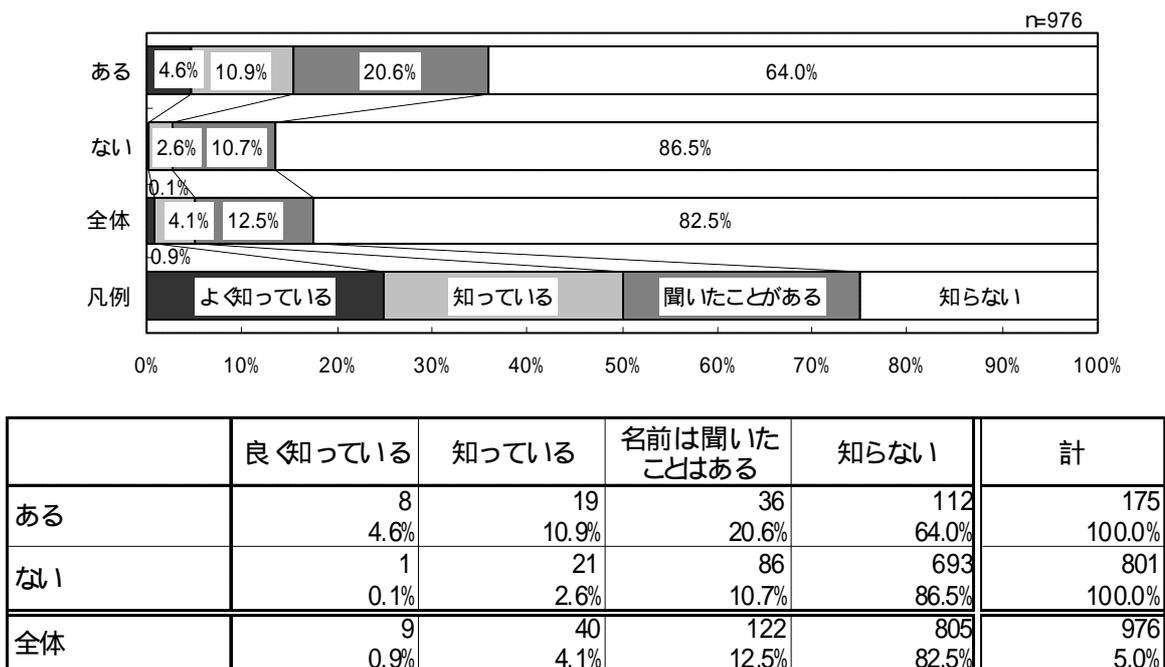
自治会加入状況別では、「良く知っている」と「知っている」合計で、「加入している」場合 6.0% であるのに対し、「加入していない」場合は 0.7% と認知度に明らかな差が見られる。

自治会加入状況別、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度（問 9 × 問 19）



ボランティア活動の参加経験別では、「良く知っている」と「知っている」合計で、「参加経験がある」場合 15.5% であるのに対し、「ない」場合は 2.7% と、自治会加入の有無以上に認知度に大きな差が見られた。

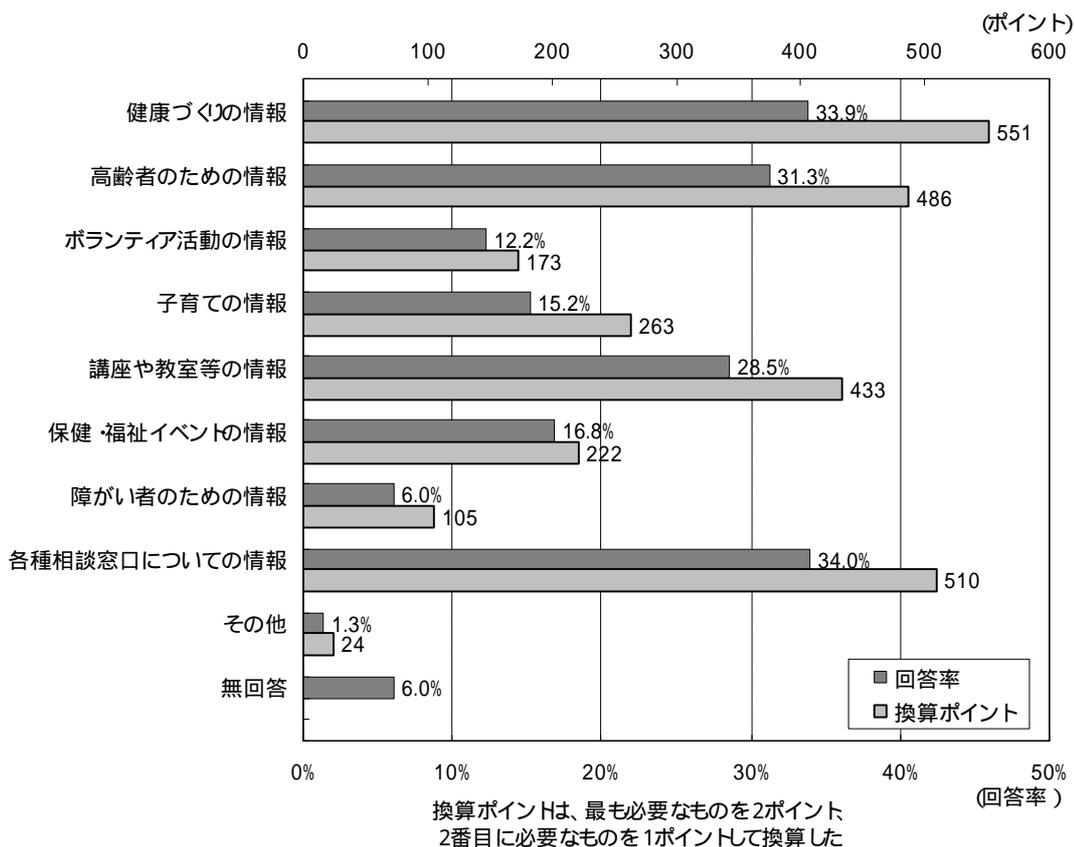
ボランティア活動の参加経験別、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度（問 14 × 問 19）



問 20 知りたいと思う地域の福祉保健情報(複数回答)

回答者が知りたいと思う地域の福祉保健情報は、「各種相談窓口についての情報」が 34.0%と最も多く、次いで「健康づくりの情報」が 33.9%、「高齢者のための情報」が 31.3%、「講座や教室等の情報」が 28.5%と続く。

最も知りたいものを 2 ポイント、2 番目に知りたいものを 1 ポイントとして計算した換算ポイントにおいても同様の傾向を示しているが、「健康づくりの情報」を最も知りたいものとした回答が多かったため、換算ポイントでは「各種相談窓口についての情報」を上回っている。

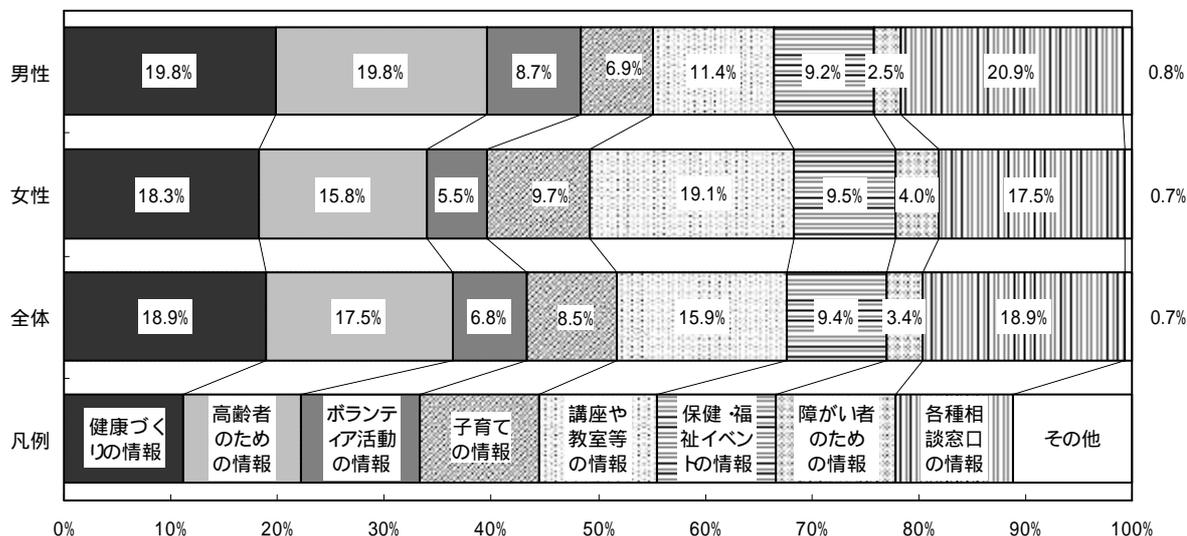


n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. 健康づくりの情報	343	33.9%
2. 高齢者のための情報	317	31.3%
3. ボランティア活動の情報	124	12.2%
4. 子育ての情報	154	15.2%
5. 講座や教室等の情報	289	28.5%
6. 保健・福祉イベントの情報	170	16.8%
7. 障がい者のための情報	61	6.0%
8. 各種相談窓口についての情報	344	34.0%
9. その他	13	1.3%
無回答	61	6.0%
計	1876	-

知りたいと思う地域の福祉保健情報について男女別にみると、「高齢者のための情報」と「ボランティア活動の情報」は男性の方が高く、「子育ての情報」と「講座や教室等の情報」では女性の方が高くなっている。

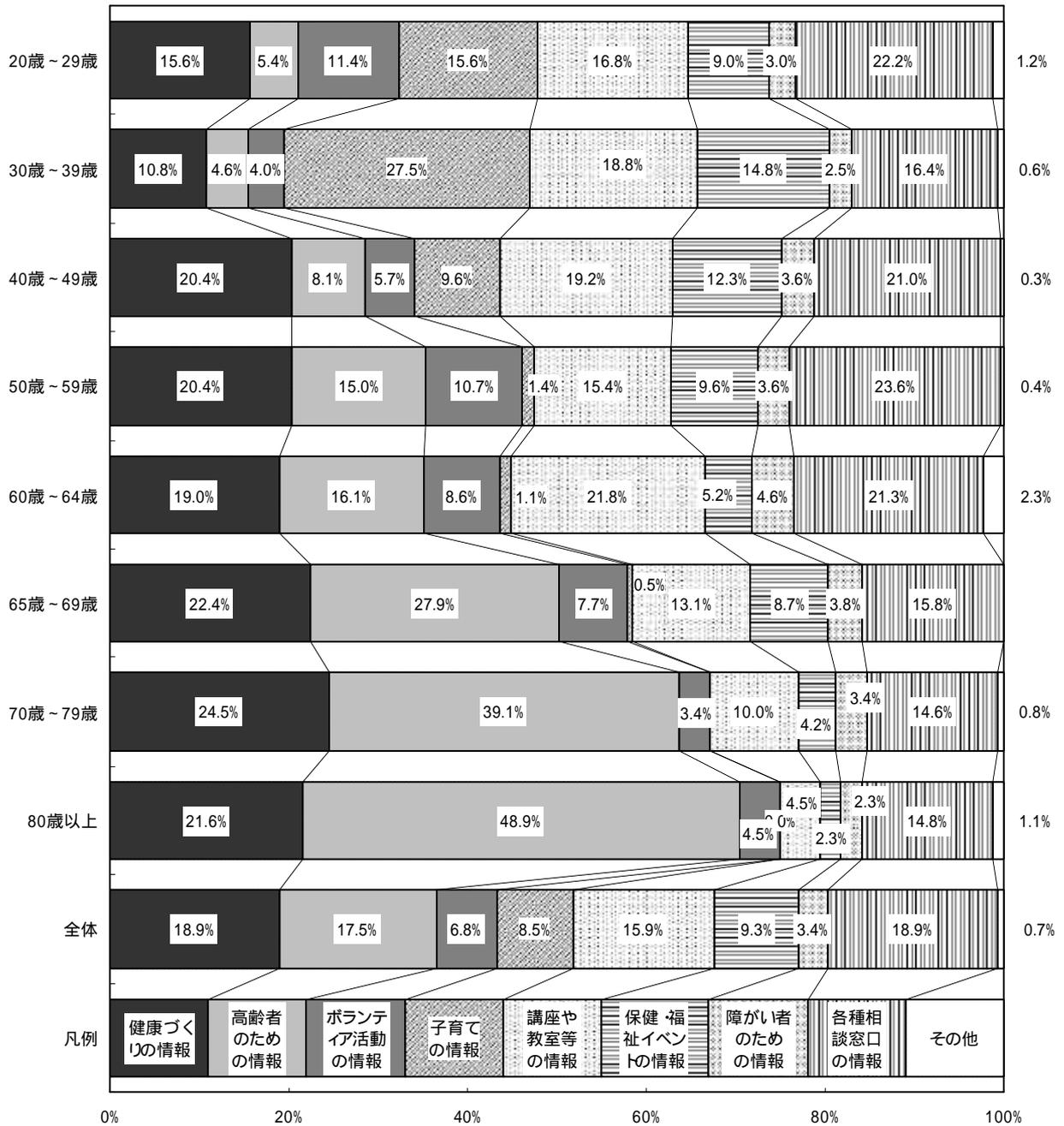
男女別、知りたいと思う地域の福祉保健情報（問2×問20）



	健康づくりの情報	高齢者のための情報	ボランティア活動の情報	子育ての情報	講座や教室等の情報	保健・福祉イベントの情報	障がい者のための情報	各種相談窓口の情報	その他	計
男性	150 19.8%	150 19.8%	66 8.7%	52 6.9%	86 11.4%	70 9.2%	19 2.5%	158 20.9%	6 0.8%	757 100.0%
女性	193 18.3%	167 15.8%	58 5.5%	102 9.7%	202 19.1%	100 9.5%	42 4.0%	185 17.5%	7 0.7%	1056 100.0%
全体	343 18.9%	317 17.5%	124 6.8%	154 8.5%	288 15.9%	170 9.4%	61 3.4%	343 18.9%	13 0.7%	1813 100.0%

年齢構成別にみると、「高齢者のための情報」については年齢層が高いほど高く、「子育ての情報」、「講座や教室等の情報」、「福祉保健のイベントの情報」については年齢層が低いほど高くなる傾向にある。

年齢構成別、知りたいと思う地域の福祉保健情報（問3×問20）



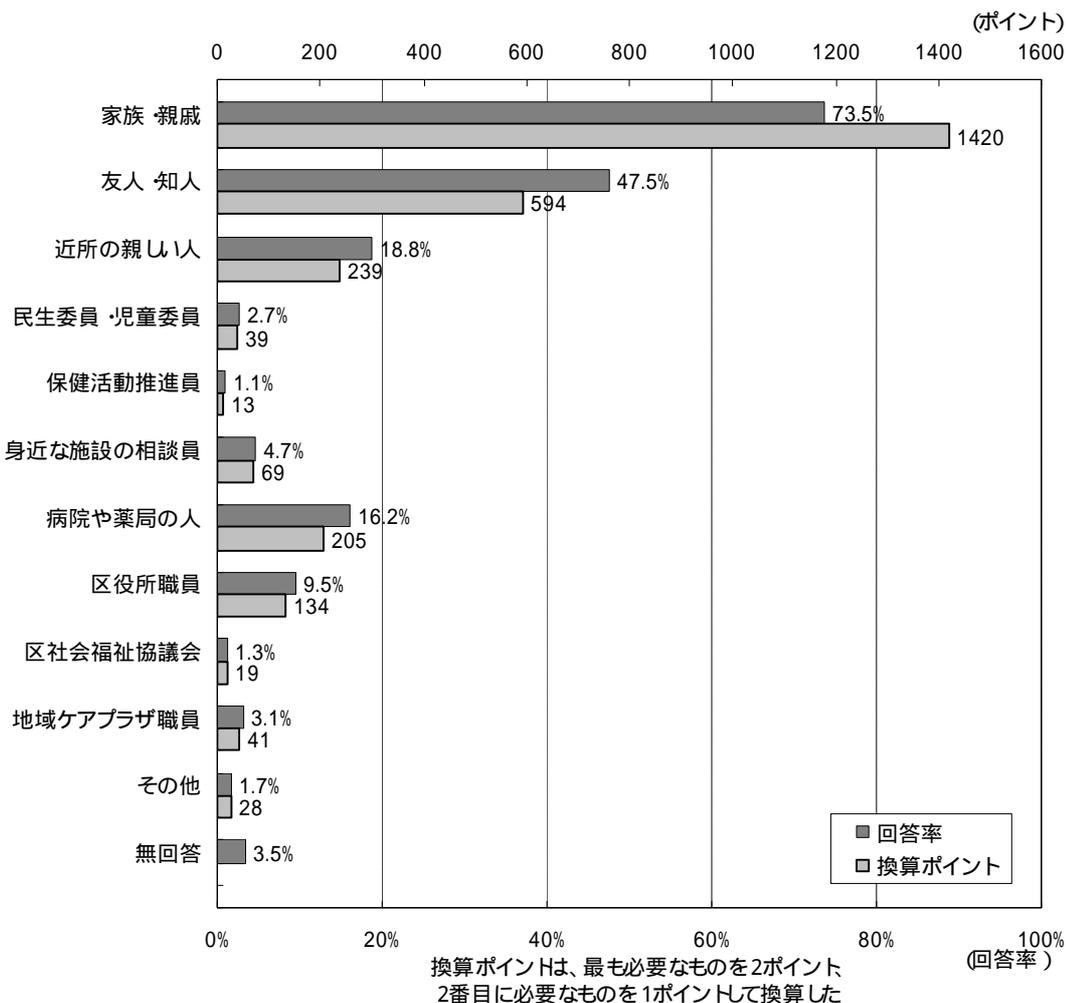
	健康づくりの情報	高齢者のための情報	ボランティア活動の情報	子育ての情報	講座や教室等の情報	保健・福祉イベントの情報	障がい者ための情報	各種相談窓口の情報	その他	計
20歳～29歳	26	9	19	26	28	15	5	37	2	167
30歳～39歳	35	15	13	89	61	48	8	53	2	324
40歳～49歳	68	27	19	32	64	41	12	70	1	334
50歳～59歳	57	42	30	4	43	27	10	66	1	280
60歳～64歳	33	28	15	2	38	9	8	37	4	174
65歳～69歳	41	51	14	1	24	16	7	29	0	183
70歳～79歳	64	102	9	0	26	11	9	38	2	261
80歳以上	19	43	4	0	4	2	2	13	1	88
全体	343	317	123	154	288	169	61	343	13	1811

問 21 地域の福祉保健に関する身近な相談相手(複数回答)

地域の福祉保健に関する身近な相談相手で多いのは、「家族・親戚」の73.5%、次いで「友人・知人」の47.5%であり、回答者数の5%未満と少なかったのは、「保健活動推進員」(1.1%)、「区社会福祉協議会」(1.3%)、「民生委員・児童委員」(2.7%)、「地域ケアプラザ職員」(3.1%)、「身近な施設の相談員」(4.7%)となっており、となっており、日頃からそばにいる人へ相談する機会が多いことがわかる。

最も身近な相談相手を2ポイント、2番目に身近な相談相手を1ポイントとして計算した換算ポイントにおいても同様の傾向を示している。

その他の内訳で多かったのは「いない」で、次いで「ケアマネジャー」となっている。



n=1013

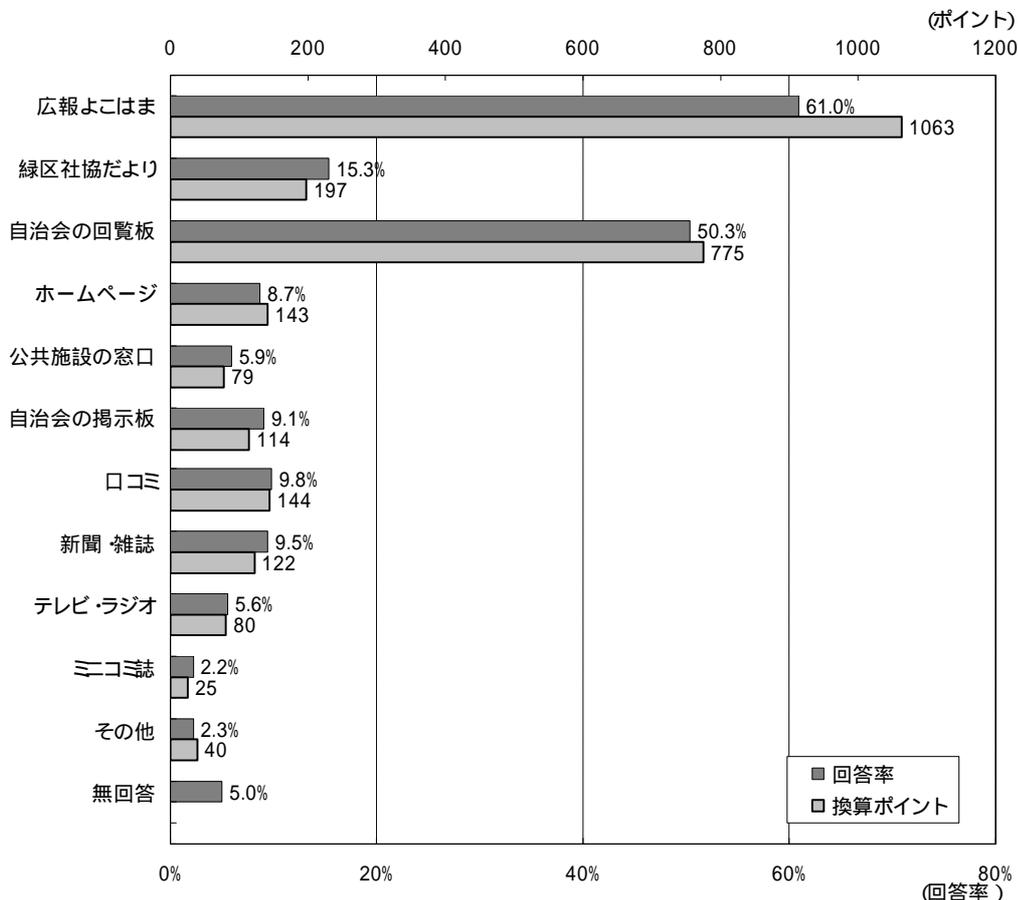
選択肢	回答数	ポイント	回答率
1. 家族・親戚	745	1420	73.5%
2. 友人・知人	481	594	47.5%
3. 近所の親しい人	190	239	18.8%
4. 民生委員・児童委員	27	39	2.7%
5. 保健活動推進員	11	13	1.1%
6. 身近な施設の相談員	48	69	4.7%
7. 病院や薬局の人	164	205	16.2%
8. 区役所職員	96	134	9.5%
9. 区社会福祉協議会職員	13	19	1.3%
10. 地域ケアプラザ職員	31	41	3.1%
11. その他	17	28	1.7%
無回答	35	-	3.5%
計	1858	2801	-

問 22 地域の福祉保健に関する情報の取得手段(複数回答)

回答者が地域の福祉保健に関する情報を取得する手段として最も多かったのは、「広報よこはま」で61.0%、次いで「自治会の回覧板」が50.3%になっている。

最も知りたいものを2ポイント、2番目に知りたいものを1ポイントとして計算した換算ポイントにおいても同様の傾向を示している。

その他の半数以上は、「情報を得たことがない」であった。



換算ポイントは、最も必要なものを2ポイント、2番目に必要なものを1ポイントして換算した

n=1013

選択肢	回答数	ポイント	回答率
1. 広報よこはま	618	1063	61.0%
2. 緑区社協だより	155	197	15.3%
3. 自治会の回覧板	510	775	50.3%
4. ホームページ	88	143	8.7%
5. 公共施設の窓口	60	79	5.9%
6. 自治会の掲示板	92	114	9.1%
7. 口コミ	99	144	9.8%
8. 新聞・雑誌	96	122	9.5%
9. テレビ・ラジオ	57	80	5.6%
10. ミニコミ誌	22	25	2.2%
11. その他	23	40	2.3%
無回答	51	-	5.0%
計	1871	2782	-

地域の福祉保健に関する情報を取得する手段について居住地区別にみると、多くの地区が第1位が「広報よこはま」、第2位「自治会の回覧板」となっているが、東本郷地区、竹山地区、霧が丘地区では「自治会の回覧板」の方が多くなっている。

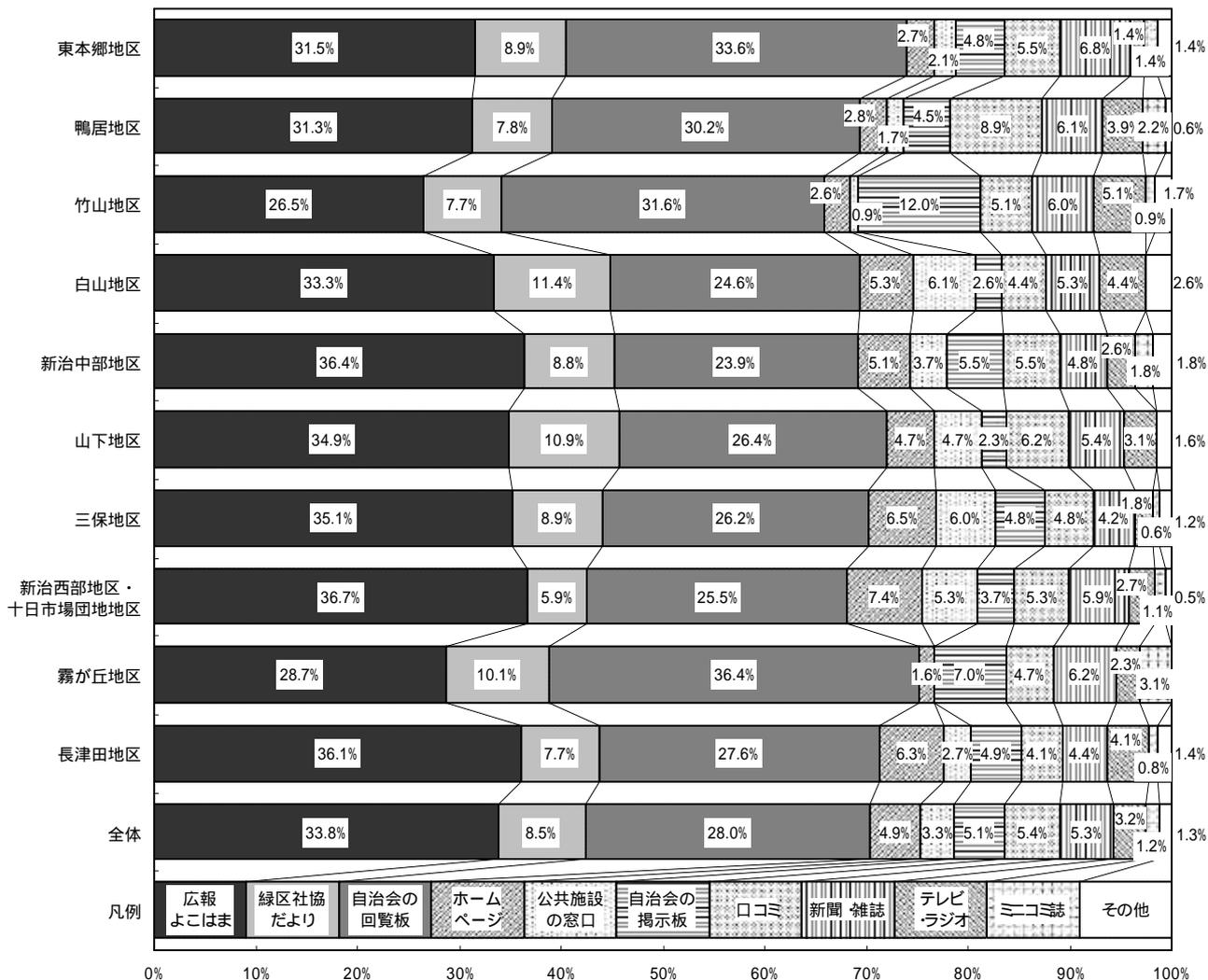
次いで多い「緑区社協だより」による情報取得の割合が10%を超えているのは、白山地区11.4%、

山下地区 10.9%、霧が丘地区 10.1%の3地区であった。

「ホームページ」による情報取得の割合が他の地区に比べ高いのは、新治西部地区・十日市場団地地区の7.4%、三保地区の6.5%、長津田地区の6.3%である。

また、竹山地区では、「自治会の掲示」が12.0%と、他の地区に比べ特に多くなっている。

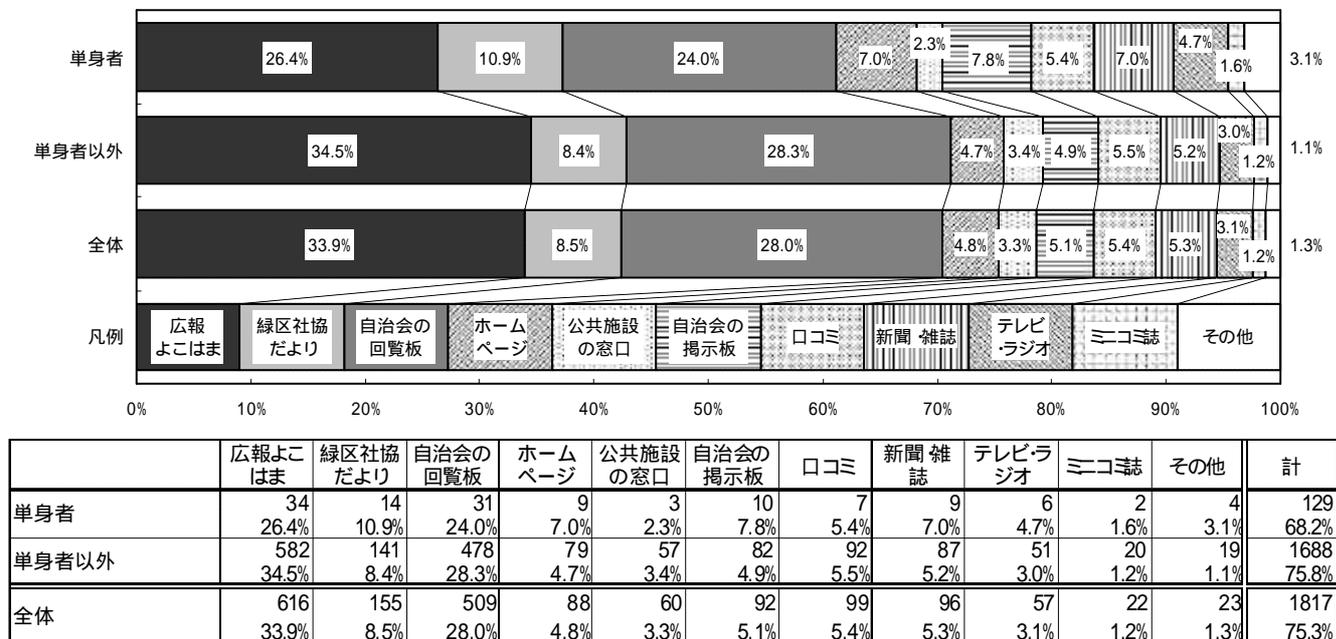
居住地区別、地域の福祉保健に関する情報の取得手段（問1×問22）



	広報よこはま	緑区社協だより	自治会の回覧板	ホームページ	公共施設の窓口	自治会の掲示板	口コミ	新聞雑誌	テレビラジオ	ミニコミ誌	その他
東本郷地区	46 31.5%	13 8.9%	49 33.6%	4 2.7%	3 2.1%	7 4.8%	8 5.5%	10 6.8%	2 1.4%	2 1.4%	2 1.4%
鴨居地区	56 31.3%	14 7.8%	54 30.2%	5 2.8%	3 1.7%	8 4.5%	16 8.9%	11 6.1%	7 3.9%	4 2.2%	1 0.6%
竹山地区	31 26.5%	9 7.7%	37 31.6%	3 2.6%	1 0.9%	14 12.0%	6 5.1%	7 6.0%	6 5.1%	1 0.9%	2 1.7%
白山地区	38 33.3%	13 11.4%	28 24.6%	6 5.3%	7 6.1%	3 2.6%	5 4.4%	6 5.3%	5 4.4%	0 0.0%	3 2.6%
新治中部地区	99 36.4%	24 8.8%	65 23.9%	14 5.1%	10 3.7%	15 5.5%	15 5.5%	13 4.8%	7 2.6%	5 1.8%	5 1.8%
山下地区	45 34.9%	14 10.9%	34 26.4%	6 4.7%	6 4.7%	3 2.3%	8 6.2%	7 5.4%	4 3.1%	0 0.0%	2 1.6%
三保地区	59 35.1%	15 8.9%	44 26.2%	11 6.5%	10 6.0%	8 4.8%	8 4.8%	7 4.2%	3 1.8%	1 0.6%	2 1.2%
新治西部地区・十日市場団地地区	69 36.7%	11 5.9%	48 25.5%	14 7.4%	10 5.3%	7 3.7%	10 5.3%	11 5.9%	5 2.7%	2 1.1%	1 0.5%
霧が丘地区	37 28.7%	13 10.1%	47 36.4%	2 1.6%	0 0.0%	9 7.0%	6 4.7%	8 6.2%	3 2.3%	4 3.1%	0 0.0%
長津田地区	132 36.1%	28 7.7%	101 27.6%	23 6.3%	10 2.7%	18 4.9%	15 4.1%	16 4.4%	15 4.1%	3 0.8%	5 1.4%
全体	612 33.8%	154 8.5%	507 28.0%	88 4.9%	60 3.3%	92 5.1%	97 5.4%	96 5.3%	57 3.2%	22 1.2%	23 1.3%

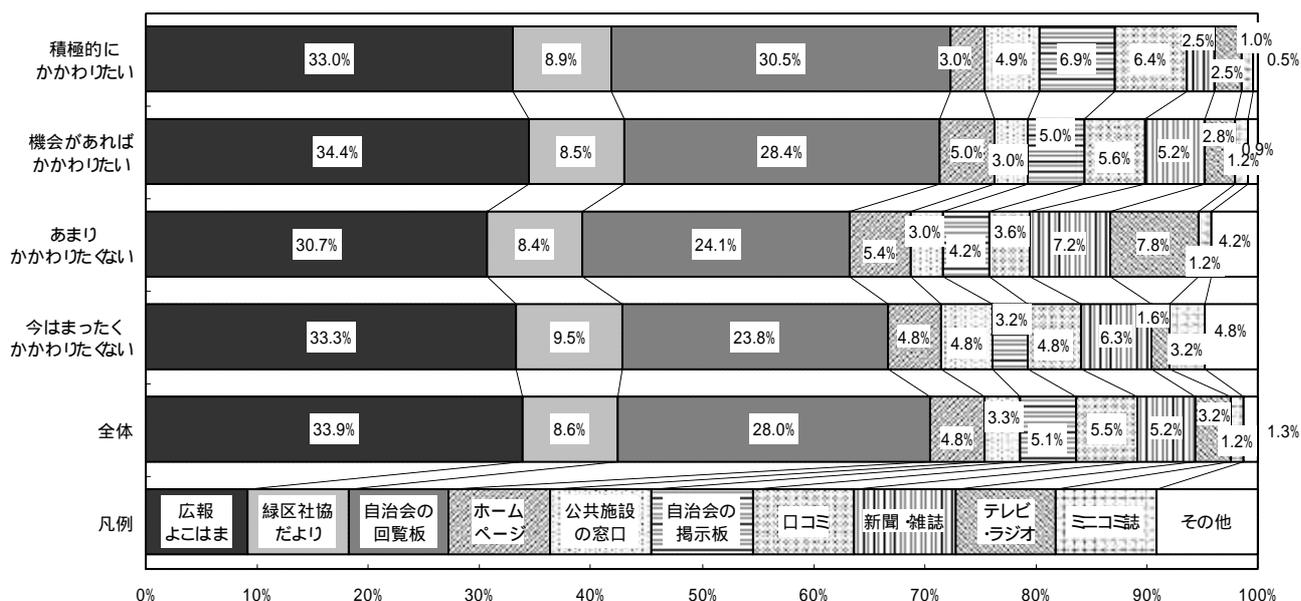
単身者が単身者以外の別でみると、単身者の場合、単身者以外に比べ「広報よこはま」及び「自治会の回覧板」の割合が低く、「ホームページ」、「自治会の掲示板」、「新聞・雑誌」等の割合が高くなっている。

同居者の関係別、地域の福祉保健に関する情報の取得手段（問6×問22）



地域の方とかかわりたい程度別では、「あまりかかわりたくない」方で「新聞・雑誌」及び「テレビ・ラジオ」の割合がやや高い以外には、情報の取得手段に大きな特徴はみられなかった。

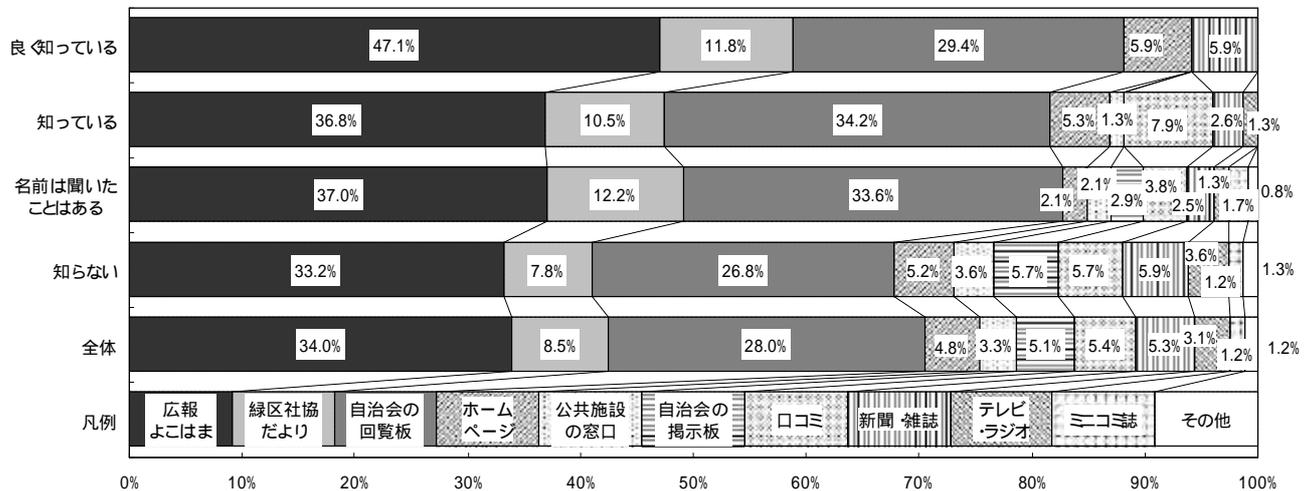
地域の方とかかわりたい程度別、地域の福祉保健に関する情報の取得手段（問12×問22）



	広報よこ はま	緑区社協 だより	自治会の 回覧板	ホーム ページ	公共施設 の窓口	自治会の 掲示板	口コミ	新聞 雑 誌	テレビ・ラ ジオ	ミニコミ誌	その他	計
積極的に かかわりたい	67	18	62	6	10	14	13	5	5	2	1	203
機会があれば かかわりたい	33.0%	8.9%	30.5%	3.0%	4.9%	6.9%	6.4%	2.5%	2.5%	1.0%	0.5%	100.0%
あまり かかわりたくない	472	117	389	69	41	69	77	72	38	16	12	1372
今はまったく かかわりたくない	34.4%	8.5%	28.4%	5.0%	3.0%	5.0%	5.6%	5.2%	2.8%	1.2%	0.9%	100.0%
全体	51	14	40	9	5	7	6	12	13	2	7	166
	30.7%	8.4%	24.1%	5.4%	3.0%	4.2%	3.6%	7.2%	7.8%	1.2%	4.2%	100.0%
	21	6	15	3	3	2	3	4	1	2	3	63
	33.3%	9.5%	23.8%	4.8%	4.8%	3.2%	4.8%	6.3%	1.6%	3.2%	4.8%	100.0%
全体	611	155	506	87	59	92	99	93	57	22	23	1804
	33.9%	8.6%	28.0%	4.8%	3.3%	5.1%	5.5%	5.2%	3.2%	1.2%	1.3%	100.0%

『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別でみると、「良く知っている」方の情報取得手段として「広報よこはま」は 47.1%と高く、「名前は聞いたことがある」や「知らない」場合には、情報取得手段が多岐にわたっていることがわかる。

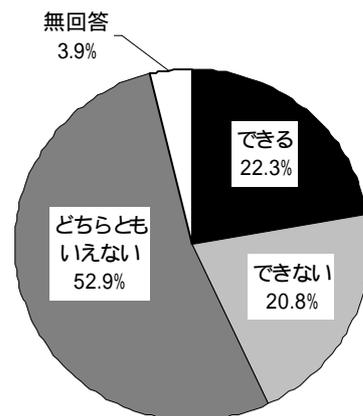
『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別、
地域の福祉保健に関する情報の取得手段（問 19×問 22）



	広報よこ はま	緑区社協 だより	自治会の 回覧板	ホーム ページ	公共施設 の窓口	自治会の 掲示板	口コミ	新聞 雑 誌	テレビ・ラ ジオ	ミニコミ誌	その他	計
良く知っている	8	2	5	1	0	0	0	1	0	0	0	17
知っている	28	8	26	4	1	0	6	2	1	0	0	76
名前は聞いた ことがある	88	29	80	5	5	7	9	6	3	4	2	238
知らない	493	116	398	78	54	85	84	87	53	18	20	1486
全体	617	155	509	88	60	92	99	96	57	22	22	1817
	34.0%	8.5%	28.0%	4.8%	3.3%	5.1%	5.4%	5.3%	3.1%	1.2%	1.2%	100.0%

問 23 地域の福祉保健情報の入手における容易さ

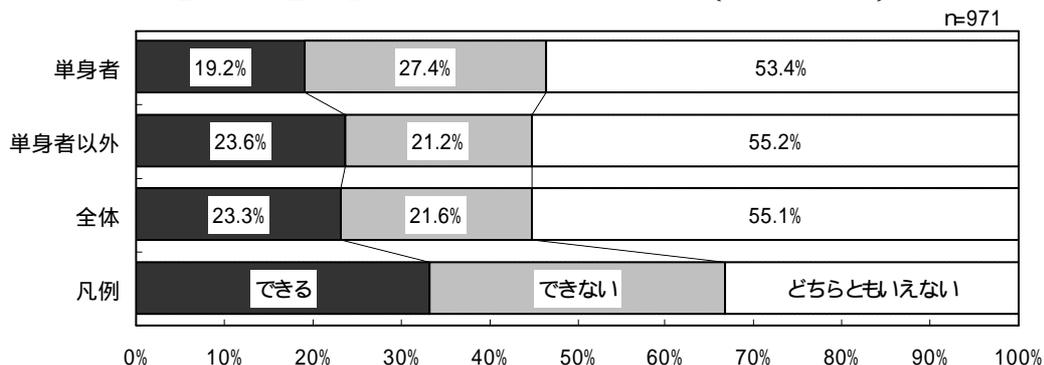
回答者が地域の福祉保健情報を入手する場合、容易に入手できるかどうかについては、「どちらともいえない」が52.9%と最も多く、「できる」は22.3%、「できない」は20.8%とほぼ同数であった。



選択肢	回答数	回答率
1. できる	226	22.3%
2. できない	211	20.8%
3. どちらともいえない	536	52.9%
無回答	40	3.9%
計	1013	100.0%

単身者が単身者以外の別でみると、単身者の方が地域の福祉保健情報の入手は容易に「できない」とする回答が多い。

同居者の関係別、地域の福祉保健情報の入手における容易さ (問6×問23)

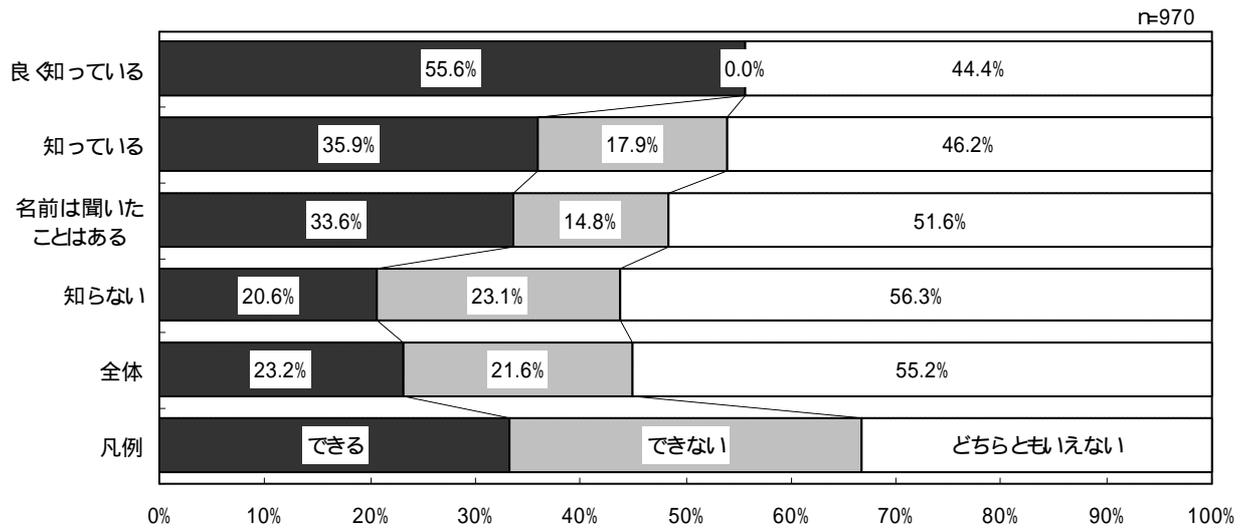


	できる	できない	どちらともいえない	計
単身者	14 19.2%	20 27.4%	39 53.4%	73 100.0%
単身者以外	212 23.6%	190 21.2%	496 55.2%	898 100.0%
全体	226 23.3%	210 21.6%	535 55.1%	971 100.0%

『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別でみると、「良く知っている」方の55.6%が地域の福祉保健情報の入手は容易に「できる」と回答しており、「できない」との回答はまったくなかった。

『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度が「知っている」、「名前は聞いたことがある」、「知らない」と下がっていくに従い、地域の福祉保健情報の入手は容易に「できる」割合は徐々に減っている。

『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別、
地域の福祉保健情報の入手における容易さ（問19×問23）

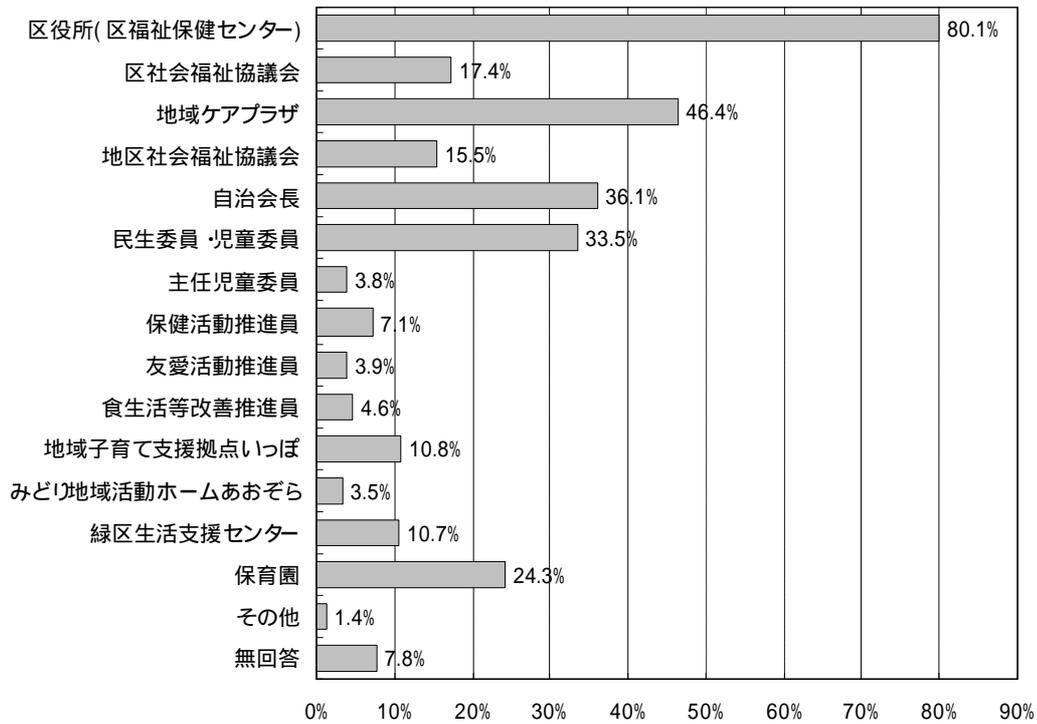


	できる	できない	どちらともいえない	計
良く知っている	5 55.6%	0 0.0%	4 44.4%	9 100.0%
知っている	14 35.9%	7 17.9%	18 46.2%	39 100.0%
名前は聞いたことがある	41 33.6%	18 14.8%	63 51.6%	122 100.0%
知らない	165 20.6%	185 23.1%	450 56.3%	800 100.0%
全体	225 23.2%	210 21.6%	535 55.2%	970 100.0%

問 24 知っている地域の福祉保健に関する施設・団体・委員（複数回答）

知っている地域の福祉保健に関する施設・団体・委員は、「区役所(福祉保健センター)」が 80.1%と最も多く、次いで「地域ケアプラザ」が 46.4%、「自治会長」が 36.1%、「民生委員・児童委員」が 33.5%と続く。

その他の内訳をみると、選択肢に示した福祉保健に関する施設・団体・委員を「まったく知らない」との回答が多く、これは全体の 0.8%にあたる。



n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. 区役所(区福祉保健センター)	811	80.1%
2. 区社会福祉協議会	176	17.4%
3. 地域ケアプラザ	470	46.4%
4. 地区社会福祉協議会	157	15.5%
5. 自治会長	366	36.1%
6. 民生委員・児童委員	339	33.5%
7. 主任児童委員	39	3.8%
8. 保健活動推進員	72	7.1%
9. 友愛活動推進員	40	3.9%
10. 食生活等改善推進員	47	4.6%
11. 地域子育て支援拠点いっぽ	109	10.8%
12. みどり地域活動ホームあおぞら	35	3.5%
13. 緑区生活支援センター	108	10.7%
14. 保育園	246	24.3%
15. その他	14	1.4%
無回答	79	7.8%
計	3108	-

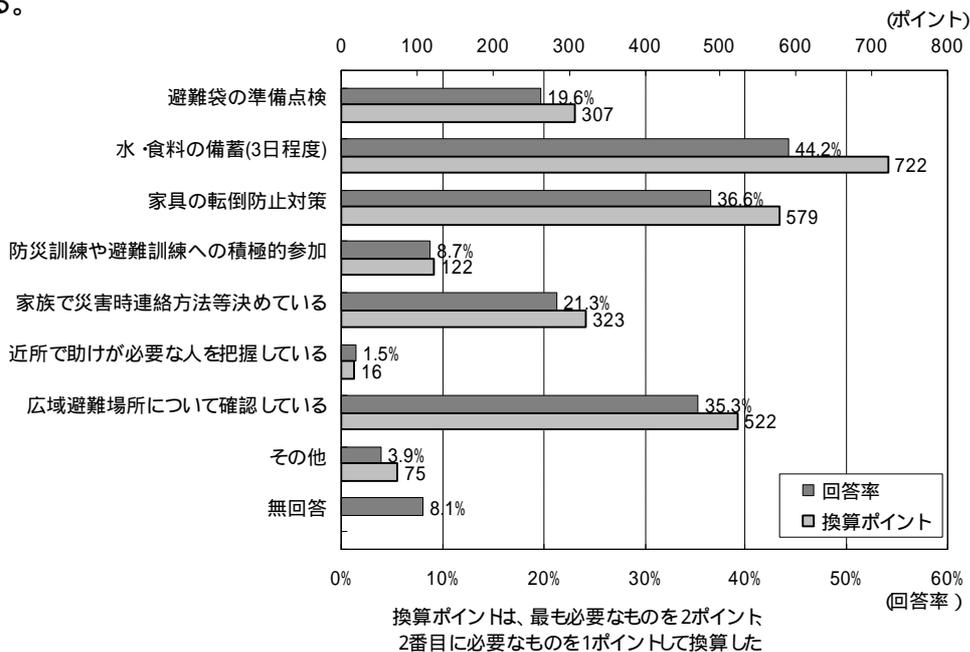
問 25 日頃、防災に関して配慮していること(複数回答・回答数)

回答者が日頃、防災に関して配慮していることは、「水・食料の備蓄(3日程度)」が最も多く44.2%、次いで「家具の転倒防止対策」が36.6%、「広域避難場所について確認している」が35.3%と個人的にできることが多い傾向にある。

しかしながら、周囲との連携が必要なことからである「近所で助けが必要な人を把握している」は1.5%、「防災訓練や避難訓練への積極的参加」は8.7%と非常に少ない。

最も配慮しているものを2ポイント、2番目に配慮しているものを1ポイントとして計算した換算ポイントにおいても同様の傾向を示している。

その他の内訳をみると、「配慮していない」との回答が大半をしめており、これは全体の3.3%にあたる。



n=1013

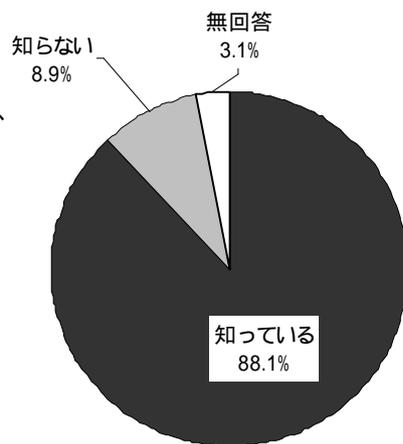
選択肢	回答数	ポイント	回答率
1. 避難袋の準備点検	199	307	19.6%
2. 水・食料の備蓄(3日程度)	448	722	44.2%
3. 家具の転倒防止対策	371	579	36.6%
4. 防災訓練や避難訓練への積極的参加	88	122	8.7%
5. 家族で災害時連絡方法等決めている	216	323	21.3%
6. 近所で助けが必要な人を把握している	15	16	1.5%
7. 広域避難場所について確認している	358	522	35.3%
8. その他	40	75	3.9%
無回答	82	-	8.1%
計	1817	2666	-

問 26 市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度

市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度は、「知っている」が88.1%で、高い認知度を示している。

n=1013

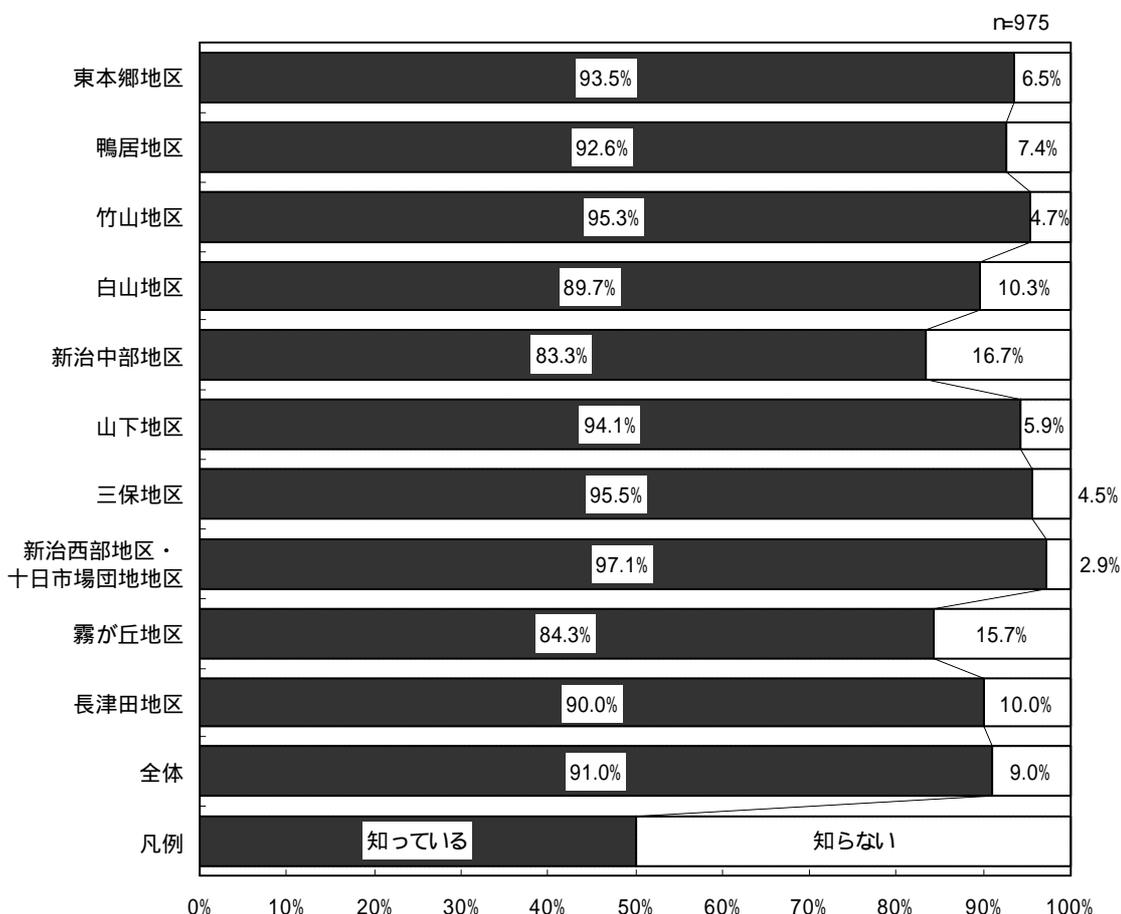
選択肢	回答数	回答率
1. 知っている	892	88.1%
2. 知らない	90	8.9%
無回答	31	3.1%
計	1013	100.0%



居住地区別にみると、いずれの地区も認知度は高く、最も高かったのは新治西部地区・十日市場団地地区で97.1%、次いで三保地区95.5%、竹山地区95.3%と続く。

最も低かったのは新治中部地区83.3%で、以下90%に満たないのは、霧が丘地区84.3%、白山地区89.7%の3地区であった。

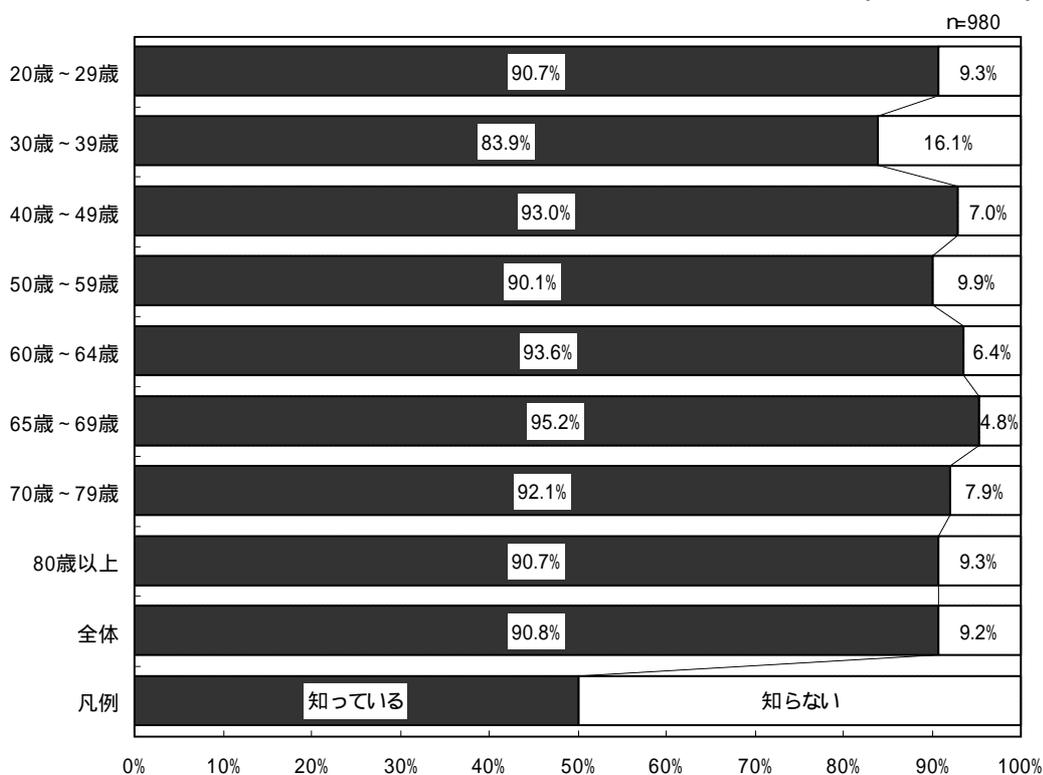
居住地区別、市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度（問1×問26）



	知っている	知らない	計
東本郷地区	72 93.5%	5 6.5%	77 100.0%
鴨居地区	88 92.6%	7 7.4%	95 100.0%
竹山地区	61 95.3%	3 4.7%	64 100.0%
白山地区	52 89.7%	6 10.3%	58 100.0%
新治中部地区	125 83.3%	25 16.7%	150 100.0%
山下地区	64 94.1%	4 5.9%	68 100.0%
三保地区	85 95.5%	4 4.5%	89 100.0%
新治西部地区・十日市場団地地区	101 97.1%	3 2.9%	104 100.0%
霧が丘地区	59 84.3%	11 15.7%	70 100.0%
長津田地区	180 90.0%	20 10.0%	200 100.0%
全体	887 91.0%	88 9.0%	975 100.0%

年齢構成別にみると、30歳代の83.9%を除き、いずれの年齢層も90以上の認知度であり、最も高かったのは65歳～69歳の95.2%であった。

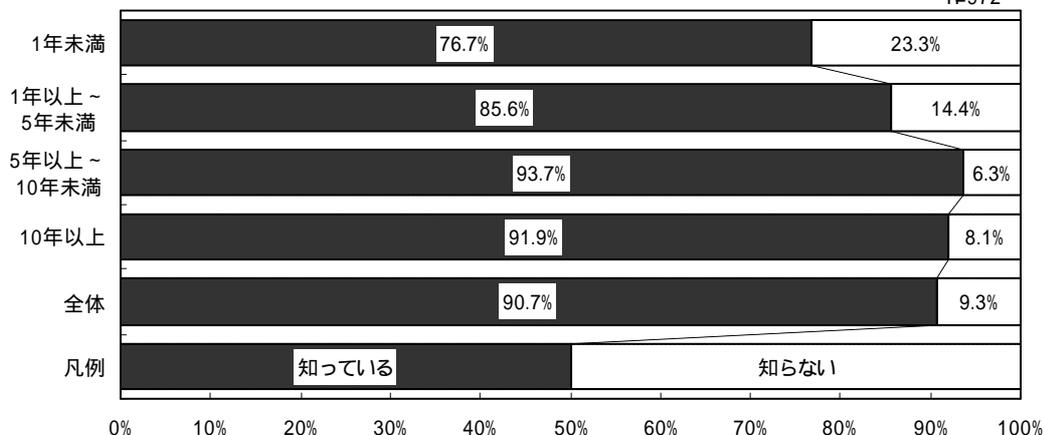
年齢構成別、市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度（問3×問26）



	知っている	知らない	計
20歳～29歳	78 90.7%	8 9.3%	86 100.0%
30歳～39歳	141 83.9%	27 16.1%	168 100.0%
40歳～49歳	159 93.0%	12 7.0%	171 100.0%
50歳～59歳	137 90.1%	15 9.9%	152 100.0%
60歳～64歳	88 93.6%	6 6.4%	94 100.0%
65歳～69歳	99 95.2%	5 4.8%	104 100.0%
70歳～79歳	139 92.1%	12 7.9%	151 100.0%
80歳以上	49 90.7%	5 9.3%	54 100.0%
全体	890 90.8%	90 9.2%	980 100.0%

居住年数別では、5年以上の居住年数の場合90%以上の認知度を示しており、5年以上～10年未満が93.7%と最も高かったが、1年未満では76.7%と全体平均を大きく下回っている。

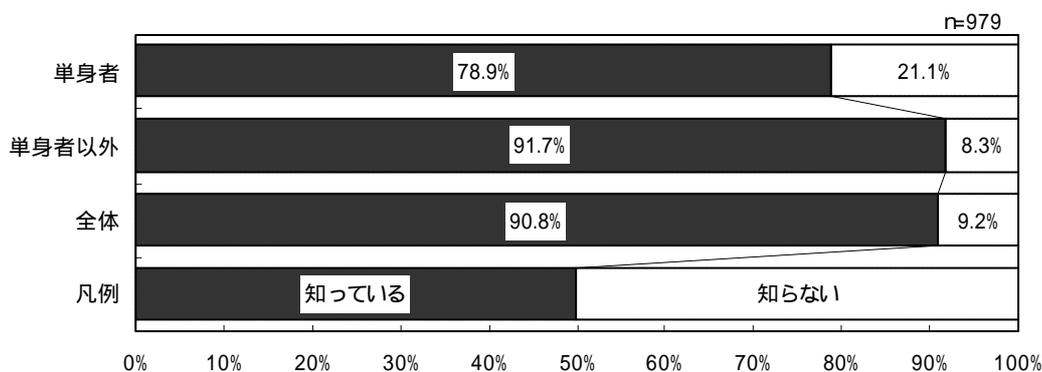
居住年数別、市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度（問4×問26）
n=972



	知っている	知らない	計
1年未満	23 76.7%	7 23.3%	30 100.0%
1年以上～5年未満	119 85.6%	20 14.4%	139 100.0%
5年以上～10年未満	118 93.7%	8 6.3%	126 100.0%
10年以上	622 91.9%	55 8.1%	677 100.0%
全体	882 90.7%	90 9.3%	972 100.0%

単身者と単身者以外の別では、単身者以外の場合91.7%であるが、単身者の場合78.9%と認知度低かった。

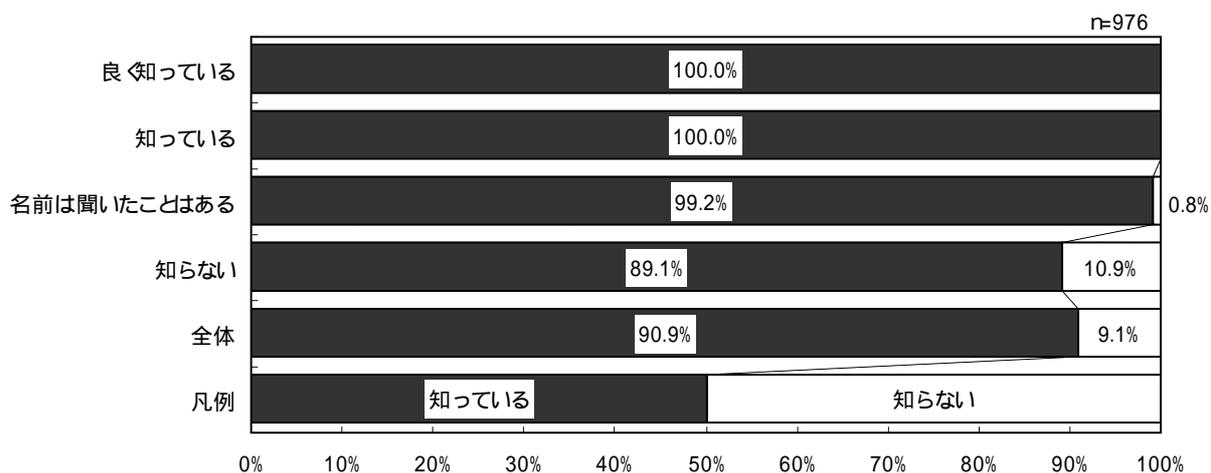
同居者の関係別、市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度（問6×問26）
n=979



	知っている	知らない	計
単身者	56 78.9%	15 21.1%	71 100.0%
単身者以外	833 91.7%	75 8.3%	908 100.0%
全体	889 90.8%	90 9.2%	979 100.0%

『みどりのわ・ささえ愛プラン』について「良く知っている」及び「知っている」方は、全員が市立小学校、中学校が防災拠点になっていることを「知っている」と回答しており、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度が高いほど、市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度が高いことがわかる。

『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別、
市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度（問 19×問 26）



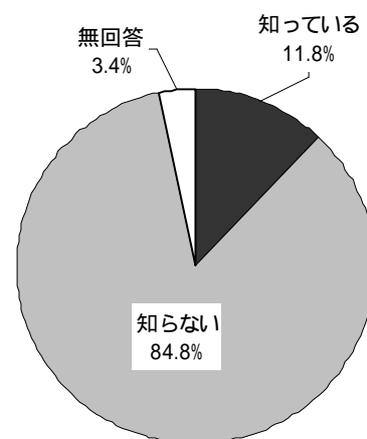
	知っている	知らない	計
良く知っている	8	0	8
知っている	41	0	41
名前は聞いたことはある	118	1	119
知らない	720	88	808
全体	887	89	976

問 27 「防災ささえあいカード」の認知度

緑区の災害時要援護者把握のための「防災ささえあいカード」の認知度は、「知っている」が 11.8%となっており、認知度は高くない。

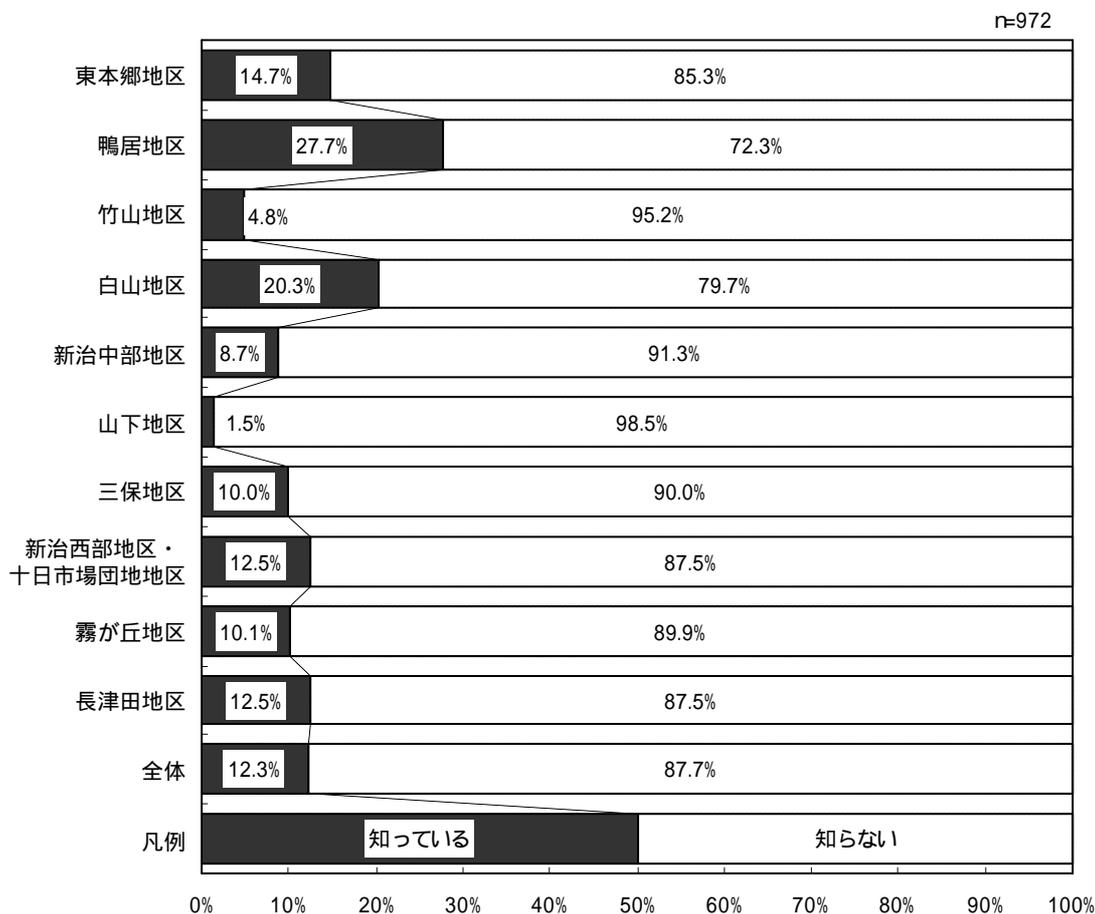
n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. 知っている	120	11.8%
2. 知らない	859	84.8%
無回答	34	3.4%
計	1013	100.0%



「防災ささえあいカード」の認知度を居住地区別にみると、地区によるばらつきが多く、最も高かった鴨居地区の27.7%と白山地区の20.3%が他の地区に比べ高い認知度であったのに対し、山下地区1.5%、竹山地区4.8%、新治中部地区8.7%の3地区における認知度は10%に満たなかった。

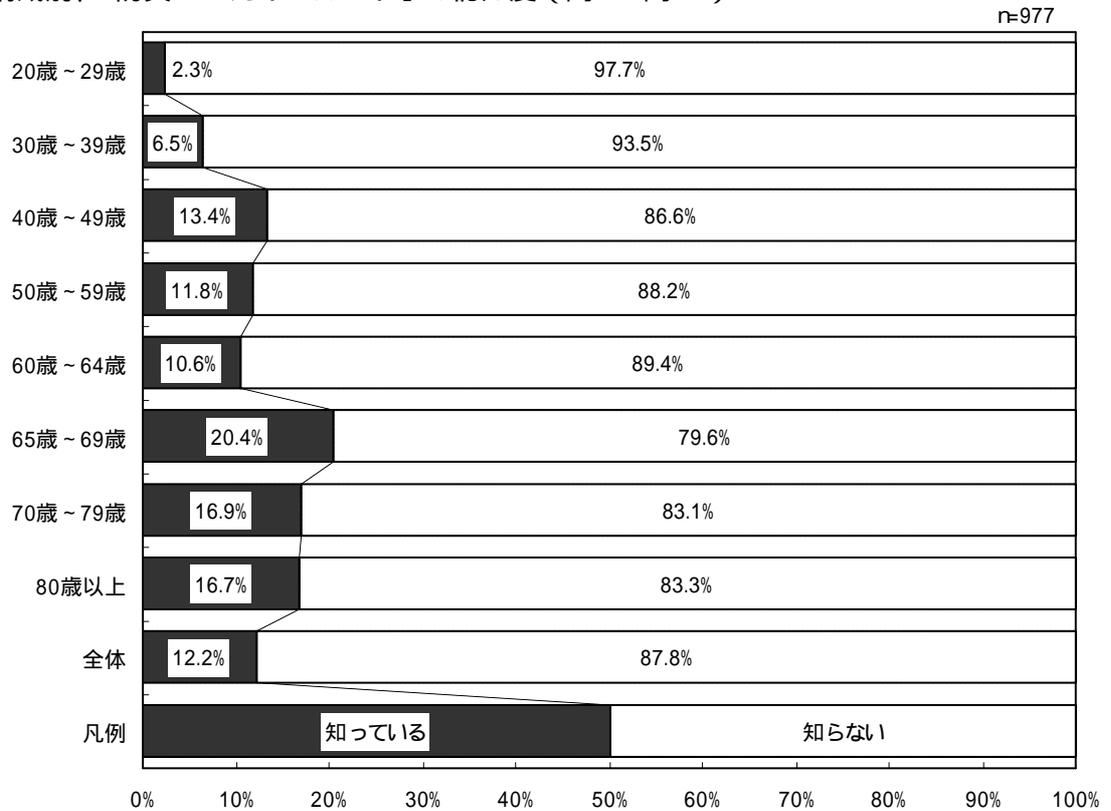
居住地区別、「防災ささえあいカード」の認知度（問1×問27）



	知っている	知らない	計
東本郷地区	11 14.7%	64 85.3%	75 100.0%
鴨居地区	26 27.7%	68 72.3%	94 100.0%
竹山地区	3 4.8%	60 95.2%	63 100.0%
白山地区	12 20.3%	47 79.7%	59 100.0%
新治中部地区	13 8.7%	137 91.3%	150 100.0%
山下地区	1 1.5%	67 98.5%	68 100.0%
三保地区	9 10.0%	81 90.0%	90 100.0%
新治西部地区・十日市場団地地区	13 12.5%	91 87.5%	104 100.0%
霧が丘地区	7 10.1%	62 89.9%	69 100.0%
長津田地区	25 12.5%	175 87.5%	200 100.0%
全体	120 12.3%	852 87.7%	972 100.0%

年齢構成別で「防災ささえあいカード」の認知度が最も高かったのは、65歳～69歳の20.4%で、次いで70歳代の16.9%、80歳以上の16.7%と高齢者の方が認知度が高かったが、40歳未満の認知度は10%未満となっており、特に20歳代では2.3%と非常に低かった。

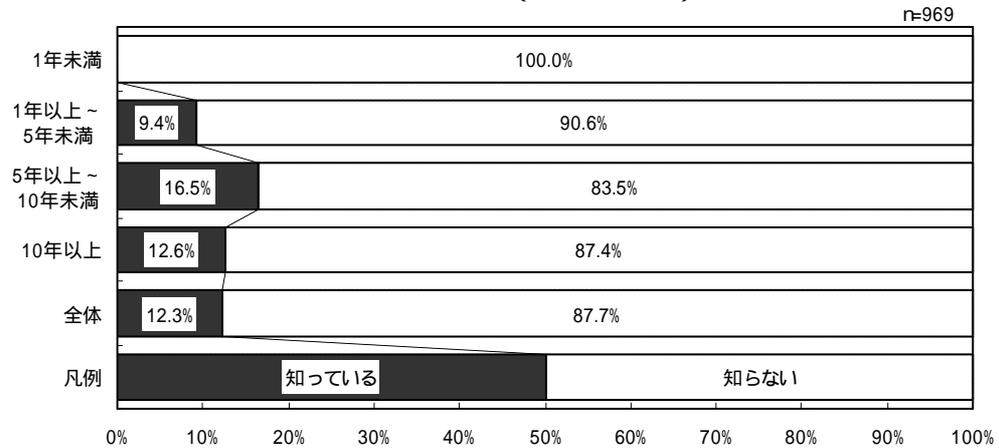
年齢構成別、「防災ささえあいカード」の認知度（問3×問27）



	知っている	知らない	計
20歳～29歳	2	84	86
	2.3%	97.7%	100.0%
30歳～39歳	11	157	168
	6.5%	93.5%	100.0%
40歳～49歳	23	149	172
	13.4%	86.6%	100.0%
50歳～59歳	18	134	152
	11.8%	88.2%	100.0%
60歳～64歳	10	84	94
	10.6%	89.4%	100.0%
65歳～69歳	21	82	103
	20.4%	79.6%	100.0%
70歳～79歳	25	123	148
	16.9%	83.1%	100.0%
80歳以上	9	45	54
	16.7%	83.3%	100.0%
全体	119	858	977
	12.2%	87.8%	100.0%

居住年数別で「防災ささえあいカード」の認知度が最も高かったのは、5年以上～10年未満の16.5%であったが、5年未満の認知度は10%未満となっており、特に1年未満で知っている方はまったくいなかった。

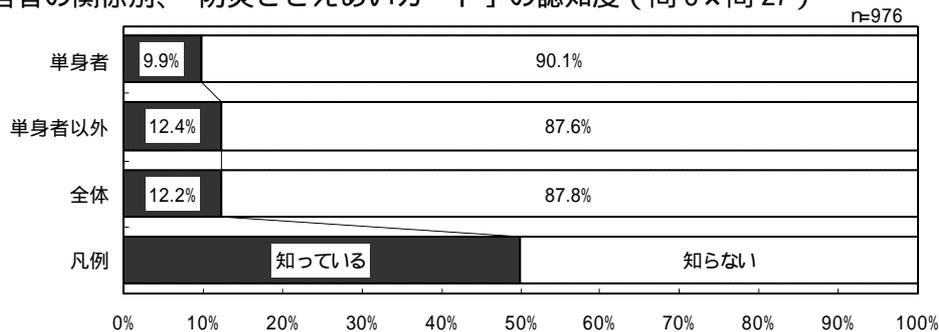
居住年数別、「防災ささえあいカード」の認知度（問4×問27）



	知っている	知らない	計
1年未満	0	30	30
	0.0%	100.0%	100.0%
1年以上～5年未満	13	126	139
	9.4%	90.6%	100.0%
5年以上～10年未満	21	106	127
	16.5%	83.5%	100.0%
10年以上	85	588	673
	12.6%	87.4%	100.0%
全体	119	850	969
	12.3%	87.7%	100.0%

単身者と単身者以外の別では、単身者以外の場合12.4%であるが、単身者の場合9.9%と認知度低かった。

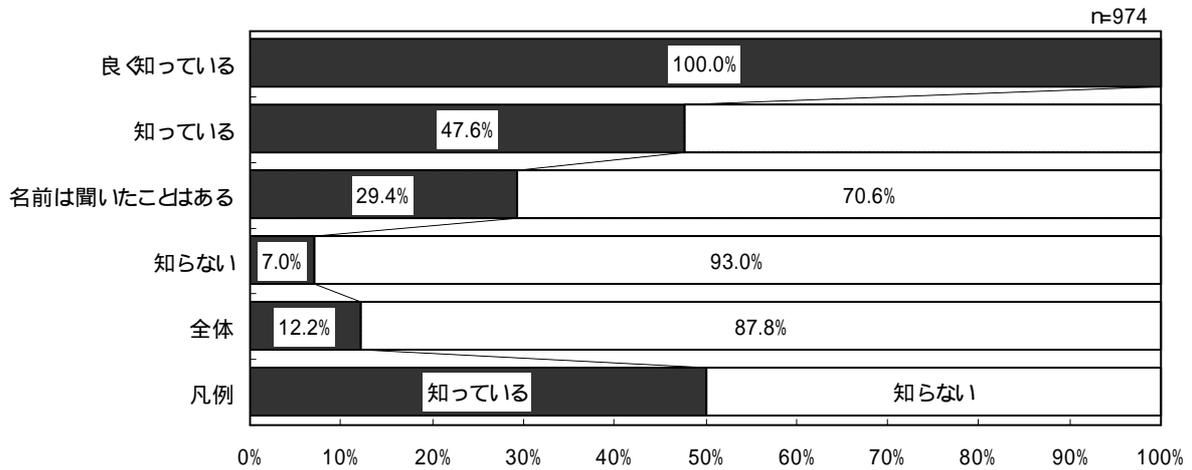
同居者の関係別、「防災ささえあいカード」の認知度（問6×問27）



	知っている	知らない	計
単身者	7	64	71
	9.9%	90.1%	100.0%
単身者以外	112	793	905
	12.4%	87.6%	100.0%
全体	119	857	976
	12.2%	87.8%	100.0%

『みどりのわ・ささえ愛プラン』について「良く知っている」方は、全員が「防災ささえあいカード」について「知っている」と回答しており、「知っている」で47.6%、「名前は聞いたことがある」で29.4%、「知らない」では7.0%と「防災ささえあいカード」の認知度は徐々に減少しており、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度が高いほど、「防災ささえあいカード」の認知度が高いことがわかる。

『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別、「防災ささえあいカード」の認知度（問19×問27）



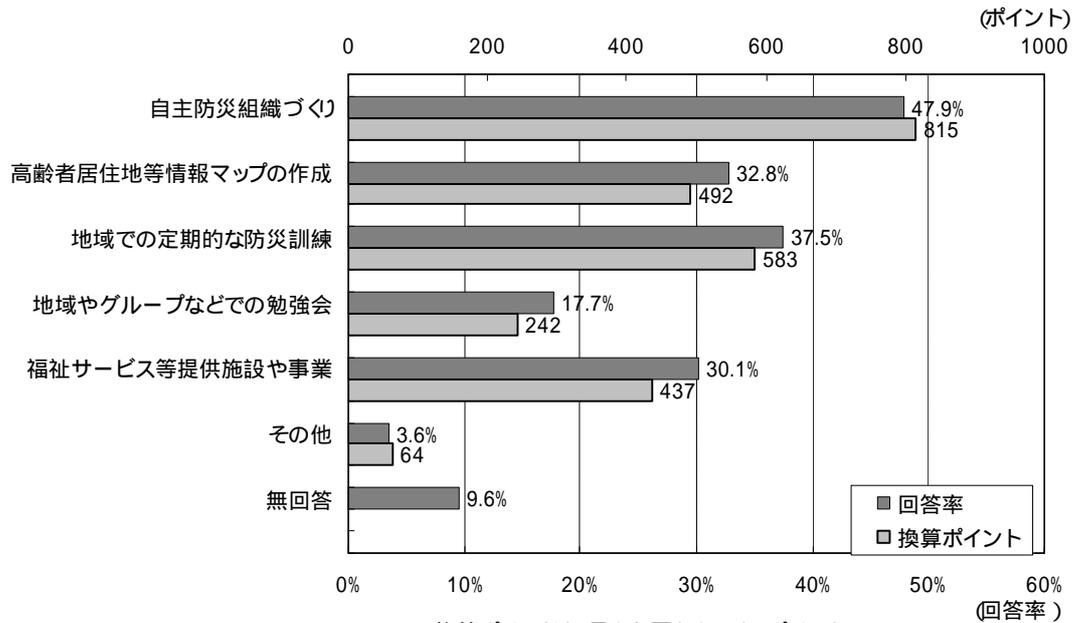
	知っている	知らない	計
良く知っている	8 100.0%	0 0.0%	8 100.0%
知っている	20 47.6%	22 52.4%	42 100.0%
名前は聞いたことはある	35 29.4%	84 70.6%	119 100.0%
知らない	56 7.0%	749 93.0%	805 100.0%
全体	119 12.2%	855 87.8%	974 100.0%

問 28 「防災時に住民が支えあう地域づくり」に必要なこと(複数回答)

「防災時に住民が支えあう地域づくり」に必要なと思うことは、「自主防災組織づくり」が最も多く 47.9%、次いで「地域での定期的な防災訓練」が 37.5%、「高齢者居住地等情報マップの作成」が 32.8%、「福祉サービス等提供施設や事業者との連携」が 30.1%と続く。

最も知りたいものを 2 ポイント、2 番目に知りたいものを 1 ポイントとして計算した換算ポイントにおいても同様の傾向を示している。

その他の内訳をみると半数以上が、声かけ、付き合いなど「日頃からのコミュニケーション」が必要であると回答している。



換算ポイントは、最も必要なものを2ポイント
2番目に必要なものを1ポイントして換算した

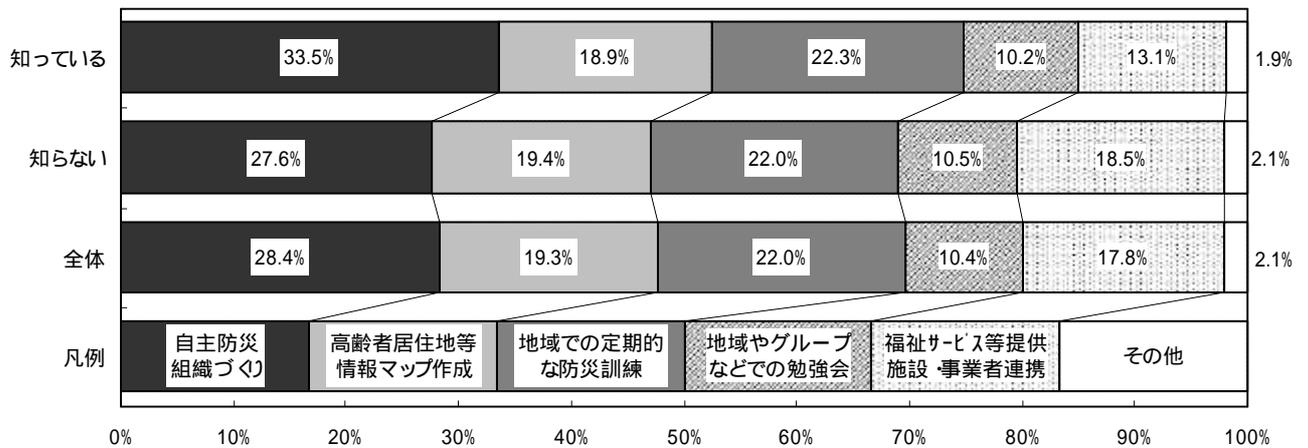
n=1013

選択肢	回答数	ポイント	回答率
1. 自主防災組織づくり	485	815	47.9%
2. 高齢者居住地等情報マップの作成	332	492	32.8%
3. 地域での定期的な防災訓練	380	583	37.5%
4. 地域やグループなどでの勉強会	179	242	17.7%
5. 福祉サービス等提供施設や事業者との連携	305	437	30.1%
6. その他	36	64	3.6%
無回答	97	-	9.6%
計	1814	2633	-

「防災ささえあいカード」を「知っている」、「知らない」にかかわらず、「防災時に住民が支えあう地域づくり」に必要なことで回答の多かったのは、「自主防災組織づくり」、「地域での定期的な防災訓練」、「高齢者居住地等情報マップの作成」、「福祉サービス等提供施設や事業者との連携」、「地域やグループなどでの勉強会」の順であった。

その回答率をみてみると、「防災ささえあいカード」を「知っている」場合は、「知らない」場合よりも「自主防災組織づくり」の割合が高く、「福祉サービス等提供施設や事業者との連携」の割合が低いことがわかる。

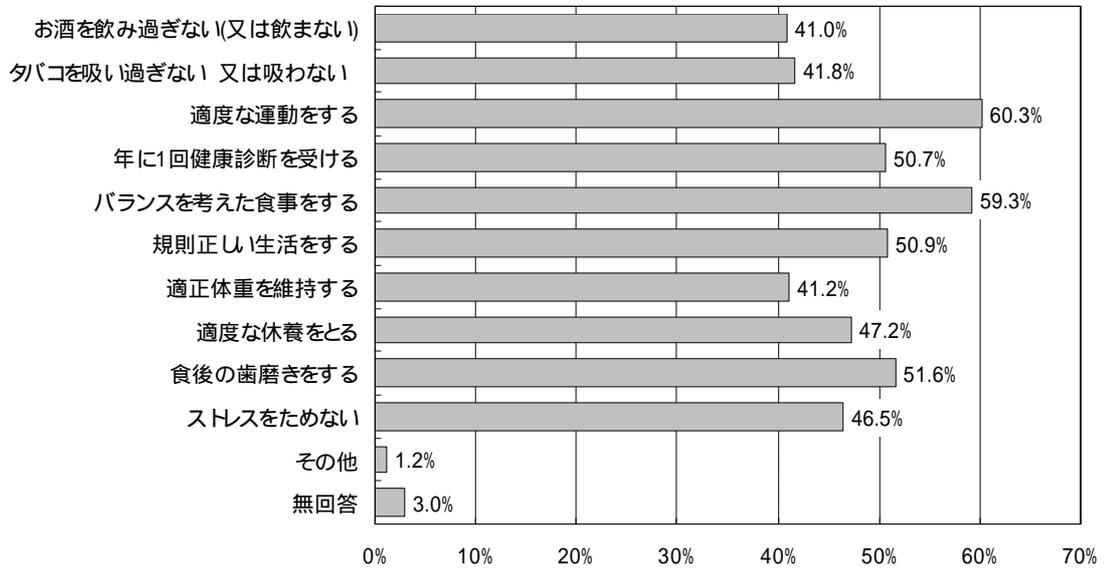
「防災ささえあいカード」の認知度別、
「防災時に住民が支えあう地域づくり」に必要なこと（問 27×問 28）



	自主防災組織づくり	高齢者居住地等情報マップの作成	地域での定期的な防災訓練	地域やグループなどでの勉強会	福祉サービス等提供施設や事業者との連携	その他	計
知っている	69 33.5%	39 18.9%	46 22.3%	21 10.2%	27 13.1%	4 1.9%	206 100.0%
知らない	415 27.6%	291 19.4%	330 22.0%	157 10.5%	277 18.5%	31 2.1%	1501 100.0%
全体	484 28.4%	330 19.3%	376 22.0%	178 10.4%	304 17.8%	35 2.1%	1707 100.0%

問 29 日頃から健康のために心がけていること（複数回答）

回答者が日頃から健康のために心がけていることは、「適度な運動をする」が 60.3%と最も多く、次いで「バランスを考えた食事をする」が 59.3%となっているが、いずれの選択肢についても 40%以上の高い回答率となっており、日頃から健康に心がけている人が多いことがわかる。

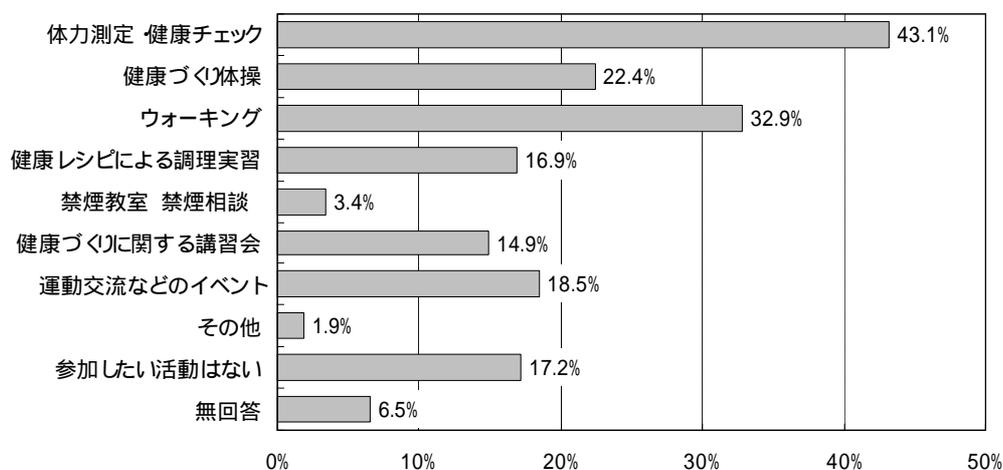


n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. お酒を飲み過ぎない(又は飲まない)	415	41.0%
2. タバコを吸い過ぎない 又は吸わない	423	41.8%
3. 適度な運動をする	611	60.3%
4. 年に1回健康診断を受ける	514	50.7%
5. バランスを考えた食事をする	601	59.3%
6. 規則正しい生活をする	516	50.9%
7. 適正体重を維持する	417	41.2%
8. 適度な休養をとる	478	47.2%
9. 食後の歯磨きをする	523	51.6%
10. ストレスをためない	471	46.5%
11. その他	12	1.2%
無回答	30	3.0%
計	5011	-

問 30 自身の健康のために参加したいと思う活動（複数回答）

回答者が自身の健康のために参加したいと思う活動は、「体力測定・健康チェック」が 43.1%と最も多く、次いで「ウォーキング」が 32.9%となっている。



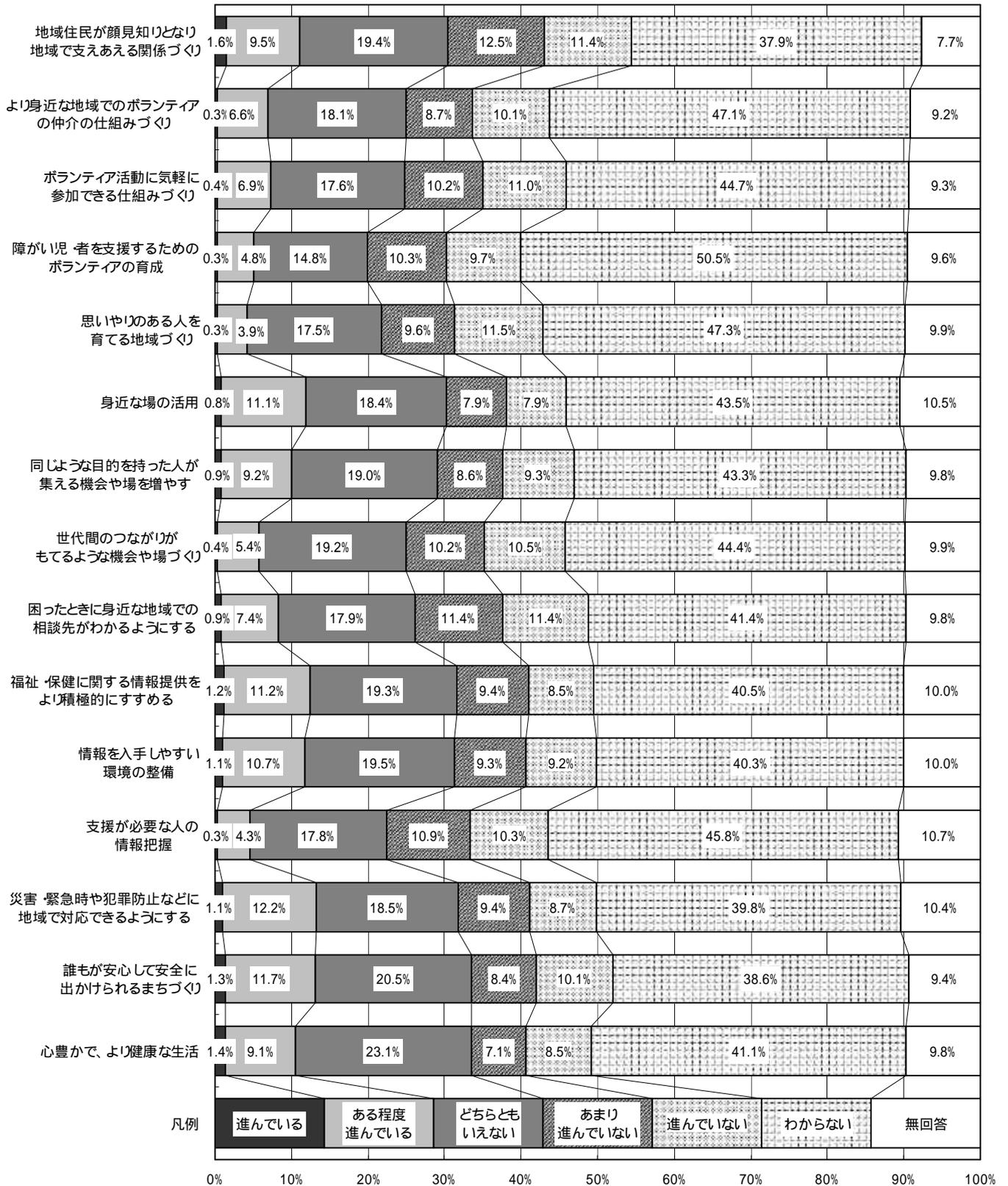
n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. 体力測定・健康チェック	437	43.1%
2. 健康づくり体操	227	22.4%
3. ウォーキング	333	32.9%
4. 健康レシピによる調理実習	171	16.9%
5. 禁煙教室 禁煙相談	34	3.4%
6. 健康づくりに関する講習会	151	14.9%
7. 運動交流などのイベント	187	18.5%
8. その他	19	1.9%
9. 参加したい活動はない	174	17.2%
無回答	66	6.5%
計	1799	-

問 31 第 1 期みどりのわ・ささえ愛プランにおける取り組みの進捗度

第 1 期みどりのわ・ささえ愛プランにおける取り組みの進捗度については、「わからない」が全項目にわたり 37.9%～50.5%と最も多かった。

なお、「進んでいる」と「ある程度進んでいる」をあわせたものは、「災害・緊急時や犯罪防止などに地域で対応できるようにする」が 13.3%と最も多く、次いで「誰もが安心して安全に出かけられるまちづくり」が 13.0%となっている。



	進んでいる	ある程度 進んでいる	どちらとも いえない	あまり進ん でいない	進んで いない	わからない	無回答	計
1. 地域住民が顔見知りとなり地域で支えあえる関係づくり	16 1.6%	96 9.5%	197 19.4%	127 12.5%	115 11.4%	384 37.9%	78 7.7%	1,013 100.0%
2. より身近な地域でのボランティアの仲介の仕組みづくり	3 0.3%	67 6.6%	183 18.1%	88 8.7%	102 10.1%	477 47.1%	93 9.2%	1,013 100.0%
3. ボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくり	4 0.4%	70 6.9%	178 17.6%	103 10.2%	111 11.0%	453 44.7%	94 9.3%	1,013 100.0%
4. 障がい児・者を支援するためのボランティアの育成	3 0.3%	49 4.8%	150 14.8%	104 10.3%	98 9.7%	512 50.5%	97 9.6%	1,013 100.0%
5. 思いやりのある人を育てる地域づくり	3 0.3%	40 3.9%	177 17.5%	97 9.6%	117 11.5%	479 47.3%	100 9.9%	1,013 100.0%
6. 身近な場の活用	8 0.8%	112 11.1%	186 18.4%	80 7.9%	80 7.9%	441 43.5%	106 10.5%	1,013 100.0%
7. 同じような目的を持った人が集える機会や場を増やす	9 0.9%	93 9.2%	192 19.0%	87 8.6%	94 9.3%	439 43.3%	99 9.8%	1,013 100.0%
8. 世代間のつながりがもてるような機会や場づくり	4 0.4%	55 5.4%	195 19.2%	103 10.2%	106 10.5%	450 44.4%	100 9.9%	1,013 100.0%
9. 困ったときに身近な地域での相談先がわかるようにする	9 0.9%	75 7.4%	181 17.9%	115 11.4%	115 11.4%	419 41.4%	99 9.8%	1,013 100.0%
10. 福祉・保健に関する情報提供をより積極的にすすめる	12 1.2%	113 11.2%	196 19.3%	95 9.4%	86 8.5%	410 40.5%	101 10.0%	1,013 100.0%
11. 情報を入手しやすい環境の整備	11 1.1%	108 10.7%	198 19.5%	94 9.3%	93 9.2%	408 40.3%	101 10.0%	1,013 100.0%
12. 支援が必要な人の情報把握	3 0.3%	44 4.3%	180 17.8%	110 10.9%	104 10.3%	464 45.8%	108 10.7%	1,013 100.0%
13. 災害・緊急時や犯罪防止などに地域で対応できるようにする	11 1.1%	124 12.2%	187 18.5%	95 9.4%	88 8.7%	403 39.8%	105 10.4%	1,013 100.0%
14. 誰もが安心して安全に出かけられるまちづくり	13 1.3%	119 11.7%	208 20.5%	85 8.4%	102 10.1%	391 38.6%	95 9.4%	1,013 100.0%
15. 心豊かで、より健康な生活	14 1.4%	92 9.1%	234 23.1%	72 7.1%	86 8.5%	416 41.1%	99 9.8%	1,013 100.0%

第1期みどりのわ・ささえ愛プランにおける取り組みの小項目ごとに、どの程度進んでいると思っているかを「進んでいる」と「ある程度進んでいる」の合計で居住地区別にみてる。

「地域住民が顔見知りとなり地域で支えあえる関係づくり」については、竹山地区の20.0%が最も多く、次いで霧が丘地区16.6%、三保地区14.1%、最も少なかったのは山下地区の6.0%であった。

「より身近な地域でのボランティアの仲介の仕組みづくり」については、霧が丘地区の19.1%が最も多く、次いで白山地区11.9%、竹山地区11.7%、最も少なかったのは山下地区の1.5%であった。

「ボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくり」については、竹山地区の16.9%が最も多く、次いで霧が丘地区12.7%、新治中部地区10.0%、最も少なかったのは山下地区の3.0%であった。

「障がい児・者を支援するためのボランティアの育成」については、各地区ともに進んでいると思う割合が低く、ほぼ同程度である。このうち、山下地区の7.6%が最も多く、次いで三保地区7.2%、新治中部地区7.1%、最も少なかったのは東本郷地区及び鴨居地区の4.5%であった。

「思いやりのある人を育てる地域づくり」についても、各地区ともに進んでいると思う割合は低い、わずかであるが地区による差が見られる。最も多かったのは新治西部地区・十日市場団地地区の8.5%、次いで霧が丘地区7.9%、東本郷地区7.5%、最も少なかったのは鴨居地区の1.1%であった。

「身近な場の活用」については、竹山地区の22.4%が最も多く、次いで霧が丘地区17.5%、新治西部地区・十日市場団地地区14.0%、最も少なかったのは白山地区の8.8%であった。

「同じような目的をもった人が集える機会や場を増やす」については、霧が丘地区の17.5%が最も多く、次いで竹山地区16.7%、白山地区15.5%、最も少なかったのは鴨居地区の5.6%であった。

「世代間のつながりがもてるような機会や場づくり」については、霧が丘地区の9.5%が最も多く、次いで東本郷地区9.0%、竹山地区8.5%、最も少なかったのは鴨居地区の2.3%であった。

「困ったときに身近な地域での相談先がわかるようにする」については、竹山地区の17.2%が最も多く、次いで霧が丘地区及び長津田地区の12.7%、最も少なかったのは白山地区の5.1%であった。

「福祉・保健に関する情報提供をより積極的にすすめる」については、霧が丘地区の23.8%が最も多く、次いで竹山地区18.3%、東本郷地区16.6%、最も少なかったのは山下地区の9.1%であった。

「情報を入手しやすい環境の整備」については、霧が丘地区の20.7%が最も多く、次いで東本郷地区20.0%、長津田地区14.3%、最も少なかったのは三保地区の7.3%であった。

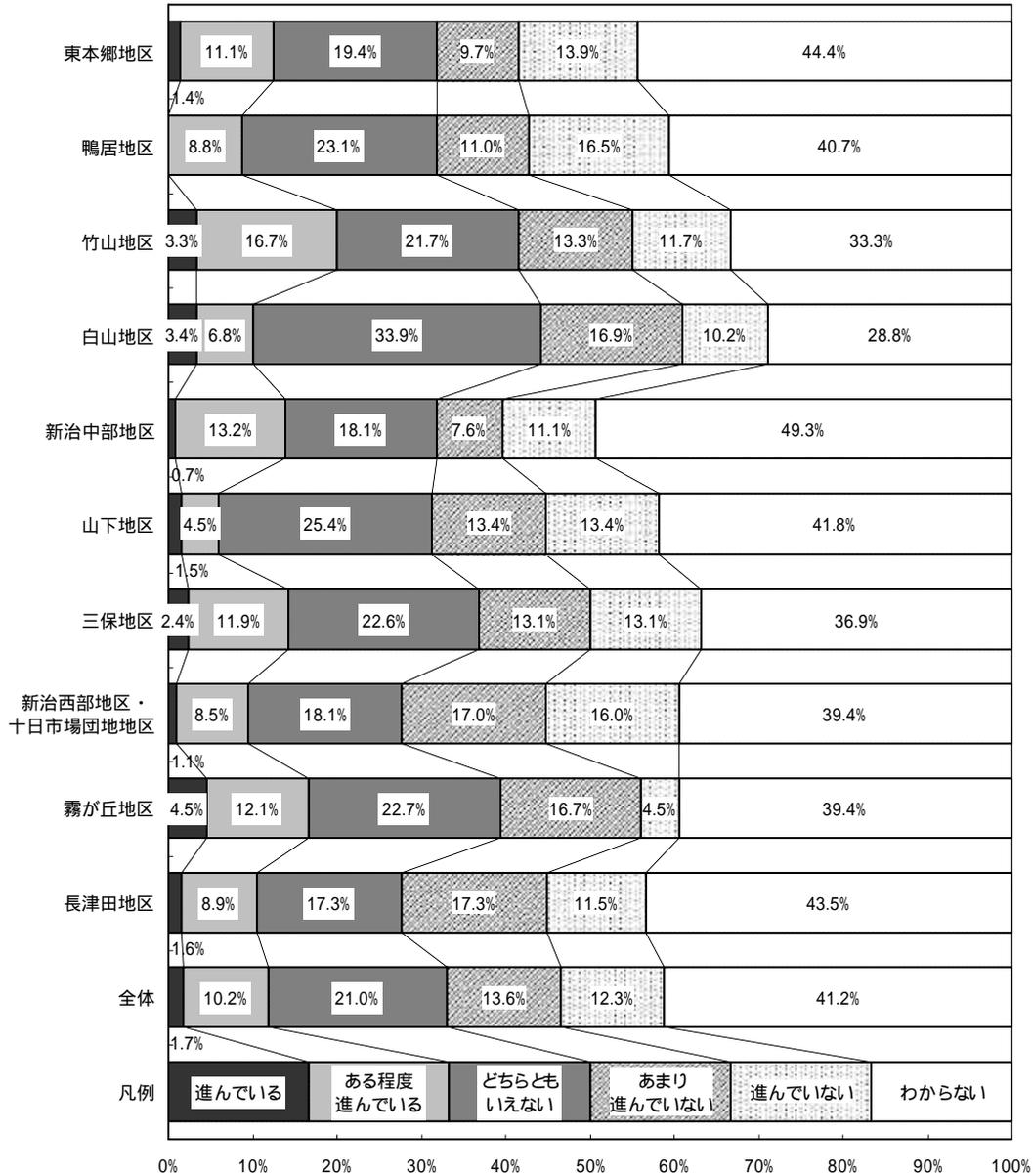
「支援が必要な人の情報把握」については、竹山地区の10.3%が最も多く、次いで長津田地区7.4%、鴨居地区6.8%、最も少なかったのは白山地区で「進んでいる」と「ある程度進んでいる」とした回答はまったくなかった。

「災害・緊急時や犯罪防止などに地域で対応できるようにする」竹山地区の28.8%が最も多く、次いで霧が丘地区27.7%、長津田地区16.1%、最も少なかったのは東本郷地区の9.1%であった。

「誰もが安心して出かけられるまちづくり」霧が丘地区の29.2%が最も多く、次いで竹山地区25.0%、白山地区22.4%、最も少なかったのは新治西部地区・十日市場団地地区の7.4%であった。

「心豊かで、より健康な生活」竹山地区の20.3%が最も多く、次いで霧が丘地区16.9%、三保地区16.0%最も少なかったのは鴨居地区の5.5%であった。

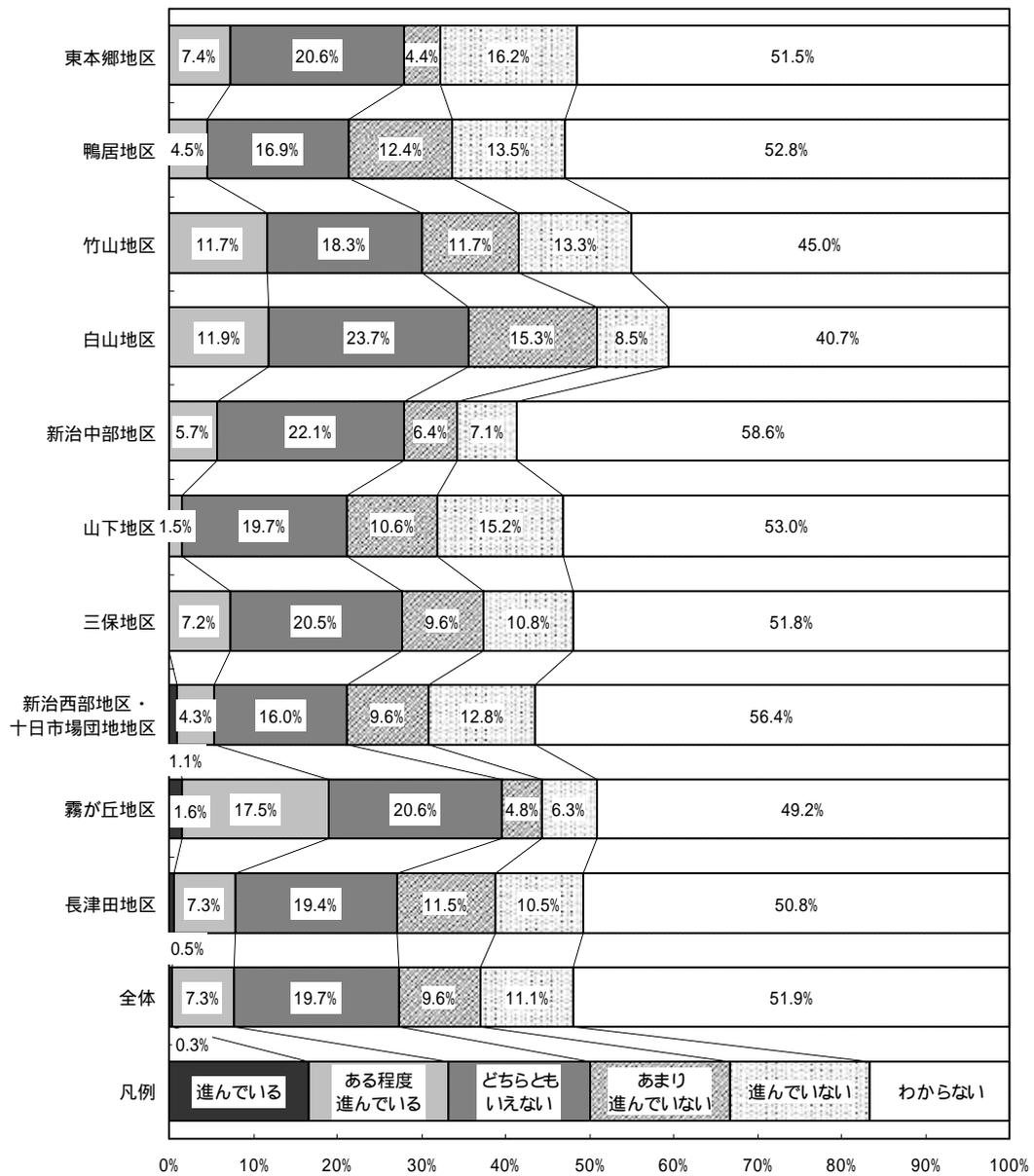
居住地区別、「地域住民が顔見知りとなり地域で支えあえる関係づくり」の進捗度(問1×問31-1)
n=928



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	1	8	14	7	10	32	72
鴨居地区	0	8	21	10	15	37	91
竹山地区	2	10	13	8	7	20	60
白山地区	2	4	20	10	6	17	59
新治中部地区	1	19	26	11	16	71	144
山下地区	1	3	17	9	9	28	67
三保地区	2	10	19	11	11	31	84
新治西部地区・十日市場団地地区	1	8	17	16	15	37	94
霧が丘地区	3	8	15	11	3	26	66
長津田地区	3	17	33	33	22	83	191
全体	16	95	195	126	114	382	928

居住地区別、「より身近な地域でのボランティアの仲介の仕組みづくり」の進捗度(問1×問31-2)

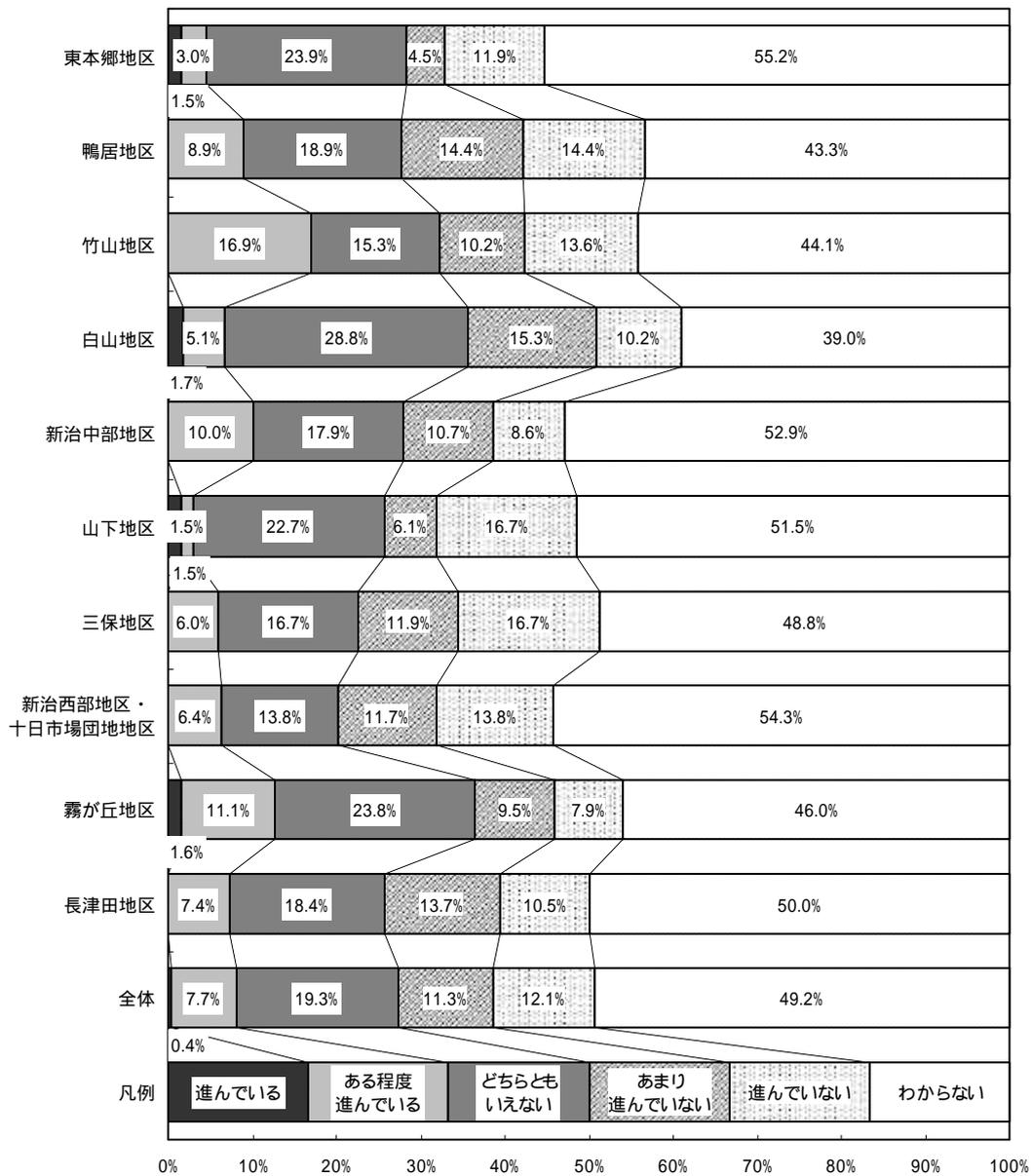
n=913



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	0	5	14	3	11	35	68
鴨居地区	0	4	15	11	12	47	89
竹山地区	0	7	11	7	8	27	60
白山地区	0	7	14	9	5	24	59
新治中部地区	0	8	31	9	10	82	140
山下地区	0	1	13	7	10	35	66
三保地区	0	6	17	8	9	43	83
新治西部地区・十日市場団地地区	1	4	15	9	12	53	94
霧が丘地区	1	11	13	3	4	31	63
長津田地区	1	14	37	22	20	97	191
全体	3	67	180	88	101	474	913

居住地区別、「ボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくり」の進捗度（問1×問31-3）

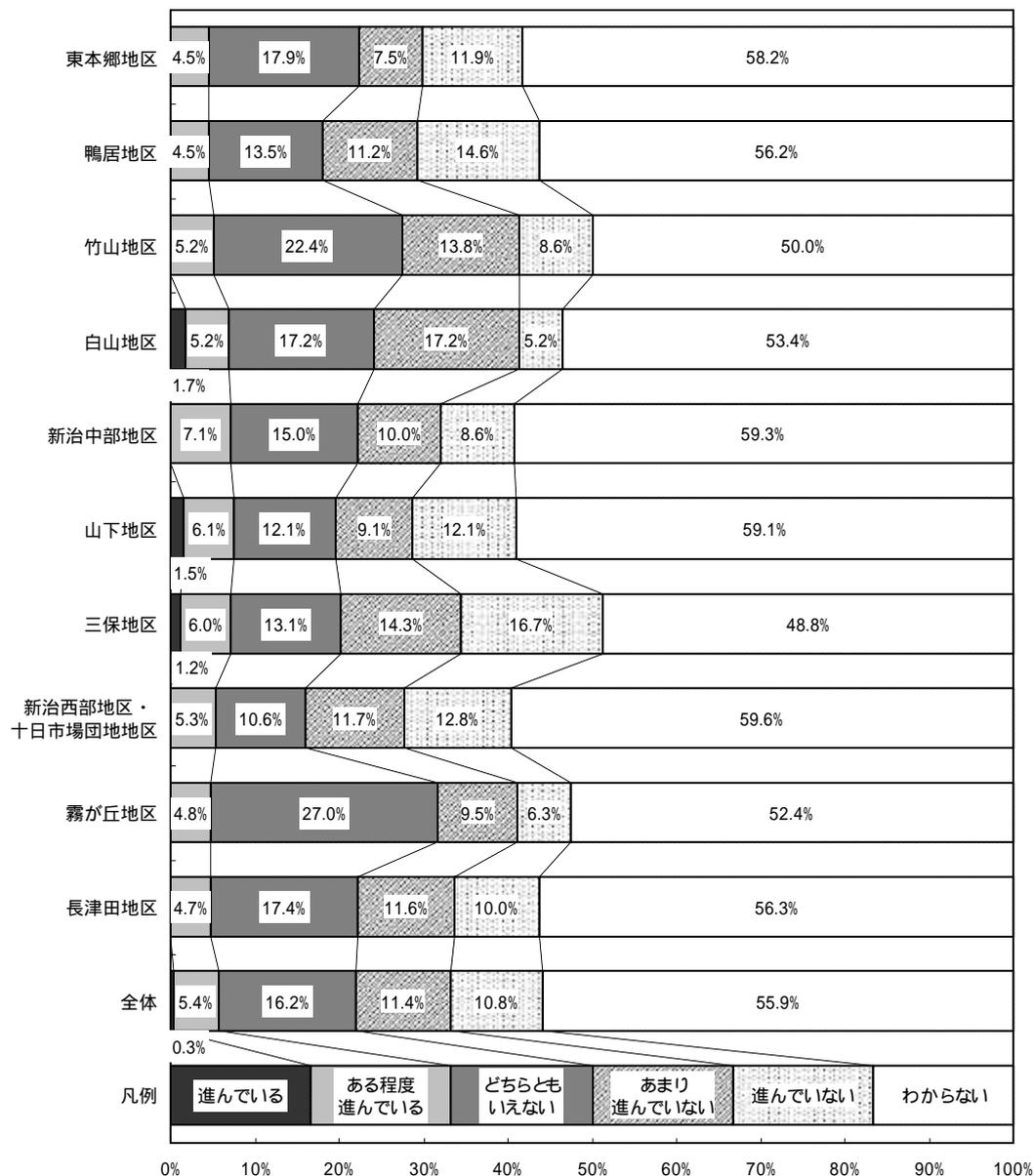
n=912



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	1	2	16	3	8	37	67
鴨居地区	0	8	17	13	13	39	90
竹山地区	0	10	9	6	8	26	59
白山地区	1	3	17	9	6	23	59
新治中部地区	0	14	25	15	12	74	140
山下地区	1	1	15	4	11	34	66
三保地区	0	5	14	10	14	41	84
新治西部地区・十日市場団地地区	0	6	13	11	13	51	94
霧が丘地区	1	7	15	6	5	29	63
長津田地区	0	14	35	26	20	95	190
全体	4	70	176	103	110	449	912

居住地区別、「障がい児・者を支援するためのボランティアの育成」の進捗度（問1×問31-4）

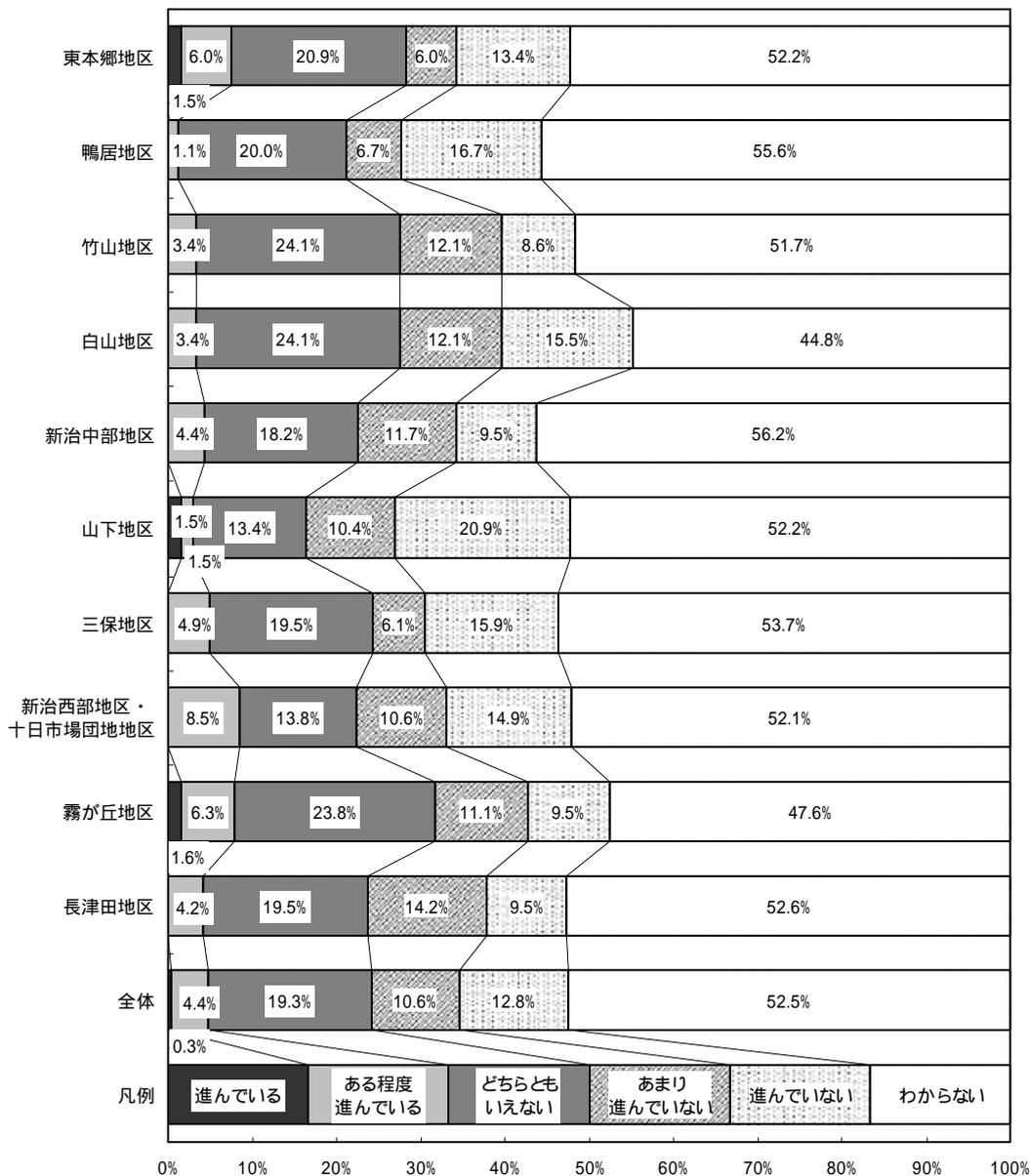
n=909



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	0	3	12	5	8	39	67
鴨居地区	0	4	12	10	13	50	89
竹山地区	0	3	13	8	5	29	58
白山地区	1	3	10	10	3	31	58
新治中部地区	0	10	21	14	12	83	140
山下地区	1	4	8	6	8	39	66
三保地区	1	5	11	12	14	41	84
新治西部地区・十日市場団地地区	0	5	10	11	12	56	94
霧が丘地区	0	3	17	6	4	33	63
長津田地区	0	9	33	22	19	107	190
全体	3	49	147	104	98	508	909

居住地区別、「思いやりのある人を育てる地域づくり」の進捗度（問1×問31-5）

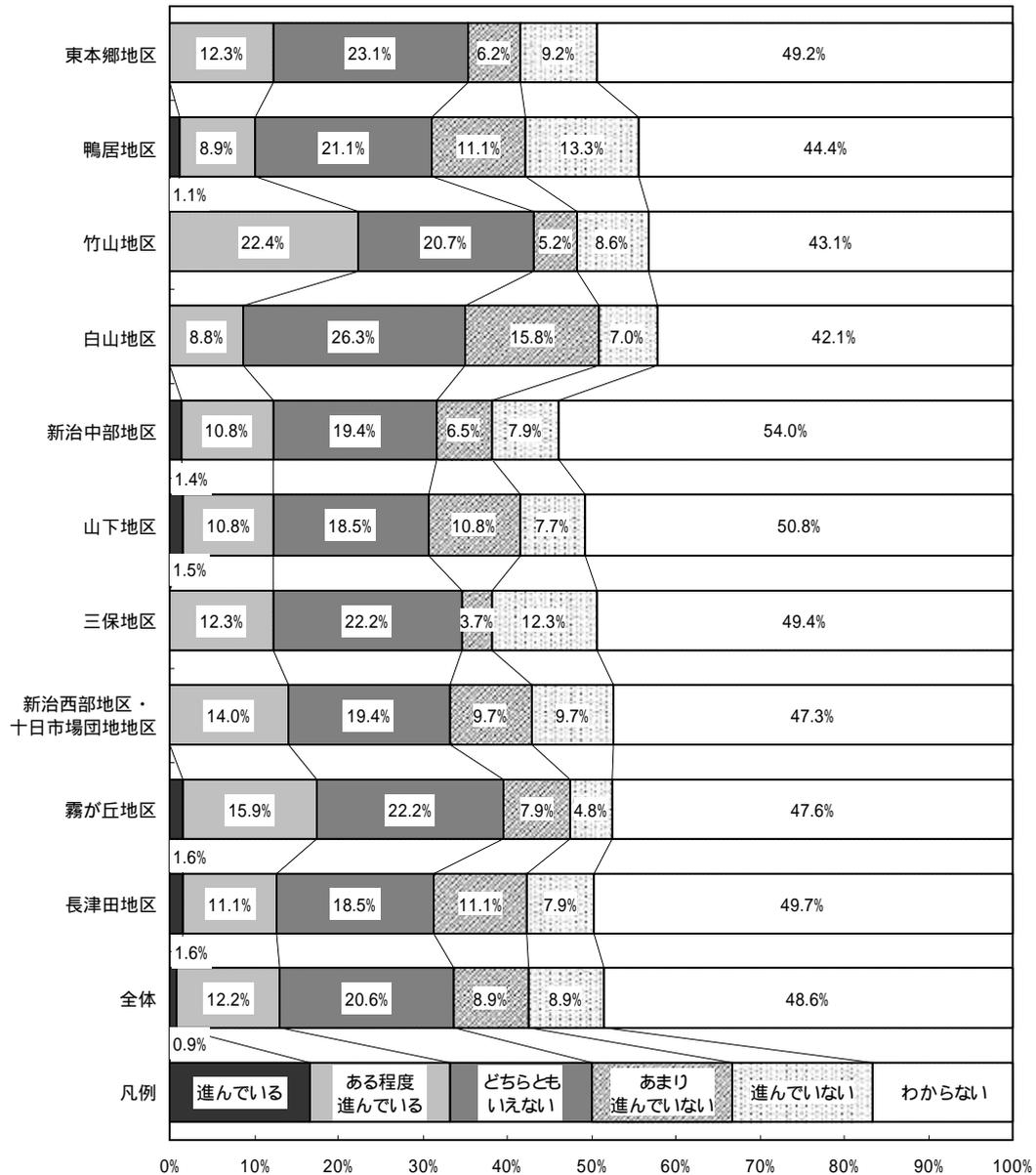
n=906



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	1	4	14	4	9	35	67
鴨居地区	0	1	18	6	15	50	90
竹山地区	0	2	14	7	5	30	58
白山地区	0	2	14	7	9	26	58
新治中部地区	0	6	25	16	13	77	137
山下地区	1	1	9	7	14	35	67
三保地区	0	4	16	5	13	44	82
新治西部地区・十日市場団地地区	0	8	13	10	14	49	94
霧が丘地区	1	4	15	7	6	30	63
長津田地区	0	8	37	27	18	100	190
全体	3	40	175	96	116	476	906

居住地区別、「身近な場の活用」の進捗度（問1×問31-6）

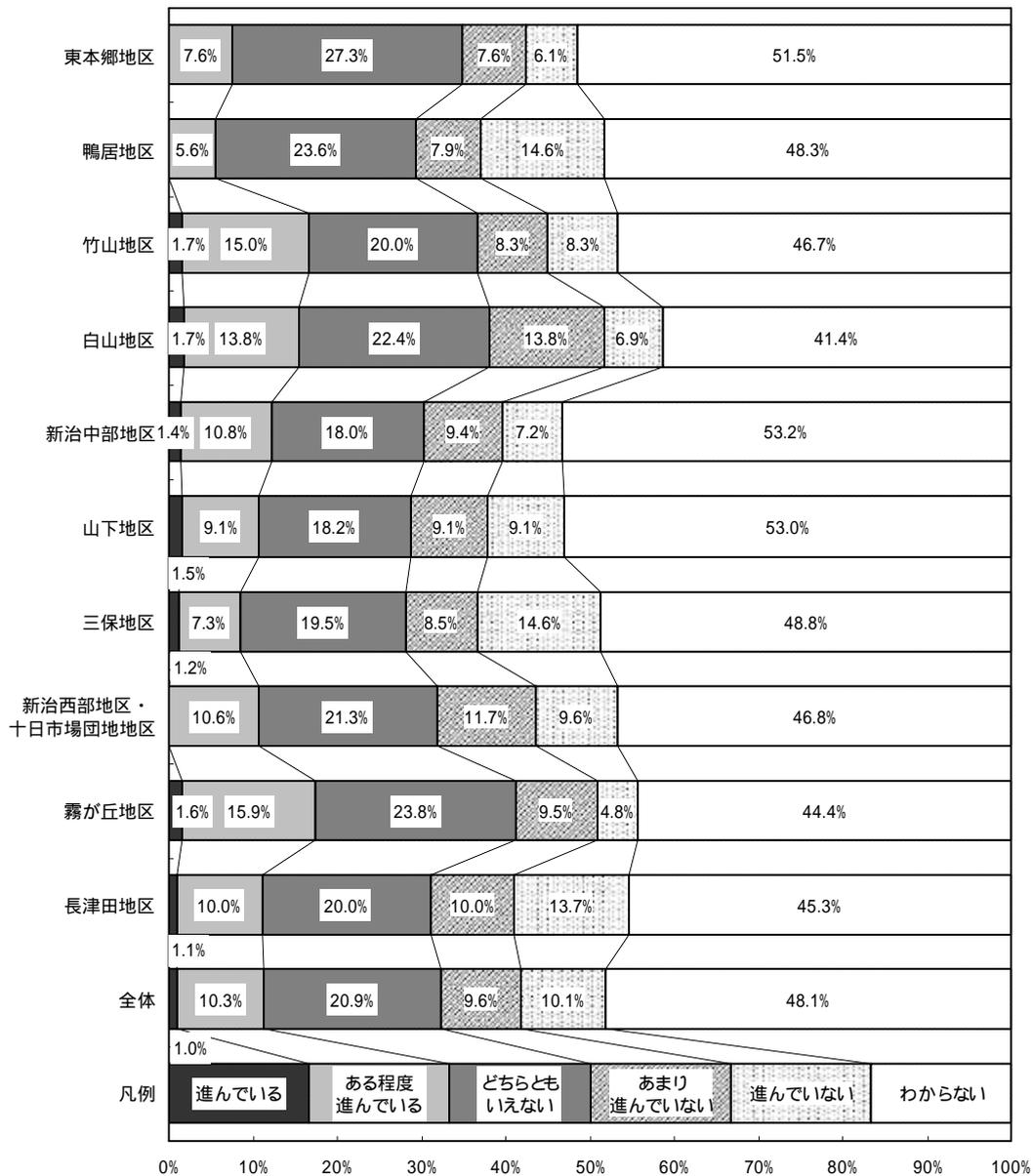
n=900



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	0	8	15	4	6	32	65
鴨居地区	1	8	19	10	12	40	90
竹山地区	0	13	12	3	5	25	58
白山地区	0	5	15	9	4	24	57
新治中部地区	2	15	27	9	11	75	139
山下地区	1	7	12	7	5	33	65
三保地区	0	10	18	3	10	40	81
新治西部地区・十日市場団地地区	0	13	18	9	9	44	93
霧が丘地区	1	10	14	5	3	30	63
長津田地区	3	21	35	21	15	94	189
全体	8	110	185	80	80	437	900

居住地区別、「同じような目的をもった人が集える機会や場を増やす」の進捗度（問1×問31-7）

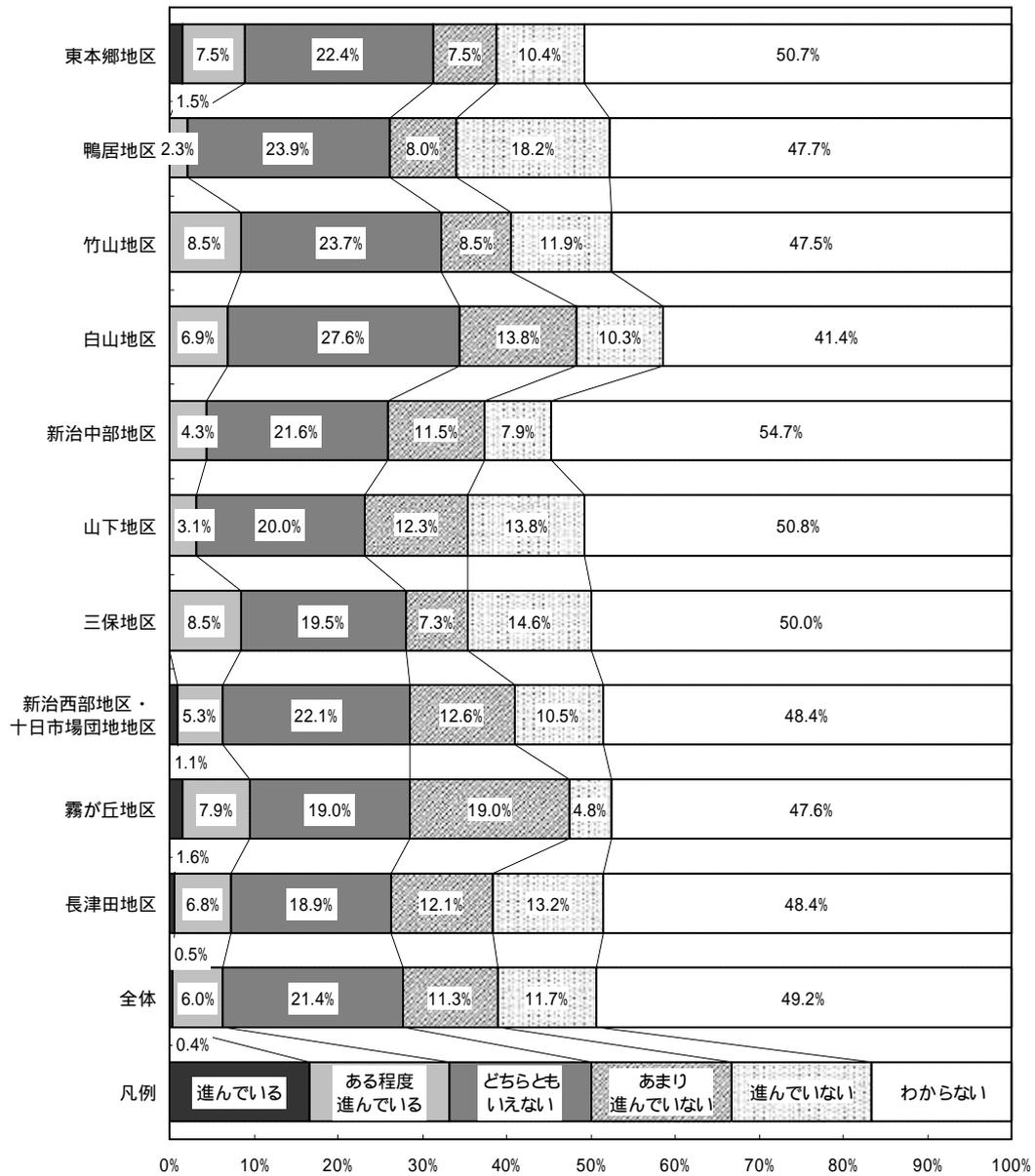
n=907



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	0	5	18	5	4	34	66
鴨居地区	0	5	21	7	13	43	89
竹山地区	1	9	12	5	5	28	60
白山地区	1	8	13	8	4	24	58
新治中部地区	2	15	25	13	10	74	139
山下地区	1	6	12	6	6	35	66
三保地区	1	6	16	7	12	40	82
新治西部地区・十日市場団地地区	0	10	20	11	9	44	94
霧が丘地区	1	10	15	6	3	28	63
長津田地区	2	19	38	19	26	86	190
全体	9	93	190	87	92	436	907

居住地区別、「世代間のつながりがもてるような機会や場づくり」の進捗度（問1×問31-8）

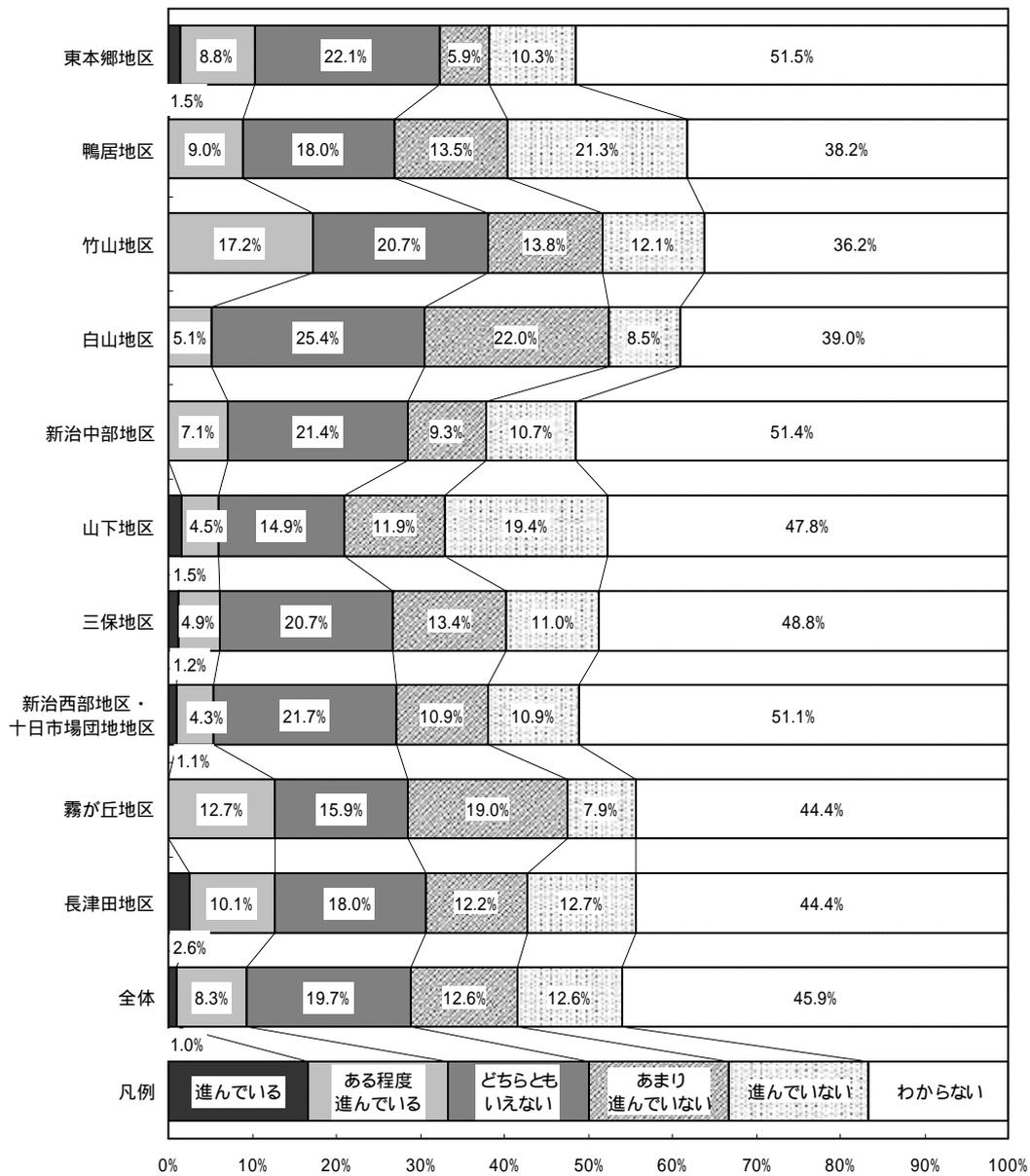
n=906



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	1	5	15	5	7	34	67
鴨居地区	0	2	21	7	16	42	88
竹山地区	0	5	14	5	7	28	59
白山地区	0	4	16	8	6	24	58
新治中部地区	0	6	30	16	11	76	139
山下地区	0	2	13	8	9	33	65
三保地区	0	7	16	6	12	41	82
新治西部地区・十日市場団地地区	1	5	21	12	10	46	95
霧が丘地区	1	5	12	12	3	30	63
長津田地区	1	13	36	23	25	92	190
全体	4	54	194	102	106	446	906

居住地区別、「困ったときに身近な地域での相談先がわかるようにする」の進捗度(問1×問31-9)

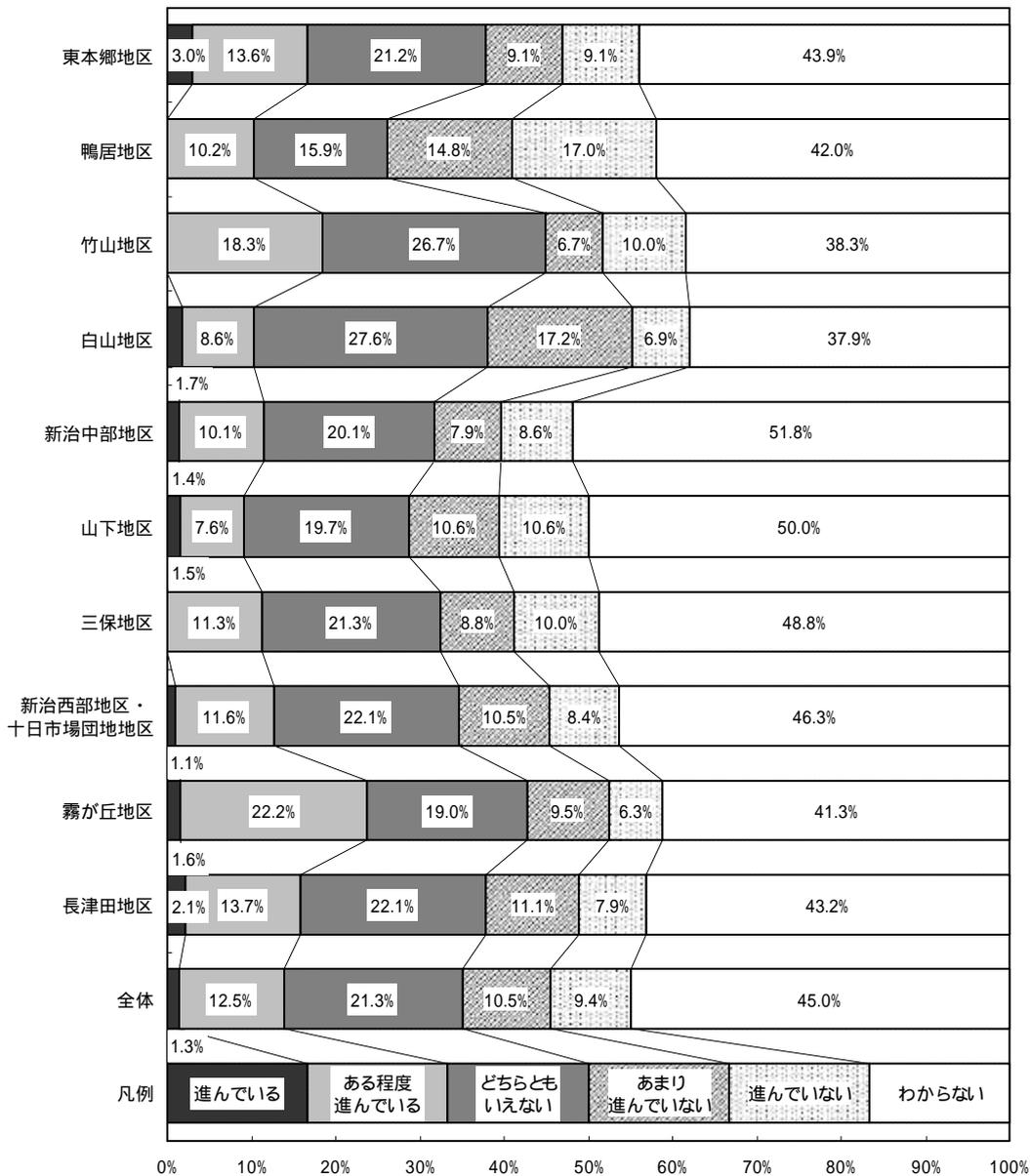
n=907



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	1	6	15	4	7	35	68
鴨居地区	0	8	16	12	19	34	89
竹山地区	0	10	12	8	7	21	58
白山地区	0	3	15	13	5	23	59
新治中部地区	0	10	30	13	15	72	140
山下地区	1	3	10	8	13	32	67
三保地区	1	4	17	11	9	40	82
新治西部地区・十日市場団地地区	1	4	20	10	10	47	92
霧が丘地区	0	8	10	12	5	28	63
長津田地区	5	19	34	23	24	84	189
全体	9	75	179	114	114	416	907

居住地区別、「福祉・保健に関する情報提供をより積極的にすすめる」の進捗度(問1×問31-10)

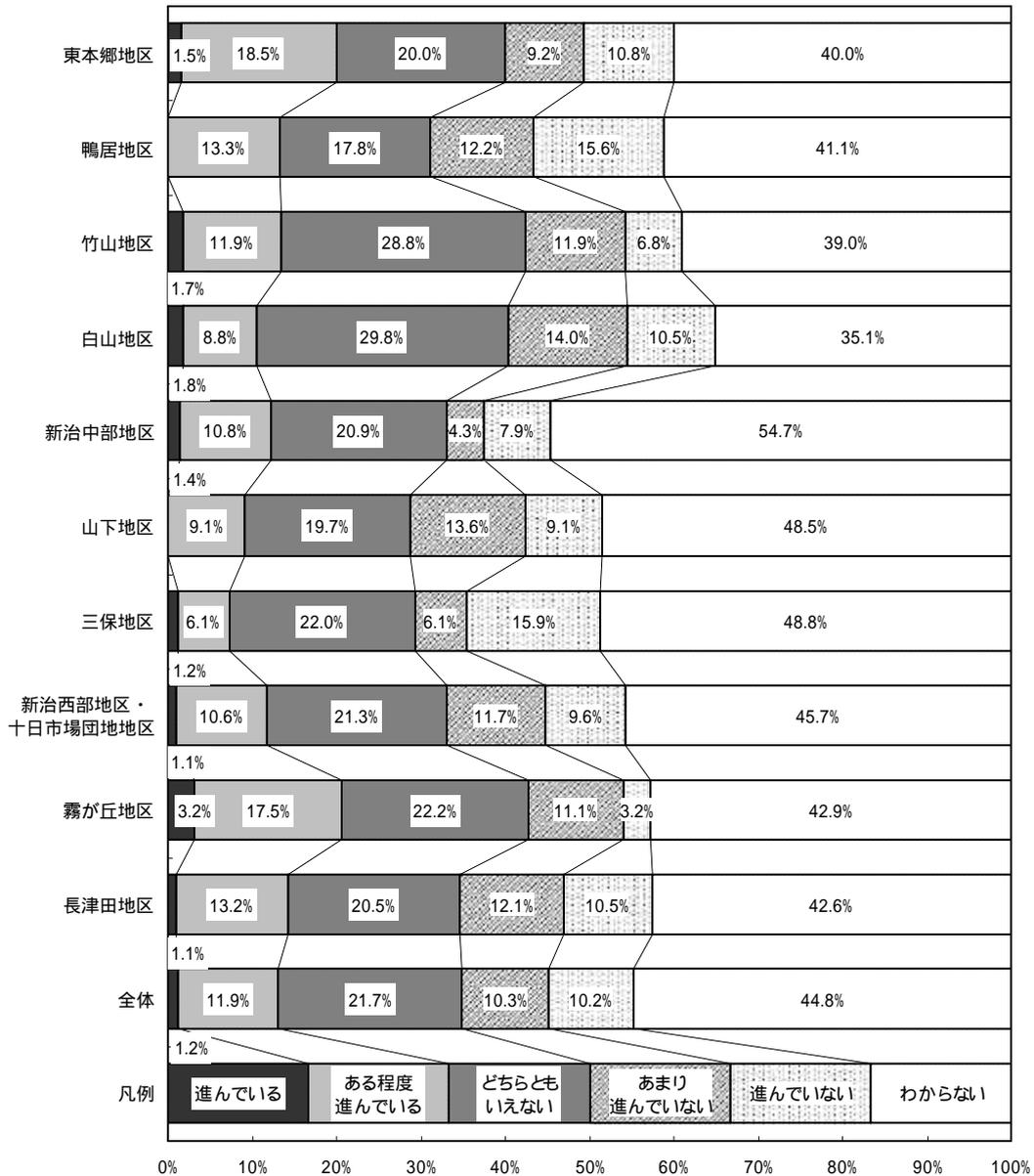
n=905



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	2	9	14	6	6	29	66
鴨居地区	0	9	14	13	15	37	88
竹山地区	0	11	16	4	6	23	60
白山地区	1	5	16	10	4	22	58
新治中部地区	2	14	28	11	12	72	139
山下地区	1	5	13	7	7	33	66
三保地区	0	9	17	7	8	39	80
新治西部地区・十日市場団地地区	1	11	21	10	8	44	95
霧が丘地区	1	14	12	6	4	26	63
長津田地区	4	26	42	21	15	82	190
全体	12	113	193	95	85	407	905

居住地区別、「情報を入手しやすい環境の整備」の進捗度（問1×問31-11）

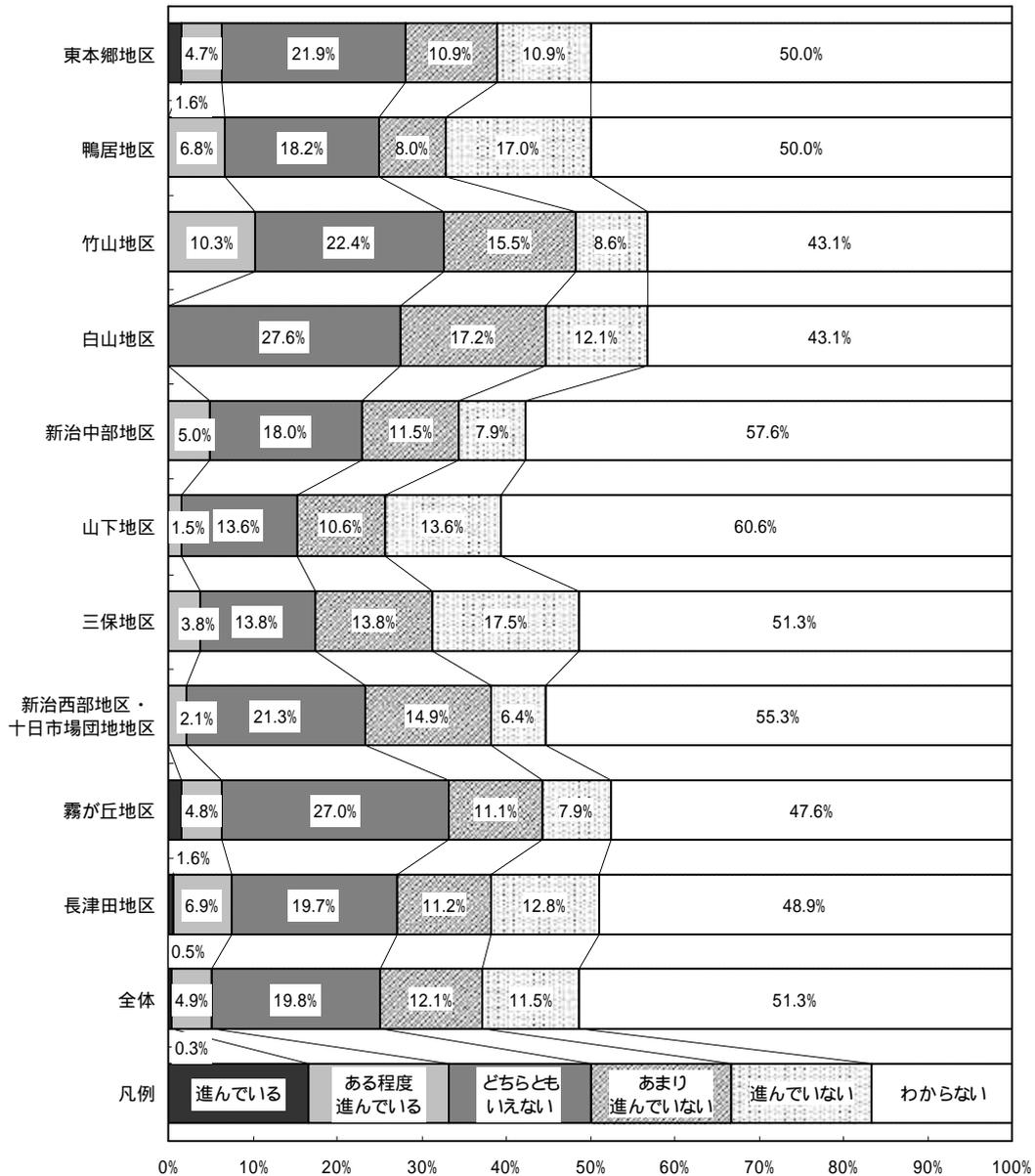
n=905



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	1	12	13	6	7	26	65
鴨居地区	0	12	16	11	14	37	90
竹山地区	1	7	17	7	4	23	59
白山地区	1	5	17	8	6	20	57
新治中部地区	2	15	29	6	11	76	139
山下地区	0	6	13	9	6	32	66
三保地区	1	5	18	5	13	40	82
新治西部地区・十日市場団地地区	1	10	20	11	9	43	94
霧が丘地区	2	11	14	7	2	27	63
長津田地区	2	25	39	23	20	81	190
全体	11	108	196	93	92	405	905

居住地区別、「支援が必要な人の情報把握」の進捗度（問1×問31-12）

n=898

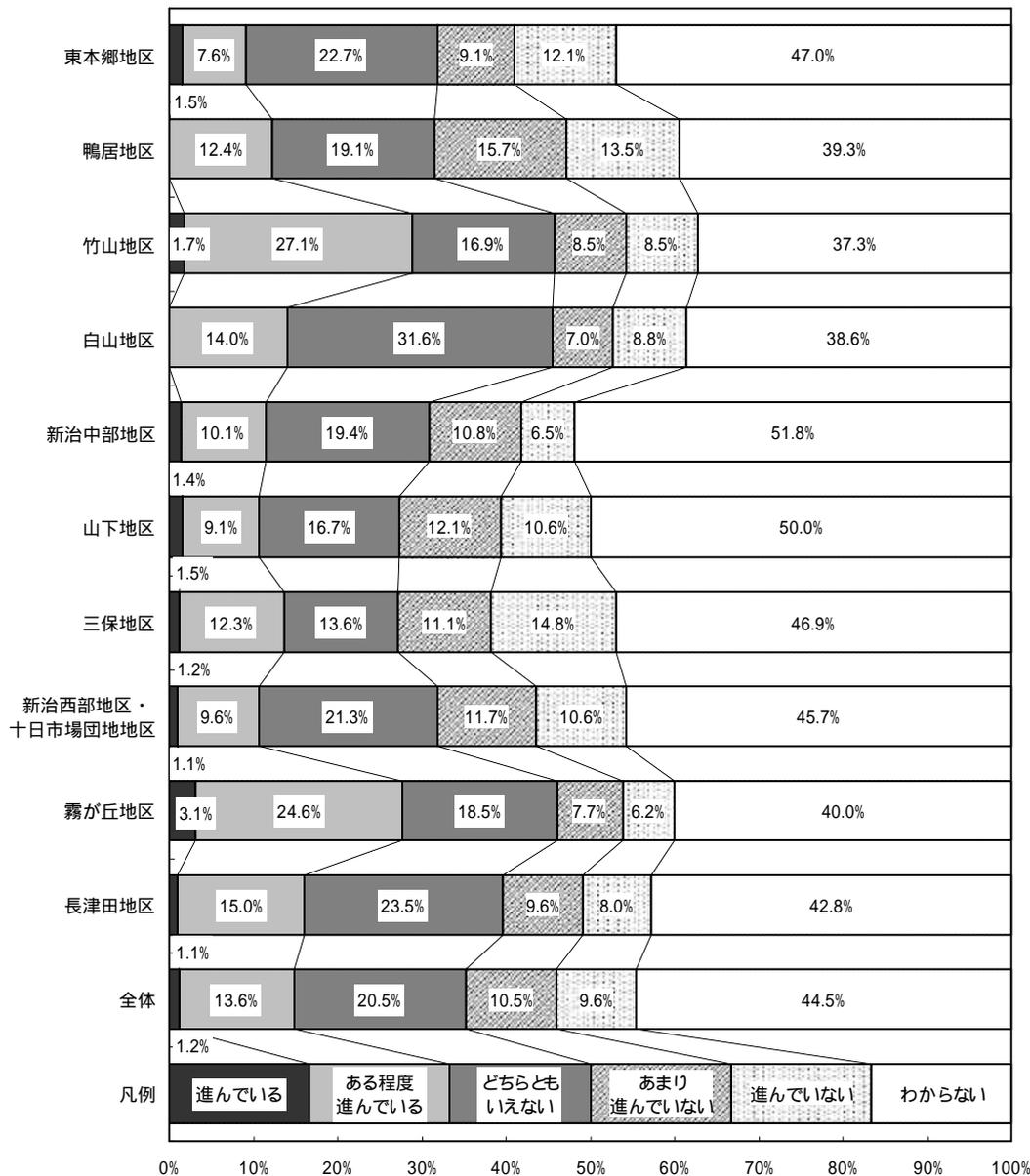


	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	1	3	14	7	7	32	64
鴨居地区	0	6	16	7	15	44	88
竹山地区	0	6	13	9	5	25	58
白山地区	0	0	16	10	7	25	58
新治中部地区	0	7	25	16	11	80	139
山下地区	0	1	9	7	9	40	66
三保地区	0	3	11	11	14	41	80
新治西部地区・十日市場団地地区	0	2	20	14	6	52	94
霧が丘地区	1	3	17	7	5	30	63
長津田地区	1	13	37	21	24	92	188
全体	3	44	178	109	103	461	898

居住地区別、

「災害・緊急時や犯罪防止などに地域で対応できるようにする」の進捗度（問1×問31-13）

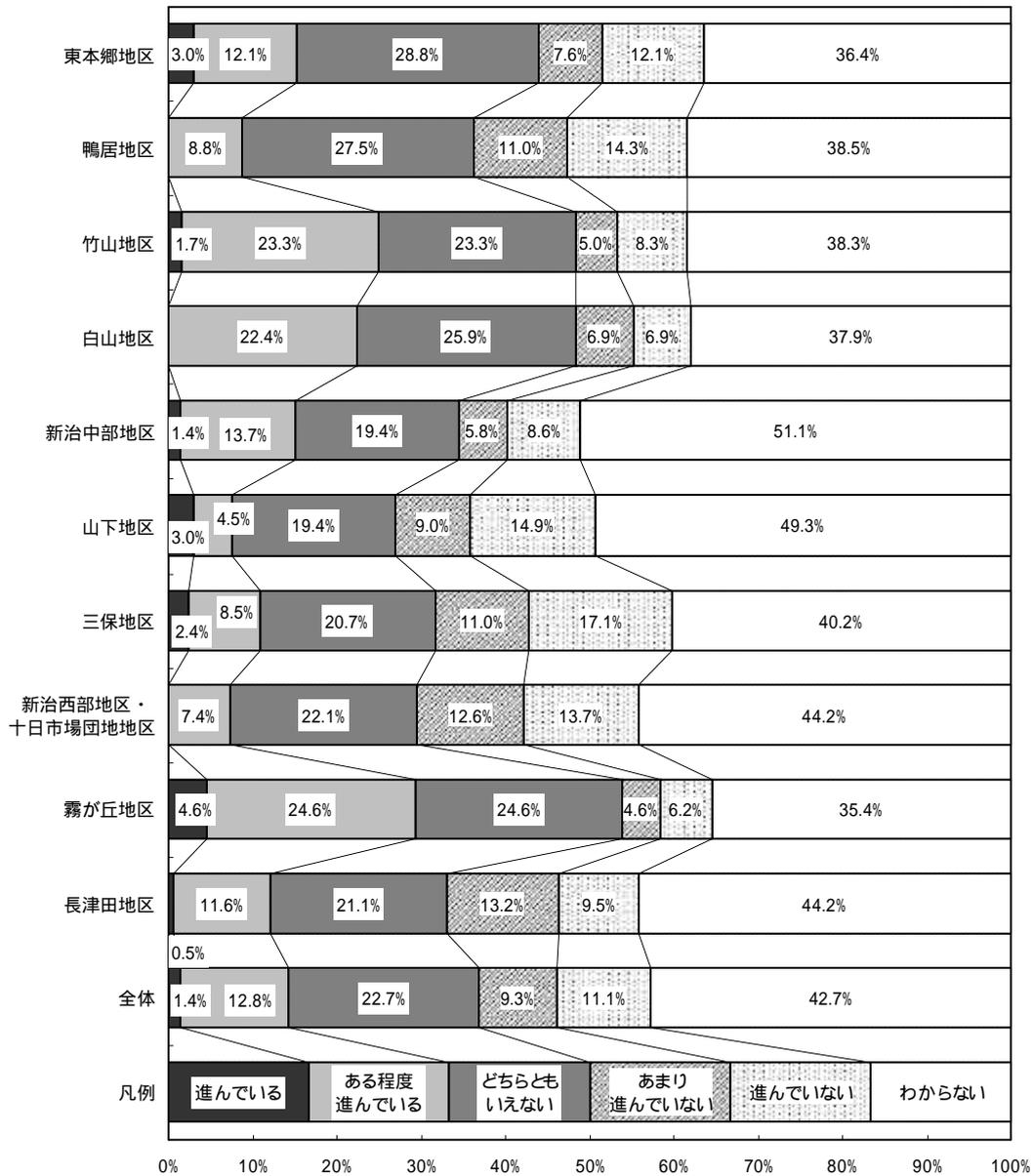
n=903



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	1	5	15	6	8	31	66
	1.5%	7.6%	22.7%	9.1%	12.1%	47.0%	100.0%
鴨居地区	0	11	17	14	12	35	89
	0.0%	12.4%	19.1%	15.7%	13.5%	39.3%	100.0%
竹山地区	1	16	10	5	5	22	59
	1.7%	27.1%	16.9%	8.5%	8.5%	37.3%	100.0%
白山地区	0	8	18	4	5	22	57
	0.0%	14.0%	31.6%	7.0%	8.8%	38.6%	100.0%
新治中部地区	2	14	27	15	9	72	139
	1.4%	10.1%	19.4%	10.8%	6.5%	51.8%	100.0%
山下地区	1	6	11	8	7	33	66
	1.5%	9.1%	16.7%	12.1%	10.6%	50.0%	100.0%
三保地区	1	10	11	9	12	38	81
	1.2%	12.3%	13.6%	11.1%	14.8%	46.9%	100.0%
新治西部地区・十日市場団地地区	1	9	20	11	10	43	94
	1.1%	9.6%	21.3%	11.7%	10.6%	45.7%	100.0%
霧が丘地区	2	16	12	5	4	26	65
	3.1%	24.6%	18.5%	7.7%	6.2%	40.0%	100.0%
長津田地区	2	28	44	18	15	80	187
	1.1%	15.0%	23.5%	9.6%	8.0%	42.8%	100.0%
全体	11	123	185	95	87	402	903
	1.2%	13.6%	20.5%	10.5%	9.6%	44.5%	100.0%

居住地区別、「誰もが安心して出かけられるまちづくり」の進捗度（問1×問31-14）

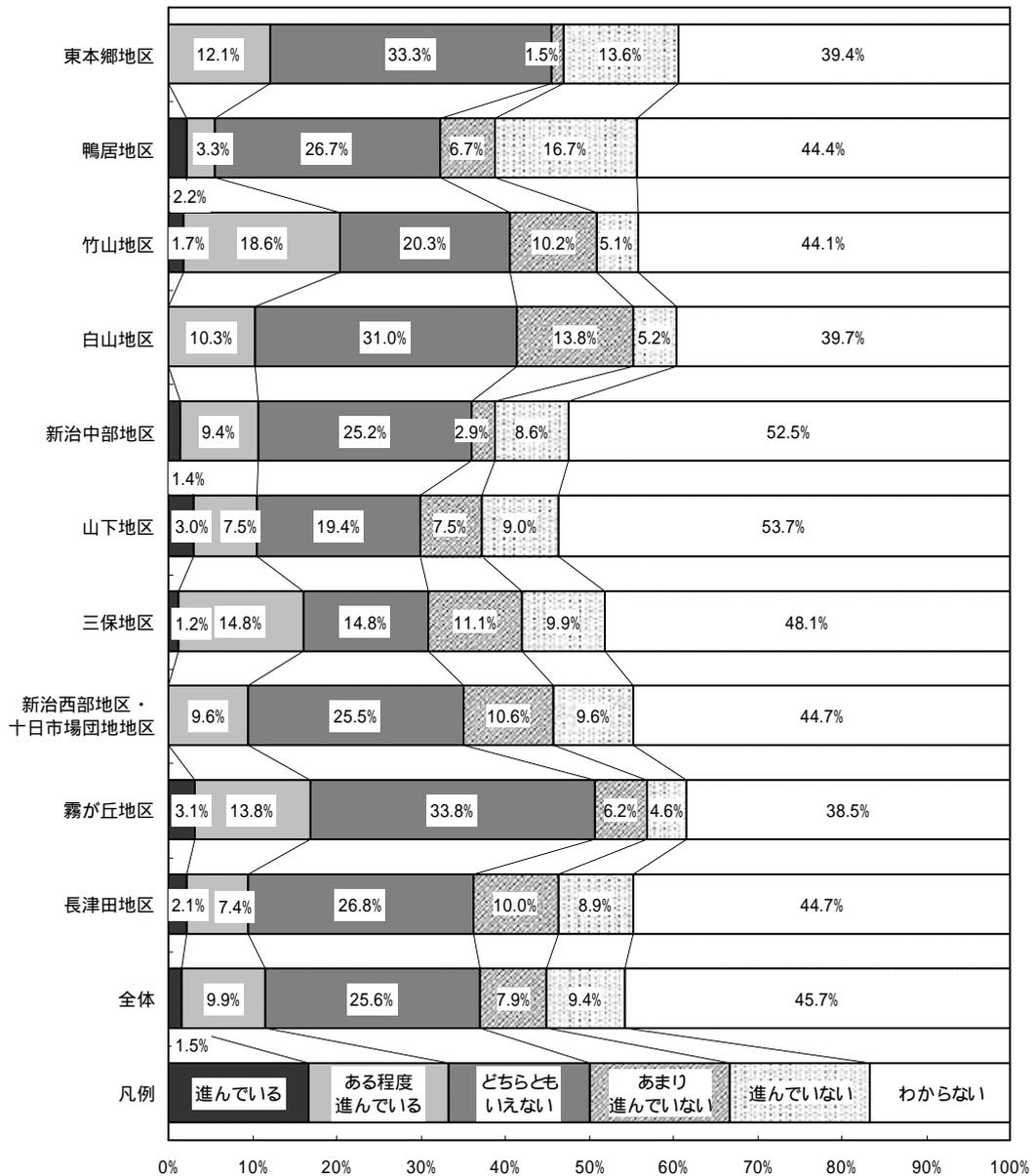
n=913



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	2	8	19	5	8	24	66
鴨居地区	0	8	25	10	13	35	91
竹山地区	1	14	14	3	5	23	60
白山地区	0	13	15	4	4	22	58
新治中部地区	2	19	27	8	12	71	139
山下地区	2	3	13	6	10	33	67
三保地区	2	7	17	9	14	33	82
新治西部地区・十日市場団地地区	0	7	21	12	13	42	95
霧が丘地区	3	16	16	3	4	23	65
長津田地区	1	22	40	25	18	84	190
全体	13	117	207	85	101	390	913

居住地区別、「心豊かで、より健康な生活」の進捗度（問1×問31-15）

n=909

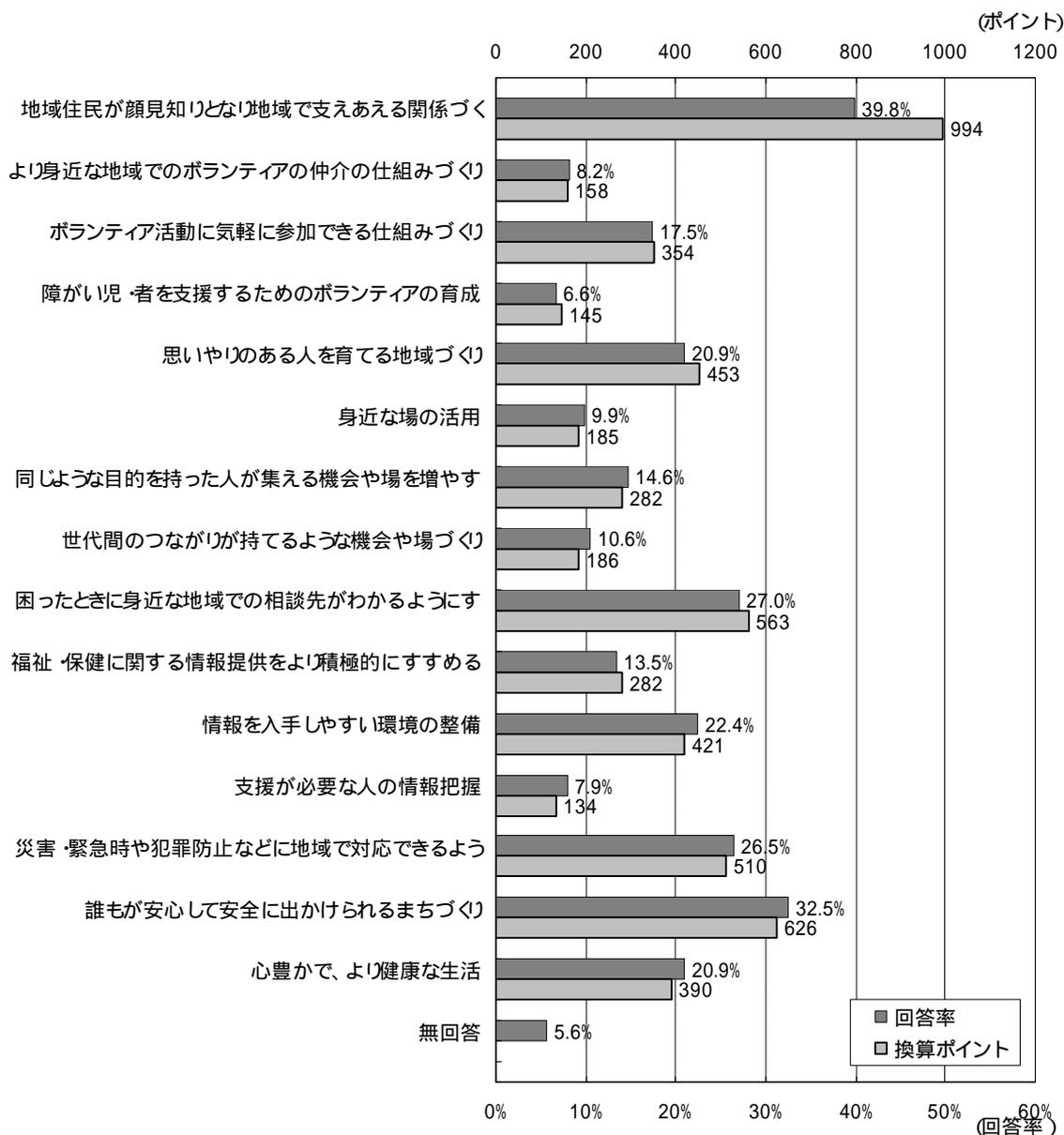


	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	0	8	22	1	9	26	66
鴨居地区	2	3	24	6	15	40	90
竹山地区	1	11	12	6	3	26	59
白山地区	0	6	18	8	3	23	58
新治中部地区	2	13	35	4	12	73	139
山下地区	2	5	13	5	6	36	67
三保地区	1	12	12	9	8	39	81
新治西部地区・十日市場団地地区	0	9	24	10	9	42	94
霧が丘地区	2	9	22	4	3	25	65
長津田地区	4	14	51	19	17	85	190
全体	14	90	233	72	85	415	909

問 32 緑区の福祉で重点的に取り組む必要があると思われること(複数回答)

緑区の福祉で重点的に取り組む必要があると思われることは、「地域住民が顔見知りとなり地域で支えあえる関係づくり」が最も多く 39.8%、次いで「誰もが安心して安全に出かけられるまちづくり」が 32.5%、「困ったときに身近な地域での相談先がわかるようにする」が 27.0%、「災害・緊急時や犯罪防止などに地域で対応できるようにする」が 26.5%と続く。

最も必要なものを 3 ポイント、2 番目に必要なものを 2 ポイント、3 番目に必要なものを 1 ポイントとして計算した換算ポイントにおいても同様の傾向を示しているが、回答率が最も多かった「地域住民が顔見知りとなり地域で支えあえる関係づくり」がさらに際立っている。



換算ポイントは、最も必要なものを2ポイント、2番目に必要なものを1ポイントして換算した

選択肢	回答数	回答率
1. 地域住民が顔見知りとなり地域で支えあえる関係づくり	403	39.8%
2. より身近な地域でのボランティアの仲介の仕組みづくり	83	8.2%
3. ボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくり	177	17.5%
4. 障がい児者を支援するためのボランティアの育成	67	6.6%
5. 思いやりのある人を育てる地域づくり	212	20.9%
6. 身近な場の活用	100	9.9%
7. 同じような目的を持った人が集える機会や場を増やす	148	14.6%
8. 世代間のつながりが持てるような機会や場づくり	107	10.6%
9. 困ったときに身近な地域での相談先がわかるようにする	274	27.0%
10. 福祉 保健に関する情報提供をより積極的にすすめる	137	13.5%
11. 情報を入手しやすい環境の整備	227	22.4%
12. 支援が必要な人の情報把握	80	7.9%
13. 災害 緊急時や犯罪防止などに地域で対応できるようにする	268	26.5%
14. 誰もが安心して安全に出かけられるまちづくり	329	32.5%
15. 心豊かで、より健康な生活	212	20.9%
無回答	57	5.6%
計	2881	-

問 33 緑区の 10 年後をイメージしたときに、福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていること(自由回答)

緑区の 10 年後をイメージしたときに、福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていることとして最も多くあげられたのは、声かけ、助け合いなどをはじめとした「近隣の交流やコミュニケーションやつながり」であり、「心の豊かさとその育成」を期待する記載も見うけられた。そのための機会や場の充実の観点から「自治会活動の充実」や「人々が集まることのできる公園や施設の充実」といった意見が多かった。

また、「安全でバリアフリーな道路や駅前整備」、「安心、安全の観点から防犯対策」についての意見、「福祉保健に関する情報の充実」といった意見も多くあげられている。

その他、「施設を含む福祉・介護の充実」、「医療の充実」、「保育園の充実等子育て支援」、「高齢者、障がい者の生活支援」、「公共交通の充実」及び「その他行政サービスの向上」といった意見が多かった。

問 33 『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対して、日頃、感じていることや疑問に思っていること(自由回答)

『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対して、日頃、感じていることや疑問に思っていることとして最も多くあげられたのは、「プランを知らなかった」、「PRが不足している」という意見であり、そのためには「もっと情報の周知をしてほしい」という意見や「成果のわかる情報を提供してほしい」という意見が多かった。

また、今回のアンケートにより、このプランをはじめとした「区政や福祉保健にもっと関心を持ったり、行動したりしたい」という意見も多くみられた。

その他、多かった意見としては「道路や交通施設の整備」、「行政サービスの向上」、「医療の充実」、「自治会への協力」があげられる。

3. その他及び自由意見（抜粋） 回答については、原文どおり記載しています。

問5 住まいの種別（その他）

性別	年齢	住居の種類
女性	80歳以上	老健施設
女性	50歳～59歳	長男のマンション
男性	30歳～39歳	社宅
女性	60歳～64歳	大学の施設に住込み
男性	50歳～59歳	施設

問6 同居者の関係(その他)

性別	年齢	同居人
男性	40歳～49歳	友人と
女性	30歳～39歳	叔父
男性	20歳～29歳	従兄弟
女性	40歳～49歳	姪
女性	20歳～29歳	叔父
女性	40歳～49歳	姪
男性	20歳～29歳	会社の寮として同僚と
女性	50歳～59歳	配偶者の母
女性	20歳～29歳	同居人
女性	20歳～29歳	知人

問8 仕事の状況（その他）

性別	年齢	職業
男性	80歳以上	自営
男性	70歳～79歳	自営
女性	50歳～59歳	青色専従者
女性	65歳～69歳	農業
男性	70歳～79歳	不動産貸付業(自営)
女性	65歳～69歳	自営業だが、毎日3～8時間携わっている。
女性	60歳～64歳	自営・手伝い
女性	30歳～39歳	自営業
女性	70歳～79歳	自営
男性	50歳～59歳	農業
男性	65歳～69歳	経営コンサルタント
男性	50歳～59歳	スポーツジム
男性	65歳～69歳	農業の手伝い
男性	80歳以上	農業
男性	80歳以上	アパート経営
女性	60歳～64歳	委託され派遣
女性	60歳～64歳	クラフトインストラクター(自宅教室)
女性	50歳～59歳	自由業

問9 自治会加入状況（加入していない理由）その1

性別	年齢	自治会に加入していない理由
女性	30歳～39歳	仕事があり参加できないため
男性	80歳以上	借家だから
女性	20歳～29歳	両親が加入しているから
男性	20歳～29歳	世帯主でないため
女性	65歳～69歳	12年前現在のところに住居。自治会に入会したがそのときの会長とそりが合わなかった
男性	30歳～39歳	チャンスや情報がないため
男性	40歳～49歳	難病指定の病気のため
女性	80歳以上	長男夫婦と同居しており、長男が加入している
男性	30歳～39歳	存在を知らない、案内もない
女性	20歳～29歳	世帯主ではないため
女性	30歳～39歳	自治会があるのか知らない
女性	40歳～49歳	マンションで自治会に参加していないため
女性	30歳～39歳	賃貸で、その案内もない
女性	70歳～79歳	場所がわからない。腰が悪いためあまり進まない
男性	60歳～64歳	仕事が忙しく加入しなかったが、定年退職後も未加入のまま
男性	65歳～69歳	今まであまり関心がなかった
女性	50歳～59歳	こどもが成人しているため
男性	30歳～39歳	自治会の存在を知らなかった
女性	70歳～79歳	高齢者住宅
男性	20歳～29歳	越してきたばかりでよくわからない
女性	30歳～39歳	マンションで設立中
女性	30歳～39歳	マンションの組合で入らないと決まったため
男性	30歳～39歳	自治会の存在がわからない
男性	30歳～39歳	自治会があるかどうか不明。面倒なので加入する気はない。
男性	40歳～49歳	加入方法不明
女性	80歳以上	自治会はない
男性	30歳～39歳	特別に案内がないから
男性	40歳～49歳	何の連絡もない
女性	30歳～39歳	町内会、その他の存在があるかどうか知らない
男性	40歳～49歳	自治体の活動が主に小さなこども中心であり、あまり参加することが出来ない。途中退会した。
女性	20歳～29歳	どのように加入するか知らないため。
女性	50歳～59歳	面倒なので
女性	30歳～39歳	都市機構(旧公団)に入居の際、自治会の話が特になかった
女性	70歳～79歳	養護ホームに入所しているため
女性	30歳～39歳	このマンションは自治会に入れないといわれた。
男性	30歳～39歳	賃貸アパートで、引越する可能性が高いため
女性	30歳～39歳	どのように加入するか知らないため。
女性	30歳～39歳	自治会では人数が多すぎるため、加入させてもらえなかった。かといって当マンションだけでは少なすぎるので発足していない。
男性	20歳～29歳	加入についての申し込み方法がわからない
女性	30歳～39歳	日本語が出来ないから
女性	30歳～39歳	どこに入ってよいかわからない
女性	30歳～39歳	こどもが小さいので
女性	30歳～39歳	自治会の存在を知らなかった
女性	20歳～29歳	あることを知らされていなかった
女性	40歳～49歳	引っ越してきたときは若く、こどももなかったため、周りの住人にまだ入らなくて良いといわれ、そのままになっている
女性	30歳～39歳	引っ越してきたときに何も言われなかったから、この地域にはないと思った。
女性	20歳～29歳	知らない

問9 自治会加入状況（加入していない理由）その2

性別	年齢	自治会に加入していない理由
女性	不明	会社の寮としてマンションの一室にすんでおり、自治会があることもわからない。
女性	20歳～29歳	自治会があることを知らなかった
女性	50歳～59歳	マンション内で強制ではないため
女性	70歳～79歳	自治会の存在がない
男性	30歳～39歳	加入方法がわからない。自治会の役割がよくわからない
男性	40歳～49歳	引越しの際忙しくて加入しなかった
男性	30歳～39歳	賃貸のためわからない
女性	20歳～29歳	あまり気にしていなかった
女性	30歳～39歳	長く在住する予定ではないため
女性	30歳～39歳	よくわからない
男性	30歳～39歳	当住宅自体が自治会に加入していない為
女性	30歳～39歳	マンション自体に自治会がなく他の自治会に入っていないから。
男性	50歳～59歳	高い。
女性	30歳～39歳	加入した覚えがないのでたぶんしていないと思うのですが、加入のしかたもよくわかりません。
男性	20歳～29歳	どうやって加入するかわからない。
男性	50歳～59歳	以前は加入していたが、子どもが高校生になった時に加入のメリットが感じられなくなったため。
男性	20歳～29歳	母親が参加しているので私は参加する必要はないと考えている。
女性	60歳～64歳	住込みのため地域とのかかわりがない
女性	70歳～79歳	緑区に住むようになりまだまだ2年足らずなのできっかけがなく、家族は町内会に入会しております。
男性	30歳～39歳	加入の方法を知らない。
女性	30歳～39歳	よくわからない
男性	50歳～59歳	借家(アパート) ぜんぜん自治会の話なし。10年以上住んでいるが。
女性	30歳～39歳	自治会の存在を知らない。
男性	30歳～39歳	存在自体を知らない
女性	40歳～49歳	仕事をしているので参加できない
女性	30歳～39歳	どのように加入するか知らないため。
男性	30歳～39歳	マンション自体が加入していない
女性	20歳～29歳	入会の仕方がわからない。参加時間がない
女性	40歳～49歳	会費のみ払っているが、参加する機会がない
女性	40歳～49歳	マンションで入っていないため
男性	40歳～49歳	家族全員仕事が忙しいから
男性	30歳～39歳	加入せずとも生活に支障がないため
女性	40歳～49歳	転職の予定があるため
女性	40歳～49歳	活動が、小さな子どもよりのものが多いため
女性	50歳～59歳	マンションとして加入していないから
女性	30歳～39歳	子どももないし、必要ないかなと思って。
女性	30歳～39歳	仕事が忙しく、集まりや活動に参加できないため
男性	40歳～49歳	町内会費を納めているが、これで加入になるのかもわからない
男性	40歳～49歳	父が加入
男性	30歳～39歳	よくわからない
男性	70歳～79歳	隣家との間に家族が精神的苦痛を感じる事が多く、一緒に自治会活動等を行いたくないため
男性	20歳～29歳	親が加入しているが、自分は直接加入していない
女性	20歳～29歳	自治会の存在を知らなかったため
女性	50歳～59歳	アパート住まいのため
女性	20歳～29歳	加入の仕方がわからないし、メリットもわからない。いずれまた引っ越すから。
女性	40歳～49歳	配偶者の両親に任せている。
女性	40歳～49歳	管理会社から特に案内はなく、また個別にも何もなかった。

問9 自治会加入状況（加入していない理由）その3

性別	年齢	自治会に加入していない理由
女性	20歳～29歳	存在を知らない
女性	30歳～39歳	民間の賃貸マンションなので、自治会入会の案内がない
女性	30歳～39歳	近年出来たマンションで、自治会に入るには世帯数が多い拒否された。また、マンション内で自治会を作る話もあったが却下された。
男性	70歳～79歳	アルバイトをしているから
女性	30歳～39歳	自治会の活動内容など詳細がわからないため
男性	40歳～49歳	加入検討中
女性	40歳～49歳	アパートで加入しているかもしれないが、引っ越してきてから誘われていない。
女性	30歳～39歳	住んでいる地区の人数が多すぎるとい理由で、自治会に加入できない。
女性	40歳～49歳	加入するメリットが見出せない

問11 地域での助け合いの個人的な実践（助け合いの内容）その1

性別	年齢	助け合いの内容
女性	65歳～69歳	非営利の助け合い組織に立ち上げから参加、ヘルパーの資格を取り8年間活動しました。
男性	65歳～69歳	病院までの送り迎えを車にてお手伝いしている(依頼されたときのみ)
男性	70歳～79歳	自治会役員等
女性	60歳～64歳	徘徊の老婦人を自宅まで連れて行った
女性	65歳～69歳	草むしり
女性	30歳～39歳	育児の話を聞いたり話したり
男性	80歳以上	近所の子どもたちに絵画を教えました。(今年4月まで)
男性	65歳～69歳	バイク事故で119を呼んで介護した。パトロール(防犯)に行っている
女性	20歳～29歳	調味料の貸し借りから引越しの手伝い、相談すれば何でも
男性	65歳～69歳	自動車のバッテリーが上がったとき、始動補助をした
女性	60歳～64歳	お向かいが体の調子が悪いときごみ出し等をした
女性	65歳～69歳	病院へ一緒に行く 葬儀の手伝い 料理
女性	65歳～69歳	近隣づきあいがある
女性	30歳～39歳	町内会の班長をしていて、町内会の振込みが仕事で出来ず、お願いしたこと。
女性	65歳～69歳	悩みの相談
男性	70歳～79歳	グループで月4回以上、1～2時間で、また団地で年何回か片付け清掃等
女性	30歳～39歳	玄関の鍵を紛失したときにお向かいの方に助けていただいた
男性	70歳～79歳	ちょっとしたボランティアを地域で進めつつある。ごみ出し 家具移動、障がい者移動 介助
男性	65歳～69歳	自治会を通して、民宅委員として
女性	40歳～49歳	家庭防災委員、自治会班長
男性	20歳～29歳	盲人の案内
女性	80歳以上	清掃 植栽 イベントの協力
女性	70歳～79歳	乳幼児の保育(託児)
女性	70歳～79歳	老人会の役員として積極的に活動している
男性	40歳～49歳	小学校の「おやじの会」という地域での助け合い活動に参加している
男性	70歳～79歳	地域の防犯活動
女性	65歳～69歳	金銭トラブル
女性	60歳～64歳	自治会行事への参加 協力等
男性	30歳～39歳	幼稚園バス乗車までの送り迎え等
女性	50歳～59歳	冠婚葬祭での協力 猫の糞被害やゴミ集積場所の整備の相談等
男性	50歳～59歳	主に自治会活動の中で行っている。(敬老会等に)
女性	40歳～49歳	話し相手 病院送迎・こどもの預けあい 保育園の送り迎え等々
女性	65歳～69歳	特養のボランティア
男性	70歳～79歳	元気なころ、近所の植木の手入れやペンキ塗り等、男手のない家から依頼されてやった。老人ホームのボランティアとして植木の手入れ・草刈等
女性	50歳～59歳	病気の方々の話し相手

問 11 地域での助け合いの個人的な実践（助け合いの内容）その 2

性別	年齢	助け合いの内容
女性	65 歳～69 歳	鍵を預かる
女性	30 歳～39 歳	団地の掃除・ゴミ当番等
女性	65 歳～69 歳	近所の高齢の方に食料の買出しを依頼され、届けた
男性	70 歳～79 歳	町内の掃除をみんなで行っている
男性	70 歳～79 歳	民生委員
男性	40 歳～49 歳	そうじ 雪かき等
男性	65 歳～69 歳	樹木の剪定
女性	40 歳～49 歳	こどもたちの祭りの手伝いなど（父兄が参加できないこどもたち）
女性	60 歳～64 歳	特養ホームで月 2・3 回のボランティア
男性	80 歳以上	ご近所に不幸があり、葬儀の手伝い
女性	65 歳～69 歳	人工透析をしているため、近所の方が重い荷物を持ってくれたり、いつも気に掛けてもらっている。主人が救急車で運ばれたときは、病院まで車で送ってもらったり、退院のとき迎えにいらしてもらったりした。
女性	80 歳以上	日常生活会話
女性	65 歳～69 歳	こどもが小さいときにお互いに助け合った。病気のときなど手伝いをした
女性	30 歳～39 歳	横浜子育てサポート・シルバー人材センター
女性	50 歳～59 歳	一人暮らしの高齢（障がい）の方にこどもとともに灯油を買って届けてあげていた（マンション 4 階）
女性	70 歳～79 歳	班長 組長をかわってあげたことがある
女性	30 歳～39 歳	近所の方との会話や情報交換
男性	70 歳～79 歳	ニッポン・アクティブライフ・クラブ、NALC 横浜（赤い靴）会員、ボランティア活動
女性	50 歳～59 歳	知り合いの母親が入院されたので、こどもが小さかったため夕飯作りに困っていたのと、お年寄りの男性の方で娘さんより頼まれ夕食作り 2 件
男性	40 歳～49 歳	子育て、店情報等
女性	70 歳～79 歳	友達の体調が悪いときに買い物
女性	60 歳～64 歳	包括支援センターに 1 年前から介護相談。現在も利用 相談している
男性	80 歳以上	防犯パトロール活動と管理
女性	50 歳～59 歳	こどものことについて
女性	80 歳以上	一人暮らしの年配の方にごみの出し方 煮物を分け届ける・電話の取次ぎ等
女性	60 歳～64 歳	ボランティアを受けた
女性	65 歳～69 歳	一人住まいの高齢者の買い物 病院の付き添い
男性	40 歳～49 歳	周辺草刈程度
男性	70 歳～79 歳	車送り
女性	70 歳～79 歳	病気のとき
女性	50 歳～59 歳	話し相手 買い物 お惣菜を届ける
男性	80 歳以上	天井の板を直したり、台所の金具の外れたのを直したりした。
男性	40 歳～49 歳	学校の情報交換をする
女性	70 歳～79 歳	食事作り 外の清掃など
女性	30 歳～39 歳	こどもを通じた友人にこどもを少し預かってもらった
女性	65 歳～69 歳	病人の入院の手伝い
男性	50 歳～59 歳	住宅相談
女性	60 歳～64 歳	視力の不自由な方がいて、お出かけ等でフォロー
男性	70 歳～79 歳	病気見舞い
男性	70 歳～79 歳	付近の道路清掃・草刈等
男性	65 歳～69 歳	老人クラブの会長（5 年間）をやっており、独居の悩み 介護や障がいの悩み 健康や安全の不安 孫の小学校のスクールガード等について相談に乗っている。
女性	40 歳～49 歳	乳幼児の預かり
男性	60 歳～64 歳	庭園管理士の資格を生かし、植木の手入れ 竹林等の手入れ
男性	20 歳～29 歳	マンションの人に買い物をしてもらった
女性	65 歳～69 歳	ゴミ置き場の掃除を声掛けしている
男性	60 歳～64 歳	青少年指導員

問 11 地域での助け合いの個人的な実践（助け合いの内容）その 3

性別	年齢	助け合いの内容
女性	30 歳～39 歳	近所の人たちとの助け合い
男性	80 歳以上	ごみ出し
女性	65 歳～69 歳	10 年に一度団地役員
女性	30 歳～39 歳	こどものサークルで
女性	40 歳～49 歳	ぎっくり腰になった方を病院に連れて行った。公園の清掃作業をしながらこどもについての心配事を話し合った。
女性	40 歳～49 歳	こどもの預かり
女性	30 歳～39 歳	放課後ボランティア
女性	60 歳～64 歳	隣家で奥様が入院中、ご主人の食事を3ヶ月ほど作り届けていた。支援センターで日本語を教えるボランティアに参加。10年間くらい週1回買出しを手伝っていた。
男性	80 歳以上	ボランティア
男性	80 歳以上	緑消防団第五団員として4年間、地域の活動に参加の経験があるのを、町内組織活動の一環として心得ている。
男性	20 歳～29 歳	動物の躰・自動車、バイク等の修理
女性	30 歳～39 歳	身体障がい者の入浴介助
女性	40 歳～49 歳	怪我をしたとき病院まで車で連れて行ってもらった。
男性	70 歳～79 歳	少年野球の指導、監督
女性	70 歳～79 歳	食事を作ってあげた
女性	70 歳～79 歳	障がい者の助けをした。トイレ・車椅子の乗り降り
男性	30 歳～39 歳	大家さんに野菜をもらったりする
女性	70 歳～79 歳	乗り物で席を譲る 困っていそうだったら話しかける
女性	65 歳～69 歳	主人をなくされ精神的に不安定になられた方に声を掛けたり、散歩に誘ったりしていたら今はすっかり元気になった
男性	65 歳～69 歳	東本郷ケアセンターで料理の手伝い
女性	50 歳～59 歳	ボランティア
女性	80 歳以上	老人会などや福祉センターの方にお世話になっている。
男性	70 歳～79 歳	救急連絡、不在時の注意、お互い協力し合っている。
女性	30 歳～39 歳	民生委員を引き受けてしまったばかりに、自治会の活動参加・こんにちわ赤ちゃん事業員 成人の日のお祝い配布など断りきれずに引き受けている
女性	30 歳～39 歳	近所の年配の方を車で送迎している
男性	30 歳～39 歳	歩道の清掃
女性	40 歳～49 歳	緊急時車で送ったりする
女性	20 歳～29 歳	アパート周りの掃除
女性	30 歳～39 歳	防犯パトロール
男性	60 歳～64 歳	ゴミ当番をしてもらう
女性	30 歳～39 歳	仕事が忙しいときにゴミ捨て場の掃除を代わってもらった
女性	70 歳～79 歳	ゴミ当番のプランの提案。都合の悪い方に代わっての片付け
男性	40 歳～49 歳	地域連合の手伝い。
女性	50 歳～59 歳	一人暮らしの隣人（高齢者）になるべく声をかけるようにしています。
男性	40 歳～49 歳	前の家の方が倒れていたの、救急車の要請をした。
女性	30 歳～39 歳	上の子の用で出掛けるときに下の子を預かったことがある。
男性	20 歳～29 歳	庭の掃除等。廃品回収の手伝い。
女性	70 歳～79 歳	家の庭で急に足をひねったようになり歩けないくらいの方に杖を買ってきてあげて、一緒に病院へ行ってあげました。
女性	30 歳～39 歳	同じマンションのお母さんにこどもを預けたり預かったり。
女性	40 歳～49 歳	こどもの保育
女性	30 歳～39 歳	娘を数時間預かっていただいたり、駐車場をお借りしたり助けていただいています。
男性	65 歳～69 歳	自治会の役員をしているため相談等を受けている。
女性	50 歳～59 歳	こどもの引取りの助け合い。学校関連連絡の交換。近所の助け合い。
男性	70 歳～79 歳	老人の世話役をやっている。
男性	80 歳以上	色々と。

問 11 地域での助け合いの個人的な実践（助け合いの内容）その 4

性別	年齢	助け合いの内容
女性	40 歳～49 歳	交通整理・公園清掃
男性	70 歳～79 歳	家の修理のときに駐車場を借りた。
女性	70 歳～79 歳	障がい者の手助け
男性	65 歳～69 歳	物の修理や、使い方について教えてあげたり処理する
女性	70 歳～79 歳	友愛活動推進員なので見守りをしている
女性	30 歳～39 歳	同じマンションの人と知り合いになり、こどもと遊んだりおかずをもらったりする。近所の方はこどもによ話しかけてくれる。
男性	70 歳～79 歳	庭の草刈等
女性	60 歳～64 歳	介護で大変なとき、親しくしているご近所の人に手伝ってもらった。
女性	70 歳～79 歳	奥さんが病人(奥さんの夫)の看病に困ったときに手助けと助言をした
女性	20 歳～29 歳	小学校でのボランティア
女性	40 歳～49 歳	近くの人とこどもを預けたり預かったり
男性	50 歳～59 歳	自治会の敬老会で手伝いをしている
男性	50 歳～59 歳	介護について
女性	65 歳～69 歳	知的障がい者の方の在宅支援(たけのご体操教室等)、一人暮らしの方のごみ出し・買い物(重たいもの)、通院介助
女性	65 歳～69 歳	近所で一人暮らしの方に、野菜や煮物などたくさん作ったときに持って行き話している
女性	70 歳～79 歳	ボランティア
女性	40 歳～49 歳	マンション自治会参加、夏祭り準備 片付けの手伝い、マンション近隣の清掃
女性	30 歳～39 歳	近所の手伝い。自宅に帰れなくなっていたので支えながら帰宅した
女性	60 歳～64 歳	年寄りの話し相手。友達が病気のときに買い物。
女性	70 歳～79 歳	公園の草むしり
男性	70 歳～79 歳	パソコンの使い方を教えた。大工仕事の手伝いをした。
女性	80 歳以上	買い物をしてもらう
女性	65 歳～69 歳	友達で祖母を見ている人が困っていることを助けたり愚痴を聞くこと
女性	65 歳～69 歳	近所の年寄りの話し相手、病院の付き合いなど
女性	30 歳～39 歳	実家の両親が車で来たときに駐車場を貸してもらった
女性	50 歳～59 歳	近所の障がい者とのかわり
女性	50 歳～59 歳	ごみ出し。ご主人が入院され、現在一人暮らししている方の話し相手。
男性	40 歳～49 歳	こどもを預かってもらった
女性	40 歳～49 歳	話し相手
男性	40 歳～49 歳	在住地区が高齢化しているため、家を訪ねたり周囲の清掃等、高齢者では出来ないことを進んでやるようにしている。
女性	50 歳～59 歳	お話ボランティア
女性	50 歳～59 歳	自治会の手伝い
女性	80 歳以上	話し相手 外回りの掃除・買い物
女性	60 歳～64 歳	自転車の空気がなくパンクかと思っていたところ、同じマンションの方が空気を入れてくれ、また使えた。
男性	40 歳～49 歳	転勤で越してきたころ、毎日広い家にぼつんといた妻はよぐ立っていた。
男性	65 歳～69 歳	ボランティア活動 NPO 活動
男性	30 歳～39 歳	知的障がい者の相談ボランティア
男性	40 歳～49 歳	向の一人暮らしのおばあちゃんの異変に、応急処置と救急車の手配をした。
女性	40 歳～49 歳	子育ての相談や通学路の安全面についての相談を受けたことがある。
女性	80 歳以上	仲間同士で話し合いの機会を設けている
女性	40 歳～49 歳	小学校での読み聞かせボランティア
女性	50 歳～59 歳	ごみ収集の件で掃除当番や不法投棄の件で
女性	50 歳～59 歳	病気の奥様の話し相手や食事作りの補助的な手伝い
男性	70 歳～79 歳	庭の木枝取り
男性	40 歳～49 歳	重い荷物を近所の方に手伝ってもらい一緒に自宅へ運んだ
女性	70 歳～79 歳	騒音や犬の鳴き声等、迷惑をかけるときに話し合っている。

問 11 地域での助け合いの個人的な実践（助け合いの内容）その 5

性別	年齢	助け合いの内容
男性	40 歳～49 歳	子育てサポート
女性	40 歳～49 歳	お年寄りの手伝い、灯油運び
女性	40 歳～49 歳	私道の草むしり、どぶ掃除など
男性	60 歳～64 歳	介護を受けている人に話しかける
女性	65 歳～69 歳	老齢の方で、日常生活で困っているときに相談に乗ったり助けたりしている
女性	30 歳～39 歳	掃除を手伝ったりした

問 12 地域の方との今後のかかわりたい程度（かかわりたい場合の内容）

性別	年齢	地域の方とのかかわりの程度
女性	50 歳～59 歳	地域のこどもたちを見守るなど
女性	65 歳～69 歳	依頼があれば、出来ることなら
女性	40 歳～49 歳	自治会役員など
女性	30 歳～39 歳	余裕があれば
女性	60 歳～64 歳	無理のない範囲であれば
女性	40 歳～49 歳	自治会行事など
女性	30 歳～39 歳	行事の手伝い程度
女性	70 歳～79 歳	体調の良いときだけ活動する
女性	50 歳～59 歳	話し相手
女性	20 歳～29 歳	こども同士一緒に遊ばせたい。
女性	40 歳～49 歳	出来る限り関わりたいと思うが、小さいこどもや障がい児を持っているため、制限がある。
女性	70 歳～79 歳	話し相手
女性	80 歳以上	老人ホームに入居中
女性	30 歳～39 歳	こどもを短時間でも預けたい
男性	30 歳～39 歳	お金になるなら
男性	50 歳～59 歳	趣味等で
男性	70 歳～79 歳	現在こども110 番の家の委託を受けている。

問12-1 地域の方との今後のかかわりたい程度(かかわりたくない理由) その 1

性別	年齢	地域の方とかかわりたくない理由
男性	65 歳～69 歳	人に干渉されたくないし、自分も人を干渉したくない
女性	65 歳～69 歳	近所の人とは難しい。家の前が公園で、幼児が遊ぶ砂場とプランコ周りのごみ拾いは毎日やっています。私の中では“子育て支援”と位置づけています。直接接しなくても助け合えることは色々あります。
男性	80 歳以上	めんどうだから
男性	20 歳～29 歳	余裕がない
女性	80 歳以上	年だから。家族がしてくれているので
男性	80 歳以上	もう年なので、体力的に無理です(89 歳)
女性	65 歳～69 歳	特に必要を感じない
男性	20 歳～29 歳	面倒
男性	40 歳～49 歳	病気のため
男性	65 歳～69 歳	忙しい体力がついていかない
女性	80 歳以上	年齢的に活動できない
男性	60 歳～64 歳	多忙
女性	65 歳～69 歳	知らない人はよくわからないので怖い。
女性	40 歳～49 歳	精神障がい者なので他人には言いづらい。町田市の病院のデイケアなどでコミュニケーションをとっている。近くに支援センターがあるが、なかなか仲間に入れてくれない。ランクがデイケアより高い。

問 12-1 地域の方との今後のかかわりたい程度(かかわりたくない理由) その2

性別	年齢	地域の方とかかわりたくない理由
男性	60歳～64歳	仕事のため時間的に厳しい
男性	50歳～59歳	必要性を感じない
女性	80歳以上	寝たきりのため
女性	60歳～64歳	わずらわしい点があるから
女性	60歳～64歳	福祉にかかわる仕事をしているので、多忙だがいずれは出来ると思う
男性	20歳～29歳	自身のことで手一杯なため
男性	70歳～79歳	近隣に子どもがいないから
男性	70歳～79歳	体調に自信がない
女性	80歳以上	身体不自由のためほぼ屋内のみにて生活
女性	30歳～39歳	一人暮らしであまり家にいないため
女性	80歳以上	老人だから
男性	50歳～59歳	時間的余裕がない
男性	70歳～79歳	病後、左半身麻痺があり、歩行が不安定で時間がかかりつかれやすいため
男性	70歳～79歳	すぐに風邪を引いたり、年のせいで体力が持たない
女性	30歳～39歳	めんどくさい。個人の深いところまでかかわりたくない。
男性	30歳～39歳	借家なのでそのうち引っ越す予定。地元の方と関わってもあまり意味がないと考えている。
女性	80歳以上	目も不自由で、身体も歩行困難なため
女性	80歳以上	高齢のため自分自身のことだけで手一杯
女性	65歳～69歳	声を掛けても相手が遠慮する。親しい方ほど遠慮する
女性	30歳～39歳	仕事中心の生活のため、関わる時間ナシ
男性	40歳～49歳	仕事が忙しく、精神的な余裕がない
女性	40歳～49歳	仕事や家事だけで手一杯なので今は地域のことは最低限にとどめたい。
男性	20歳～29歳	仕事が忙しく時間がない
男性	40歳～49歳	仕事が忙しい
女性	70歳～79歳	自分自身が高齢のため
女性	30歳～39歳	仕事が忙しい、他人と生活リズムが違う
女性	60歳～64歳	共通の話題がない
女性	65歳～69歳	息子はあまり関わりたくないといっている
男性	80歳以上	相手にもよるが、後でいやな思いをするのを避けるため
女性	65歳～69歳	障がい者
女性	20歳～29歳	マンション内の人とかかわりだけで十分。幼稚園から私立に通っていたため、近所に友人がいない。
女性	80歳以上	体力が衰えているため
女性	30歳～39歳	仕事が不規則(夜勤がある)
男性	60歳～64歳	自分が利己的な性格であるため
女性	65歳～69歳	自分は言葉がきついので、相手の気分を悪くさせてしまうから
男性	80歳以上	自分が体調不良のため
女性	70歳～79歳	自分自身にたいして自信がないから
女性	20歳～29歳	めんどくさいことが嫌いなため
女性	40歳～49歳	マンションの自治会役員をしているから
女性	不明	今は特に必要を感じない。
女性	40歳～49歳	母が病気のため
男性	30歳～39歳	自分自身に子どもがいないため
女性	40歳～49歳	耳が遠いので自分から話したくない。手話も出来るわけではない。
男性	20歳～29歳	勉強が忙しいから
男性	30歳～39歳	賃貸のためすぐ引っ越すから
女性	80歳以上	足腰が弱くなったため
女性	80歳以上	やってあげたくても自分では出来ないし、今はしてもらおうほうが多いため
男性	70歳～79歳	年齢
女性	不明	今まで機会がなかったもので、どのようなことが出来るかわからない

問 12-1 地域の方との今後のかかわりたい程度(かかわりたくない理由) その3

性別	年齢	地域の方とかかわりたくない理由
女性	80歳以上	体調不良のため
女性	70歳～79歳	足が悪く毎日リハビリを受けている
女性	20歳～29歳	アパート時代に比べ仲よくないから
女性	30歳～39歳	平日は仕事、休日は勉強。今は関わりたくない。
女性	40歳～49歳	今は家のことでいっぱいだから
男性	60歳～64歳	わずらわしい。困ってれば相談に応じたい
女性	60歳～64歳	病気のため
女性	40歳～49歳	かかわりたい人と、かかわりたくない人がいるため。
女性	30歳～39歳	自治会の役員になってしまう可能性がある。今は仕事で手一杯。
男性	50歳～59歳	仕事が忙しい。
男性	30歳～39歳	めんどくさい。
男性	50歳～59歳	時間がない。自分のことに時間を使いたい。
女性	70歳～79歳	あまり好きでない。
女性	80歳以上	高齢、病気通院中(杖使用)の為
女性	70歳～79歳	他人とのコミュニケーションが苦手。耳も声、音などがスッキリ聞こえない。
男性	20歳～29歳	忙しいので。
女性	60歳～64歳	勤務の都合上
男性	70歳～79歳	健康維持、語学学習、趣味に費やす時間で一日の時間が不足していて他に割く余裕がない。
男性	50歳～59歳	実家に戻る予定がある。
女性	70歳～79歳	気持ちはあっても体力がついていかない
女性	50歳～59歳	あいさつ程度の付き合いでいいと思う。面倒なことに関わりたくない
男性	50歳～59歳	体力的な問題
女性	30歳～39歳	不在が多いため
女性	60歳～64歳	仕事があるので時間的余裕がない
女性	70歳～79歳	高齢になって暮らし始めた地域なので、馴染めないし、静かに過ごしたい。
男性	40歳～49歳	苦手だから
女性	50歳～59歳	いろんなストレスを抱えている。家族を大事にしたい
男性	70歳～79歳	自身が身体障がい者であるから
女性	60歳～64歳	引っ越してきて年数がたっておらず、地域のことわからないし、親しい人もいない
女性	70歳～79歳	歩行が困難
女性	70歳～79歳	高齢と、健康上の問題のため
女性	30歳～39歳	どの程度信頼できるかによるのでわからない。なんともいえない
女性	30歳～39歳	仕事が忙しい。
男性	40歳～49歳	高齢者自らが、自分は何も出来ないと他力本願になり、最低限のこともしないようになり、近隣にとどまらず家の中、本人の面倒等エスカレートする。こどももいるのにこどもにはやらせないし、しかし他人にはしてもらいたいと、自分勝手な方が多い。
女性	70歳～79歳	自分の生活で精一杯
男性	40歳～49歳	地域は老人や未就学児の家庭で、我が家と接点もないし職場やこどもの友人に満足しているため
女性	70歳～79歳	娘が大変な病気を抱え、厳しい生活をしているので我が家のことで現在は精一杯
女性	50歳～59歳	最低限必要とされる範囲にとどめたい
女性	20歳～29歳	自身の生活にあまりにも余裕がないため
女性	80歳以上	体調が悪く外出できない。体調不良
女性	30歳～39歳	仕事で時間がない
女性	30歳～39歳	面倒だから
男性	70歳～79歳	仕事が多忙なため
女性	65歳～69歳	母が認知症で在宅時は付き切りのため
女性	70歳～79歳	自宅住まいでないため
女性	50歳～59歳	忙しいから近所の人と会わないし、今は自分で精一杯。
女性	65歳～69歳	片耳が聞こえないので

問 13 隣近所の困っている方とかかわれる程度（地域で困っている方にかかわれること）その 1

性別	年齢	困っている人にかかわれる内容
女性	65歳～69歳	この方は手助けが必要なのはと気がついた時、民生委員や地域ケアプラザに連絡する。
女性	70歳～79歳	腰と足が痛くて整形に通っているので、話し相手くらいなら出来ると思う
男性	80歳以上	相談ならいくらでもかかわれる
女性	70歳～79歳	声をかけてくれれば出来る限りやりたい
男性	60歳～64歳	庭仕事・農作業手伝い
女性	70歳～79歳	こどもが好きなので、子育て相談や短時間の預かりなら出来る。
男性	70歳～79歳	お年寄りが重い荷物を持って階段・坂などを登っているとき
女性	65歳～69歳	通勤途中に通学路があり大勢通学している。こどもたちが4人くらい横になって話をしたり、横を向いて並んで歩いている。十字路には交通整理が立っているが、並んで歩く歩道に誰か立ってこどもの様子を注意掛けできると良いと思う
女性	40歳～49歳	短期間的な問題の手助けならかかわれる。ヘルパー2級講座に通っているため、老人・障がい者のかかわる問題など。
女性	65歳～69歳	そうじ・食事作り・話し相手
女性	65歳～69歳	現在パートで働いているので、定年後から積極的にかかわれると思う
男性	60歳～64歳	ちょっとした買い物
女性	65歳～69歳	本など読んでほしいとき(目の不自由な方などに)
男性	50歳～59歳	単身赴任のため、常時自宅にいないため
男性	70歳～79歳	話し相手
女性	70歳～79歳	主人の介護で一つもできない
女性	40歳～49歳	本の読み聞かせなど
男性	30歳～39歳	建築の仕事についているので住環境の相談なら少しは手助けできるかもしれない。
男性	80歳以上	本人がすでに高齢者であり、体調不良で通院しているため、手助けは無理。
女性	65歳～69歳	時々孫の世話をしている。今しばらくは出来ない。
女性	30歳～39歳	楽器演奏による音楽の楽しみ
女性	30歳～39歳	サークル活動のリーダー
女性	80歳以上	夫が3年前から入院中、自分83歳の高齢、お見舞いを仕事としてすごしており、自身がほかに負担を掛けぬようにと思っている。
女性	30歳～39歳	仕事が忙しく、地域と関わっている余裕がない
女性	60歳～64歳	障がい者なので出来ない
女性	70歳～79歳	隣の一人暮らしの奥様のために、洗濯物が出ていなかったときに心配し、ベランダ越しに声をかけ、時には1時間話を聴くときもある。
女性	65歳～69歳	自分が69歳なので通院も多く、今は「自分のことは自分で」「人に迷惑を掛けない」ということで精一杯
女性	70歳～79歳	話し相手
女性	50歳～59歳	自分自身に持病があるため、あまり手伝えそうにない。自分が人の迷惑にならないように暮らすことで精一杯
女性	60歳～64歳	ちょっとした縫い物・草取り
女性	20歳～29歳	いずれも育休中のみ対応可能
女性	80歳以上	一人住まいのため、逆に手助けしてほしい
女性	70歳～79歳	養護ホームに入所しているので、なかなか外部の人と会えない
男性	60歳～64歳	電機関連修理・簡単な木工作
女性	50歳～59歳	一人暮らしのお年寄りの安否の確認はできるが、悩み事やお金を扱うことはボランティアでは難しい
男性	60歳～64歳	庭園管理
女性	65歳～69歳	身体の不自由な方のために、ごみ出しは手伝ってあげたい。
女性	30歳～39歳	今は難しい
女性	60歳～64歳	現在自分が病院通いをしているので、どのくらい助けが出来るのか。出来るときに出来ることを、と思っている。
男性	80歳以上	自分が年であるため、よそまで手を廻しかねる。
女性	30歳～39歳	精神障がいの方なら広く関われる。

問 13 隣近所の困っている方とかかわれる程度（地域で困っている方にかかわれること）その2

性別	年齢	困っている人にかかわれる内容
女性	40歳～49歳	教育に関すること
女性	65歳～69歳	ヘルパーとして週3件行っているが、これからはボランティアのほうを、と考えている。
女性	40歳～49歳	難聴でも理解してくれる方なら関われる。
男性	40歳～49歳	ごみ出し、荷物手伝い等
男性	70歳～79歳	家の中での事故は見えないため難しい。
女性	30歳～39歳	郵便物のお届け(ポストから玄関へ)
女性	20歳～29歳	地域コミュニケーションイベントの手伝いなど
女性	40歳～49歳	自分の仕事や家事以外で空いている時間がある限り、やれることがあれば手伝いたいと思うが、人とかわり責任の有無を問われることに関しては正直怖いと思う。地域の子どもたちの安全に努めたり、夜回りパトロール等なら積極的に参加して下さるお父さん方とやってみたい。
男性	70歳～79歳	6,7,8位なら出来る。
女性	40歳～49歳	必要な情報をインターネットで調べてあげること
男性	30歳～39歳	各関係機関への紹介・連絡
女性	80歳以上	老人ホームの方達には現在大変お世話して下さっています。自分自身のことだけで無理です。
女性	30歳～39歳	提案としてやはり老人や子どもへの地域での助け合いが必要だと思う。元気な老人が働くお母さんの子どもを見る、預かるというのもありかなと思う。子どもへの虐待はお母さんたちが核家族で孤立してしまっているからだと思うので、地域のお年寄りとのふれあい、また年輩者としてアドバイスとかしてもらったりができればいいのでは。
女性	50歳～59歳	時間があるときの相談(話を聞く)、安否確認(日曜なら可)、買い物(仕事の帰りに)
男性	20歳～29歳	金銭管理、成年後見人
男性	70歳～79歳	知人に要介護の先輩がいるが、時折病院の送迎を行っている。
女性	70歳～79歳	時々なら自分の体力が許す限りお手伝いします。
女性	40歳～49歳	宅配を代理で受け取る。留守時の新聞保管
男性	70歳～79歳	77歳なので自分のことで精一杯。
女性	70歳～79歳	どの項目も時間があれば出来る。
女性	70歳～79歳	ミンで補修(ズボンすそ直し擦り切れ等)
女性	60歳～64歳	今は自分が身体障がい者の介護をしているので時間が取れないが、この経験を生かし時間が出来たら手助けしたい。
男性	70歳～79歳	自分が病気のため出来ない
男性	20歳～29歳	パソコンの設定、書類の作成補助
女性	50歳～59歳	パトロール
男性	50歳～59歳	介護しなければならない人がいるので、かなり難しい
女性	70歳～79歳	そのときにならないとわからない
女性	40歳～49歳	子育ての手伝い
女性	60歳～64歳	デイケアに行くための支度の手伝い
女性	30歳～39歳	幼稚園・小学校教諭の資格はあるので、子どもについてのことで出来ることがあるかもしれない。しかし自身に子どもがいるので、積極的にには難しい。
女性	50歳～59歳	介護の専門職なため、介護に関する相談等。
男性	40歳～49歳	近隣に小さな子どもがいらないため、子どもについてのことはわからないが、老人については相手にもよるので、助け合いの気持ちがあっても当たり前のように思われると自分の生活がなくなり、仕事も出来ない状況に陥る。手助けの精神はあるが、人によりけり。
女性	50歳～59歳	運転できるのですぐ働ける。
女性	60歳～64歳	困っている方には手伝ってあげたいと思う。現在は働いているので、出来るところで支えてあげたい

問 13 隣近所の困っている方とかかわれる程度（地域で困っている方とかかわれること）その 3

性別	年齢	困っている方とかかわれる内容
女性	20 歳～29 歳	定期的に高齢者や孤立している人への声掛けや近状をうかがう
女性	20 歳～29 歳	知っているなら関われるが、話したこともない隣の人などは難しい。自分のこどもが小さいので手が回らない。
女性	60 歳～64 歳	現在父子家庭の息子と同居中で子育て中なので、時間的余裕がない。時間が作れるときなら。
女性	40 歳～49 歳	訪問して声掛け
男性	50 歳～59 歳	自治会の手伝い
女性	30 歳～39 歳	仕事をしているので時間にもよるが、買い物等手伝えると思う
女性	40 歳～49 歳	時間に制限のないことや、昼間に限らず主人と一緒に出来る時間帯であれば出来る(夜間・土日)

問 14 ボランティア活動の参加経験（行ったボランティア活動の内容）その 1

性別	年齢	ボランティア活動内容
男性	60 歳～64 歳	神社清掃
女性	65 歳～69 歳	特別養護老人ホームに月 1 度、20 年近く行っています。施設の推薦で市長賞を頂きました。
男性	65 歳～69 歳	公園の掃除・草むしり
女性	65 歳～69 歳	老人施設での踊りのボランティア
男性	80 歳以上	アート展の役員として活躍している
男性	65 歳～69 歳	盆踊り大会での応援やパトロール防犯
女性	50 歳～59 歳	今は働いているので難しい
女性	70 歳～79 歳	雨が降らない限りリハビリをやりながら毎日ゴミ合いと階段の手すりを拭いている
女性	65 歳～69 歳	食事会(70 歳以上の方)での手伝い、老人クラブで月 1～2 回手芸を教えている。保健活動推進員を 10 年以上
女性	65 歳～69 歳	地域の清掃
男性	65 歳～69 歳	週 1 回防犯見回り
女性	70 歳～79 歳	三味線民謡等で敬老の日等に稽古
女性	40 歳～49 歳	公園のゴミ合い・夜間パトロール
男性	70 歳～79 歳	地域の人(お年寄り)に習字を教えた
女性	40 歳～49 歳	読み聞かせ 未就学園児の教室(教会)
女性	65 歳～69 歳	ささえあい活動(3～4 年前から)
女性	30 歳～39 歳	子育て支援施設でのお手伝い
男性	70 歳～79 歳	ちょっとしたボランティアを推進している。小学校の見回りを仲間と毎日行っている
男性	50 歳～59 歳	緑保全
男性	30 歳～39 歳	防災活動
女性	70 歳～79 歳	老人会で時々踊っている
女性	65 歳～69 歳	公園の掃除
男性	40 歳～49 歳	地域の掃除
男性	65 歳～69 歳	自治会活動、民生委員、社協
女性	40 歳～49 歳	防災訓練時のたきだして 350 人分のおにぎり作り
女性	60 歳～64 歳	緑区内ではないが、双子ちゃんのママの支援
女性	60 歳～64 歳	青少年指導員としての活動
男性	70 歳～79 歳	掃除・草むしり・清掃ゴミ合い
女性	40 歳～49 歳	特別支援学校で付き添いなど
女性	70 歳～79 歳	防犯パトロール・中学校での読み聞かせ
女性	70 歳～79 歳	年 2 回老人ホームや独居老人のところで舞踊
男性	40 歳～49 歳	小学校におけるボランティア活動
男性	70 歳～79 歳	3～4 年前より学童下校時の見回り 夜の防犯パトロール
女性	65 歳～69 歳	老人ホームでの食事作り手芸 庭の花作り
男性	50 歳～59 歳	毎年 1～2 回公園の掃除

問 14 ボランティア活動の参加経験（行ったボランティア活動の内容）その2

性別	年齢	ボランティア活動内容
女性	60歳～64歳	お年寄りの送迎等
男性	30歳～39歳	神社清掃
女性	40歳～49歳	小学校での献血（それ以外にも年1・2回はやっている）
男性	50歳～59歳	自治会活動自体がボランティア活動の1つにつながると考える。
女性	40歳～49歳	子育て（相談）
男性	65歳～69歳	ハーモニーみどり・デイサービス 親子食育会等への手打ちそばの試食会等
女性	65歳～69歳	特養でのボランティア 音訳ボランティア
男性	30歳～39歳	清掃
女性	65歳～69歳	家防
女性	50歳～59歳	こどもたちのイベント参加 手伝い
男性	70歳～79歳	道路通路等ゴミ掃除
女性	30歳～39歳	育児サークル
女性	60歳～64歳	中途障がい者のためのボランティア 『ひまわり教室』の手伝いを時々している。
男性	65歳～69歳	防犯 防災パトロール・スポーツボランティア 地域の樹木の剪定など
女性	40歳～49歳	子ども会の手伝い
女性	60歳～64歳	特養ホームでのシーツ交換 月1回開かれる喫茶のお手伝い
男性	70歳～79歳	防犯パトロール 公園の清掃 花を植える等
男性	65歳～69歳	農業の収穫
女性	65歳～69歳	地域の花植え。自治会活動
女性	50歳～59歳	団地内で植栽についてのグループ。月2回ほど小作業を行っている
女性	50歳～59歳	公園掃除 受付
男性	70歳～79歳	1ヶ月に2回おこなっている
男性	70歳～79歳	配食サービス
女性	30歳～39歳	認知症サポーター研修・キャラバンメイト活動
女性	40歳～49歳	日本語を外国人に教える手伝い
男性	30歳～39歳	公園掃除
女性	60歳～64歳	チラシ配り
女性	70歳～79歳	コミュニティで老人食事会の手伝い
男性	50歳～59歳	消防
男性	80歳以上	区民会議 防犯パトロール6年継続
女性	40歳～49歳	地域清掃
女性	65歳～69歳	防犯パトロール(夜間)
女性	70歳～79歳	4年前から「長津田ジャズ愛好会」に参加して地元でジャズ祭りを開催している
女性	60歳～64歳	家庭防災員 自治会棟長
男性	70歳～79歳	自治会の防犯パトロール
男性	80歳以上	自治会 社協の会長として企画・立案
男性	70歳～79歳	公園の草取り
女性	70歳～79歳	話し相手
男性	80歳以上	身体の不自由な方の暮の相手
女性	30歳～39歳	昨年犬の福祉活動でのデモンストレーション犬で参加
女性	65歳～69歳	自治会行事の手伝い
男性	70歳～79歳	パソコン指導
男性	65歳～69歳	自治会活動
女性	50歳～59歳	みどり 川と風の会で月に一度鶴見川の掃除
男性	50歳～59歳	サッカー団体に属し 草刈などをやっている
男性	70歳～79歳	草刈 清掃
男性	65歳～69歳	老人クラブの企画・立案 運営。ケアマネジャー等への郷土史講義
女性	40歳～49歳	夕方パトロール
女性	50歳～59歳	マンション 道路の清掃
男性	60歳～64歳	横浜市市民の森(三保の森)愛護会
男性	65歳～69歳	清掃

問 14 ボランティア活動の参加経験（行ったボランティア活動の内容）その3

性別	年齢	ボランティア活動内容
男性	60歳～64歳	青少年指導員(10年間)
女性	65歳～69歳	公園掃除
男性	50歳～59歳	パトロール
女性	60歳～64歳	地域子ども会の役員(会長)
女性	40歳～49歳	毎週1回のパトロール
女性	40歳～49歳	フェスタみどりのわ PTA 活動(校外実行 学年学級 ボランティア清掃等) 緑心身連の活動 社協障がい者部会
女性	30歳～39歳	放課後ボランティア
女性	60歳～64歳	中山の支援センターで日本語を教えている。
男性	80歳以上	道路清掃
男性	80歳以上	町内会 老人会の活動として参加
男性	20歳～29歳	区外でゴミ拾い 交通整理
男性	40歳～49歳	草むしり
女性	65歳～69歳	地域ケアプラザで老人介護
女性	70歳～79歳	子育てサポート
男性	20歳～29歳	北八朔公園に木を植えるボランティア
女性	30歳～39歳	民生委員
女性	30歳～39歳	横浜市の電話相談員
女性	40歳～49歳	子ども会
女性	40歳～49歳	掃除
女性	30歳～39歳	老人デイサービス
男性	65歳～69歳	防犯活動など
男性	50歳～59歳	祭り・運動会・花見・小学校行事
男性	80歳以上	公園の清掃
女性	60歳～64歳	食生活等改善推進員
男性	50歳～59歳	防犯パトロール
女性	70歳～79歳	アルツハイマーの方を探して回ったり 駅からタクシーに乗せてつれて帰ったりした。
女性	50歳～59歳	自治会の活動
女性	65歳～69歳	ボランティアグループで地域の特養ホームで月二回喫茶店を開き入居者と交流
女性	50歳～59歳	町内運動会、お祭り、大掃除、バザーなどの手伝い等。
女性	70歳～79歳	平成10年～14年の5年間、食事会のお手伝い。
女性	40歳～49歳	募金活動
男性	65歳～69歳	公園清掃、小学生の下校時パトロール
女性	65歳～69歳	地域のゴミ収集
女性	65歳～69歳	おもちゃ病院開院日受付係
女性	40歳～49歳	夏休み中公園の清掃
男性	40歳～49歳	緑区野球の審判
男性	65歳～69歳	公園清掃等
女性	60歳～64歳	学校で生徒とともにフォークダンス。ケアプラザでフォークダンス
女性	50歳～59歳	月2～3回社会福祉協議会のボランティア部の手芸品作りを手伝っている。
女性	70歳～79歳	食事会でケアセンターに参加
男性	70歳～79歳	献血運動 交通安全
女性	50歳～59歳	学校の、花いっぱい運動。町内での清掃・パトロール
男性	30歳～39歳	祭りの手伝い
男性	80歳以上	団地内及び公園の清掃等
女性	30歳～39歳	募金活動(心臓移植のこどもさんへ。友人たちに声をかけて、自宅で教室を開き授業料を募金)
女性	60歳～64歳	地域の清掃活動
女性	40歳～49歳	学校のPTA
男性	50歳～59歳	自治会役員
女性	65歳～69歳	老人給食会

問 14 ボランティア活動の参加経験（行ったボランティア活動の内容）その 4

性別	年齢	ボランティア活動内容
男性	70 歳～79 歳	安全パトロール・祭り参加
女性	70 歳～79 歳	ごきげんくらぶ・十友会
女性	60 歳～64 歳	町内会の役員 行事参加・パトロール
女性	50 歳～59 歳	防犯パトロール
女性	60 歳～64 歳	特定非営利活動法人 WE21 ジャパンみどりに不用品を寄付している
女性	50 歳～59 歳	3 年ほど前まで沿道に花を植えたり水遣りをする活動に参加していた。
女性	50 歳～59 歳	フラダンス
女性	40 歳～49 歳	朝晩、外出したら自宅周辺のゴミを拾う(バス停・コンビニ・小学校近辺等)
男性	70 歳～79 歳	夜間パトロール
女性	60 歳～64 歳	赤い羽根募金で駅前に立つ。駅前清掃
男性	65 歳～69 歳	防犯パトロールと、小学校近くの横断歩道で交通指導
女性	70 歳～79 歳	公園の草むしり
男性	70 歳～79 歳	パソコンボランティア
女性	50 歳～59 歳	地域の清掃
男性	80 歳以上	地域ボランティア協会の企画に参加
女性	60 歳～64 歳	公園掃除
男性	40 歳～49 歳	小学校で英語本読み聞かせ、LAN 導入手伝い
男性	40 歳～49 歳	自治会活動の役員として参加
女性	50 歳～59 歳	お話ボランティア
男性	40 歳～49 歳	こどもの送迎時の当番
男性	30 歳～39 歳	愛の羽共同募金の街頭呼び込み
女性	40 歳～49 歳	防災訓練
女性	30 歳～39 歳	障がい児の通学支援
女性	40 歳～49 歳	デイサービス利用者へのお菓子作り
女性	60 歳～64 歳	10 年以上前だが、消費生活推進委員地区代表。家庭防災員
女性	65 歳～69 歳	自治会の防犯パトロールに週 1 参加していた
男性	70 歳～79 歳	小学校の野球活動
女性	40 歳～49 歳	小学校での読み聞かせボランティア、地域の一斉清掃
男性	70 歳～79 歳	緑区グリーンGREENの活動
女性	40 歳～49 歳	公園掃除、パトロール
男性	40 歳～49 歳	力仕事
女性	40 歳～49 歳	小学校での読み聞かせ
男性	60 歳～64 歳	新潟震災のとき 5 日間デイサービスの送迎
女性	65 歳～69 歳	外人に対して日本語教育
女性	30 歳～39 歳	近所のゴミ合い

問 15 ボランティア活動に参加するための必要事項

性別	年齢	ボランティア活動参加に必要なことから
女性	65歳～69歳	時間
女性	20歳～29歳	活動を楽しむ気持ち
女性	80歳以上	年齢的に出来ない
男性	30歳～39歳	当番などの役職を強制しない(多数決なども)
女性	65歳～69歳	時間的余裕があること
女性	70歳～79歳	高齢のため参加できない
女性	30歳～39歳	内容にもよるが、責任の所在
女性	60歳～64歳	参加できない
男性	80歳以上	健康
女性	60歳～64歳	役に立てること
男性	40歳～49歳	その活動に意味があると思えること
男性	20歳～29歳	やりがい
女性	70歳～79歳	自分が障がい者なので
男性	70歳～79歳	自分の健康
女性	80歳以上	参加できない
女性	80歳以上	参加しない
男性	60歳～64歳	時間
男性	70歳～79歳	老人会の世話および防犯パトロール(毎日)
女性	40歳～49歳	ボランティアの意義の事前説明
男性	50歳～59歳	病人なので無理
女性	70歳～79歳	年齢的に無理
男性	70歳～79歳	健康であること
女性	30歳～39歳	専門家の存在
男性	40歳～49歳	時間(自分の)
女性	30歳～39歳	参加者が多いこと、必要とされていること
男性	40歳～49歳	休み
女性	20歳～29歳	自分の関心があること
男性	70歳～79歳	時間
女性	40歳～49歳	情報
男性	40歳～49歳	必要性の理解

問 16 地域のボランティア活動参加依頼への対応 その1

性別	年齢	ボランティア活動参加依頼への対応
男性	60歳～64歳	仕事が休みなら参加
男性	60歳～64歳	参加は問題ないが時間が難しい
女性	80歳以上	年だから無理
女性	80歳以上	参加できない
女性	65歳～69歳	仕事をやめてから参加したい
男性	50歳～59歳	時間的に無理なので参加できない
男性	70歳～79歳	足が悪いため歩けない
女性	40歳～49歳	今は無理
女性	65歳～69歳	仕事との時間などの兼ね合いを気にしている。
女性	60歳～64歳	出来ない
男性	40歳～49歳	現在は時間に余裕がない。
女性	60歳～64歳	参加できない
男性	80歳以上	老齢、病身、労役
男性	80歳以上	参加できない
女性	65歳～69歳	年齢的に無理なこともある
男性	30歳～39歳	報酬があれば
女性	40歳～49歳	小さい子どもがいるため、出来るかどうか判断による。

問 16 地域のボランティア活動参加依頼への対応 その2

性別	年齢	ボランティア活動参加依頼への対応
女性	30歳～39歳	民生委員として家族に迷惑を掛けてきたため
女性	70歳～79歳	体の都合で参加できない
男性	70歳～79歳	体調
女性	50歳～59歳	介護の負担がなくなれば
男性	40歳～49歳	参加できるときに参加
女性	80歳以上	身体的に無理
女性	60歳～64歳	できない
女性	50歳～59歳	今は無理
女性	80歳以上	無理です
男性	30歳～39歳	忙しければ
女性	65歳～69歳	積極的に参加したいが日時があいているときは参加しています。
男性	50歳～59歳	参加したいが足が不自由で無理
男性	50歳～59歳	今はしない
女性	60歳～64歳	時間が出来たときに参加したい。
女性	40歳～49歳	自分のこどもの介護で余裕がない
男性	70歳～79歳	出来ない
女性	60歳～64歳	仕事が休みなら
男性	40歳～49歳	休みがないので無理
女性	60歳～64歳	子育て中なので時間が許すなら
女性	50歳～59歳	働いているので空き時間に
男性	70歳～79歳	時間的余裕があれば
男性	40歳～49歳	都合があれば参加する

問 17 地域のボランティア活動・余暇活動に利用できる施設の認知(複数回答)

性別	年齢	知っている施設
男性	70歳～79歳	地域交流センター
男性	40歳～49歳	知らない
女性	70歳～79歳	知らない
女性	30歳～39歳	あまりわからない
男性	40歳～49歳	まったく知らない
女性	30歳～39歳	知らない
女性	30歳～39歳	利用方法 予約方法をホームページに載せるなど情報を得やすくする。
男性	30歳～39歳	最寄神社
男性	20歳～29歳	交通機関の設備
女性	70歳～79歳	まったく知らない
女性	20歳～29歳	知らない

問 18 施設をより使いやすくするための必要な事項 その1

性別	年齢	施設を使いやすくするために必要なことから
女性	60歳～64歳	特別 特定の人のもではなく、誰でも利用できるというアピール
男性	30歳～39歳	駐車場の利用制限
女性	40歳～49歳	利用料金の低額化
男性	70歳～79歳	ルールの見直し
男性	30歳～39歳	駐車場完備
女性	30歳～39歳	利用するつもりなし
女性	30歳～39歳	駐車場 交通の利便性
男性	50歳～59歳	ルールは少ないほうが良い。
女性	40歳～49歳	料金の無料化

問 18 施設をより使いやすくするための必要な事項 その2

性別	年齢	施設を使いやすくするために必要なことから
女性	20歳～29歳	そういう場所があることを区民に知らせる。
女性	30歳～39歳	利用料
男性	30歳～39歳	知ってもらうためのイベント、時間に対する報酬(必ずしもお金というわけではなく)を考え、且つ学生を巻き込むなど
女性	40歳～49歳	駐車場の整備
女性	30歳～39歳	利用規則をわかりやすく
女性	30歳～39歳	アクセスの便利性
男性	70歳～79歳	場所と内容
女性	40歳～49歳	利用にあたり、ルールをもっと詳しくホームページ等で見れるようにする
女性	30歳～39歳	施設 設備の充実
男性	70歳～79歳	入ってみたことがない何ともいえない。
女性	30歳～39歳	駐車場
男性	20歳～29歳	これらの宣伝
男性	70歳～79歳	図書を多くする
男性	50歳～59歳	利用 教室 指導
女性	40歳～49歳	交通の利便性
女性	30歳～39歳	管理
男性	50歳～59歳	料金体系の見直し
女性	40歳～49歳	利用料の値下げ
女性	50歳～59歳	利用施設を増やす
女性	40歳～49歳	内容の充実
男性	30歳～39歳	広報活動
男性	40歳～49歳	広報活動
女性	40歳～49歳	もっとわかりやすくしてほしい
男性	20歳～29歳	駐車場
女性	40歳～49歳	駅やバス停から近い 駐車スペースがある等

問 20 知りたい福祉保健に関する情報

性別	年齢	知りたい福祉保健に関する情報
女性	30歳～39歳	興味なし
男性	30歳～39歳	特に知りたくない
男性	60歳～64歳	現在なし
女性	30歳～39歳	スポーツ施設

問 21 地域の福祉保健に関する身近な相談相手

性別	年齢	身近な相談相手	性別	年齢	身近な相談相手
男性	65歳～69歳	今のところ特にいない	男性	50歳～59歳	なし
男性	50歳～59歳	いない	女性	80歳以上	有料老人ホーム
男性	50歳～59歳	なし	女性	60歳～64歳	ケアマネジャー
男性	30歳～39歳	なし	男性	70歳～79歳	介護支援専門員
男性	40歳～49歳	なし	男性	50歳～59歳	ケアマネジャー
女性	70歳～79歳	今のところ困ったところはない	男性	30歳～39歳	横浜市北部地域療育センター職員
女性	30歳～39歳	特になし	女性	30歳～39歳	保育園や幼稚園の先生
男性	80歳以上	ケアマネから	男性	40歳～49歳	相談したことがない
女性	50歳～59歳	ケアマネジャー	女性	50歳～59歳	今は特に必要がない
男性	30歳～39歳	お金を払い専門家に相談	女性	40歳～49歳	インターネット
女性	40歳～49歳	いない	女性	20歳～29歳	よく知らない

問 22 地域の福祉保健に関する情報の取得手段

性別	年齢	地域の福祉保健に関する情報の入手方法
男性	65歳～69歳	妻から
女性	20歳～29歳	家族
女性	20歳～29歳	あまり得ようとしたことがない
男性	40歳～49歳	役所
男性	30歳～39歳	無し
男性	70歳～79歳	情報を得ていない
男性	40歳～49歳	ぜんぜん知らない
女性	60歳～64歳	区役所へ直接行く
女性	30歳～39歳	なし
女性	30歳～39歳	ほとんどない
男性	80歳以上	ケアマネから
男性	65歳～69歳	得たことがない
男性	20歳～29歳	ほとんどない
男性	30歳～39歳	情報を専門に売っている会社を利用。
女性	30歳～39歳	民生委員定例会
女性	20歳～29歳	ない
女性	30歳～39歳	得たことがない
男性	70歳～79歳	介護支援専門員
男性	20歳～29歳	ダイレクトメール
女性	20歳～29歳	関心がなく得たことがない

問 24 知っている地域の福祉保健に関する施設・団体・委員

性別	年齢	施設 団体 委員	性別	年齢	施設 団体 委員
男性	65歳～69歳	回覧板	女性	65歳～69歳	全く知らない
男性	40歳～49歳	知らない	女性	40歳～49歳	みどり福祉ホーム みどりの家 愛
女性	30歳～39歳	全て知らない	男性	70歳～79歳	なし
女性	20歳～29歳	わからない	女性	50歳～59歳	デイサービスのケアマネジャー
女性	65歳～69歳	なし	女性	30歳～39歳	知らない
男性	80歳以上	ケアマネ	男性	60歳～64歳	現在なし

問 25 日頃、防災に関して配慮していること

性別	年齢	配慮していること	性別	年齢	配慮していること
男性	80歳以上	火災共済に入っている	男性	20歳～29歳	特にしていない
女性	20歳～29歳	特にしていない	男性	50歳～59歳	特にしていない
女性	40歳～49歳	特にない	女性	20歳～29歳	ない
男性	20歳～29歳	していない	女性	70歳～79歳	まったく考えていない
女性	40歳～49歳	災害時の避難の仕方	女性	60歳～64歳	何もしていない
男性	30歳～39歳	特にしていない	男性	20歳～29歳	緊急地震速報のチェック
男性	70歳～79歳	特に何もしていない	男性	50歳～59歳	顔見知りになる
女性	30歳～39歳	配慮なし	女性	50歳～59歳	特にしていない
女性	30歳～39歳	無し	女性	40歳～49歳	緊急車輛の通れる道幅
女性	60歳～64歳	火災報知機の設置	女性	60歳～64歳	ほとんど何もしていない
女性	20歳～29歳	特になし	女性	70歳～79歳	何もしていない
女性	20歳～29歳	特に気にしていなかった	女性	30歳～39歳	特に何もしていない
男性	40歳～49歳	特になし	女性	30歳～39歳	あまり考えていない
女性	40歳～49歳	特に何もせず	男性	50歳～59歳	していない
女性	30歳～39歳	特になし	女性	30歳～39歳	何もやっていない
男性	80歳以上	火災共済に入っている	女性	40歳～49歳	特にしていない
女性	40歳～49歳	特に何もしていない	男性	40歳～49歳	特に配慮していない
男性	60歳～64歳	現在なし	女性	40歳～49歳	学校での非難時の対処法

問 28 「防災時に住民が支えあう地域づくり」に必要なこと

性別	年齢	災害時に住民が支えあう地域づくりに必要なことがら
男性	40歳～49歳	わからない
女性	40歳～49歳	日ごろから地域の人が気軽に顔を合わせる機会を作っていくこと
女性	40歳～49歳	災害に対する個々人の備え
女性	30歳～39歳	正直自分にはどうでも良い
女性	30歳～39歳	地域内での交流・近所づきあい
女性	30歳～39歳	日ごろの近所づきあい
女性	40歳～49歳	日ごろからの近所づきあい
男性	65歳～69歳	自治体の活動
男性	40歳～49歳	住民同士のコミュニケーション・和
女性	60歳～64歳	わからない
女性	不明	災害時に必要な情報の周知
男性	30歳～39歳	ここに逃げれば大丈夫だと思える場所があること
女性	30歳～39歳	日ごろの人間関係
男性	60歳～64歳	日ごろの近所のコミュニケーション
男性	60歳～64歳	思いつかない
女性	70歳～79歳	向こう三軒両隣を基本に
女性	30歳～39歳	1と2を組み合わせたような活動。
男性	50歳～59歳	わからない
男性	30歳～39歳	お互いを知る
男性	70歳～79歳	避難場所にいつでも自主的にいける
男性	30歳～39歳	日ごろの付き合い
女性	30歳～39歳	日ごろからの声かけ
男性	50歳～59歳	近所の人が見知りになる
女性	30歳～39歳	自主的な付き合い
女性	40歳～49歳	自治会等のコミュニケーション
男性	30歳～39歳	施設の避難に参加すること
男性	40歳～49歳	平日・日中を想定した、地域での防災訓練
女性	30歳～39歳	よくわからない
女性	20歳～29歳	日々のコミュニケーション

問 29 日頃から健康のために心がけていること

性別	年齢	日頃健康のために心がけていること
女性	40歳～49歳	テレビ体操・散歩
女性	50歳～59歳	24時までにはなるべく寝る
女性	70歳～79歳	主人がデイサービスの日はなるべく休養するようにしている。
女性	40歳～49歳	最新の情報の入手
女性	65歳～69歳	毎日のジョギング
女性	30歳～39歳	なし
女性	30歳～39歳	したいとは思いますが実際出来ない
男性	70歳～79歳	毎日朝・夕に血圧測定を実施、結果を記帳
女性	50歳～59歳	ストレスになりそうな内容を自分の良い経験として前向きにとるようにしている。
女性	30歳～39歳	よく笑う
女性	60歳～64歳	楽しく過ごす
女性	70歳～79歳	何もしていない
女性	60歳～64歳	家族や友人との対話や絆を大切にする
男性	50歳～59歳	ラジオ体操
女性	40歳～49歳	予防に努める

問 30 自身の健康のために参加したいと思う活動

性別	年齢	健康のために参加したいと思う身近な活動
女性	70歳～79歳	腰が悪いので出来ない
女性	70歳～79歳	参加したくても出来ない
女性	70歳～79歳	自分で行っている
女性	30歳～39歳	土日の活動(夜間)
男性	80歳以上	参加できない
男性	80歳以上	認知症予防の座談会
男性	80歳以上	高齢者同士による交流の集い
女性	30歳～39歳	骨盤体操
女性	70歳～79歳	踊り
男性	20歳～29歳	マラソン大会
女性	50歳～59歳	年齢にあった運動指導
女性	30歳～39歳	子どもと一緒に身体を動かせるような活動
女性	60歳～64歳	時間的余裕があれば子どもとともに参加できるもの。
女性	65歳～69歳	自分の健康は自分で

問 33 福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていること その1

性別	年齢	福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じること
女性	30歳～39歳	大阪から引っ越してきてまだ1年です。緑区は本当に自然が多いところだと感じました。最近マンション等が多く建ち自然がなくなってしまうのではないかと心配になります。福祉や保健の情報がもっと手に入りやすくなればと思います。
女性	65歳～69歳	10年後は80代、70代、90代の人口がものすごくふえるのではないのでしょうか。今、高齢者の体力維持・リハビリの道具が色々できていると聞いています。緑区の公園に1個ずつあるといいのではと思います。地区の5ヶ所くらいの公園めぐりをしてトレーニングをすると一応のことが達成できるという具合になると、近所で出来る、お金のかからない、コミュニケーションも取れる、とてもいいのではないかと思います。
女性	40歳～49歳	さらに高齢者が増え、生活に支障をきたしている・・・のでは？坂道が多い緑区なので、外出にも不便、ケアセンターなどの利用に関しても規定が多すぎて利用できないものが多い。かゆいところに手が届かない、という感じがする。また、お金がなければ老いてから生きていけるのか不安。「何が大切か」の問いに合っていないコメントでした。
男性	80歳以上	近隣の連携の強化

問 33 福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていること その2

性別	年齢	福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じること
男性	65歳～69歳	役所は住民のサービス機関としての活躍
男性	50歳～59歳	福祉も良いのですが、誰もが住みやすいまちづくりをと思う仕事（働く場なども）
女性	30歳～39歳	こどもの通学路で車の交通量が多いにもかかわらず歩道が少ない。また、街灯が少ない場所が多いと感じています。そういったところの整備がもっと進んでくれればと思います。
女性	70歳～79歳	一人暮らしなので近所でさっと助けてくれる人がいないので心配。もっと安心して生活できる町でありたい。自分が体が思うように動けないので、ボランティア活動も出来ず心苦しい。
女性	30歳～39歳	もっとみんなが障がい児とのかかわり方を知っていれば、障がい児も今より街に出られる。
女性	50歳～59歳	困ったときに相談できる窓口 情報の整備
男性	80歳以上	住んでいる皆さんが明るく健康で仲よく生活できる環境になることを望みます。
女性	30歳～39歳	高齢者介護施設の充実
男性	65歳～69歳	新型インフルエンザ対策等、何の説明もない不安な町です。病気にならないようスポーツの振興、施設の開放を進めてほしい。
女性	20歳～29歳	要らない道路が増えたりしているので、緑区の10年後をイメージしにくくなっている。「緑区」としているのだから、もっと緑を残すべきだと思う。また、高齢者ばかり目が行きがちだが、若者にも目を向けることが大切だと思う。
女性	65歳～69歳	高齢者が安心して住める事。介護施設等が充実している。若者が出産・子育てを出来る、保育所等の充実
女性	40歳～49歳	住民の出入りが多い地域なのでお互い顔見知りになったり声を掛け合ったりすることがなかなか出来ないと感じている。地域という広い枠よりと隣の人だけ知っていれば、という感じもある。自治会に入ることに抵抗がある人もいて、地域という意識の薄さを感じる。さまざまな年代が混在しているので、地域に対する意識にもずれがありそうなので、なるべく地域住民がよく知り合える工夫が大事だと思う。
女性	65歳～69歳	多くの人が老年化し、家族に若い人が少なくなる。自治会では仕事が多く全部をやり遂げるには困難になると思う。無理な仕事を減らしていくのも大切だと思う。
女性	20歳～29歳	地域パトロールなどの必要性
不明	40歳～49歳	近所の人とのつながりが自然に強くなっている地域、信頼感が生まれるような交流
男性	30歳～39歳	安全 安心のまちづくり。変な人が増えている
女性	70歳～79歳	10年後は生きていないと思うので少しでも心豊かにみんな仲よく生活できるように願っている
男性	40歳～49歳	高齢者問題ばかり重視され、自分のような40代一人暮らしで国の難病指定の人間の生活を助けてくれる制度が何もないことに愕然とする
女性	30歳～39歳	道路が狭く歩行者が歩きにくいので、こどもが走っても大丈夫な、そしてお年寄りとかどもが接する機会があり、大人が他人のこどもを注意してあげることの出来る、昔のような人と人との係わり合いが持てる町。安心して歩ける町にしてほしい。
女性	65歳～69歳	個人一人ひとりが家族だけでなく他人に対しても思いやる気持ち
男性	60歳～64歳	各住民の意識の向上
男性	65歳～69歳	緑が減らないようにする施策（緑区という名称に恥じないよう）
女性	30歳～39歳	安心できる人間関係作りが一番大切だと思う。それが福祉の分野にも通じていると思う。
女性	40歳～49歳	安全
男性	70歳～79歳	年寄り困っている人に対し、思いやりを持って接することのできる、みんなが心豊かな社会
女性	65歳～69歳	心豊かで健康な生活が送れればすばらしい町 住みやすい町になると思う。それを願う。
女性	40歳～49歳	精神障がい者なので、デイケアのように病院が運営している施設を増やしてほしい。
女性	30歳～39歳	情報をすぐ手に入れられる環境。ハザードマップのように、一目見て必要なものがビジュアル化されているものの配布等
男性	70歳～79歳	世代間のつながりが持てる機会や場作り

問 33 福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていること その3

性別	年齢	福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じること
女性	30歳～39歳	お互いが相手を大切に思い助け合っていけるような「和」または「輪」の関係を作れたらよいと思う
女性	50歳～59歳	高齢者が多いが、元気な自立した、また人生を楽しみながら生活できる社会になってほしい(元気な高齢者になるため健康づくり教室に力を入れる。ボランティアも良いが、高齢者でも出来る仕事がある。)
女性	80歳以上	高齢者(寝たきり)が増えるため、通院困難な方のための在宅医療の充実が必要かと思う。さらに、緊急時の入院先の不安(断る病院をなくす)を解消すべきだと思う。(ベッドが満床というが、実際空いていた。)
女性	70歳～79歳	段差をなくした通路作り
男性	30歳～39歳	「福祉保健のまち」とはどうか。安全という意味で道路に街灯を増やして、段差を無くしてほしい。ハーモニー緑近くの工事中の橋を早く完成させてほしい(すごく危険)
女性	20歳～29歳	緑区には老人が増え、活動範囲が極端に狭まっている。今の小学生や中学生がこれからもっと活躍してもらわないといけないと思う。学校間を超えた交流の場を増やし、緑区に若い力を残すことが必要だと思う
女性	20歳～29歳	近所の人とのつながり。もっと交流しなければと思うが、なかなか機会がない
女性	40歳～49歳	誰もがわかるような積極的なPR活動。年に1回くらいは自治会等での講演など
女性	30歳～39歳	趣味を楽しめるような集まりや、自治会ごとにイベントを考えて顔見知りになれること
女性	60歳～64歳	自治会活動を強化し、いい意味でのおせっかい。近隣の様子に関心を持つ。一人ひとりの配慮がつながって大きくなることを願っている。
女性	40歳～49歳	高齢化社会になるにあたり、地域で協力できることを確認しあえる環境づくり。健康対策
男性	40歳～49歳	これ以上緑をなくさないでほしい。豊かな自然環境の中で近所の方との交流が持てる地域づくり。交流の機会を増やすこと。私が緑区に移り住んだころは近所の方はもっとお互いにかかわりを持って助け合っていたと思う。こどものいる家庭でも、こども会や自治会に参加する方も少なくなり、交流が減っているのは確かなこと。何とか昔のような関係作りが大切だと思う
女性	65歳～69歳	高齢者が、行き届いた施設(安価)で生活できるように。(家族が安心して預けられる施設が多くあってほしい。高齢者もまた、自立できる環境があってほしい)
女性	70歳～79歳	地域の高齢化に伴う支援の組織化と、情報の共有が必要と思う。「個人情報保護」が注目されすぎて、いざというときに助けが必要な人の情報が集められないのではないかと、思う
男性	40歳～49歳	現在同様緑が多く自然豊かな、過ごしやすい環境の維持。困ったとき、助けが必要なとき、気軽に相談・連絡が出来る問い合わせ・相談窓口等の明示(周知)
女性	50歳～59歳	次の世代の人にどう引き継いでいくか。
女性	30歳～39歳	バリアフリー
男性	70歳～79歳	学童の通学時の安心できる歩道。車椅子でも安心して通れる歩道幅
女性	20歳～29歳	新しく居住してきた方を歓迎する寛容さと、こどもたちを全体で見守り育てるという環境づくり
女性	65歳～69歳	今の緑公会堂にかわる文化施設 図書館など
男性	65歳～69歳	誰もが安心して安全であるまちづくりと総合病院の充実をのぞむ
男性	70歳～79歳	安全なまちづくり
男性	30歳～39歳	吸殻・ゴミの落ちていない衛生的なまちづくり、条例等適用エリアの拡大、罰則強化。核家族化の進行を防ぐ住宅政策、税制の検討、家庭内・血縁による助け合いを助長する必要性。福祉現場職員の職域拡大と勤務条件向上、利用者負担率を実質的に上げる。
女性	40歳～49歳	お互いが支えあえる思いやりのあるまちづくりが進むといい。また、それらに見合った施設が整っていることを希望。
女性	50歳～59歳	近所・地域にどんな人が住んでいるのか…日ごろから声かけしあい、住民が協力し合い、地域の環境整備のために個々、出来ることを出来るときにすることが出来ればよいと思う。そんなときにささえ愛プランのようなシステムが利用できるのか、わかりやすいプランが多くあると良い。

問 33 福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていること その4

性別	年齢	福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じること
男性	70歳～79歳	高齢者の介護体制の確立。現在のように特養ホームの入居が「人待ち」のような状況では不安が多い。
女性	70歳～79歳	毎日寂しい不安な日々
男性	50歳～59歳	自治会単位・各自治会内で分けている「組」や「班」などの範囲での手助けする人の把握（支えあい）、あいさつ。世代間のつながりの3点を各区域で話し合える場を作る。
男性	60歳～64歳	情報伝達
女性	40歳～49歳	高齢者とその他の世代（幼児・児童・中高生・母親世代）との交流をする機会をたくさん作って、双方の理解と助け合いを深めていくこと
女性	65歳～69歳	どこにどんな医療機関があって、どんな健康診断や人間ドッグなどが出来るか、などの情報がもっとほしい。往診などの情報も…
男性	40歳～49歳	年老いても健康に過ごすためには若いうちから健康に関心を持つことが重要。
男性	70歳～79歳	9年間十日市場で暮らしているが、民生委員が誰かも知らない。回り6件くらいはわかるが、名前も知らない人が周りに住んでいて心配もある。
女性	40歳～49歳	基本的なことが出来ていない人が増えていると感じる。小さなことながら、バスに乗ったとき、奥が空いていればつめて、より多くの人に乗れるようにする。使った場所は前よりきれいにしてくる。ゴミを捨てない、見つけたら拾うなど。一人ひとりが小さなことを気をつけるだけで、社会はずいぶん変わるのではないかと思う。まず家庭でそのことを確認し、実践することが大切なのではないか。
男性	70歳～79歳	住民の意識
男性	60歳～64歳	高齢化していく中で、老人が転居していくような町ではなく、住んでいたいと切に思うような地域にすべき
女性	70歳～79歳	高齢者なので、今を大切にしている。10年後をイメージできない
女性	30歳～39歳	こどもが安心して遊べる場所をたくさん作ってあげること
女性	80歳以上	夫婦で80歳以上で、健康でいられることが幸せ。10年先の福祉保健が一番。
男性	40歳～49歳	高齢・障がい・傷病等による自宅生活困難者に対する、区政による支援・支えあえるコミュニティ作り
女性	40歳～49歳	福祉保健というと小さいこどもやお年寄り・障がい者が対象だが、コンビニ前にたむろする中高生の健全な居場所を作ってあげたい。公園も最近はボールを投げたり出来ないの、エネルギー溢れる若者がスポーツを楽しむ公園を作れば非行防止にもつながると思う
男性	30歳～39歳	2世帯・3世帯が同居する家族が減る中で、地域全体がその役割を担うようにしていかなければと思う。もっと異なる世代が交流できるような場が多くの人々に自然と参加できるようなまちづくりが大切だと思う
女性	60歳～64歳	孤独な高齢者が増えないように（高齢者に限らず地域住民）気軽に集える場所・参加してみたい講座など充実させることが大切だと思う。向上心のある高齢者は多いと思う
男性	70歳～79歳	毎朝1時間程度散歩をするが、あいさつがうまくいかない。顔見知りの人を除けば、声掛けに答えてくれるのは50%くらい。声掛けしてくれるのは20%くらい。区を挙げてあいさつ運動をしてもらえれば明るい町に貢献できると思う
女性	40歳～49歳	一番大切なのは隣近所との助け合いだと思う。地域住民の関係をよくすることが一番。
男性	60歳～64歳	区民の意見を積極的に聞くこと
男性	80歳以上	現在以上に高齢者の多い地区となり、単身世帯が多くなるのではないだろうか。助け合いがさらに必要になると思う
女性	70歳～79歳	老人にとって日ごろの買い物・病院通いなどが、とても大変な場所に住んでいるため公共の乗り物（バス）の本数をもう少し多くしたら、より住み良い町になると思う。何かに参加したくとも、自分の足で歩いて、は無理な状態にあるため、もしこの先10年も生きてしまったら怖いと思っている。
女性	65歳～69歳	一人暮らしの人がこれからもっと増えていくと思うので、一人暮らしでも不安な思いをせず、安心して暮らせるサポート体制を是非作ってほしいと思う

問 33 福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていること その5

性別	年齢	福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じること
女性	65歳～69歳	こどもの成長について、両親ではなく地域で大切に育てていくものだと思う。みなで一言掛けてあげられたらと思う。知らない子どもでも、その地にいるということは近所にいるということだから、ほめてあげたり、しかったりをお互いにしてあげられたら
女性	30歳～39歳	孤独死・中高生の心の乱れのケア、声掛け・ヘルパーさんの充実(食事作り・家事は制限が多く利用しにくい)・産後支援ヘルパーの期間拡大、2ヶ月・1年半へ
女性	50歳～59歳	身近なところで相談できる。住民が顔見知りになればよい。
女性	65歳～69歳	同じ団地に住んでいて顔見知りなのに、あいさつできない人がいるのは残念。一人ひとりが少しでも思いやりの心を持っていれば変わらと思う
女性	60歳～64歳	徒歩で通える範囲に小中高、保育園、大学など今ある施設の中に拠点を作る。利用料を無料、もしくは月1000円くらいとし、健康づくり体操(大まかな年齢別のクラスを作り、幼児から高齢者まで週1回通えるようにする)を実施。体育大の学生などを先生に活用。同様に絵や英会話など世代に関わらず参加者が多い教室を設定
女性	40歳～49歳	こどもから大人、そして老人の方たちが不安のない明るいまちづくりのために出来ることから気軽に参加してささえあいの出来る関係作りに取り組みめるよう行政側で場所や情報を提供してほしい。困ってからでは遅いが、困らなくては頼らないし、そのときに頼れる場所があるとわかるだけで、安心した暮らしが送れる。
男性	30歳～39歳	高齢者、そして21世紀の担い手であるこどもたちへの福祉をさらに拡充すること、また健常者と障がい者が共存できるバリアフリー化(公共交通機関・施設等)を積極的に推進することが必要であると思う。
女性	30歳～39歳	歩道の整備
女性	30歳～39歳	情報提供だけでなく、相互的な情報のやり取りが出来ること。高齢者や障がい者でもわかりやすい情報提供・入手が出来ること。
女性	30歳～39歳	高齢化社会に向けて、もう少しお年寄りを理解してあげ、同じような目的を持った人たちがコミュニケーション取れる場を増やし、若者も一緒に協力していけるまちづくりと、少子化に伴い大人一人ひとりが守ってあげられるまちづくりにしてほしい。
女性	30歳～39歳	中山駅周辺を車椅子で楽に出歩けるような道路整備
女性	65歳～69歳	人材の育成・地域活動の活発化・情報の共有
男性	70歳～79歳	高齢化が進む中で、年寄りが「生きがい」を享受できる「自立する意欲」を支援するような取り組み。老若間の多面的な「心の隙間」を埋めるような方向付け
女性	30歳～39歳	高齢者・障がい者が安心して住むための施設や地域ケアプラザなどがもっと充実すると良い。また、子育てしやすい町になると良い。区からの積極的な働きかけが必要
女性	50歳～59歳	高齢化社会に向けて高齢者が住みやすい町にしたい。保育園・学童保育施設の充実。特に小学校の空き教室を学童保育施設に開放してほしい
女性	65歳～69歳	10年前にはあったスーパーや商店、コンビニがどんどんなくなり、買い物にとっても不便を感じる。日々の生活が不安になる。仕事をしていることから、ボランティアの集まりに参加する機会も時間的に難しく、なかなか加われないが、自治会の活動には参加している。
女性	60歳～64歳	心身ともに元気であるかはわからない。介護を必要とすることになったときに地域全体で支えてもらえる社会であってほしいと思う。高齢者同士の介護や看護は大変。次世代の方に面倒を見てもらえる社会であってほしい。
男性	50歳～59歳	福祉保健整備はコストがかかる。優先順位をつけた財源確保が必要。善意・ボランティアに頼る福祉作りには限界があると思う
男性	50歳～59歳	まちづくりをするためには、アンケートで意図しているように、住民参加型で、より住民主導型で何かが行われていることが必要だと思う。積極的な人もいるが、消極的で負荷を嫌う人が多いように思う。したがって役所が推進して住民が進める活動が出来るためには、自治会や民生委員の活動をより伸ばすことが必要に思う
男性	40歳～49歳	公共機関のバリアフリー化
男性	40歳～49歳	緑豊かな町にしてほしい。公園・ジョギングコースを増やしてほしい
男性	30歳～39歳	あいさつ
女性	70歳～79歳	現在でも老人が周りに多いので、福祉保健あらゆることにおいて不安。
女性	30歳～39歳	困っている方に声をかけやすく、また困ったときに声に出しやすい、すみよいまちづくりが大切かと思う

問 33 福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていること その6

性別	年齢	福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じること
女性	60歳～64歳	生活苦の人々を何らかの方法(手を差し伸べる)で援助したり、病気や一人暮らしの人々を優先し、積極的に援助。費用面でも助け合う、相談しやすい場をはっきり示し誰もが自由にその場を利用できるような、安心して暮らしていけるのが必要。
女性	40歳～49歳	プランを知らなかった。こどもが小学生のときは学校、学童つながりで多少の情報もあったが、現在は鈍感になったと思う(こどもが高校生のため)
女性	50歳～59歳	住み慣れた地域でいつまでも生活が出来、豊かな人生を送ることが出来る。
女性	30歳～39歳	アパート・マンションが増え、独身者が特に顔見知りにもなれない。
女性	65歳～69歳	自分も含めて急速に増えてくるはずなので、健康、福祉を充実させ地域で簡単に参加できるよう個人の意識を変える必要。孤独な一人住まいで閉じこもる人の解消。関心がある人は自分で動く。
女性	60歳～64歳	ヒルタウンにすんでいるが、今現在の毎日の掃除でも年寄りばかり。自分60歳だが、若い人に入る。このままでは自治会活動にも支障が出る。若い人が共存できるよう対策できないのか。
男性	70歳～79歳	高齢者が安心して暮らせるまちづくり
男性	20歳～29歳	中高年が気軽に集える趣味の会等の催しと場所利用できる仕組みがあると、横のつながりが増えていざというときに助け合える。
女性	30歳～39歳	数年前から駅前のベンチなどでお酒を飲んで所在のなさそうにしている高齢者の人を見かけることが増えた。そういう人たちに対して何らかのケアが必要なのではと思う。
女性	65歳～69歳	老人が増えていることは間違いないと思うし、介護サービスがよくなってくれるとありがたいと思う。
女性	70歳～79歳	地域、近所のつながりの場と機会、老人・こどもでも使いやすい小公園、集まりの場(用事がなくても集まって話しができるような場所)
女性	40歳～49歳	放置自転車や投げ捨てゴミが目立つので、クリーンなまちづくり。困ったときにすぐ相談できる場所があること。
女性	60歳～64歳	今よりも高齢化社会になっていると思うので、少しでも若い人たちがボランティアなどに参加すると良い。そのための情報も提供してほしい。
女性	50歳～59歳	引越してきて一番に感じたことは「通りが汚い」こと。ゴミ処理がきちんとされていない。ポイ捨てが多い。住民の自覚が足りないのではないのか。大人もこどももこんな状態でよいまちづくりが出来るのだろうか。
女性	40歳～49歳	「全員野球」の姿勢。駅前広場の整備をするといって遠回りの道を作ったりしているが、歩行者の福祉に反しているのではないのか。
女性	30歳～39歳	緑区らしさ、区民が住みやすい環境づくりをして欲しい。ボランティア活動の推進を行っていることを目的としているが、ただ「ボランティア募集」と広報しただけでは人は集まらない気がする。双方(受ける側・する側)のメリットを明確にするとともに、責任の所在、リーダーシップを誰が取るのか(仕切る人)を考えないとイケない。お互いが満足感・充足感のある活動を目指してほしい。
女性	30歳～39歳	こどものいない専業主婦で、旧公団に住んでいるものは、気軽に自然な近所づきあいが難しいように思う。あまりにも基本的なことに戻るが、日ごろからのつながりが何より大切だと思う。
女性	70歳～79歳	障がい者、高齢者、一人住まいの方への定期的な訪問の上、適切な手助けをすること。
女性	65歳～69歳	年をとってくる自分の健康を考えると、身近な地域での福祉活動の充実、安心、安全の確保を推進してほしい。
女性	30歳～39歳	市営住宅に住んでいる人に、偏見と感じられる対応をされたことがある。住んでいる場所が関係あったみたいである。福祉に偏見はマイナス要素。住まいについて(出入りのあるマンション等)でも顔見知りとなるのがまず大切。
男性	30歳～39歳	昭和のような近所づきあいの復活と、無駄な残業をしないことによる家庭重視。
女性	40歳～49歳	思いやり、助け合い、努力、緑区を愛すること。ずっと緑区に住んでいたい。
女性	20歳～29歳	高齢化社会が進んで今、10年後には今よりさらに多くの高齢者が住むことになる。これからは高齢者が住みやすいまちづくりをしていくべき。

問 33 福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていること その7

性別	年齢	福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じること
女性	40歳～49歳	福祉保健の意味がよくわからない。医療機関に勤めているが、生活保護を受けている人が緑区にはものすごく多い。生活保護でも、身に着けているものや化粧品・香水がきつかったり、どれだけ自身にお金を掛けているのだろうか。まじめに働いている人々の税金かと思うと、仕事を与えてやってほしいと思う。
女性	70歳～79歳	隣近所との助け合い
男性	60歳～64歳	住民が地域に愛着を持てるようにすることが全ての基本だと思う。
男性	50歳～59歳	市内でも長寿の区であり、バリアフリーを意識したまちづくりが重要である。特に歩道を新たに設置する道幅が確保できない場所については、路面の色を変えるなどの取り組みが必要。区としてのモデル事業を考えたらどうか。
男性	20歳～29歳	世代を超え福祉保健に関われること。若い人がボランティアや介護に参加できるようにしてほしい。情報が少ないし、大人がボランティアに対して悪いイメージを持っていることが多い。
女性	60歳～64歳	近隣間の助け合いがもっと大切だと思う。
女性	50歳～59歳	こどもやお年寄りが安全に歩ける町、道が必要。公園もこどもでも遊べる遊具のみでなく、大人(中年・老人)がストレッチなど出来る遊具があれば(ベンチも)いろいろな年代の人が集まれる。
男性	50歳～59歳	防犯のあり方の見直し。旗を持って練り歩いても防犯にはつながらない。お役所的。交番が減少しているので、高齢者を積極的に採用して、夜間の防犯拠点(昔の番屋のようなもの)をたくさんつくるなど、助かったと思える環境整備が結果として福祉につながると思う。
男性	70歳～79歳	自治会の集まり話し合いの機会
女性	50歳～59歳	高齢化が進んでいると思う。元気な高齢者もたくさんいると思う。その人たちを活用する場所があったらよいと思う。
男性	70歳～79歳	マンション・アパートが増え、自治会に入会しない人がますます増加していく。そうになれば近隣とのつながりが少なくなってしまうと考えられる。まず自治会への住民全員の参加を求め、近隣とのつながり機会を増やすことに力を入れてほしい。
女性	40歳～49歳	中山にある緑スポーツセンターを利用しているが、駐車場が少なすぎるため、近隣のコインパーキングの格安利用、もしくは無料化を考えてほしい。体操教室など良いものが多いので参加したいと思っても、雨の日など参加できないことが多い。霧が丘地域ケアプラザなども制約が多すぎると思う。こどもたちの行き場としてもっと開放してほしい。また、体操教室なども緑スポーツセンターに準ずる程度行ってほしい。
女性	30歳～39歳	近所が顔見知りで、いろいろな情報も聞けて、安全な町になっていること。
男性	60歳～64歳	近くに良い年をした暴走族が越してきた。時々だが、早朝に大きなエンジン音(空ふかし)をだしており、迷惑している。10年後には思いやりのある街にしていきたい。
女性	50歳～59歳	健康でいられるために、運動を続けられる環境。
女性	65歳～69歳	独居老人の家に対する手助け
男性	70歳～79歳	高齢化社会の進展に対応、老人福祉保健の充実が大切。
男性	40歳～49歳	地域住民が顔見知りとなり、協力・支えあうことの出来る、区をあげての雰囲気作り・機会作り
女性	70歳～79歳	プランの基本目標によって人々のつながりが出来たらすばらしい区になると思う。住み良い区を期待する。
男性	40歳～49歳	困っている人を自ら進んで助けられる人になること。
男性	65歳～69歳	あいさつ
男性	65歳～69歳	知り合いを増やしておく
男性	65歳～69歳	福祉保健はこれからますます必要になってくると思う。緑区は福祉保健の町だということを日本全国の人たちが知っている、感じている町にしてほしい。まちづくりに大切なことはたくさんあるが、第一に緑区の人たちの力をうまく使うことだと思う。協力してくれる人はたくさんいる。
女性	30歳～39歳	少子化といわれている今だが、緑区はこどもが多いと思うので子育て支援などをもっと充実させたらよいと思う。
女性	40歳～49歳	小中学校で小中学生の地域ボランティア活動を充実させて、福祉に関わることの楽しさを感じる心を育ててほしい。(中学での活動は部活動重視になっている)

問 33 福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていること その 8

性別	年齢	福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じること
女性	40 歳 ~ 49 歳	豊かな自然があるのを活用できると良い
男性	30 歳 ~ 39 歳	マンションのような高層住宅を少なくする。平面を多くする。
女性	40 歳 ~ 49 歳	今よりいっそう高齢化が進むと思うので、高齢者が安心 安全に暮らせるまちづくりが大切。最寄り駅までの巡回型のノンステップバスのコースを増やし、安心して外出 通院が出来る町に。また、最近の行政その他情報はインターネット公開が多いが、高齢者 障がい者はパソコンを持たない 苦手な方がほとんど。もっと詳細な情報、タイムリーな情報、生活支援となる情報をスーパーや病院に置いたり、個別にチラシを配布したり、積極的に提供してほしいと思う。
男性	50 歳 ~ 59 歳	福祉保健に関する情報の開示、PR 活動
男性	80 歳以上	大正生まれの方や昭和一桁の方のこども時代や若いときの思い出話などして、少しでも認知症予防になるようにしたいと思う。百人一首のカルタ大会や詩吟、昔の歌や漢文など
女性	40 歳 ~ 49 歳	年寄りが増えているので、年寄り・こどもに関わらずお互いが顔見知りになると良い。特に一人で住んでいる高齢者には、家族が近くにいる いないに関わらず、近所の人気が気にして声を掛けてあげる。困ったときには声を掛けてもらえるように。交わる場所が必要。
男性	60 歳 ~ 64 歳	気軽に集える公共施設で自主的な活動が出来るように、開かれた役所の役割が必要だと思う。
女性	30 歳 ~ 39 歳	いろいろな人と交流が出来る場をたくさん作って、誰もが顔見知りであれば良いと思う。
男性	30 歳 ~ 39 歳	長津田駅北口の歩道の整備。高齢者が多いため、広めの歩道がないと車と接触する恐れがある。北口の再開発も、あまり大きくしないほうが良いと思う。駅前だけ広くなっても、幹線道路からの道が現状どおりの細道だったら、交通事故は絶対増加する。
女性	40 歳 ~ 49 歳	「こうしてほしい」をどこに訴えればよいかわからない。
女性	30 歳 ~ 39 歳	コミュニケーションの取れる町
男性	80 歳以上	自分に出来る事が出来るまちづくり
女性	30 歳 ~ 39 歳	転勤や引越してきた人に、情報をもっと与えてくれる場所を増やしてほしい。それには地域の方との関係がもう少し良いと生活しやすい。
男性	80 歳以上	高齢者も若い人の重荷にならるように生きていかなければならない。
女性	20 歳 ~ 29 歳	世代を超えた交流が自然な形であると良い。
女性	20 歳 ~ 29 歳	緑区の階段や坂をもっとなだらかにして、歩きやすい町になれば、お年寄りや障がい者も住みやすくなると思う。町全体をバリアフリーのように、スロープや起伏を少しでも減らせると良い。
男性	20 歳 ~ 29 歳	区役所等はサービス業なので基本的に土日はやるべきで、時間帯も遅くまでやることで便利になり利用者とも近づくと思う。あまりに不便。利用者を客として考え、客を増やすようにするべきである。駅から多少離れても良いので、大きな無料駐車場を作るべき
女性	30 歳 ~ 39 歳	緑区の独自性を大切にしたら良いと思う。何でも良いのでこどものころから何かに親しむ活動をするなど。(競技 音楽 ボランティア活動)
女性	不明	中山周辺はあまり治安がよくないという話を聞く。安心して住めるような環境になると良いと思う。
男性	30 歳 ~ 39 歳	高齢者 障がい者 / 児が生活しやすい(社会活動しやすい)環境になるように、ハード面(施設)・ソフト面(保証 手当て)の充実だけでなく区民が協力出来るように思いやりを持つことが大切。
男性	70 歳 ~ 79 歳	支援が必要な人の情報把握
女性	70 歳 ~ 79 歳	介護医療、介護支援の充実をお願いしたい。地域ボランティアを気軽に、いつでもお願いできるような仕組みの充実
男性	50 歳 ~ 59 歳	高齢者福祉の充実
女性	65 歳 ~ 69 歳	地域ケアプラザが各地区にできているので、その場を利用して色々な人が集まり話し合い 勉強会等を行ったらよいと思う。
男性	30 歳 ~ 39 歳	緑区政は見えない。見直しも必要。基本目標があいまい。

問 33 福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていること その9

性別	年齢	福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じること
女性	30歳～39歳	マンションの自治会役員を担当し、色々学ぶことがあった。その中で感じたのはさまざまな諸活動が役員中心に、ごく一部のメンバーで運営されていること。年齢を超えた交わりが少ないことであった。原因として考えられるのは、特に若い世代には自分が地域を構成している一人という意識がほとんどないからだと思う。10年後高齢化が進んだとき、地域が一致して発展するには、いまから「ささえ愛プラン」をアピールすることだと思う。20～40代をうまく取り込み活用していく策が必要。具体性・目的(方向性)・そして楽しさがあれば関心を持つだろう。
男性	30歳～39歳	各種手続きの簡素化。区役所では、それぞれおなじことを聞くので時間の無駄。
女性	50歳～59歳	緑多い自然の中で健やかな老後生活を送れていること。
男性	30歳～39歳	横浜市の中でも住みやすく支えあえる町にすること。全国でも一目置かれる区になってほしい。
女性	40歳～49歳	無関心であることを恥じ、自分に対しても他人に対しても思いやりを持って接すること。特に大人がこどもたちの見本にならなければならないと思う。
女性	40歳～49歳	健康で、家にいるのではなく外に出て活動できる環境で、何かをスタートするときの情報・きっかけがあればと思う。
女性	40歳～49歳	老人が増えていると思うので、老人が安心して住める町を作る。こどもも安心して遊びに行ける町になるよう、住民の一人ひとりが自覚してみんなで作っていくことが大切。
女性	30歳～39歳	緑が多いまちづくりと、利便性があり、のんびり住める事。
女性	30歳～39歳	同じ目的を持った人との交流が必要。イベントの宣伝が足りないと思う。もっと気軽に参加できるようにすることが大切だと思う。
男性	60歳～64歳	日ごろの住民同士のコミュニケーションが最も重要だと思う。
女性	30歳～39歳	一般の方への福祉保健をもっと積極的に周知させること。
女性	不明	長野県では老人体操というのを始め、ただ身体を動かした後、2段の階段を上り下りするだけ。しかし医療費は減少し、町のために役立っているそうだ。大金をかけずに住民の健康と福祉が進んでほしい。
女性	30歳～39歳	結婚・引越し・妊娠を通じて、区役所がとても身近に感じた。特に窓口の方の対応が親切でわかりやすく、大変心強かった。こうしたサービスがこの地域は特に年配の方が多いと感じるので、その方々に(区役所へのアクセスが困難な人も含め)行き届くと良いと思う。
女性	80歳以上	10年後を考えたとき、自分の年齢では無理。
男性	20歳～29歳	近所に老人ホームやグループホームが多くあるので、その老人たちが地域活動として何かに関わることが出来るイベント、そしてそれにボランティアとして関わる人々を集めるためのシステムとその情報公開の徹底。また、障がい者の雇用の仲介も充実させてほしい。
女性	30歳～39歳	自宅の周りは高齢者が多いので、10年後はますます増えることを想定し、声掛けやその方々が望んでいることを聞いて、出来ることはボランティアの方々がするなど、高齢者とボランティアの仲介を区の行政が密に行ってほしい。
男性	40歳～49歳	福祉保健のまちづくりをもっと身近に感じられる環境づくり。
女性	60歳～64歳	高齢者が多くなり、もっと高齢者のための趣味や講座教室を多く設けてほしい。
女性	70歳～79歳	一人ひとりが思いやりの心を持つこと。年寄りに、福祉保健に関する情報をもっとわかりやすく教えてほしい。
男性	70歳～79歳	今後大型台風が予想されるに当たり、水害には十分配慮してほしい。
男性	50歳～59歳	安心してすめるまちづくり。特に町内同士が気軽に話し合えること。
女性	20歳～29歳	自分自身の成長と一緒に地域の人々との関わりあいというのは減ってきたと思う。具体的な方法は思いつかないが、よりお互いが助け合う(大阪の商店街のような)地域になると素敵だなと思う。ボランティアも機会があれば参加したい。
女性	60歳～64歳	地域住民が積極的にあいさつを交し合うことが出来、顔見知りになっていけば、どこにどんな人(支えが必要な)が住んでいるのかも自然と知るようになり、世代間の交流やつながりも持てるようになると思う。そんな日常の中からいざというときに互いに助けあうことが出来るのではないかとと思う。

問 33 福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていること その 10

性別	年齢	福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じること
女性	20 歳 ~ 29 歳	理想は地域の人間関係を良好にし、お互いを知っているといった状況だが、実際難しいと思うので、一人ひとりが公共施設・団体との情報のやり取りをスムーズに出来ると良いと思う
女性	60 歳 ~ 64 歳	相手の気持ちになって色々な面で生活できれば、やさしい福祉が出来たらと思う
女性	40 歳 ~ 49 歳	お互いの顔を見てあいさつを交わす。知り合いだと思えば、助ける気持ちも自然とわき、相談もしやすい。自治会の活動など半強制的に参加すると異年齢の人々と知り合いになれば、好きではないが大切だと思う
女性	20 歳 ~ 29 歳	まず各町の地域住民同士のコミュニケーションが大切。コミュニケーションが取れてなかったらボランティアだって参加しないし、無駄だと思う
女性	50 歳 ~ 59 歳	10 年後には年寄り世帯が多くなると思うので、それにそった福祉保健のまちづくりが必要だと思う
女性	30 歳 ~ 39 歳	高齢者に優しいまちづくりたとえば駅。バリアフリー化を進めてほしい
女性	30 歳 ~ 39 歳	自分のことばかり考えている人間が多すぎるので、欧米のようにボランティアを義務化して、学ばせたほうが良いと思う。あまりにもひどい親が多いので、親の性格診断をして注意点を挙げるなどしたほうが良い。
男性	65 歳 ~ 69 歳	前向きに進めてほしい。
女性	40 歳 ~ 49 歳	日ごろ同じマンションに 10 年住んでいても、いまだに顔を必ずも知らない人はたくさんいる。都会の人は本当に他人と係わり合いを持たない。人のやらない良いことをしようとすると変人扱いされる。一人ひとりの心の豊かさを改善できない限り福祉活動にはさまざまな障がいが出てしまうと思う
男性	80 歳以上	区内世帯数(人口)の増加により、対人関係はますます疎遠になり、義理・人情は薄れていく。多額の税金を投資する福祉保健事業の前途は暗い。福祉を単なるサービスとは思えない。意識改革が必要。
女性	30 歳 ~ 39 歳	中山駅周辺のバリアフリーの確保
女性	30 歳 ~ 39 歳	高齢者への福祉については地域社会における高齢者の活動や貢献の場を作ることが必要だと思う
男性	70 歳 ~ 79 歳	近隣の連帯感
男性	50 歳 ~ 59 歳	高齢化が進んでいる中、地震が発生したときの地域防災拠点が少ないので避難施設及び食料・水等(3 日間ほど)の検討が必要である。
女性	60 歳 ~ 64 歳	緑区は昔から住んでいる人と引越してきた人が混合した町で、交流がなく冷たい町な印象。互いに支えあう助け合うというのは大切な理想で、10 年・20 年と流れていく感じがする(実現が難しい)積極的にあいさつをしているが、こちらから声をかけないとすれ違ってしまふ人には、声掛けをやめようかなと思う
男性	50 歳 ~ 59 歳	地域のイベントスケジュールがわからない。(回覧板はあるが、家に残らないため)50 ~ 60 歳くらいのコミュニケーション活動を多くする。地域の少ない人数でできるイベントを増やす。
男性	40 歳 ~ 49 歳	区民への啓蒙活動
女性	30 歳 ~ 39 歳	近所での交流が自治会に入っていない人が多い為、入っている人が負担になっています。(そのせいか近所トラブルも多々あり)住みやすい地域にするにはまずは誰でもできる自治会加入(全戸)を強く希望しています。
女性	65 歳 ~ 69 歳	私の周りは高齢者ばかり(今もそうですが)になりますので、高齢者が健康で今の所で心やさしく住めるよう、隣近所で支えあっていければと思います。又、残念ながら心身不自由になった時、近くの入所施設に待たずに入れるようになっていければいいのにとと思います。
女性	40 歳 ~ 49 歳	より負担が軽く、でもより細かく、より自由に、より気軽に参加できるボランティア活動の出来る街。
男性	65 歳 ~ 69 歳	地域防災拠点まで徒歩で 15 分 ~ 20 分かかりますから 10 分以内の中間地点増。歩道の増設(家の新築、増改築時に建築局と道路局の連携計画がよい道路になる)
女性	30 歳 ~ 39 歳	三保交差点からつるかめに向かう道路が狭いのと、狭いのに大型バスやトラックが走っているのは危険。中山駅前の商店街に歩道がないのも危険。車椅子で移動できる安心した道路整備が不可欠だと思う

問 33 福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていること その 11

性別	年齢	福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じること
男性	20 歳 ~ 29 歳	高齢者が増加する傾向にあるため、20 代の方がボランティア活動や地域の集まりに参加して、身近な地域づくりをしていくことが大切だと思います。
女性	40 歳 ~ 49 歳	建物や道路などをバリアフリーにすること。歩道の整備。
男性	40 歳 ~ 49 歳	高齢者や子どもが安心して住める町。
男性	30 歳 ~ 39 歳	困ったときに誰にまず相談したらよいか、その情報の入手先の整備構築が出来ており、またそれらを地域住民が主体となってお互いを支えあう社会が望ましい。しかしながら隣り近所住民同士があいさつもできない、またはトラブルをかかえている様な状況では心豊かでより健康な生活など送れるはずもないと考える。最終的に区民一人一人がボランティア活動などに気軽に参加できるような仕組みづくりが急務となる。何よりも住んでよかったと思えるような区政をしていただきたい。
女性	30 歳 ~ 39 歳	一人一人が健康で小さな怪我や軽い症状で救急車を呼ばずに一次処置ができる知識を持っている、又対処できる。寝たきり長寿を減らす様な運動活動、体操など。
女性	60 歳 ~ 64 歳	町の清掃 (特に区役所付近) ゴミの散乱が気になる。
女性	50 歳 ~ 59 歳	よくわからない。
女性	30 歳 ~ 39 歳	ホームページを充実させ、自宅から情報入手や各種申し込み、問い合わせなどができるようにする = 情報を行き渡らせる。
女性	40 歳 ~ 49 歳	古い町なので福祉にとっては歩道の整備や階段などに手すりやエスカレーターなどのもっと対応して欲しい。
男性	50 歳 ~ 59 歳	一人で住んでいる高齢者のフォロー(物理的、精神的フォロー)
女性	70 歳 ~ 79 歳	良い環境の街がいつまでも続いて欲しいです。
女性	50 歳 ~ 59 歳	福祉保健という言葉がピンときません。
女性	70 歳 ~ 79 歳	年老いても幸せに生活できることを願います。
女性	20 歳 ~ 29 歳	緑豊かな街
女性	30 歳 ~ 39 歳	町を歩いていて田舎のようにお年寄りを見かけないので、きっと家にこもっているか施設にいらっしゃるのかなと思う。お年寄りの社交の場、ゲートボールをやっているところかなと思うので、もっとグランドとか公園とか体を動かしたり外出できるようにしてあげてほしい。小さい子どものお母さんが保育所だけでなく、気軽に預けられる知り合いができるために、地域住民の社会が必要。
男性	20 歳 ~ 29 歳	地元の駅周辺の駐車場が少ないため、増やしてほしい。中型のバイクの止める所がない。お願いします。
女性	40 歳 ~ 49 歳	横浜市の税金が高いので下げて欲しい。税金を下げないとどんどん他の地域に人口が流出し福祉にお金が回らなくなるのでは？
女性	30 歳 ~ 39 歳	心豊かでより健康な生活、誰もが安心して出掛けられる町にしていきたいものです。そのためには、やはり人と人とのつながりが一番重要だと感じています。地域の方々とあってお話する機会がもっとあったら・・・と思います。子どもは母親だけでなく地域の大人がみんなで育てていくものですし、介護の必要な方がいれば、みんなで助け合えるような温かいまちになったらいいですね。
女性	70 歳 ~ 79 歳	区役所の福祉保健課の人員増とその人達が心から他人を思いやる心を持ちながら仕事ができる人材を育てる役所自身の教育の充実で、積極的に思いやりの心を持って仕事のできる人をたずさえてください。
女性	50 歳 ~ 59 歳	近所付合いを大切にするする推進策 助け合いにつながる。
男性	20 歳 ~ 29 歳	この 10 年間でかなりハード面でのバリアフリー化は進んだと思う。今度はソフト面でのバリアフリー化の為に 10 年となるであろう。
男性	30 歳 ~ 39 歳	歩道が狭かったり、街灯が少なかったりと、まだまだ住みやすいまちづくりに課題が多いのではないかと。こういったことを改善して欲しい。
男性	70 歳 ~ 79 歳	高齢化社会に向かって健康な生活が送られるまちづくり。
男性	70 歳 ~ 79 歳	安心安全を創る工学技術の発展にもとない、それらが現在よりはるかに高度な社会的技術として利用されている。(例)ロボット技術、湯船に落下してもおぼれない泡風呂等の普及。歩行アシストシステム、位置情報検索システム等。
女性	65 歳 ~ 69 歳	現在健康に恵まれておりますので、あまり深く福祉保健に関して関心を持っておりませんでした。今回本当に反省させられました。
男性	60 歳 ~ 64 歳	介護が必要な老人を受け入れる高額な料金でない普通の施設。

問 33 福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていること その 12

性別	年齢	福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じること
男性	30歳～39歳	犯罪のない安心して住めるまちづくり。
男性	70歳～79歳	なかなか難しい問題ですが、情報提供にまず重点を置いていただきたいと考えます。健康でいるとどうしても関心が薄くなってしまふことが問題だと思っています。
女性	70歳～79歳	安心して住める老人ホームができたらと思っています。
女性	40歳～49歳	隣人が独居のお年寄り。長期外出の際はきちんと教えてくれ、日ごろおかずのおすそ分けやお土産のやり取りをして気遣いあっている。そういった配慮がいざというときに相手のために行動できる人間関係のベースを作るのだと思う。
男性	70歳～79歳	誰もが安心して安全に出かけられるまちづくり
男性	50歳～59歳	老人医療を無料にすること。65歳以上パスも無料化。
女性	30歳～39歳	町の清潔と心地よい雰囲気。
女性	70歳～79歳	10年後は平均年齢を超えているので・・・ただ年寄りも安心して生活できる町にしてほしい。今の心境は人に迷惑をかけず自分のことは自分で出来るように心がけている。
男性	20歳～29歳	横浜線の本数を増やす 駅前の整備・自転車の駐輪場を増やす
男性	40歳～49歳	緑区は細い道が多いがゴミがよく落ちていふ。福祉保健のまちづくりには、まず、町のクリーン化が必要だと思う。(環境の改善)
男性	30歳～39歳	住人各人の意識レベルの底上げ
女性	20歳～29歳	健康診断の強化など健康な生活のためにしっかりして欲しい。女性のための乳がん検査など、若い人が受けられるものがない。
男性	65歳～69歳	病気になるないようにみんなで健康づくり
女性	30歳～39歳	とにかく情報が入手できないことには発展も活躍もないと思う
女性	50歳～59歳	住民の高齢化が進むので、健康で活動的な生活が送れるように情報の提供や施設の利用が十分にされることが大切だと思う。また、中高年の人が経験や特技を生かしたボランティアに気軽に参加できるようになればよいと思う。
女性	30歳～39歳	昔から住んでいる人と新しく住み始めた人が混在しているので、それぞれが関わりあえるような方向性が大切だと思う。鳥取県の鳥取大学医学部准教授の高塚ひとし先生の取り組みは、地域を巻き込みあたたかいコミュニケーションの輪が出来るものだと思う。緑区でもこのような取り組みがあれば素敵だと思う。
女性	60歳～64歳	今までは不安で出かけることをあまりしなかったが、これからは出かけて外の環境に触れていこうと思う。
女性	50歳～59歳	四季の森もすぐ近くにあり、もう少し細い道の整備(たとえば歩道を途中まででなくする)等してもらい、ゆったりとした時間をすごせる生活をしたいと思う。時々防犯パトロールも回ってくれるので安心。
女性	70歳～79歳	高齢者も若い人と一緒にボランティアが出来ることもある。体力的には無理でも、困ったときの助言・相談・情報提供などお互いを尊重しながら思いやる気持ちを持ち、協力し合えば高齢者も頼りにされていると思ひ生きがいになる。お互いのよき理解者となれる仕組みづくりと場が必要。
男性	20歳～29歳	バリアフリー環境の積極的推進
男性	50歳～59歳	高齢化のため、福祉の情報が必要な人に伝わりにくい。また、ボランティアに参加したいと考えている人が相談したり体験する手段・方法・情報も必要。組織・システムがあっても知らなければ、ないのと同じ。まず区民に周知させ、多くの参加を勧めることが大切と思う。
男性	20歳～29歳	車や歩行者が安全に行きかまちづくり。狭い歩道の見直し・車道に長く滞在する車輛の対応・無灯火自転車の取り締まり
女性	30歳～39歳	昔に比べ誘拐・殺人など多く、子どもを持つ身としてはとても心配。普段から地域住民との交流を持ち、顔見知りとなり、部外者(変質者)の侵入を防ぎ、安心・安全なまちづくりが出来ればと思う。
女性	40歳～49歳	集える場所がわかりやすく、利用しやすいと良いと思う。
女性	30歳～39歳	良い病院がある(特に大きい病院)数医者で有名な病院が多い。
女性	80歳以上	このまま推進して行ってほしい。
男性	50歳～59歳	職員さんたちが区民に情報を出してほしい。

問 33 福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていること その 13

性別	年齢	福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じること
女性	60歳～64歳	10年後は自分も介護を受けているかもしれない。勉強不足かもしれないが、福祉保健のまちづくりのイメージが正直わからない。高齢化社会になった現在、年寄りで活躍している方もたくさんいる。一生の最後まで健康で元気にいられるような生活を指導していただきたい。
女性	50歳～59歳	高齢者には心気症という症状が多く見られ、この問題の解決に早く取り組んでもらいたい。
男性	50歳～59歳	高齢化率が進んでいくと思うので、高齢者対策が課題の大きな要素となっていると思う
女性	65歳～69歳	地域で支えあえる関係作りが出来たらよい。何でも相談できる町医者のような住民が地域にいればと思う
男性	70歳～79歳	電車・バス・自動車を利用しても行きづらい。10年たっても同じなのでは??
女性	40歳～49歳	区民一人ひとりへの意識付け。
女性	40歳～49歳	こどもに障がいがある。特別支援学校に通っているため、地域との接点が少ない。知り合いも少ない。近所の方とはあいさつ程度。こどもに声をかけてくれる人もいるが、浅い付き合い。孤独にならないよう、自分の心がけも大事だと思っている。
女性	40歳～49歳	緑区は古くて暗いイメージがあるので、明るくオープンな福祉保健のまちづくりをしてほしいと思う
男性	40歳～49歳	情報
女性	40歳～49歳	マンション住まいでマンション内の付き合い・顔見知り・あいさつの数は少しずつ増えていると感じるが、一歩外に出たときにもっといろいろな人(特に近所)とあいさつが出来るよう顔見知りになれる機会があればと思う
女性	30歳～39歳	きちんと会った人にあいさつできる。昔は当たり前だったが、新しい人が増えたりして隔たりを感じることもある。
女性	70歳～79歳	心豊かでより健康な生活が送れるように。
女性	50歳～59歳	今以上に区民の高齢化が進んでいると思うので、高齢者や身体の不自由な方々が住みやすいまちづくりがもっと必要だと感じる。バリアフリーやサポート体制は当然だという町になってほしい。
女性	40歳～49歳	高齢の世帯はもちろんのこと、単身で独居していると緊急で何か不都合が生じたときへの対処が困難な場合が考えられる。特に深夜や早朝ではよほど親しくても遠慮がちになるものではないかと考えられ、そういった場合に24時間営業しているコンビニなどのお店と病院(急患)や警察(犯罪・事故)が日ごろより密に連携していればお店利用の際に心構えとして安心できるのではないか。
男性	30歳～39歳	障がい者や老人など社会的弱者に思いやりを持って接することが出来る人を増やすこと。スロープやエレベーターの設置など、バリアフリーの推進。
女性	40歳～49歳	それぞれの施設へ行くまでの道のり、道路の整備。本当にそれが必要な人たちの足が遠のく
女性	40歳～49歳	今より高齢化が進んでいると思うので、お年寄りが元気に楽しく暮らせる町にしてほしい。
男性	40歳～49歳	高齢者が住みやすい社会 環境 行政 区民との情報の共有。
女性	60歳～64歳	自治会や地域で近くの学校 体育館 運動場 地区センター等で参加できる、健康に繋がるものを開いてほしい。年をとってくると近く出ないと参加するのもおっくうになる
女性	60歳～64歳	これからますます高齢者が増える一方でこどもの数が少なく、私たち高齢者は近隣の付き合いが昔のように気軽に出来たらと思う。今の社会、あまりにも知らないふりをするのが他人とうまくやっていくという風潮、あまりにも寂しい気がする。
女性	60歳～64歳	分区する前から緑区に住んでいるが、特に変わった様子もないし、これからも上に立つ人もわからないし、これといって変化はないと思う
女性	40歳～49歳	障がい者(児) 高齢者、またその家族が経済面 安全面において安心して暮らせるまちづくり。
女性	65歳～69歳	高齢者の一人住まいで困っているのは、電球の取替え・ガラス拭き等だとよく耳にする。
女性	30歳～39歳	古きよき昭和の暮らしを再現する。
女性	50歳～59歳	誰もが安心して生活できる住み良い環境づくり。

問 33 福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていること その 14

性別	年齢	福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じること
女性	30 歳～39 歳	横浜線の駅前の道路を何とかしてほしい。特に中山駅は、あんな狭い道路にたいした歩道もなく人・バス・車が通っていてすごく危険。
女性	30 歳～39 歳	福祉保健という観点に当てはまっているかはわからないが、こどもと過ごす中で、歩道をきちんと整備してほしいと思う。保育園での園庭開放も増えると良い。「いっぼ」は面白そうなので行きたいなと思いつつ、駐車場がないので行かずに終わりそう。横浜は家賃がとて高いので、自分も働かなければと思うが、情報が少ないこと・ハローワークが遠いこと・保育園が待機になっていしまうことなどがあり、出来ずにいる。
女性	50 歳～59 歳	高齢化社会に向けて手厚い福祉保健のまちづくりは急務だと思う。バリアフリー化対策等、ライフデザインがしやすい情報・環境の整備、新型インフルエンザ等、ワクチンは無料接種化して次世代のこどもたちを守ってほしい。
男性	80 歳以上	この良い趣旨をわかりやすく周知させる努力が必要。区の担当者は地域の各行事に積極的に参加して交流をすることが第一と思う。
女性	60 歳～64 歳	一人暮らしでも安心・安全に住めるとよいと思う。
男性	40 歳～49 歳	情報
女性	30 歳～39 歳	福祉保健に関する情報が、関心のない人にも届くように積極的に進められれば、地域のつながりやより良いまちづくりにつながると思う。まずは誰にでもわかるような情報の提供から。
女性	30 歳～39 歳	歩道の整備・公園の手入れ・バス停のベンチ等
男性	40 歳～49 歳	緑区全体としては解答できない部分もある。しかし在住地区の小さな社会においては現状のままでは暗雲漂う状況。回避するには意識の向上も必要だが、あまりにもひどい状態。公営住宅のイメージの悪さもあり、近隣からも疎外されている状態で、若い人が手を上げられない状況。
女性	50 歳～59 歳	いろいろな情報の把握
女性	40 歳～49 歳	近年住居を購入して移り住んできたが、自治会自体が新しい構成員のみで、緑区の仲間入りをした実感が無い。ゴミを出せば「我々のところに出すな」といわれるし、ご近所感がなさ過ぎるので、もっと新旧を取り混ぜたまちづくりがなされても良いのでは。
男性	70 歳～79 歳	高齢者が健康で明るい老後を送れるよう、体力・健康推進を計る区レベルのプログラム・システム作り。介護・看護サービスをもっと充実すること。人と人のつながりを大切にする親切で笑顔に満ちた地域づくり。こどものところからの道徳教育。
女性	80 歳以上	住みよい町であってほしい。
男性	40 歳～49 歳	自治会活動の活性化・横のつながり強化
男性	20 歳～29 歳	歩道の整備
男性	70 歳～79 歳	本来、プランの計画時にアンケートを実施すべき。しっかりと計画し、成果を具現化してほしい。
女性	60 歳～64 歳	現在 60 歳台でパートと年金で生活しているが、10 年後年金だけの生活になったとき、身体は健康であるが生活が立ち行かないという独身老人が多くなるのではないかと思う。老人・こども・障がい者などが寄り添ってゆけるような協力体制が必要だと思う。
女性	40 歳～49 歳	高齢化が進み、こどもが減少している。こどもが安全に遊べる環境は今より厳しくなると思う。高齢化がどう問題になるのか想像がつかない。
男性	30 歳～39 歳	福祉保健に関する情報を誰でもいつでも得られるような情報インフラの改善・向上。清潔で明るいまちづくり。
男性	40 歳～49 歳	緑区だけでなく世間一般に言えることだが、関東地区は関西地区と比べて人に関心がなさ過ぎる。もっと身近に暮らす近所の方々とかいさつから始めて、少しずつ交流を深めないとか何かあったときにどうすればいいのだろうと日々不安を感じるがなかなか親しくなれない、寂しい、接点がないため仕方がない。
男性	30 歳～39 歳	就労移行支援
女性	70 歳～79 歳	一人ひとりが感謝の気持ちと、人と人との関係を大事にして、どの人に対しても優しい心遣いを身に付けてほしい(お互いがもっと気を使うこと)。この緑区だけでなく、日本人がもっとすばらしい人間になると思う。
男性	40 歳～49 歳	地域住民と関わる場づくり。集合住宅のため、住んでる人が全くわからない。

問 33 福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていること その 15

性別	年齢	福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じること
女性	60歳～64歳	福祉施設のよりいっそうなる充実
女性	20歳～29歳	少子高齢化が進む中で、子育てや介護が生活を圧迫しないよう、地域で出来ることがあれば積極的に取り組んでほしい。困ったときに相談できる場所があったり、情報提供が進むことで、困難を抱えた人が孤立しないよう地域で支援できると良いと思う。自身が相談をするだけでなく、協力できる部分は協力して、お互いに支えあえるような環境を望む。
男性	40歳～49歳	近くに相談相手、場所があり、支えとなってくれる町。
女性	40歳～49歳	これからは小学生、中学生、高校生、そして大学生がいろいろな形で福祉活動に参加できる町にしていくことが、思いやりのある優しいまちづくりにつながると思う。
男性	65歳～69歳	地域住民が顔見知りとなり、お互いに支えあえる関係作り
女性	20歳～29歳	ゴミの落ちていないきれいなまちをイメージしている。そのために必要なのはゴミ拾いをするボランティアではなく、ポイ捨てしないという当たり前の一人ひとりの心がけだと思う。ポイ捨てを恥ずかしいと感じるような整然とした公園や、目立つゴミ箱の設置、きれいなまちづくりが重要になると思う。また、カラスや鳩が増えすぎても衛生面の上でよくないと思う。
女性	60歳～64歳	地域住民の顔が見えるまちづくり(近所でも家族構成も顔もわからないような状態では地域づくりは不可能だと思う。住民の顔がわかれば安全なまちづくりが出来ると思う)
女性	20歳～29歳	子育てをする家庭や障がい者、高齢者の方が住みやすいまちづくりをしてほしいと思う。地方に比べ都心では地域住民の連携が少ないと思う。困っている人がいれば進んで積極的に手助けをする人が増えればと強く感じる。
女性	65歳～69歳	制度がどんどん変わるので、いざという時にどうなっているかわかりにくい。どこか一箇所ですべて連絡したら、次の方法を知らせてくれるというシステム作りをお願いしたい。
女性	20歳～29歳	自分を含め近隣とのかかわりが少ないので、身近なところで何らかのつながりが持てるよう、個人個人の意識が必要ではないかと思う。
男性	40歳～49歳	長津田の町を散歩していても感じるが、高齢化が進んでいる。今から地域住民の顔がわかるように交流を増やさないと、冷たい町になってしまうと思う。
女性	40歳～49歳	緑区は比較的若い世代の方も新しく住まれていて、人口も増えてきているイメージがある。そんな中、昔から地元で根強く関係を築いている方も多くいて、その温度差を出来るだけ縮めてかかわりが持てるようにしていくべき。
女性	30歳～39歳	高齢化に伴い、人に優しい住みやすい地域となっていてほしいと思う。そのために、福祉保健は重要事項だと思う。
女性	50歳～59歳	地域密着型が大切だと感じている。横のつながりや連絡、情報交換等、学校・病院・商店街・自治会、地域としてのつながりが大事。子どもが大人が年寄り住みよい町であってほしいと願っている。
女性	50歳～59歳	体の弱い高齢者の安否確認、食事サービス(有料)の充実、孤独にさせない。元気な年寄りがこれらを企画、運営するなど活躍の場を提供する、お互い様の精神。小さい子どもたちが安心して走り回れるグラウンド(遊び場)がある社会
男性	70歳～79歳	災害、緊急時、犯罪防止。住みよい町
女性	40歳～49歳	人と人とのつながりなので、近所の人にあいさつだけでもしてほしいと思う。隣の人10年住んでいても家族の人の顔もわからずあいさつするとき少々顔を見る程度なので、もう少し声をかけやすくなればと思う。
男性	40歳～49歳	コミュニケーション
男性	70歳～79歳	高齢化が進んでいるが、5～10年先の生活環境を考えることが出来れば。
男性	40歳～49歳	歩道の整備、子どもも年より先安心して通行できるようにしてほしい。公園内にトイレがないのは不便。
女性	40歳～49歳	宅地化が進み、若い世代の人が住み始め、価値観の違いに(譲り合う気を使うなど)戸惑うばかり。ゴミ当番も生活様式(共働き)の変化からか、致し方ない。気になるほうがずっとすることに、住みづらくなっている。
女性	50歳～59歳	民生委員やボランティアに、個人情報保護等の教育。
女性	40歳～49歳	知らない人同士でも声を掛け合えるように

問 33 福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていること その 16

性別	年齢	福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じること
男性	50 歳～59 歳	向こう三軒両隣がわかるマップ作り。自分の周りの世界を認識できる人とのかかわり。
女性	20 歳～29 歳	緑区の町をいくつかに分けて、そこで地域グループを作り、そのグループの人たちは全員顔見知りで、防災時や相談など(こどもを預かる 介護等)地域で支えあう体制を作っていくのが理想的だと思う。集会などは働いている人もこれらのように夜に行くと参加しやすいのではないかと。
男性	50 歳～59 歳	基本的には自己責任で、自分の暮らし・安全・健康を守る姿勢が必要だと思う。しかしながらそれだけでは十分でなく、思いやりをベースに地域で支えあえる仕組みが必要だと思う。
男性	60 歳～64 歳	10 年後も全く変わらないと思う。
女性	40 歳～49 歳	もともと山だったところに住宅が出来ている。そういったところには、公共の交通機関がまだ入っていないようなので、若い頃は良いが、年をとったときには地方にある「100 円バス」のような、こまかい道を通るバスがあれば助かると思う。
女性	65 歳～69 歳	住人の高齢化が顕著である。若い人との同居はあまり見られず、日常生活でのサポートを必要とする人が増えることが予想される。通院・買い物・庭の手入れなど、業者も入るようにして、系統だった体制を整えていく必要があると思う。
男性	40 歳～49 歳	近隣とのコミュニケーション。コミュニケーションを気軽に取れるような安全なまちづくり。
女性	30 歳～39 歳	こども・大人・老人・障がい者がそれぞれの目線に立って、より過ごしやすい環境になるように努力が出来ればと思う。意見も気軽に伝えられるような方法・場所があると良い。
女性	30 歳～39 歳	地区センター等利用したことはあるが、福祉保健とは何なのか。どのように活動しているかもわからない。
女性	40 歳～49 歳	自分のこどもが 10 年後には 20 歳前になる。それを思うと 10 代・20 代の若いこどもたちが自ら積極的に年寄りや小さなこどもたちへの手助けを行えるようにこれから教育し、区全体での取り組みとして育ててほしいと思う。それに伴い、大人が模範となり、助言・手助けが必要だと思う。
女性	50 歳～59 歳	思いやりを持った人を育てることが重要だと思う。どんな仕組みがあっても、使う人に思いやりがなければうまくいかない。
男性	30 歳～39 歳	安心・安全・きれいな町

問 33 『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見 その 1

性別	年齢	みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見
女性	65 歳～69 歳	昔地域の老人クラブは近くの特養施設のボランティアを積極的に行っていましたが、だんだん足が遠のいていきました。理由はどんなに一生懸命しても自分が必要になったとき、そこには受け入れてもらえないことがわかったからです。新しく出来た「コハマいきいきポイント」に特養ホームがありますが、施設のポイントがたぐさんたまと、そこに優先的には入れるとかあったら、安心して年をとることが出来るし、ボランティアも増えるのではないのでしょうか。近くの施設が身近で、大切なものになるでしょう。(お金に換える人はあまりいないでしょう)
女性	40 歳～49 歳	申し訳ありませんが、『みどりのわ・ささえ愛プラン』が平成 18 年から推進されていたことすら知りませんでした。意識不足? 活動情報のアピール不足?
男性	50 歳～59 歳	近年、『緑区』といってもマンション・家屋の建設が目立ち『緑区』というも過去となりつつあるように思います。色々難しいとは思いますが、『緑区』の名に恥じない区になってもらいたい。
女性	65 歳～69 歳	緑区の状況を把握していなかったため今後意識していきたいと思う。
女性	30 歳～39 歳	このプランを知らなかった。
女性	70 歳～79 歳	このプランがあることさえわからない。
女性	30 歳～39 歳	あまり存在が知られていない。
男性	80 歳以上	地位のある人や一般の人たちも豊かな生活が出来ると環境にしてもらいたいです。
女性	40 歳～49 歳	プランについて正直知らなかった。具体的な取り組みについて情報がほしい。

問 33 『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見 その2

性別	年齢	『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見
男性	65歳～69歳	高齢化していますが、区内(近く)でまだ働きたいのですが、ハローワークに行っても職が少ない。病院 介護施設等、近くの人を採用してもらいたい。
女性	20歳～29歳	どんなことをして、どんな成果が得られているのか、わかりにくいのでわかりやすくしてほしい。
女性	65歳～69歳	交通量の多い広い道路等はきれいに整備が進んでいるが、一歩中に入ると補装が何十年も放置されているところがある。排水溝や道路の補装をやってほしい
女性	65歳～69歳	この事業の件については全く知らない。どこに行けば、どんなことをしているのかわかれば、考えたいと思う
女性	20歳～29歳	街灯が少なく感じて怖い
女性	30歳～39歳	仕事に行っているので家にいないことが多い。だから地域のことがよくわからない。また、その必要がなかった。
男性	30歳～39歳	住民税が高い。土曜日の午前中だけでも区役所をやってほしい。
女性	30歳～39歳	今回アンケートが来て初めて知った。何をやっているのか、具体的にわかりづらい。
女性	65歳～69歳	『みどりのわ・ささえ愛プラン』の取り組みがあることをはじめて知った。大きな取り組みで成果を挙げることは大事だと思う。提供する側よりも提供される側の意識が大切だと思う。まだ家の内に他人を入れることの出来ない意識がある。また、知り得た情報を他人に話さない。難しい。
男性	60歳～64歳	そのものを知らない(PR不足)
女性	30歳～39歳	プラン自体を知らなかったので、もう少し興味を持って区政に見守り 参加していきたいと思った。
女性	40歳～49歳	知らない
男性	70歳～79歳	住み良い社会にするには若い人は老人を、老人は若い人の立場を考えて、お互いが思いやりのある心が何にも増して必要だと思う。地域で生活している人は家庭ごみ、地域のいろいろな決まりを守ることが明るい社会を作るには必要だろう。
女性	40歳～49歳	タクシーを頼んだとき、障がい者割引で1割引いてくれてありがたう感じた。
女性	30歳～39歳	残念ながら知らなかった。HPを見ようと思う
男性	70歳～79歳	区政に対してあれこれ言える立場ではないし、正直手探り状態
女性	30歳～39歳	緑公会堂でイベントがない日はホールを練習場として貸してほしい。
女性	70歳～79歳	このアンケートではじめて知った。
男性	30歳～39歳	知らなかった
女性	20歳～29歳	デスクに座って書類を眺めて名前だけの政策はどこの役所も同じだと思う。それなら役所の人学校に顔を出したり、スポーツを教えたり、巡回したり、お年寄りに声をかけたり、スニーカーの底が磨り減るまで動いてみたらどうだろうと思う。形ばかりでは、私たちもきつと形ばかりになるだろう。
女性	40歳～49歳	あまり私自身知る機会がなかったので、自治会の回覧板等でお知らせしてほしい
女性	40歳～49歳	地域自慢できるような特徴がほしい。またその取り組みが知りたい。
男性	40歳～49歳	このアンケートが来るまでこのような取り組み機関のことをよく知らなかった。(自治会・子ども会の活動程度)最近では私の住んでいる地域も他県などから移住者が増え、隣近所とのかかわりはほとんどないようなので、災害のときに本当に助け合えるのか不安。
女性	65歳～69歳	緑区の名にふさわしい緑溢れる(安易に樹木を切らずに高齢者のみならず樹木の下に明るい声が聴かれる環境)美しい景観の下に、一人ひとりに暖かい交わりがあり、静かな落ち着いたところで最後まで生活できるように、黒鉛 街路格 企業の裏地内、どこを見ても四季の美しい景観が楽しめるように都会に大森林と思う
女性	70歳～79歳	各課ごと、部署ごとの連携が不足しているように感じる
男性	40歳～49歳	残念ながら上記プランや緑区政についてあまりよく知らない。長きに渡り緑区に今後も安心して暮らしていきたいと思っているので、これらのことがより区民に浸透するよう周知をお願いしたい。
女性	20歳～29歳	このアンケートでこのような機関があることをはじめて知った。日ごろの活動がもう少し表面化できる場があるとよい。

問 33 『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見 その3

性別	年齢	『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見
女性	65歳～69歳	中山駅南口まちづくり20年前から話し合いが続いているようですが、車とバスの間を乳母車 杖をついた老人 一般の人がとても危ない思いをしている。一刻も早く整備してほしい。穴が開いた危険なところもある。来年から緑税、反対。どんどん宅地開発をして木を伐採して緑がなくなっている。これ以上老人ホームも作らないでほしい。緑区がイチバン何事にも遅れている。まちづくりを何とか早く 市議会議員に会ってお願いしたこと10件ほど、1件も実行されていない。
女性	50歳～59歳	家族の中に老人・こどもがいなくなったため、ささえ愛プランにかかわるチャンスがないため、知らないことが多い
男性	30歳～39歳	通学路の安全確保(歩道設置 勾配解消)が必要。健康づくり等に資するプールが緑区には若葉台にしかない。恩田川、矢本川の管理用通路(土手道)を散歩・ランニングのため舗装してほしい。千代橋上流側にも歩道が必要。
女性	40歳～49歳	プランについて全く知らなかった。なので評価も出来ない。
女性	40歳～49歳	これらの取り組みについて全く知らなかった。プランはとてもよいと思う。これからは関心を持っていきたいと思った。
女性	30歳～39歳	今回はじめて知った。知識は全くなかった。こどもがいないと、地域とかかわる機会がない。
女性	50歳～59歳	まだまだ情報が下に下りてきていない部分が多いように思う。もっと発信してほしい。広報誌だけでなく 誰もが目にする駅やスーパー等の掲示も増やしてほしい。
男性	70歳～79歳	知らなかった。区報など見ているはずだが、気づかなかった。(PR不足では)個人主義中心の家庭が多いので、あまりボランティアに頼られても実効は薄いのではないかと思う
女性	70歳～79歳	近所でも本当に付き合いがない。寂しい日々です。みんな家からあまり出てこない。
男性	50歳～59歳	周知の方法を一考する必要がある。
女性	40歳～49歳	緑区は伝統のある街だけに、自治会を中心としたまちづくりに重点を置いてしまうと、若い世代やほかの地域から来た人の感性が反映しにくくなる。自治会経由の行事には、行政側からの仕掛け・バックアップがあると良い。
男性	50歳～59歳	常用漢字を使ってほしい。(読みにくい)
男性	65歳～69歳	会社員で転勤も多く、地域に根ざした生活が少なく関心が少なく退職後はシルバー人材センターからの仕事で週3-4日を費やしており、今後は地域住民のため、ボランティア活動等を積極的に取り組みたい。
女性	65歳～69歳	イチバン不安なのは医療に関すること。
女性	50歳～59歳	知らなかった。これからはすこしずつ福祉などに耳を傾けたい。
女性	65歳～69歳	本当に必要な方に生活保護・市営住宅の入居等が出来るように。安心して入院できるように。じつとがんばっている人にも手を差し伸べてほしい。きめ細やかな対応に期待している。
男性	70歳～79歳	町内会で一緒に活動はするが、名前もわからずどこの誰かもわからない。そんな町内会。また、役員になったときだけ1年間目で会うがそのみで交流はなく、頼りない町内会。足が悪いので病院に通院の生活。
男性	50歳～59歳	ボランティア活動も重要だと思うが、介護などを職業とする方々を育てていくことが行政としてもっと重要だと思う。ボランティア活動の推進が職業として介護を行っている方々の賃金や教育レベルの低下につながるぬよう配慮すべき
男性	70歳～79歳	住民の必要性からしたものが運動になっていくべきであると考える。
男性	60歳～64歳	こどもは住みたくないといって出て行ってしまい、団地内は(戸建の)ゴーストタウンのようになってはいけな
女性	70歳～79歳	介護度のある人を、自分の休養のためにも安い料金で預かってくれるショートステイがあるとよい
男性	40歳～49歳	プランの存在自体知らなかった。広報をさらに進めてほしい
女性	20歳～29歳	公共の場所での喫煙を禁止してほしい。発がん性の物質が含まれているのに、なぜもっと規制を強化しないのか。
女性	40歳～49歳	区内の犯罪を見るとささえ愛がもっとほしい気がする。安全安心に暮らせる緑区であってほしい。有言実行してほしい。

問 33 『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見 その4

性別	年齢	『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見
女性	60歳～64歳	広報誌は読みやすくなっているが、さらに進んで「読むのが楽しみ」な紙面づくりをお願いしたい。また、情報を入手しやすい環境の整備も大事と思う(回覧板の充実)
男性	70歳～79歳	プランについて、広報での記載がすくないのか、見たことがない。
男性	60歳～64歳	もっと広報でPRしてほしい
男性	80歳以上	地域でミニバスが運行されありがたい。鴨居駅周辺・東本郷地区、よく整備されておりありがたい
女性	65歳～69歳	介護者が急に用事ができたり病気になったりした時のショートステイのすぐ入れる緊急のベットが少なすぎると思う
女性	65歳～69歳	このようなことに立ち会っている人に一言だが、明るくしてほしいと思う。いつも疲れたようにあいさつもそこそこにしない人もいる。
女性	50歳～59歳	広報誌を読んでいるほうだと思っていたが、このプランはアンケートではじめて知った。次回からはよく読んで、知り合いに情報として広めたいと思う
女性	50歳～59歳	地域の支えあいも大切。だが、プライバシーの保護が十分なされていないと保証がないと成立しないと思う
女性	40歳～49歳	緑区にはとても緑が多く子育てしやすい環境だと思う。しかし最近、こどもの減少で子どもが活躍できる行事も減ってきて、人と触れ合う環境が薄くなってきたので、緑区政に機会が増えることを期待する。
男性	30歳～39歳	素晴らしいプランを推進していることは伺えるが、今回のアンケートではじめて知った。積極的な広報活動を希望する。
女性	30歳～39歳	もう少し民間のようなフレキシブルなサービスを期待する。
女性	30歳～39歳	プランについてあまり知らなかったので、これを機に勉強したいと思う
女性	30歳～39歳	支えてもらいたいと思う人自身に情報が伝わっていない気がする。本人の了承を得て、地域の自治会に災害時、助けを必要としていることを区から伝えてほしい。引っ越したばかりのときに自治会からのアプローチがないと、連絡先もわからず困ることも多いと思う。橋渡ししてくれるところがあればと思う
女性	30歳～39歳	緑が多く住みやすい区だとはおもうが、夜になると街灯などがなく歩くには怖いところが多い。駅やバスの接続が悪く車がないと住めない地域が多い。
男性	50歳～59歳	まだ現役で就業しているため、地域の活動等を知る機会、参加する機会が少ないのも実状。おそらくサラリーマンの多くはそうだと思う。積極的なPR活動を行うことで、自分のように寝に帰るだけの人々にも色々なことを知らしめることが必要と思う
男性	50歳～59歳	自治会は参加者が少ないから法的根拠はなくても各戸が参加する方向にする。組織率を上げて自治会により多く活動してもらい、民生委員の活動もボランティア参加者を増やし、自治会を通して広めていくのが現実的。役所からの広報は各人に伝わらないのではないかと。広報誌はあまり読まない。
男性	40歳～49歳	転勤者への気配り
男性	30歳～39歳	活動を知らない。周知させる必要がある。
女性	30歳～39歳	親切に、親身に対応してもらえたら相談しやすいと思う。個々の対応も大変かとは思いますが、一人ひとりゆっくり話してもらえたらうれし。
女性	30歳～39歳	税金が高い。この税金は本当に自分たちの役に立つのか。
女性	30歳～39歳	色々な団体が多く活動目的がわからない。商店街どおりの道が狭く危ないので、早く広げてほしい。南口の駅の時計を修理してほしい(道のでこぼこ)
女性	60歳～64歳	プランを知らなかった。今回このアンケートで知った。もう少し広報してほしい。
男性	70歳～79歳	世代に関係なく気軽に声(相談など)を掛け合えるようなまちづくりをしてもらいたい。
女性	65歳～69歳	地区センター 地域ケアプラザ等の職員はよくやってくれていると思うが、企業で働いたり、アルバイト等の経験があるものから見ると仕事に対する姿勢がやはりお役所仕事だなと思うことがたびたびある。
女性	60歳～64歳	地域によって子どもや若い人たちが少なくなっているところがどんどん増えている。老人だけの地域では何があっても心配なので、世代間の交流を進めてほしい。
女性	30歳～39歳	緑区の仕事、行っていることがあまり見えてこないのが残念。このアンケートで活動がわかりうれしかった。夫婦で高い税金を払っているが、使い道を明確にしてほしい。区外・県外で働いていると、特に区・市のありがたさがわからない。

問 33 『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見 その5

性別	年齢	『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見
女性	30歳～39歳	こどもが生まれたばかりのころ、地域ケアプラザでの区主催の集まりに全て参加したが、マニュアル一辺倒で心安らく場ではなかった。保健師さんの教育をきちんとしたほうが良い。カウンセリング研修なども必要。また、育児に悩みなどが区役所に相談(TEL)したが、相談を受けるほうの力不足を感じた。ママ友や子育ての先輩は、「保健師さんに相談すると余計不安になる」「区役所に相談しても全く役に立たない」という人が多い。これが現実。3歳児健診も働く母はいけな(平日の昼だから)
女性	70歳～79歳	情報(わかりやすい)やどのようなときにどこへ行けばよいのか。お店がどんどんなくなり、遠くの大型スーパーでしか買い物できなくなり、通販にて購入していると聞く。近所の人たちとの付き合いがなくなった。外に出ると転びやすいので家にこもっているとのことだが、人気のない町になったことが寂しい。
女性	40歳～49歳	担い手として想定している範囲が狭くないか。共働きの人、休みが不規則な人、中高生・大学生の手を借りるべき。一方的な発信だけでなく、働きかけが必要。
女性	30歳～39歳	知らなかった。計画は良いものだと思うが、まず区民の意識を広げ底上げしていかないと、今はまだ理想が高すぎるようになってしまっているのではないかと。
女性	70歳～79歳	知らない人が多いと思う。もっとPRしてほしい。
女性	65歳～69歳	ボランティア活動に気軽に参加できる方法を、よりわかりやすくしてほしい。
女性	30歳～39歳	今回はじめて知った。福祉といっても色々あると思う。ホームページはアクセスしづらいと情報を得られないので、もう少しPRしてほしいのではないかと。今後は自分にもいまでできることをかんがえて、ボランティア活動をしていきたいと思う。告知する場所を拡大してほしい。
男性	30歳～39歳	今後とも注視していきたい。区民としても努力したい。
女性	40歳～49歳	子育てや仕事など、日々の忙しさを理由に、一番大切であることなのに目をそらしていた。緑区はとても住みやすく、大好きな町。もっと関心を持って共生していけるよう努力したい。
女性	20歳～29歳	長津田駅のバス停側の出口に早くエスカレーターの設置をしてほしい。祖母は足、腰が弱っており、階段を登ることができない。また、ボランティア活動に参加したいと思っているが、活動日が平日であったりと学生には参加できないものが多い。学生も気軽に参加できるボランティアがあると良い。
女性	40歳～49歳	パソコンを使わないため、ホームページ案内以外の情報収集方法を増やしてほしい。手話・点字の教室をやってほしい。近く無料で、こどもが学校へ行っている時間帯。できればコミュニティハウスや自治会館等で。
男性	60歳～64歳	必要があって臨時で保育園に預けても、その日のうちに利用料を納付し、その用紙をこどもを引き取るときに手渡すよう求められるが、そのように出来る状態であれば臨時に預けたりしないのにと考えたことがある。
女性	30歳～39歳	主人の扶養になっているため、自費での健康診断をしなくてはならず、何年も健康診断を行っていない。扶養の人と同じ場所で出来るようにしてほしい。(無料でなくとも安い値段で)
女性	30歳～39歳	こどもが出来てから初めて区での活動を気にするようになった。それまでは何も知らなかったため、子育て教室も知らなかった。どんな活動をしているのかをもっと発信してほしい。
男性	20歳～29歳	今回はじめて知った。役所内での事務仕事が多く大変だとは思いますが、取り組みを知ってもらうには直接呼びかけるしかないと思う。もっと呼びかけてほしい。
男性	50歳～59歳	高齢化＝あれこれ指摘が増える。規則やマニュアル化になっており、そういったものがいらぬまちづくりを目指すほうが良いと思う。
男性	70歳～79歳	隣近所の助け合い
女性	50歳～59歳	平日勤めに出ていると、実際、地域に関わることは少ない(チラシ・広報があっても読まないことがほとんど)。無理とは思いますが、公共の場所は土日祝日も窓口を利用できるようにしてほしい。
男性	70歳～79歳	プランについての広報不足なのか、その活動・存在さえも知られていないと思う。
女性	70歳～79歳	このようなプランが推進されていることを全く知らなかったため、アンケートへの協力も適当で申し訳ない。

問 33 『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見 その6

性別	年齢	『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見
男性	65歳～69歳	今年、自分の所属する老人クラブの自主・自作昼食会に福祉保健センター長さんが多忙の中参加してくれた。センター長さんはすぐに配膳の手伝いを始めた。このような行動こそが「ささえ愛」そのものだと感じた。区職員の方々も施策の実施段階等で(すぐ下請けに出さずに)知(プラン)行(実施)合いがささえ愛の源泉になると思う
女性	40歳～49歳	十日市場図書館の駐車場が少なすぎる
男性	60歳～64歳	他県から、娘がお産で帰省している。医療費は保険が使えず金額負担(他県に戻ってから申請すればいくらかは戻る)。里帰りしてお産して保険が使えない、日本中どこへ行っても保険が使えるよう統一してほしい。まずは緑区から、安心して子どもを育てる環境を作してほしい。
男性	80歳以上	子ども・弱者・老人の自立と擁護のバランス
女性	30歳～39歳	いまいちよくわからない。もっと情報が目に付くような形にしてほしい。
男性	60歳～64歳	プランについての知識がほとんどない。忙しさにかまけ、情報を取得していなかった。地域のケアグループには亡父が大変お世話になり感謝している。活動・内容・組織などをインターネットなどで開示してほしい
男性	30歳～39歳	市県民税が高すぎる。自分がかんばって支払っているが、無申告で無税の人がいるのを税務の人はわかっているのに、まじめに申告している人に厳しい取立てをしているのだろうか。根本的なところから見直せば、財源確保にもつながり福祉活動の幅も広がると思う
男性	60歳～64歳	初めて知ったし、知らない人に答えようのない問いがいくつかあった。
女性	50歳～59歳	弱者(障がい者・介護の必要な人・支援が必要な人・精神的な問題を抱えている人たち等)が守られる社会の構築が必要。もっと目を向けてほしい。
男性	70歳～79歳	計画の進捗状況を把握するために、当初計画時と現状との数値比較(ボランティア参加人数・機会や場の増加状況等)、具体的な判断資料の開示が必要。
男性	40歳～49歳	全く知らない。もっと広くPRすべき
女性	70歳～79歳	役所の対応が親切
男性	40歳～49歳	こういった活動があること自体知らなかった。
男性	65歳～69歳	勉強不足で、プランそのものに無理解。
男性	65歳～69歳	このようなプランがあることを知らなかった。活動を感じられるような区にしてほしい。
女性	30歳～39歳	知らなかったためコメントできない
女性	40歳～49歳	地域に関心の薄い人が増えている日本で取り組むのは大変だと思う。参加することデメリットがある等、魅力を感じさせる工夫があると、より進むのではないかと思う
女性	70歳～79歳	聞きなれない言葉。(プランを知らない)
女性	70歳～79歳	恥ずかしながらこの事業のことを知らなかった。みな健康で幸せに、毎日安心して暮らせるようお願いしたい。
女性	40歳～49歳	ボランティアの養成講座を時折見かけるが、平日昼間のデイトムばかり。定年退職者を想定しているのと思うが、この時代、60歳を過ぎても働いている方が多い。若い人の中でも興味があり、参加したくても平日ということ断念される方もいると思う。将来のボランティア人口を増やすためにも土日の開催を望む
男性	50歳～59歳	活動が見えない
女性	30歳～39歳	正直今までこの活動について知ることはなかった。しかし今後、何かを考える良いきっかけになった。
男性	40歳～49歳	区役所へ行ったときや電話で問い合わせをしたとき、事務的で冷たい対応をされることがある。もっと相手の立場に立って対応してほしい。色々な仕組みや環境づくりには賛成だが、携わる人たちの心が伴わなければ意味がないと思う
男性	60歳～64歳	タイムリーな情報提供が必要だと思う。特に広報活動が重要。
女性	30歳～39歳	活動がわからなかった。緑区の住民は知らない人が多いと思う。もっと知ってもらえるようにしてほしい。
女性	40歳～49歳	こんなプランがあったことを知らない。本当に推し進めていきたいならもっと宣伝すべきだし、具体的な、誰もが目に見えるものを目立たせていくことが大切。
女性	30歳～39歳	知らない
女性	20歳～29歳	プランのことをもっとアピールしてほしい。よく知らなかった

問 33 『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見 その7

性別	年齢	『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見
女性	60歳～64歳	ゆとりある歩道と車道。今から建物の造改築するときは、駅周辺はもちろん、歩道・車道を考慮し、規制する必要がある。鴨居駅前には特にはなはだしく危険。歩道があっても1人分の幅しかない。
男性	80歳以上	高齢者多数の社会にとって行政の指導・活動が活発になることについてはありがたいと思う。基本的には学校教育によってこどものころから教育が大切。義務教育で人間としての生き方を教え込む必要がある。
女性	30歳～39歳	「安心・安全・健康」のまちづくりをうたっているが、中山駅や鴨居駅前の道路・建物・信号・電柱等を見る限り、他区・他地域に比べ安全とは程遠く、また改善計画や方針も見えていない。社会的弱者でない人間でさえ安全を意識できない環境であるのに、要支援者や障がい者などへの取り組みが成功するとは思えない。駅前の歩行者に対する危険性が現状のままであるなら、緑区に家を建てる(定住する)ことはないと思う。
女性	20歳～29歳	プランを知らない。福祉にかかわりのない人間にも、もっと協力してもらえよう。アピールしたほうが、より良い活動が出来ると思う。
男性	20歳～29歳	主に警察について。「時停止」「シートベルト」「携帯電話」「スピード」などの違反を捕まえるために隠れているのを見かけるが、本当に危険ならばきちんと誘導してあげてほしい。少しでも安全に、という目的を忘れていているように感じる。スピード違反も事故が多いところを見守るべきだと思う。いまだに暴走族が多い。盗難にあった。廃品回収の業者の案内があまりにうるさく多い。多少の規制・ルールは必要だと思う。
女性	30歳～39歳	アンケートを手にするまでプランを知らなかった。防災時の協力体制等、区民へ働きかける前に各担当部署で話し合ってみたらどうだろうか。一般的な備蓄だけにとらわれず、もっと具体的な案が出るのでは。障がいの特長によっても対応や準備も違ったりすると思う。
女性	40歳～49歳	近隣の変化が大きいので、近所の人々がだんだん知らない人になってきた。時代だとは思うが。
男性	70歳～79歳	災害時、又は選挙等の際、自宅より最も近い小中学校にいけるよう希望。自分はパーキンソン病のため、今は病院にいくときのみの外出。上山小学校は坂が急で歩いていくことが困難。白山高校だと何とか歩いていけるので。
女性	30歳～39歳	長津田駅前再開発の高層マンション計画について本当に必要なかどうか、きちんと検討してほしい。景観もさることながら、災害時の非難・通勤ラッシュアワーの長津田駅のキャパシティ(現時点ですごく混んでいる)・自然破壊等々問題が多々あるように思う。再開発で駅周辺が整備され、暮らしのレベルがよくなることは賛成だが、それが高層マンション建設につながることは全く納得がいかない。住民にきちんとそのメリット・デメリットが伝わっていない。ほかの町がやっているからというような安易な動機で進めると、長津田のよさがなくなる。
男性	50歳～59歳	今までの活動がよくわからなかった。
女性	65歳～69歳	プランをもっと住民に知らせたら良い。知らない人が多いのでは。
男性	30歳～39歳	うわさで緑区政が(寄せられた)意見を、対応せずに処理していると聞か、どうなのか。
女性	50歳～59歳	もっとPRしてほしい。
男性	30歳～39歳	取り組み内容が今までわからなかった。
女性	40歳～49歳	自分自身無関心を実感するばかりである。
女性	40歳～49歳	プラン自体知らない。
男性	20歳～29歳	駅前に無料の自転車置き場を作ってほしい。
男性	30歳～39歳	プランを知らなかったので、今回このアンケートで知ることが出来、今後調べてみたいと思った。1人暮らしのお年寄りの方等を、地域でどうやって助けていくか。どんどん引っ張って行ってほしい。
女性	40歳～49歳	プランを知らなかった。もっと誰にでも知られるよう、宣伝してほしい。
女性	30歳～39歳	アンケートで初めてプランについて知った。
男性	40歳～49歳	プランをはじめて知った。
女性	30歳～39歳	区民に優しいエコなイベントや取り組み、子育てしやすいような、イベントが多いとすみやすいと思う。

問 33 『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見 その8

性別	年齢	『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見
男性	60歳～64歳	プラン自体知らなかった。目標の達成度は何によって評価するのか。
女性	30歳～39歳	守秘義務がある人でも、個人情報保護法によって近隣の高齢者や障がい者の把握が出来ない状況を何とかしてほしい。
女性	不明	車の多く通る道に歩道がなかったり とにかく歩きにくい。中年の自分でさえ感じるのであるから、子ども 老人にはより危険だと思う。
女性	30歳～39歳	東本郷のブックオフから駅へ向かう道で、横浜線の下を歩行者が通れるところがあるが、自転車・バイクも通り、夜間は危ないので、街灯があると良いと思う。情報の多くはインターネットで入手することが多いが、団地の一部ではまだ光回線対応となっていないので、不便を感じる。
女性	80歳以上	何かとお世話になっている。小さなことでも親切に教えてくれるため、感謝している。
男性	20歳～29歳	自分は学生だが、このプランを知らなかった。積極的に区の行政について情報を知ろうとしていなかったが、このようなプランはもっと公開されるべきで、広報の方法の質・量の改善があると良いと思う。
男性	40歳～49歳	あまり情報がない(機会がない)ため、問題意識すら持てていない。より身近に感じられ、参加等できるような環境を整備してほしい。
女性	60歳～64歳	わからない
女性	60歳～64歳	情報が広く伝わりにくいのでは？
女性	70歳～79歳	年をとって足も思うように動かないため、世話になることはたやすいが簡単にはいかない。
男性	50歳～59歳	常勤者である私はほとんど情報等を持っていない。気軽にボランティア 地域社会と関係できるようになればよいと考えている。
女性	20歳～29歳	あまり一般市民には伝わっていないと思う。
女性	60歳～64歳	以前役所に行ったとき対応がとげとげしかったが、最近では変わってきたと思う。
女性	40歳～49歳	子育ての中で「知らない人と話をしない」と学校側から指導され、子どもたちは外であいさつをしない。本来工事の人や道路に立っている人にはしっかりあいさつをして、記憶にとどめたほうが安全。あいさつをしてもついていってはいけないうち、自分を守るために外との関係を絶ち、孤立しているように感じる。
女性	20歳～29歳	全く知らなかった。自分だけではないと思う。何で知らせているかは知らないが、全年代に知ってもらえるのなら、今のままでは全く意味はないと思う。
女性	50歳～59歳	班長をやっている時期は身近に感じられたが、一自治会員になってからは母の介護等、自分の生活に追われあまり身近には感じられなくなった。
女性	30歳～39歳	市民税(税金)が高すぎ。今後の生活に不安を感じる。
女性	30歳～39歳	緑区は自己中心的な人が多い区だとわれている。青葉区などのように動物愛護などにももっと一生懸命になるべきだと思う。昔ながらの土着の人々が顔を利かせすぎているうちは、こんなプランは無理だと思う。もっと勉強してまじなコンテンツにしたほうが良いと思う。
男性	65歳～69歳	広報活動の活性化
男性	60歳～64歳	独居者にとって不在時のペットの世話・不在時の防災の連絡について、ボランティアなど考えられないか。
女性	40歳～49歳	今までこんなプランがあることをぜんぜん知らなかった。周知の徹底を図ったほうが良いと思う。
女性	40歳～49歳	もっともっと宣伝してほしい。多くの人に知らせて、活動を活発化してほしい。
男性	80歳以上	よく理解できていない。キャッチフレーズの一人歩き。
女性	30歳～39歳	福祉も重要だが、若い世代への教育や訓練の場や機会にも力を入れるべきだと思う。
女性	60歳～64歳	区政に対しては歩道の整備、安心して歩ける道を作ってほしい。畑や道路にある放置自転車を取り締まってほしい。健康に関する講話回数を多く望む。
男性	50歳～59歳	地域の活動については、同じメンバーで行う事が多く、新しいメンバーが入りづらい。
男性	40歳～49歳	もっとPRをしてほしい。
女性	40歳～49歳	たくさんあります。でも何も望んでいません。
女性	30歳～39歳	子育て世代ですが幼稚園に入園するのも大変で働きたくても保育園の空きがない状況です。環境の改善を！

問 33 『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見 その9

性別	年齢	『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見
女性	65歳～69歳	あまりに知らなさすぎて申し訳ありません。
男性	65歳～69歳	FAX 情報サービス活用。近隣区広報入手を希望。事業計画の進捗状況報告がされていない。(歩道設置の件)バリアフリー化の遅れ。
男性	20歳～29歳	私も緑区で生活をして3年経ちますが、区政に対する情報が少ないように感じます。
男性	40歳～49歳	活動の内容がわからない。情報が伝わってこない。
女性	60歳～64歳	生ゴミの収集について、せめて6,7,8,9月は月3回の回収にして欲しい。衛生面からも。
女性	50歳～59歳	よくわからない。
女性	30歳～39歳	情報が入ってこない。駅に掲示するなど、普段よく使う公共の場に情報を流したり、区報を配ったりして欲しい。
男性	30歳～39歳	住民側の意識を変える必要がある。行政だけががんばっていても意味がない。
女性	40歳～49歳	初めて知ったので、もっとポスターや広報誌でアピールして欲しい。
男性	50歳～59歳	このようなことが行われているとは知らなかったので、ホームページを覗いてみようと思う。
女性	70歳～79歳	高齢者もいつまでも元気に楽しく過ごしたいと思っています。
女性	50歳～59歳	緑区の区役所の事で思う事は、窓口の人の説明がとてもわかりづらい。例えば早口すぎるとか…。聞き直すとムスっとするので感じ悪いです。
女性	30歳～39歳	私のように仕事を持つ母親が安心して子育てをできるように、保育園や学童の設備の充実を願っています。現状では娘が、小学生になった時の放課後の過ごし方に不安があります。もっと保育園や学童を増やすことはできないでしょうか。教育にかかる予算をもっと増やしてください。また外灯の少なさも気になっています。夜道が危険ですのもっと増やしていただきたいです。
女性	70歳～79歳	役所窓口での思いやりのある接客をして欲しいです。
女性	50歳～59歳	今まで知りませんでした。
男性	20歳～29歳	長年緑区に住んでいるが、プランが情報として入ってこない。広報や回覧板で周知をはかっているとは考えられるが、プランの概要版を各家庭に配布するなどしてより多くの人に知ってもらふ必要がある。
女性	60歳～64歳	区役所の場所がわかりにくい。となりが消防署で車の出入りが混雑。積極的に家庭訪問を行い区民の実情、意見を聞くと良い。それによって区政がより身近になり活動が活発になると思います。
男性	30歳～39歳	国政に目は向けられても区政にまで高い関心は持てない。
男性	70歳～79歳	残念ながらこの活動を知らなかった。自分だけが知らなかったのか？日ごろの活動内容のPR不足ではないだろうか。
女性	65歳～69歳	私の無関心さからかもしれませんが、まだまだPRが不足しているのではと感じております。
男性	70歳～79歳	小生の不勉強か『みどりのわ・ささえ愛プラン』の存在を知りませんでした。広報活動が充分であるか、より有効な広報の方法等再検討願いたいと思います。
女性	70歳～79歳	他区と比較し、町全体の整備が非常に遅れており、活性に乏しいと思われます。町の道路、駅周辺の開発が促進されれば住民が安全で便利に生活することができると強く感じます。(信号がないので道路を渡ってクリニックに行くのに苦労しております)
女性	30歳～39歳	みどりのわ・ささえ愛プランを知りませんでした。もっと内容を知りたいと思いました。
女性	40歳～49歳	マンションに住んでいるが、騒音・マナー違反等のトラブルがよくおきている。これはやはり隣同士の関係が希薄なため、思いやる気持ちが欠けているからだと思う。向こう3軒両隣、助け合っていけると良いと思う。
女性	70歳～79歳	アンケートを送る年齢層が違うと思う。
男性	70歳～79歳	こういうプランがあることを全く知らなかった。
女性	30歳～39歳	プラン自体知らなかったので、地域の取り組みもアンケートに具体性を持って出来なかった。同じマンション内でもあいさつするくらいなので、この状況で区の地域目標が掲げられたままになっているのではと思う。緑区としてのプランが地域の町ごと・番地ごとで小規模にやっていかないと浸透しないと思う。
男性	40歳～49歳	具体的活動内容がよくわからない。

問 33 『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見 その 10

性別	年齢	『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見
女性	70歳～79歳	関係している人には色々情報が入っていると思うが、一般の人まで浸透していないと思う
男性	50歳～59歳	申し訳ないがこのプラン自体知らなかった
男性	30歳～39歳	この計画があったことを知らなかった。緑区に引っ越してきて2年以上になるが、自分の姿勢にも問題があると思うが、周知させる方法や機会に検討の余地があると思う
女性	20歳～29歳	こういったアンケートに答えても、反映される気がしない。
男性	65歳～69歳	梅田川の遊水池に大金をかけて公園にするようだが、どうせ金を使うのなら釣り公園にしてほしかった。たくさんいた魚を殺す必要はなかった。
女性	30歳～39歳	プランを知らない
女性	50歳～59歳	スポーツの活動をしている地元の中学生とすれ違ったときに、口々に「こんにちは」とあいさつされ感心した。児童・学生と地域の人が色々交流できる催しがあると良いと思う。恩田川に捨てられている粗大ゴミを取ってほしい。町田の下水処理場の近くは少し悪臭がするが、水質は大丈夫なのだろうか。
女性	30歳～39歳	出産・育児を通してお世話になる機会がたびたびあったが、教室での講義内容が今の妊婦さんや子育て世代のニーズから少しずれていると思った。価値観がさまざまな対象なので難しいとは思いますが、リニューアルしてもらえたらと思った。保健師さん・助産師さんはやさしく頼れると思う
女性	40歳～49歳	プランを知らなかった。学校に子どもが通っているので、小学校のボランティアのことはよく知っている。地域の学校をもっと巻き込んで進めていくと良いのではと思う
女性	50歳～59歳	緑区に住みながら、区の活動をあまり知らない。子育ても終わり、ある程度の年齢になり少し地域のことが見え始めた。残念なことによくわからない。ただ、緑区なので住宅もこの地域だけは3階建てはだめ??とったりする。小さいことは色々考えるし思うが、あまりに個人的なことばかり。
女性	70歳～79歳	引きこもりの方が気軽に行ける場作りをしてほしい、自然と楽しみ話し合いながら各人の健康・困っていること等がわかると思う。大きなグループだと小さなことに気づけずにいることもあるので、小さなグループが時々大きなグループと交流し情報交換できたらと思うし、区役所の人たちにも助言をほしい。
女性	70歳～79歳	自分自身に対して今まで何もせず考えもしないできたことがこのアンケートでわかった。ただ、家族のことだけでもこの年になってももう少しだけ前向きに考えていきたいと思った。
男性	20歳～29歳	プランの存在、その詳細がわからない
男性	50歳～59歳	当プランの存在を知らなかった。このアンケートで初めて知った。ほとんど区の行政サービスを受けていない気がする。
男性	20歳～29歳	中山駅前が今後どのように整備されていくのか知りたい。
女性	40歳～49歳	歩道を確保してほしい。
女性	30歳～39歳	緑区政に対し評価している。
女性	60歳～64歳	15年前、義父母をこの緑区で介護してきた。区の保険課に問い合わせ、当時はカウンセリングの方も手取り足とりで大変よく指導してくれ、週1回の入浴もあり、両親も喜んでいた。しかし嫁としては、かなり荷が重い生活だった。このプランで地域の方々との支え愛ができれば、どんなに心強いかと思う
女性	50歳～59歳	年寄りに対するケアがあまり十分でない。
男性	70歳～79歳	知らなかった。知っているのは役員だけではないのか。もっと日ごろからいろいろな方法で知られるようにしてほしい。
女性	40歳～49歳	住んでいる地域の安心・安全のために緊急車輛が入ってこれるような道幅を整備してほしい。
男性	40歳～49歳	情報が少ない。活動が少ない。知らない・わからない
女性	40歳～49歳	このプラン自体アンケートを機に知った。区報等にはあったのかもしれないが、もっと広報してほしい。区のHPをもっと魅力的にしてほしい。
女性	30歳～39歳	もう少しこの計画がみんなに広まるべきだと思う
女性	70歳～79歳	情報を入手しやすい環境の整備をほしい

問 33 『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見 その 11

性別	年齢	『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見
女性	50歳～59歳	駅周辺を離れると静かな住宅地が広がっているが、日没後には安心して歩けないような怖さを感じている。税金を払っている割には身近なところで反映されていない気がする。街灯を増やしたり 雑草を刈って死角をなくしたり等の対応を望む。
男性	30歳～39歳	駅周辺を例に挙げると、老人や子どもにとって決して安全とはいえない(道路 駅の整備 階段など)構造であると日々疑問に思う。
女性	40歳～49歳	小学生 中学生の道徳観念や生活態度の乱れが目につき、それに対する保護者・学校や近隣の住民の指導のあいまいさに不安を抱いている。それぞれに出来る限界があると思うが、何か事件が生じたら対応をするというのでは手遅れになることも考えられるので、少しでも子どもたちの悪い変化(風紀の乱れなど)には断固とした対処を徹底してもらおうようお願いしたい。
男性	30歳～39歳	鴨居駅北口の違法駐輪。駐輪場を増やせないのか。相模原市の橋本駅前などは無人のコイン式有料駐輪場がよく整備されているので、参考にしてほしい。
女性	70歳～79歳	現在自宅掃除等も休み休み生活で、今しばらくは人様に頼らず行きたいと思う。
女性	40歳～49歳	名前さえ知らなかった
女性	40歳～49歳	区民の色々な意見を広く聞けるように、たとえばスーパーなどに意見箱のようなものを設けるとか・・・
男性	40歳～49歳	自分自身は仕事をしており、土日に、行政を知り得る場合はインターネットとなり、具体的に誰に何をどう相談してよいのかわからない
女性	60歳～64歳	現在パソコンが普及しているので、ブログを見てくださいといわれるが、パソコンがない人 出来ない人のために保存版の冊子があればよいと思う。
男性	60歳～64歳	ほかの地域で走っているミニバス 路線バスを、緑区からは知らせることは出来ないか
女性	60歳～64歳	知らなかった
女性	40歳～49歳	知的障がいを持つ子どもの母親だが、高校進学にあたって区内に養護学校が少なく悩んでいる。唯一地元校のような緑養護もいっぱい、Bランクの子が入るのは難しいと聞いている。緑区が調整区に入っている学校もわずかで、現状では遠くに通わせることになりそうで心配。なんとかならないものか。
女性	30歳～39歳	緑区が日ごろどのような取り組みをしているのか全く見えない。
女性	30歳～39歳	用事があって区役所にいったとき、初めて「こんなことしてるんだ」と知ることが多々ある。もっとあちこち目にするところに掲示板を設けて、回覧板より早く情報が見られるようになると良い。商店や銀行などにも広報や区の行事ポスターがあると良い。核家族で過ごしているので、お年寄りともどもが触れ合えるような行事があると良い。
女性	65歳～69歳	引っ越してきてまだ1年半なので、何も知らなくて役に立てず申し訳ない。今住んでいるところはとても住みよいと感じている。
男性	80歳以上	高齢者の一人として感謝している。
女性	50歳～59歳	長津田町は道路が狭いところが多く、歩道に電柱が立っているのととても歩きづらい。目が不自由な人も、身体に障がいのある人も、誰もが安心して歩ける道路整備をしてほしい。
女性	60歳～64歳	比較的住みやすいと思う。
女性	30歳～39歳	この活動 計画を知らなかった。今回アンケートを機に計画の内容を理解し、今後の生活上で心がけ、より暮らしが豊かになってほしいと思う。
女性	30歳～39歳	図書館(移動)があると嬉しい
男性	40歳～49歳	プランが、自分の住んでいるところにはかけ離れたように感じる。行政の人にもっと厳しくチェックしてほしい。活動内容についてもきちんと目を通し、現場の把握が必要。高齢者が多く、活動に関してもなかなかになりがちで、緑区全体から見れば自分の町は立派に過疎化している。
女性	50歳～59歳	このまま続けてほしい。
男性	70歳～79歳	この地に住むようになってから5年になるが、市からの行政サービスを受けたような気はしないし、ありがたい気持ちにされたことがない。いつも損している気持ち。区民の支え愛ボランティアも必要だが、まずは行政を挙げて区民サービスに努めるべき。今年4月から住民税が年金から天引きされている。住民税は年金だけをもとに算出されたものではないので天引きはやめるべき。滞納者などにそうするべき。

問 33 『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見 その 12

性別	年齢	『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見
女性	40歳～49歳	なかなか浸透しづらいこともあるだろうが、必要とする人がいること、またいつ必要になるかもしれないことを根気よく知らせて広めれば、少しずつでも人の目に留まる。
女性	70歳～79歳	区政の方々はもっと親切に優しく対応してもらいたい。
男性	70歳～79歳	自分は認知症で、施設入所中であり、読み書きは全く出来ない。この書面も代筆です。
女性	20歳～29歳	仕事を始めてから、イベントがあるとかこういうことをしている・するという情報を得なくなった。区役所に行くとかさんのポスターで告知しているが、駅などではあまり見ないし、最近HPの存在を知った。URLを入力するのは時間がかかるので、バーコードリーダーで読めるようにしたらもっとみんなが情報を得ることが出来るのではないかと思う
女性	20歳～29歳	こどもの健診のときに少し話ができないだけで異常じゃないかと不安にさせられることがある。変なときだけ自分たちは医者じゃないと逃げる。手続きなどで行ったとき、自分はわからないからきてるのにマニュアル対応(専門用語ばかり)。何回も聞くといやな顔をされる。
男性	40歳～49歳	ボランティアなど積極性が大切だが、押し付けがましい感じもする。区役所を利用しやすく明るくしてほしい。
女性	60歳～64歳	このプランに関して初めて内容を知った。第一期計画の具体的な成果を知りたいと思う
女性	20歳～29歳	区役所の窓口が昼休みの時間帯に混雑していると、この時間帯にしか来れない人もいるので職員を増やす等、対応してほしい。ニーズに合わせて土日祝日にも窓口を一部開けてほしい。このアンケートが来るまでプランを知らなかったのも、もっと情報提供をHPや地域の掲示板等で積極的に行ったら良いと思う
男性	40歳～49歳	中学校も給食に
女性	30歳～39歳	プランの存在をもっと多くの区民に周知させると良いと思う
男性	65歳～69歳	もっと情報を流し、それぞれが出来ること、してもらいたいことを伝え合えるように。一般住民が知らないことが多い。
女性	20歳～29歳	青砥交差点の歩行者信号が短すぎて渡るのが大変。信号無視する人もいて危ないので見直してほしい。ハーモニーみどりに行くまでの橋もいつまでたっても工事が終わらず住民に優しい。せめて経過がわかるようにしてもらいたい。中山駅南口の商店街の狭い道をバスが通るのは本当に危険。バスは全て北口のターミナルにしたらどうか。北口ももっと開発してほしい。
男性	65歳～69歳	このようなプランがあることを知らなかった。活動を感じられるような広報活動が必要では。
男性	20歳～29歳	プランについて、アンケートが来るまで知らなかったのも、もっと活動報告等を回覧板や掲示板等で周知させていったほうが良いと思う
女性	60歳～64歳	身近な顔が見え、わかる人のつながりや絆の中で(自治会・商店街etc)気軽に利用できるサービスの充実
男性	40歳～49歳	盛大な伝統となり、継続できる祭りを開催し、世代間のつながりを強く出来ないものか。
女性	40歳～49歳	大人の行動が子どもにとってより大きな影響を与えるので、まずは大人がきちんとした考えを持つべきなのに無情なかわり(自分さえ良ければ)が強いのが少々目に付く残念。
男性	70歳～79歳	情報が少ない
女性	40歳～49歳	今回このアンケートではじめて知ったので、日ごろ考えることはなかった。
女性	30歳～39歳	プランを今回初めて知った。内容・取り組み・成果をわかりやすく、情報媒体を介して大きく出してほしいと思う。住民が認識できていない場合、意見が出てこない結果になってしまう
女性	50歳～59歳	子どもが年寄りに元気を与え、年寄りが子どもに生きてきた中での遊び・体験談を教えられる交流があればと思う
男性	40歳～49歳	大切なことだとは思いますが、なかなか関心がもてない。考えてみる必要がある。
男性	70歳～79歳	特に興味を持っていなかったのも、意見はない。
女性	20歳～29歳	今現在まで知らなかったのも、もっとPRしてほしい

問 33 『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見 その 13

性別	年齢	『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対する意見
男性	50 歳 ~ 59 歳	具体的な中身が見えてこない(情報提供不足。又は発信が下手)
女性	20 歳 ~ 29 歳	全く知らなかった。定期的な資料の配布をしてほしい。地域別情報があれば、ほかの地区も活性化すると思う
男性	60 歳 ~ 64 歳	交通が不便。
女性	40 歳 ~ 49 歳	あまり知られていないように感じるので、もっと目に付く場所や外出の際に目に入るような場所に情報があると良いと思った。
女性	65 歳 ~ 69 歳	60・70 代の元気な方に声をかけて、活動の輪をもっと広げていったほうが良いと思う。なんとかなられた一部の人だけで動いているような気がする。
男性	40 歳 ~ 49 歳	今回初めて知った。
女性	30 歳 ~ 39 歳	自分のアパート付近では、一般住宅のはずなのに頻繁に庭や焼却炉でゴミを燃やしている。洗濯物や布団に埃やにおいがつき、大変迷惑です。何度もやめるよう直接行っているが、全くやめる気配がない。長年すんでいる年寄りの方が多い。登校班の列に割り込んでくる年よりもいる。こどももマナーが悪くなっているが、大人たちも気をつけてほしいと思う
女性	40 歳 ~ 49 歳	緑区の職員の接し方はどこの区役所より優しく丁寧だと耳にするし、自身も思う。その良い影響が区全体へと伝わっていきやすいように取り組んでもらえたらと思う
男性	30 歳 ~ 39 歳	内容を知らなかった。アナウンスしているとは思えない。

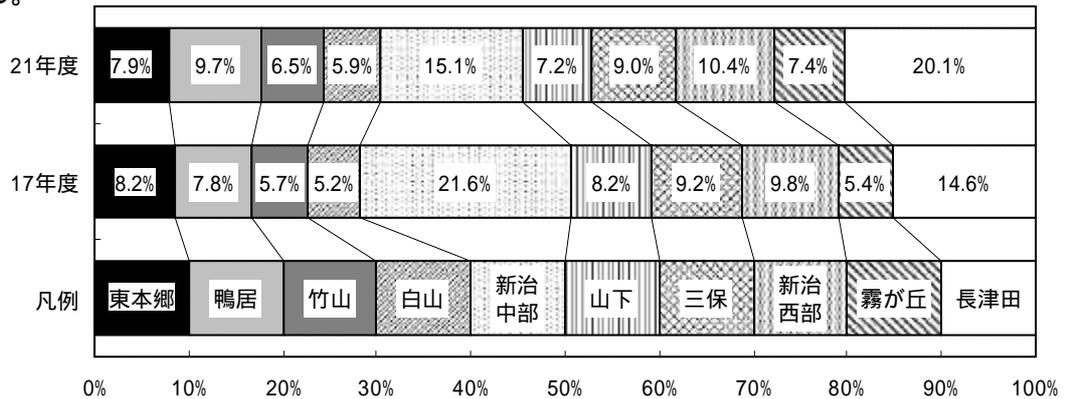
4. 過年度との比較

緑区では平成 17 年度に「緑区地域福祉保健計画」策定のための区民アンケートとして、本調査と同様の設問を含む調査を実施している。

第 1 期みどりのわ・ささえ愛プラン（平成 18 年度～平成 22 年度）の推進を踏まえ、共通する設問について、平成 17 年度調査と本調査の比較を行った。

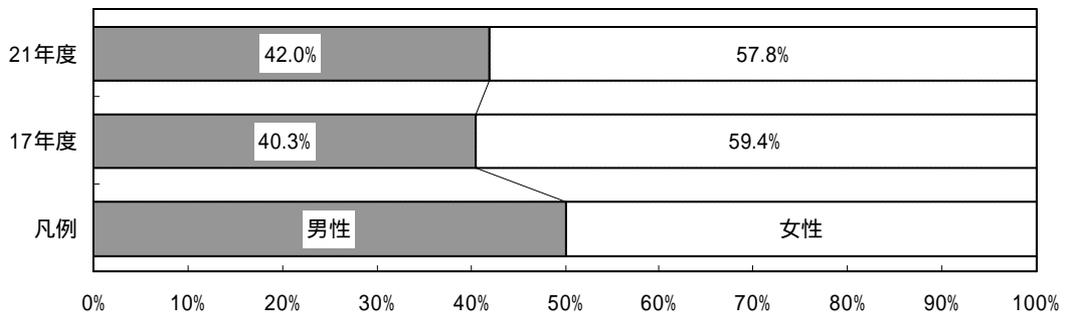
問 1 居住地区

地区別の回収数はほぼ似た傾向にあるが、「新治中部地区」で減少し、「長津田地区」で増加している。



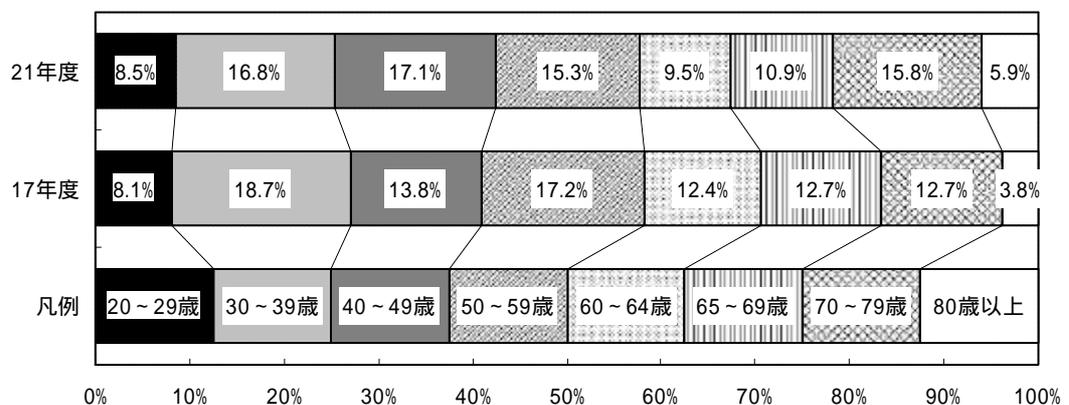
問 2 性別

回答者の性別は、どちらもやや「女性」が多かった。



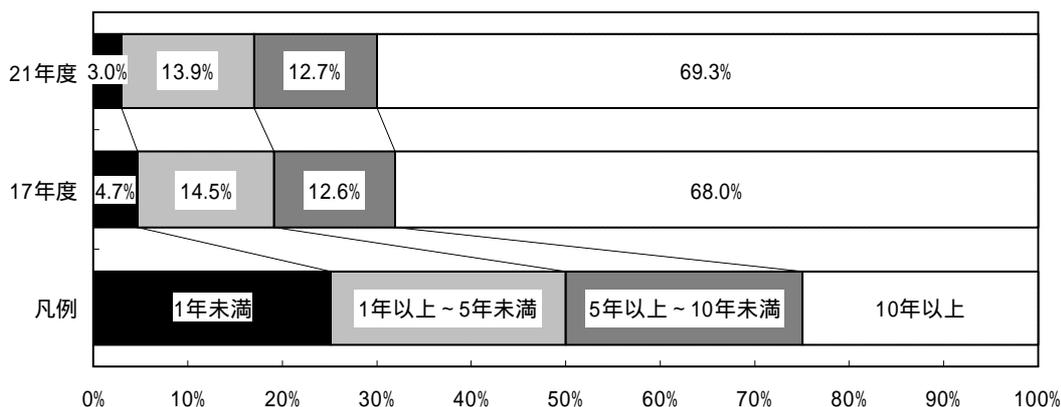
問 3 年齢構成

回答者の年齢層については、「40～49歳」と「70～79歳」の占める割合がやや増加している。



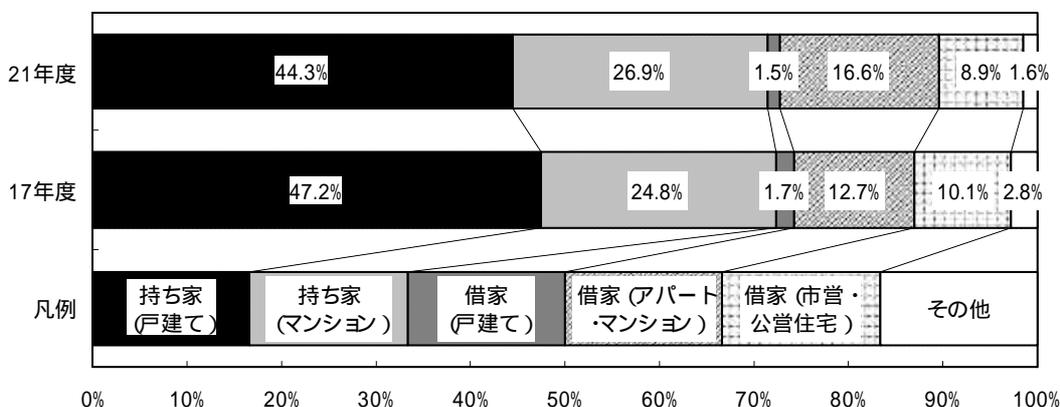
問4 居住年数

回答者の現在地での居住年数は、平成17年度調査と今回の調査では、ほぼ同様の結果であった。



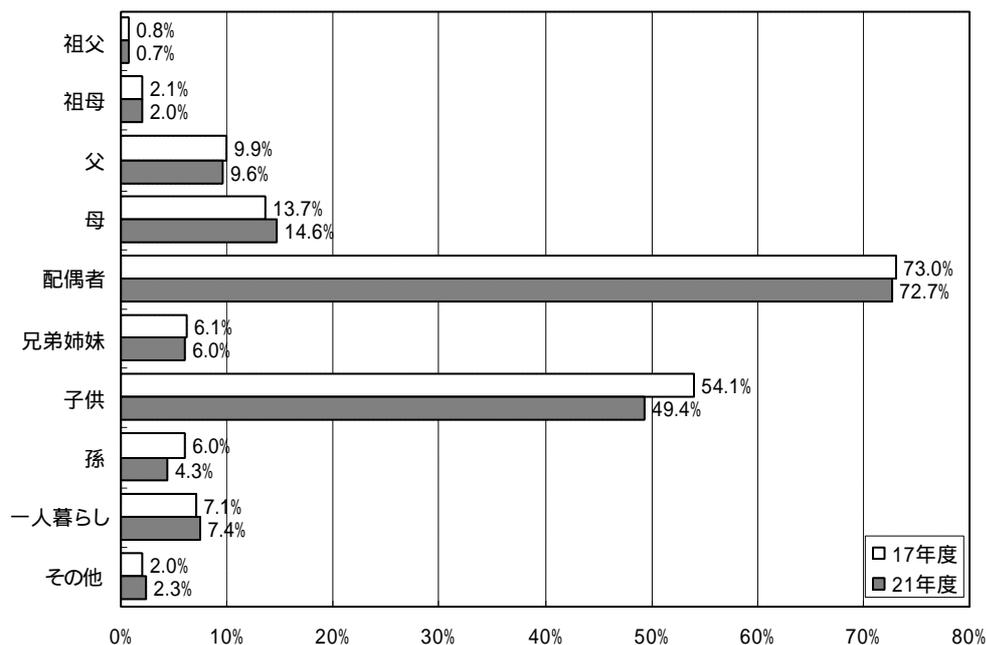
問5 住まいの種類

回答者の住まいの種類別は、「持ち家(戸建て)」の比率が減少し、「借家(アパート・マンション)」の比率がやや高くなっている。



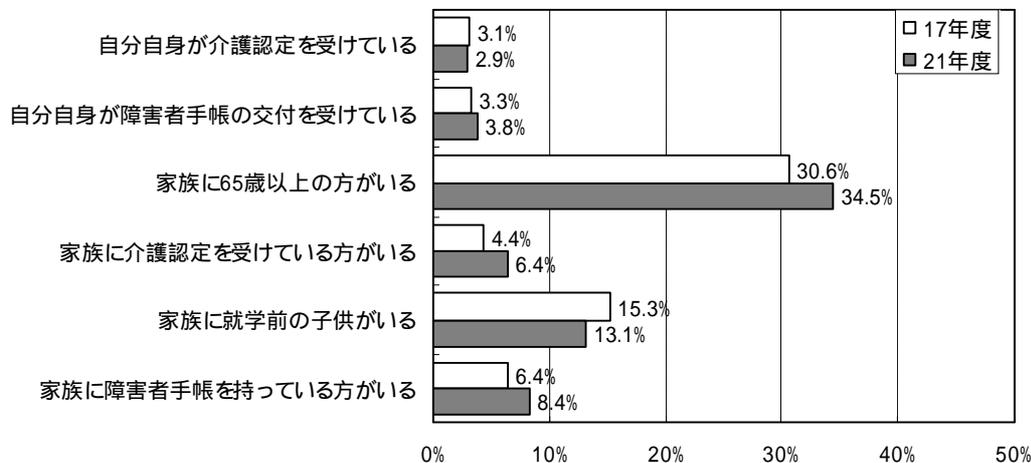
問6 同居者の関係(複数回答)

回答者と同居する家族については、平成17年度調査と今回の調査では、ほぼ同様の結果であった。



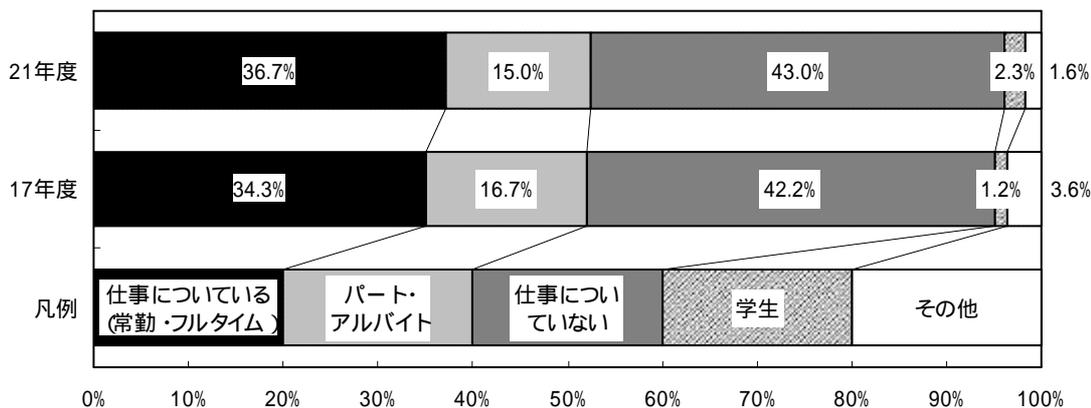
問7 回答者及び同居者の状況(複数回答)

回答者及び同居者の状況は、「家族に65歳以上の方がいる」、「家族に介護認定を受けている方がいる」、「家族に障がい者手帳を持っている方がいる」がやや増加しており、「家族に就学前の子どもがいる」がやや減少している。



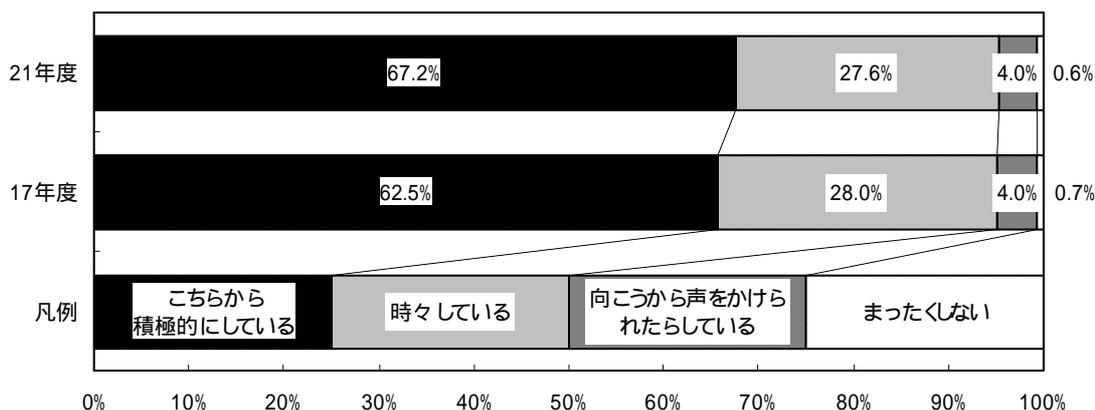
問8 仕事の状況

回答者の仕事の状況は、平成17年度調査と今回の調査では、ほぼ同様の結果であった。



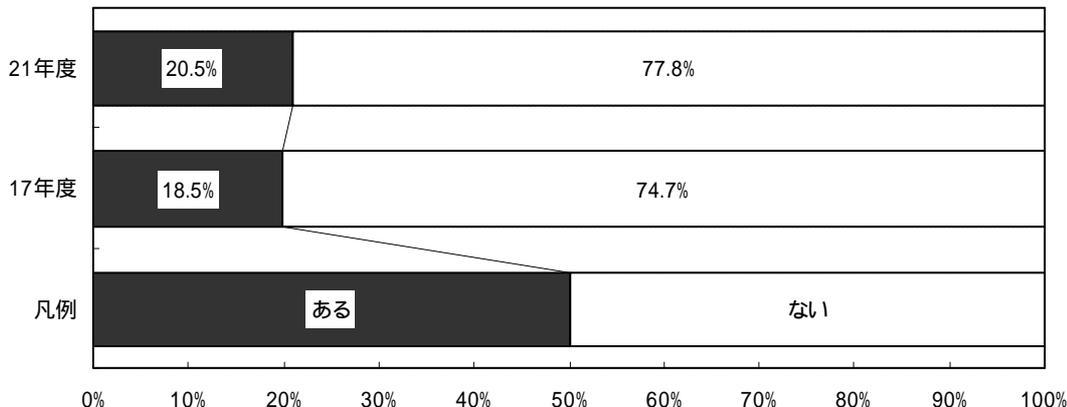
問10 近隣の人へのあいさつ・声かけ

近隣の人へのあいさつ・声かけについても、平成17年度調査と今回の調査では、ほぼ同様の結果であった。



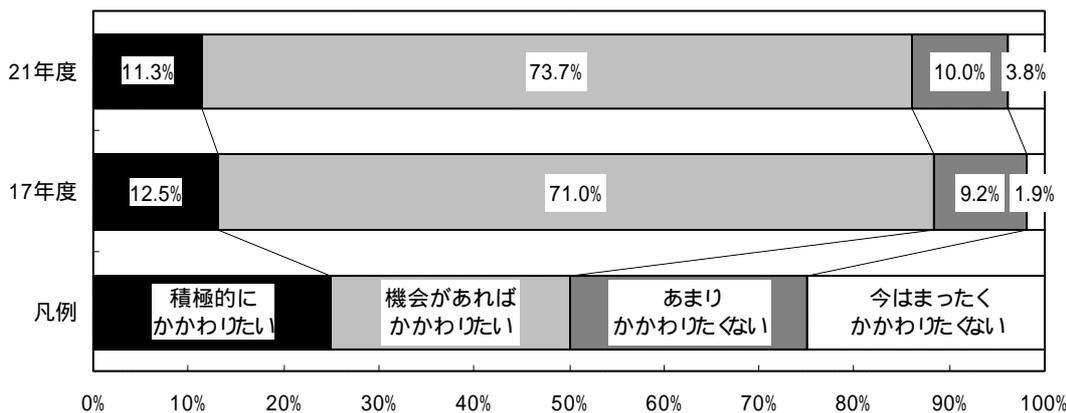
問 11 地域での助け合いの個人的な実践

話し相手や困ったことの手伝いなど地域での助け合いを個人的にしたりされたりしたことがあるかどうかについては、わずかではあるが「ある」が増加している。



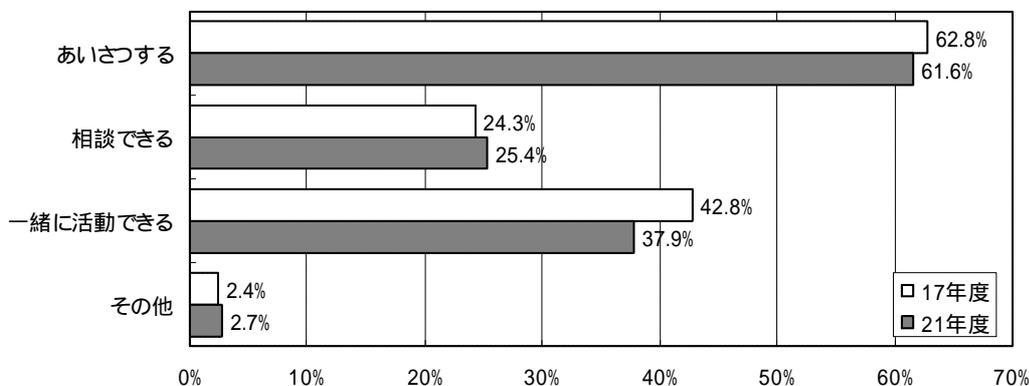
問 12 地域の方との今後のかかわりたい程度

子どもを含んだ地域の方との今後の関わりたい程度は、わずかに「積極的にかかわりたい」の比率が減少しているが、平成 17 年度調査と今回の調査では、ほぼ同様の結果であった。



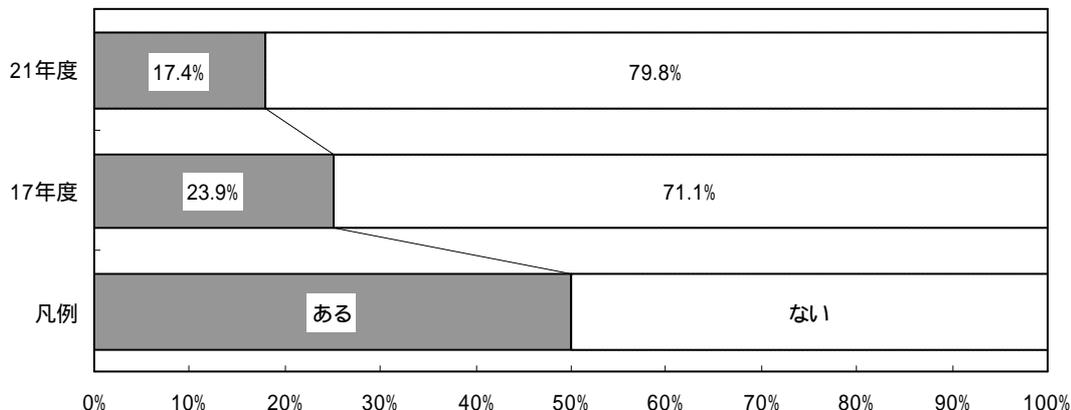
問 12-1 地域とかかわりたい程度(複数回答)

問 12 で「積極的にかかわりたい」または「機会があればかかわりたい」と回答した方に対する地域とかかわりたい程度は、「一緒に活動できる」が減少している。



問 14 ボランティア活動の参加経験

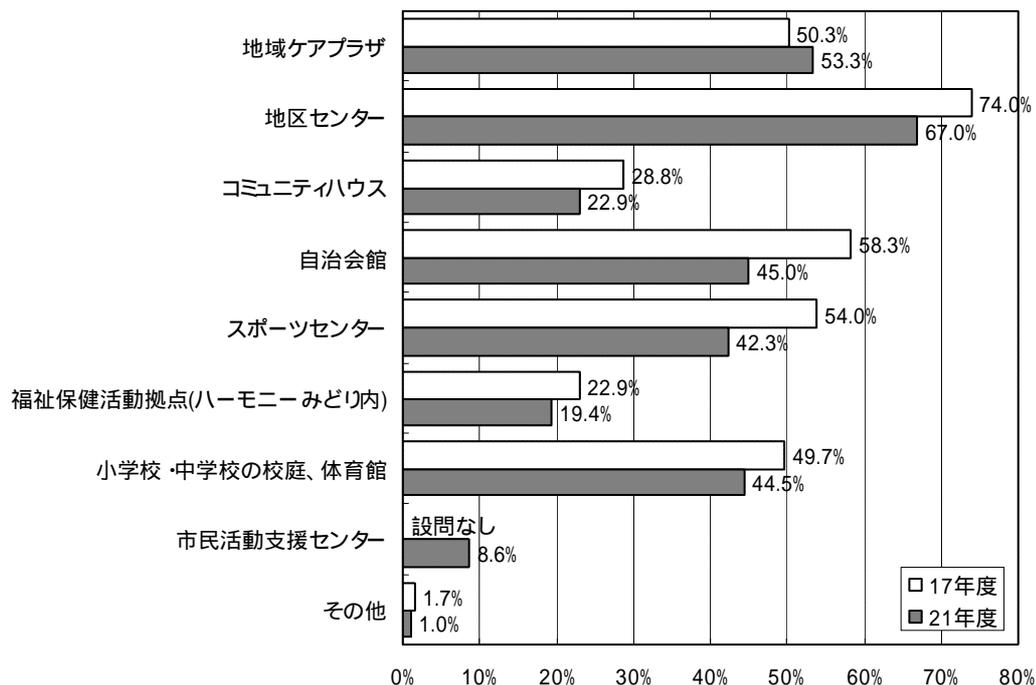
近年のボランティア活動の参加について「ある」と回答した割合は、平成 17 年調査よりも減少している。



問 17 地域のボランティア活動・余暇活動に利用できる施設の認知(複数回答)

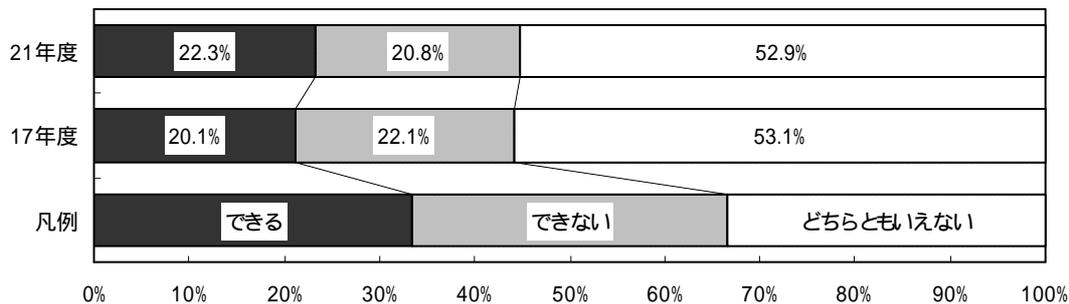
地域のボランティア活動・余暇活動に利用できる施設の認知度は、「地域ケアプラザ」がやや増加している以外は、すべての施設の認知度は減少している。

なお、「市民活動支援センター」については、平成 17 年調査時の選択肢には含まれていない。



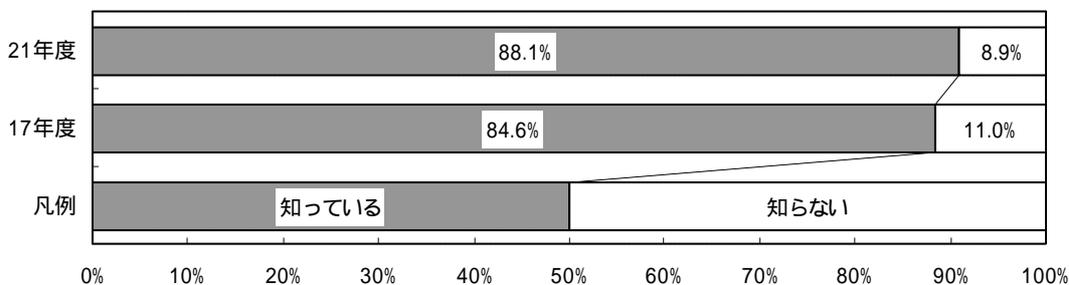
問 23 地域の福祉保健情報の入手における容易さ

回答者が地域の福祉保健情報を入手する場合、容易に入手できるかどうかについては、「できない」がやや減少し、「できる」がやや増加している。



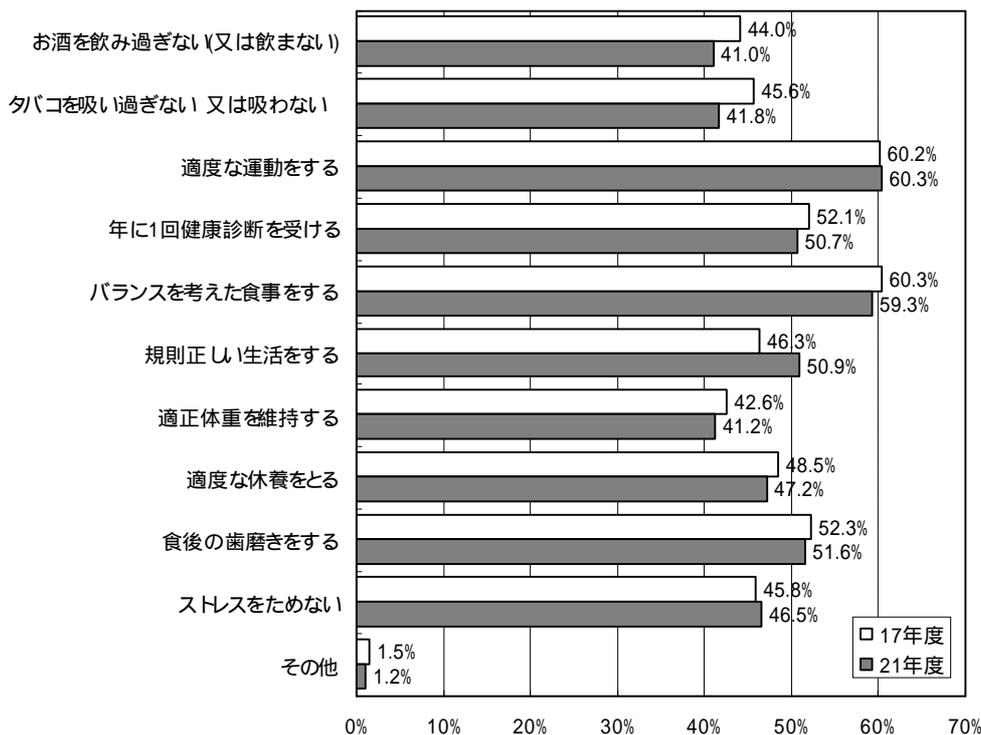
問 26 市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度

市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度は、「知っている」がやや増加している。



問 29 日頃から健康のために心がけていること（複数回答）

回答者が日頃から健康のために心がけていることは、「お酒を飲みすぎない」と「タバコを吸いすぎない」がやや減少し、「規則正しい生活をする」がやや増加しているが、全体として平成 17 年度調査と今回の調査では、ほぼ同様の結果であった。



5. 調査票

緑区地域福祉保健計画・地域福祉活動計画

『みどりのわ・ささえ愛プラン』区民アンケート

緑区では、『誰もが安心して暮らし続けられる緑区をめざして』～一人ひとりが主役・共に支えあうまちづくり～を基本理念に、緑区地域福祉保健計画・地域福祉活動計画『みどりのわ・ささえ愛プラン』（平成18年度～平成22年度）を区民の皆様とともに推進しています。次期計画においては、第1期みどりのわ・ささえ愛プランが目標に向かってどの程度、進んだかを検証し、新たに、①緑区全体の計画と、②各地区の特性に応じた地区別計画を策定します。

今回のアンケートは、第1期計画策定から4年経過した現在における、区民の皆様の地域福祉保健に関する意識と、『みどりのわ・ささえ愛プラン』に対するご意見を伺い、平成23年度から始まる第2期計画策定の基礎資料とするために行うものです。

お忙しいところ大変恐縮ですが、本アンケートの趣旨をご理解の上、ご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

平成21年10月 横浜市緑区長 津田 祐孝



みどりのわささえ愛プラン

とは・・・

『誰もが安心して暮らし続けられる緑区をめざして』～一人ひとりが主役・共に支えあうまちづくり～を基本理念に区民、団体、事業者、社協、区役所が協働で進めていくための計画です。

計画の内容は、5つの基本目標、小目標ごとに具体的な取り組みを示しました。

【5つの基本目標】

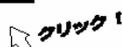
1	地域での「つながり」を大切にするまちづくり
2	「一人ひとりの力」が発揮できるまちづくり
3	みんなが活動できる「機会・場」のあるまちづくり
4	必要な「情報」が入手しやすいまちづくり
5	「安心・安全・健康」のまちづくり

【計画実施期間】



※『みどりのわ・ささえ愛プラン』に関する情報は、緑区ホームページでもご覧いただけます。

みどりのわ・ささえ愛プラン **検索** 緑区ホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/midori/fukuho/>



【回答の前に、裏面の“ご記入いただく上でのお願い”をお読みください。】

ご記入いただく上でのお願い

- アンケート調査の対象者は、20歳以上の緑区民3,000人を無作為に抽出させていただきます。
- この調査票の回答は、これを送付させていただいた **宛名のご本人様** にお願ひします。なお、ご本人様にご記入できない場合は、ご家族などご本人様の状況をご存知の方にご記入をお願いします。
- ご記入にあたっては次の要領をお願いします。
 - (1) 回答は、当てはまる番号に○をつけてください。
 - (2) 質問によっては、「○は1つ」、「○はそれぞれ1つずつ」「◎○は1つずつ」、「あてはまる番号にすべてに○」、といったことわり書きがありますので、回答に注意してください。
 - (3) 回答が、その他にあてはまる場合には、[] に具体的な内容をご記入ください。
 - (4) 具体的な内容、理由、自由意見を求める質問には、回答にご協力ください。
- ご記入いただいた調査票は、**11月2日(月)(消印有効)** までに、同封しました返信用封筒にてご返送ください。
- このアンケート調査についてご不明な点がありましたら次のところまでお問い合わせください。

〈問い合わせ先〉

緑区役所 福祉保健課 事業企画担当
TEL 930-2304 FAX 930-2355
E-mail: md-fukuho@city.yokohama.jp



※ お答えいただいた内容は本調査の目的以外に使用したり、個人の内容を公表することはありません。

『みどりのわ・ささえ愛プラン』区民アンケート調査票

◆ あなた自身のことについて、お尋ねします。

問1 あなたのお住まいの町はどちらですか。（番地は必要ありません。）

横浜市緑区	(町)	丁目
-------	-----	----

問2 あなたの性別はどちらですか。（○は1つ）

1 男性	2 女性
------	------

問3 あなたの年齢は次のうちの区分に属しますか。（○は1つ）（平成21年10月1日現在）

1 20歳～29歳	2 30歳～39歳	3 40歳～49歳	4 50歳～59歳
5 60歳～64歳	6 65歳～69歳	7 70歳～79歳	8 80歳以上

問4 あなたは緑区に生まれてから何年になりますか。（○は1つ）（平成21年10月1日現在）

1 1年未満	2 1年以上～5年未満	3 5年以上10年未満	4 10年以上
--------	-------------	-------------	---------

問5 あなたの現在暮らしているお住まいはどれにあたりますか。（○は1つ）

1 持ち家（戸建て）	2 持ち家（マンション）	3 借家（戸建て）
4 借家（アパート、マンション）	5 借家（市営、公営住宅等）	
6 その他 []	

問6 あなたと一緒に暮らしている方を教えてください。（あてはまる番号にすべて○）

1 祖父	2 祖母	3 父	4 母	5 配偶者	6 兄弟姉妹
7 お子さん	8 孫	9 いない（一人暮らし）	10 その他 []	

問7 あなたご自身の状況で次の項目に該当するものはありますか。（あてはまる番号にすべて○）

1 自分自身が介護認定を受けている	
2 自分自身が障害者手帳の交付を受けている（身体、療育、精神保健福祉）	
3 家族に65歳以上の方がいる	4 家族に介護認定を受けている方がいる
5 家族に就学前の子どもがいる	6 家族に障害者手帳を持っている方がいる
7 該当なし	

問8 あなたのお仕事の状況は次のどれに該当しますか。（お仕事は、主として就かれているもの）

1 仕事についている（常勤・フルタイム）	2 パート・アルバイト		
3 仕事についていない	4 学生	5 その他 []

◆ 地域でのつながり (他域とのかかわり)について、お尋ねします。

問 9 あなたはご自身がお住まいの地域の自治会に加入していますか。(○は1つ)

- 1 加入している
- 2 加入していない



2 加入していないと答えた方は
その理由を差し支えない範囲でご記入ください。
理由

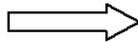
[]

問 10 あなたは近隣の人にあいさつや声かけをしていますか。(○は1つ)

- 1 こちらから積極的にしている
- 2 時々している
- 3 向こうから声をかけられたらしている
- 4 まったくしない

問 11 あなたは今までに、話し相手や困ったことの手伝いなど地域での助け合いを個人的にしたりされたりしたことがありますか。(○は1つ)

- 1 ある
- 2 ない



1 あると答えた方は
どのような助け合いですか。具体的にご記入ください。

[]

問 12 あなたは今後、地域の方(子どもも含めて)とどの程度かかわりたいですか。(○は1つ)

- 1 積極的にかかわりたい
- 2 機会があればかかわりたい
- 3 あまりかかわりたくない
- 4 今は全くかかわりたくない

問 12-1

- 1 積極的にかかわりたい
- 2 機会があればかかわりたい

と答えた方はどの程度の関係ですか
(あてはまる番号にすべて○)

- 1 あいさつする
- 2 相談できる
- 3 一緒に活動できる
- 4 その他 []

問 12-2

- 3 あまりかかわりたくない
- 4 今はかかわりたくない

と答えた方は その理由を差し支えない範囲でご記入ください。

理由

[]

問13 隣近所で困っている方がいた場合、あなたは、どの程度かかわれる（手助けできる）と思われますか。
 (○はそれぞれ1つずつ)

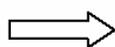
手助け できること	選択肢	積極的にかかわれる	時々なら かかわれる	難しい	わからない
(1) 安否確認の声かけ		1	2	3	4
(2) 話し相手		1	2	3	4
(3) 悩み事、心配ごとの相談		1	2	3	4
(4) ちょっとした買い物		1	2	3	4
(5) ちょっとした家事		1	2	3	4
(6) ごみ出し		1	2	3	4
(7) 玄関前、庭等の掃除		1	2	3	4
(8) 短時間の子どもの預かり		1	2	3	4
(9) 子育ての相談		1	2	3	4
(10) 学童の送迎		1	2	3	4
(11) 保育園・幼稚園の送迎		1	2	3	4
(12) 通院の付き添い		1	2	3	4
(13) 病気のときの看病		1	2	3	4
(14) その他 地域で困っている方にかかわれること(手助けできること)があれば具体的にご記入ください。		[]			

◆ 地域のボランティア活動への参加について、お尋ねします。

ボランティア活動とは・・・「何か地域のための役立ちたい」という自発的な意思と責任のもとで社会貢献を行うことで、個人で行うものや、グループを作ったり、あるいは既存のグループ・団体に所属しての活動等、幅広い範囲の活動をさします。

問14 あなたは地域のボランティア活動にこの近年に1度でも参加したことがありますか。(○は1つ)

1 ある
2 ない



1 あると答えた方は
いつ頃、どのようなボランティア活動ですか。具体的にご記入ください。

[]

問 1 5 あなたは地域のボランティア活動に参加するとしたら、何が必要だと思われますか。最も必要なものに◎、次に必要なものに○をつけてください。(◎○は1つずつ)

(回答欄)		(回答欄)	
1 気軽に参加できる		2 自分の趣味や特技にあっている	
3 交通費などの実費が支払われる		4 多少の金銭的な報酬(交通費以外)	
5 活動時の保険などの補償の整備		6 講習会など学べる環境	
7 その他 []			

問 1 6 あなたが今後、地域のボランティア活動への参加依頼があった場合どうしますか。(○は1つ)

1 積極的に参加したい	2 内容によっては参加したい
3 当番制なら参加したい	4 時々参加したい
5 参加しない	6 わからない
7 その他 []	

◆ 地域のボランティア活動 余暇活動を実施するための施設について、お尋ねします。

問 1 7 あなたは地域のボランティア活動・余暇活動で利用できるものとして次の施設を知っていますか。(あてはまる番号にすべて○)

1 地域ケアプラザ	2 地区センター	3 コミュニティハウス	4 自治会館
5 スポーツセンター	6 福祉保健活動拠点(ハーモニーみどり内)		
7 小学校・中学校の校庭、体育館	8 市民活動支援センター	9 その他 []	

問 1 8 上記問 1 7 の施設をより使いやすくするために必要なことは何だと思えますか。最も必要なものに◎、次に必要なものに○をつけてください。(◎○は1つずつ)

(回答欄)		(回答欄)	
1 気軽に集まることのできるスペース		2 利用対象者の拡大	
3 利用時間の見直し		4 利用予約方法の簡素化	
5 施設や利用可能な場所の情報		6 その他 []	

◆ 福祉保健に関する情報について、お尋ねします。

問 1 9 あなたは『みどりのわ・ささえ愛プラン』を知っていましたか。次のうちあてはまるものを選んでください。(○は1つ)

1 よく知っている	2 知っている
3 名前は聞いたことはある	4 知らない

◆ 地域の安心 安全 健康について、お尋ねします。

問 2 5 あなたが日頃、防災に関して配慮していることは何ですか。最も配慮しているものに◎、次に配慮しているものに○をつけてください。(◎○は1つずつ)

(回答欄)

(回答欄)

1 避難袋の準備点検		2 水・食糧の備蓄 (3日間程度)	
3 家具の転倒防止対策		4 防災訓練や避難訓練への積極的参加	
5 家族で災害時連絡方法等を決めている		6 近所で助けが必要な人を把握している	
7 広域避難場所について確認している		8 その他 []	

問 2 6 あなたは市立小学校、中学校が地域防災拠点となっていることを知っていますか。(○は1つ)

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問 2 7 あなたは緑区の災害時要援護者把握のための「防災ささえあいカード」の取り組みを知っていますか。(○は1つ)

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問 2 8 あなたは「災害時に住民がささえあう地域づくり」には何が必要だと思われますか。最も必要なものに◎、次に必要なものに○をつけてください。(◎○は1つずつ)

(回答欄)

1 自主防災組織づくり	
2 地域の高齢者などがどこに住んでいるか一目でわかる「マップ(地図)」の作成	
3 地域での定期的な防災訓練	
4 地域やグループなどでの勉強会	
5 福祉サービスなどを提供する施設や事業者との連携	
6 その他 []	

問 2 9 あなたが日頃から健康のために心がけていることはありますか。(あてはまる番号にすべて○)

1 お酒を飲み過ぎない(又は飲まない)	2 タバコを吸い過ぎない(又は吸わない)
3 適度な運動をする	4 年に1回健康診断を受ける
5 バランスを考えた食事をする	6 規則正しい生活をする
7 適正体重を維持する	8 適度な休養をとる
9 食後の歯磨きをする	10 ストレスをためない
11 その他 []	

問 3 0 あなたがご自身の健康のために、身近にどのような活動があれば参加したいと思われますか。(あてはまる番号にすべて○)

1 体力測定・健康チェック	2 健康づくり体操	3 ウォーキング
4 健康レシピによる調理実習	5 禁煙教室(禁煙相談)	6 健康づくりに関する講演会
7 運動交流などのイベント	8 その他 []	
9 参加したい活動はない		

◆ 緑区の地域福祉の現状とこれからの取り組みについて、お尋ねします。

問3 1 第1期みどりのわ・ささえ愛プラン（平成18年度～平成22年度）では、5つの基本目標を設定し15の小目標を推進しています。あなたは、策定前の4年前（平成17年頃）と比べて、個々の取り組みは、どの程度進んでいると思われますか。（○はそれぞれ1つずつ）

基本目標	選 択 肢		進んで いる	ある程 度進ん でいる	どちら ともい えない	あまり 進んで いない	進んで いない	わから ない
	小 目 標							
基本目標1	つながり	(1) 地域住民が顔見知りとなり地域で支えあえる関係づくり	1	2	3	4	5	6
基本目標2	人材・担い手	(2) より身近な地域でのボランティアの仲介の仕組みづくり	1	2	3	4	5	6
		(3) ボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくり	1	2	3	4	5	6
		(4) 障がい児・者を支援するためのボランティアの育成	1	2	3	4	5	6
		(5) 思いやりのある人を育てる地域づくり	1	2	3	4	5	6
基本目標3	機会・場	(6) 身近な場の活用	1	2	3	4	5	6
		(7) 同じような目的をもった人が集える機会や場を増やす	1	2	3	4	5	6
		(8) 世代間のつながりがもてるような機会や場づくり	1	2	3	4	5	6
基本目標4	情報	(9) 困ったときに身近な地域での相談先がわかるようにする	1	2	3	4	5	6
		(10) 福祉・保健に関する情報提供をより積極的にすすめる	1	2	3	4	5	6
		(11) 情報を入手しやすい環境の整備	1	2	3	4	5	6
		(12) 支援が必要な人の情報把握	1	2	3	4	5	6
基本目標5	安心・安全・健康	(13) 災害・緊急時や犯罪防止などに地域で対応できるようにする	1	2	3	4	5	6
		(14) 誰もが安心して安全に出かけられるまちづくり	1	2	3	4	5	6
		(15) 心豊かで、より健康な生活	1	2	3	4	5	6

『みどりのわ・ささえ愛プラン』区民アンケート 調査報告書

発行年月 平成 21 年 12 月

緑区福祉保健センター 福祉保健課 事業企画担当

住所：〒226-0013 横浜市緑区寺山町 118

電話：045 (930) 2304

FAX: 045 (930) 2355

ホームページアドレス：<http://www.city.yokohama.jp/me/midori/fukuho/>

Eメールアドレス：md-fukuho@city.yokohama.jp

調査機関

株式会社 都市・建築環境研究所

住所：〒231-0825 横浜市中区本牧間門 34-10

電話：045 (622) 9221